髙田延彦引退、『PRIDE』東京ドーム丸ごと大特集!
紙のプロレス
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
RADICAL
56
2002
遂にやってきた最後の"迫真"の闘い
田村戦への覚悟と決意を読め!
髙田延彦
金原vsシウバ戦直前!
……とは関係なく語りまくる、Uインター大放談!
安生洋二×金原弘光×高山善廣
そのスキャンダラスな歴史を振り返る
Uインター事件史
「高田引退」を見届ける側の決意表明!
浅草キッド
元取締役が語る、Uインターの真実!
鈴木 健
獣神サンダー・ライガー戦直前!
『紙プロ』にみのるがやって来たぜぇ~!
鈴木みのる
来年1月、"黒船"再上陸!
『紙プロ』流WWE先取りガイド
みちのくプロレス10周年記念企画第2弾
TAKAみちのく×カズ・ハヤシ
ターザン山本が
"宿敵"長州力の
新団体旗揚げをブッタ斬る!
運命の11・24――
すべての終わりか、始まりか!
UWFインターナショナル
11年目の邂逅!!
まるごと大特集!
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

情操教育に最適？

3〜70歳／親子用

読んで、作って、みんなで遊ぼう!!

さくぼん

[別冊] 紙のプロレスRADICAL

桜庭和志公式マガジン

スーパー紙おもちゃ 組み立てますすかーッ！

貼りますかーッ！

さくぼん さくぼん

←特製サクシール

←サクマシン立体お面

←動く必殺技

◎炎のコマ◎

◎炎の人力車◎

こんなについて 1000円 ポッキリ！ (税込)

おもしろ豪華付録大紹介!!

『さくぼん』をしっかり読めば、サクの全てがわかります!!

「オンラインブックストアbk1」(http://www.bk1.co.jp/)などのネット上の書店でも買えます。
また、本屋さんにない場合は、「ワニマガジン社発売の『さくぼん』を注文します！」と大きな声でハッキリと言いましょう!! 取り寄せてくれます。

『PRIDE.23』東京ドームでも販売!!

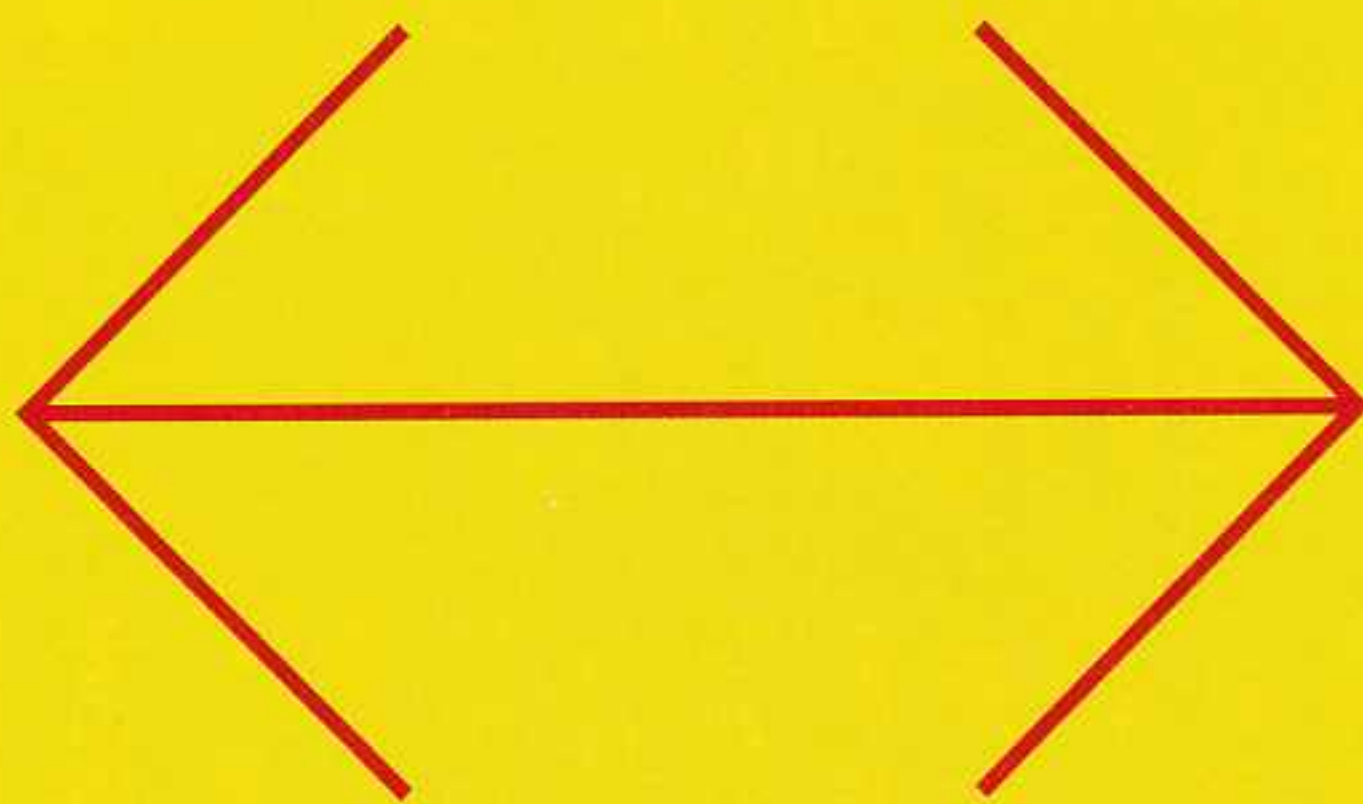
全国書店やコンビニでバラ撒いても、絶賛品切れ中でなかなか手に入らないという声が出まくりの『さくぼん』。そこで地球の優しい、みんなに優しい（株）ダブルクロスでは、通信販売を行っております。『さくぼん』と明記の上（冊数も）、現金書留か郵便振替でお申し込みください。代金は1000円＋送料500円です。

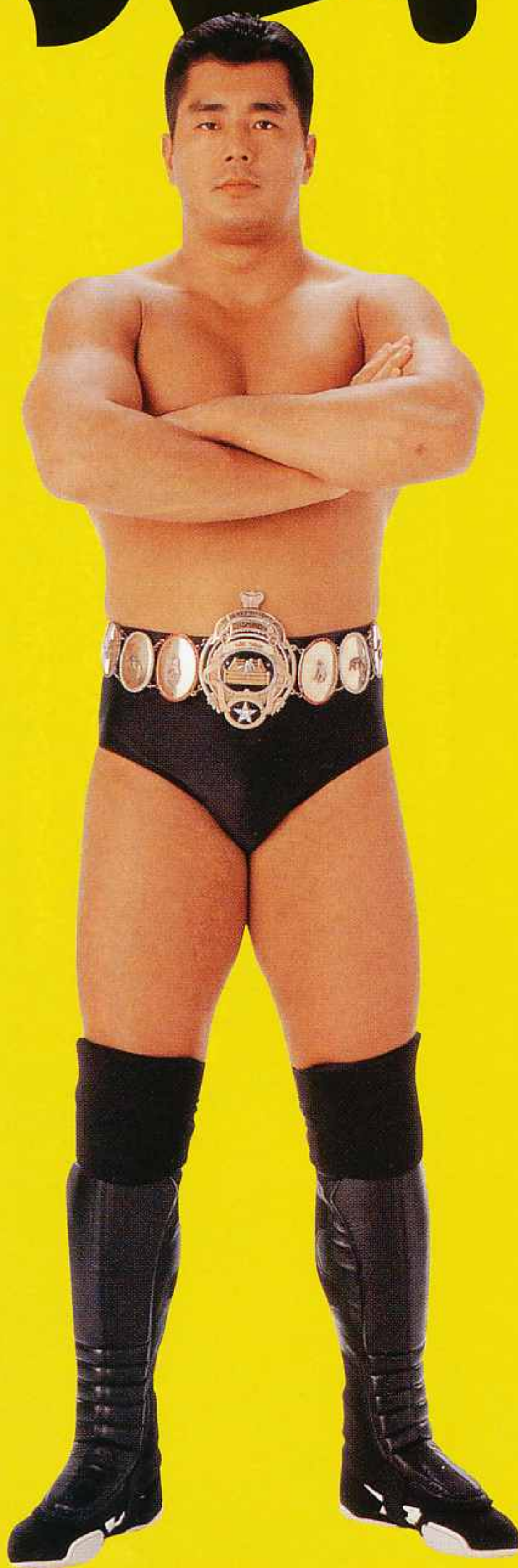
【郵便振替】
00130−3−769154 （株）ダブルクロス

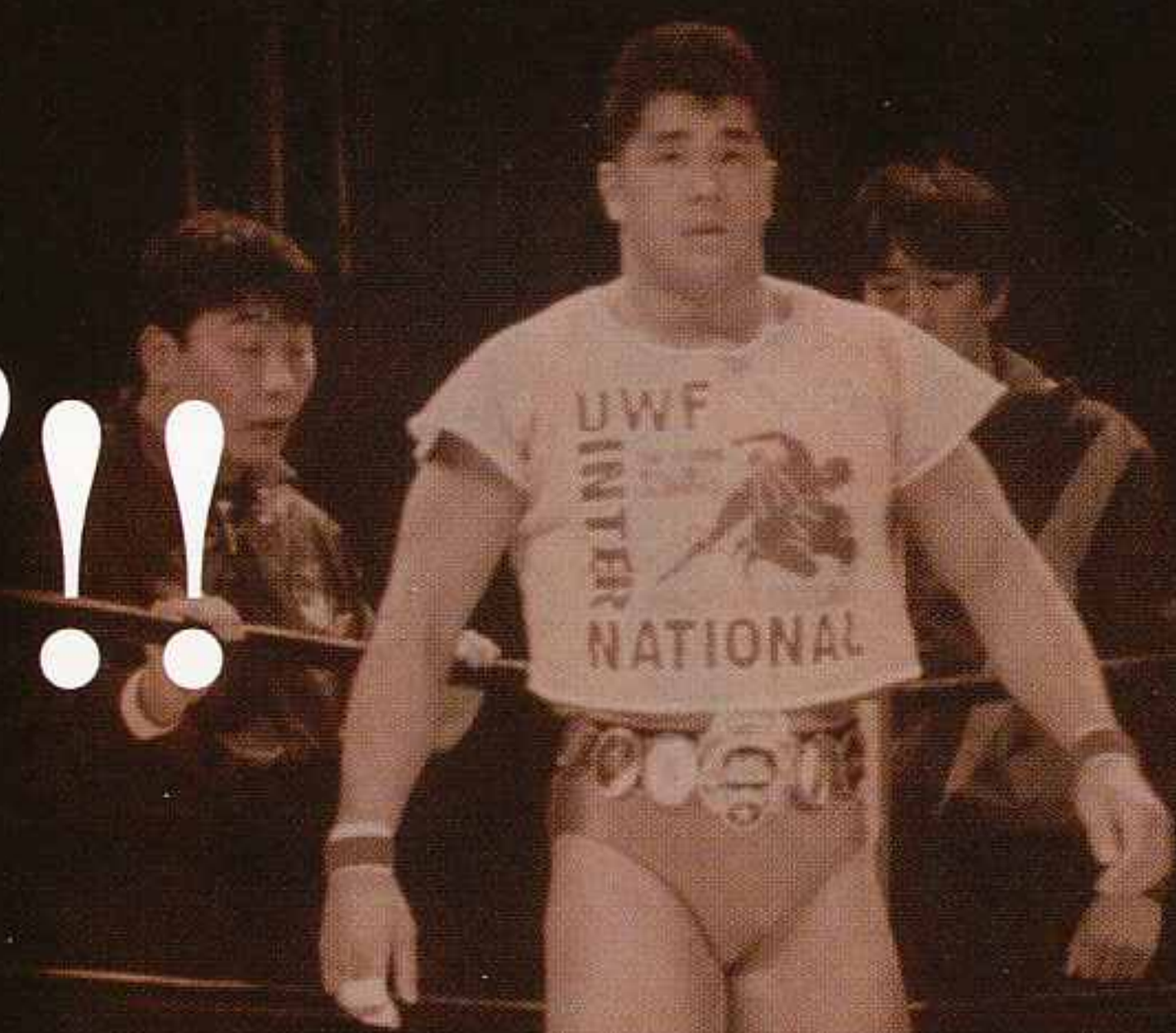
【現金書留】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「さくぼん」係

※なお、『紙プロ』バックナンバーや『紙プロ』グッズと併せての注文もOKです！
送料は、どんなにたくさん注文しても500円です。必ず購入商品の記入漏れがないようにしてください。

発売：ワニマガジン社 03･3357･2911 発行：ダブルクロス 03･3403･5188

挑戦⟷最強

いま巨大なる反復運動が幕を降ろす…

最後まで〝登り続ける男〟髙田延彦、引退――。

愛すべき“若気の至り”!!

UWFインターナショナル……この“蒼き魂”を受け継げ!!

何げにテレビの深夜番組を見ていたら、飯島愛と誰かがしゃべっていて、その相手方が飯島愛を指して「いい意味でも悪い意味でも飯島さんは〝若気の至り〟を感じさせる存在だ」と言っていた。なんという番組で、なんという人が飯島愛としゃべっていたのかは忘れた。

でも——。

〝若気の至り〟!!

この言葉にはピンときましたね。

一億円トーナメント、前田日明との確執、異種格闘技戦、グレイシーへの挑戦、老舗・新日本への挑発、全日本との交流——髙田延彦を頂点として一時代を築いたUインターという団体の道程を辿ってみても、すべては巨大な〝若気の至り〟だった。〝若気の至り〟が〝蒼白き炎〟となって周囲に火種を落としまくっていった。

その頃は、どこか腹心たちの思惑と違うところで動いている感じもあった髙田延彦だが、『PRIDE』参戦後の整合性の付け方を見れば、髙田延彦もまた〝愛すべき若気の至り〟、つまり〝蒼白き炎〟の火種を燃やしていたことがわかる。

Uインターの〝若気の至り〟は、時代を強烈に突き動かしていった。

「プロレスこそ最強」——。

しかし、グレイシーが台頭し、柔術が席巻し、バーリ・トゥードという競技が出現してから、そんな思いは〝蒼い〟の一言で片づけられる、それこそ鼻で笑われる時代になってしまった。

〝蒼い〟と笑うなら、どうぞ心のゆくまで笑ってください。

でも、「プロレスこそ最強」というベクトルが1ミリたりともなくなったら、どうやって「プロレス」を見る？　見続ける？

成熟するだけでいいのか？　爛熟するだけでいいのか？　その後に何がある？

リアルとファンタジーを線引きするのは全然オッケー。そのほうが見やすいからね。でもさ、リアルもファンタジーも同列に語れなくなったら、なんの夢がある？　いったいなんの刺激がある？

ヤケドと凍傷が「痛い」という感覚で繋がるように、リアルとファンタジーも「闘い」という舞台で繋がっている。

それを思い描かせてくれ、細胞に染み込ませてくれたのが、かつての「新日本」であり、「UWF」であり、「Uインター」だったのだ。

そして髙田延彦は、過酷な『PRIDE』という舞台に踏み込むことにより、アントニオ猪木でも前田日明でも見せられなかった〝現実〟をリング上に立ち昇らせた。

その〝現実〟は、裏を返せば巨大なるファンタジーを見せてくれたということだ。

つまり、髙田延彦こそ、〝若気の至り〟〝蒼白き炎〟をストレートに体現していた存在だったのだ。
その髙田が、いまなぜ自身の引退に際し、Uインター勢に結集を呼びかけ、時代が改めて「UWF」を考察し始めたのか。

髙田延彦は、アンタッチャブルな領域にいた田村潔司と最後に闘うことによって、何かを氷解させ、何かを生み出そうとしている。

邂逅、同窓会、ノスタルジー……そういう類の綺麗な言葉では片づけられない〝落とし前〟の付け方は、「Uインターがあったことを忘れるな」「プロレスよ、若気の至りを忘れるな！ 蒼白き炎を燃やせ！ チャレンジをやめるな！」という、髙田延彦の最後の〝挑発〟のようにも思える。

11・24東京ドーム――。

Uインター同窓会、11年目の邂逅、「プロレス最強」への挫折を含めた思い――。

〝蒼い〟と笑うなら、どうぞ心のゆくまで笑ってください。

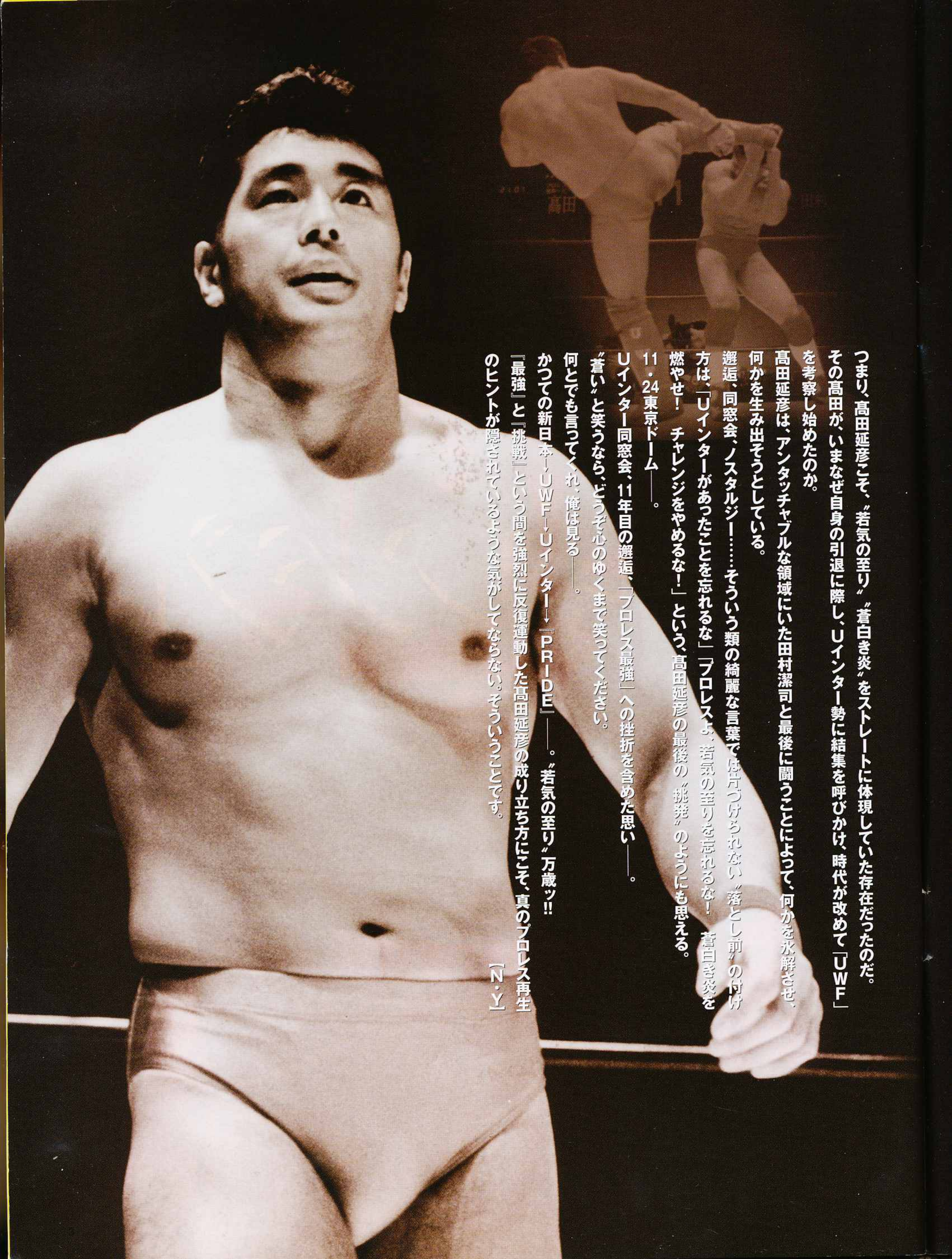
何とでも言ってくれ、俺は見る――。

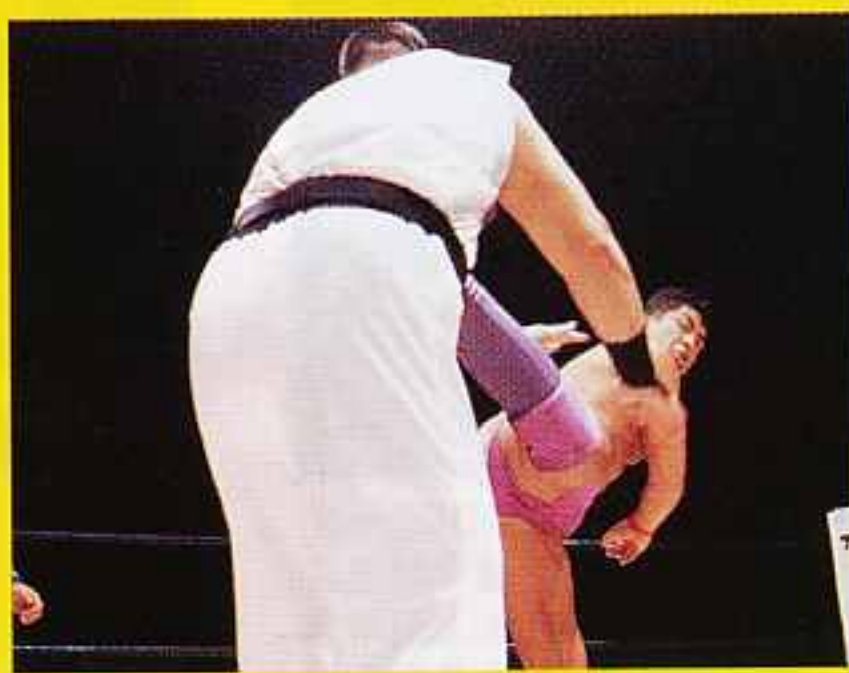
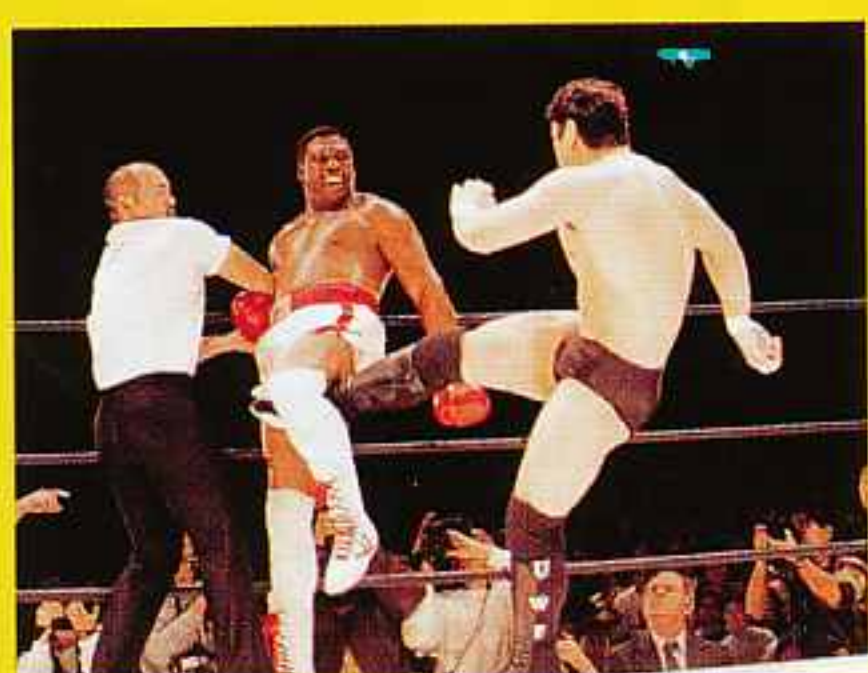
かつての新日本→UWF→Uインター→『PRIDE』――。〝若気の至り〟万歳ッ!!

『最強』と『挑戦』という間を強烈に反復運動した髙田延彦の成り立ち方にこそ、真のプロレス再生のヒントが隠されているような気がしてならない。そういうことです。

【N・Y】

K A D
よ。チャレンジ」

TAK

“運命”の前に 髙田、多くを語らず!!

「いい言葉だ。

聞き手／山口日昇
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by hisa (Two Three)

語るべきこと、語りたいことは腐るほどあるはずなのに、昔から「言葉」で語るタイプではなかった髙田延彦。「もうプロレスもやらない」という完全引退試合を前にして、きっと髙田は、最後だからなおさら「言葉ではなくて、ファイトで伝えたい」と感じているはずだ。

そう思って、こちら側も敢えて多くを聞かなかったということもあるが、表情は活き活きと明るいものの、髙田はやはり多くを語らなかった。

〝運命の一戦〟ド直前!!

田村潔司という、シンプルだけども複雑、複雑だけどもシンプルな相手を前にして、髙田延彦は11・24東京ドームのリングでどういう〝運命〟の転がり方を見せてくれるのか?

短い言葉の端はしから髙田延彦の覚悟を読みとり、そして当日、闘いの中からその覚悟を感じ取ってほしい。

髙田 いま何時?

髙田道場広報・丸山氏 6時10分です。

髙田 時間ないんだよね。刻みがあと15分しかないから。山ちゃん、頼むよ!(爽やかに)。

――じ、15分! 引退前にヒドイ仕打ちだなぁ(笑)。

髙田 (爽やかな笑み)。

――じゃあ無駄話はやめて、さっそく始めます(笑)。試合を目前に控えてるんで、まだ22年間を振り返るっていう気分ではないですよね?

髙田 振り返るってことはないね。さっき『週プロ』の取材があってさ。

――あ、佐藤大編集長が来たんですか?

髙田 そう。それでね、過去表紙になってるのを持って来たんだけどね。見ると歴史

を感じるんだよね。自分の顔なんだけど、この顔を見れば「あ、この時代は……」ってね。「人に歴史あり」っていうけど、俺にも歴史があるんだなってつくづく思ってたよ。

――高田さんの場合は、ありすぎるほど歴史はありますよ。

高田　だから、試合終わってゆっくりしてから、エッチューさん（越中詩郎）との試合なんかを見てみようと思ってるよ。

――あの一連の闘いからプロレスにのめり込んだっていう人は実際多いですよね。

高田　あ、そう？　どんな試合したのか、ちょっと見てみたいなって思ってさ。ビデオでも……貸してくれる？

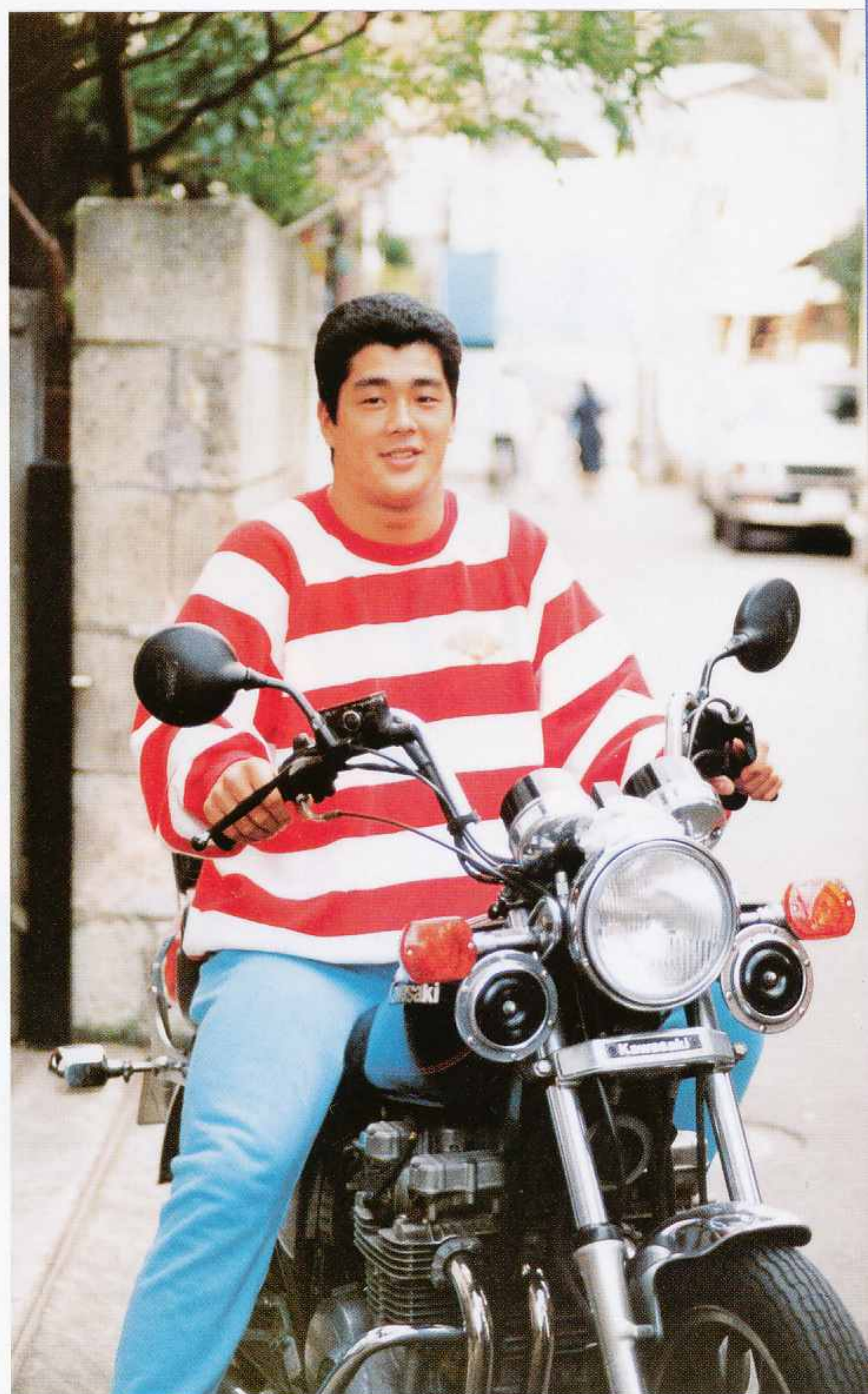
――ガハハハ！　持ってない。

高田　持ってない（笑）。

――そういえば、高田さんは自分の試合のビデオとか見ないタイプでしたね。「今回Uインター勢をできるだけ集めたい」って言ったのは、そういう高田さんの歴史の中で、とりわけUインターっていうものが軸になってるからですよね。

高田　そうだね。そう言っても過言ではないね。ただその背景に絶対外すことができないのは、彼らがいま第一線にいるってことも大きなポイントなんだよね。

――いま現在、マット界の主軸やポイントゲッター的な存在は、ほとんどがUインター勢と言っても過言じゃないですね。そう考えるとUインターっていうのはホントにマット界にとってなくてはならない存在だったというのがわかるけども、そのUイン

ことを語るのも、
やることも、
ャンジ”だよ

【No.11=98年8月発刊】高田とエンセンのスクープ対談が実現。2度目のヒクソン戦に向けて報道も過熱……するはずだったが、まだ『SRS・DX』も無く、本誌が孤軍奮闘（？）

【No.5=97年8月発刊】最初の高田vsヒクソン戦がこの号の2ヶ月後に実現。高田のロングインタビューが巻頭を飾った。この一戦から『紙プロRADICAL』の歴史も始まった

【No.2=97年2月発刊】『PRIDE』ができる前、高田vs ヒクソン戦実現をスクープ（時期はこの後ズレた）。当時ではまだ珍しいと言われていた高田の特写が表紙＆巻頭だった

ターのひとつ前の「UWF」という概念は、高田さんにとって、いま考えるとどういう位置づけになるわけですか？

高田　やっぱり……あのね、すべての原点は新日本なんだよね。

――原点は新日本！

高田　うん。すべての原点は新日本だよ。新日本がユニバーサル（第一次UWF）を生み出して、誰も予測のつかないストーリーが始まったんだよ。

――ああ、ボクなんかは個人的に、いままで一番衝撃を受けた団体っていうのは第一次UWFですからね。それがズッとある種の後遺症として『PRIDE』まで繋がってるんだけど、それも振り返るとやっぱり、〝新日本〟ということになりますね。

高田　ユニバーサルを作ったのは新日本の人だから。前田（日明）さんに「行っとけ」って言ったんだからさ。そう考えるとUWFっていう3文字を生み出したのは新日本なの。新間（寿）さんと猪木さんなんだよ。

――その原点中の原点がやけにだらしなく見えちゃうから、キツく言っちゃうんですよね、最近の新日本に対しては（笑）。

高田　もう違うものになったからね、あそこは。違うものになったと解釈すればイライラしないんだよ。

――あらためよう（笑）。Uインターの頃は、「俺らこそが新日本からの道の続き」という気持ちもあったんじゃないですか？

高田　うん。やっぱり「プロレス最強」と謳ったのはそこにあるんだよ。原点に帰ろう、と。その原点っていうのは結局、新日本だった。新日本がそれまでやってきたことだった。

――ボクなんかは、どこかにその「プロレスこそ最強である」っていう理念がないと

プロレスを見れない身体になっちゃった。そうさせたのは新日本ですからね、昔の（笑）。それはありますよね、ボクらの世代には、絶対に。

髙田　うん。

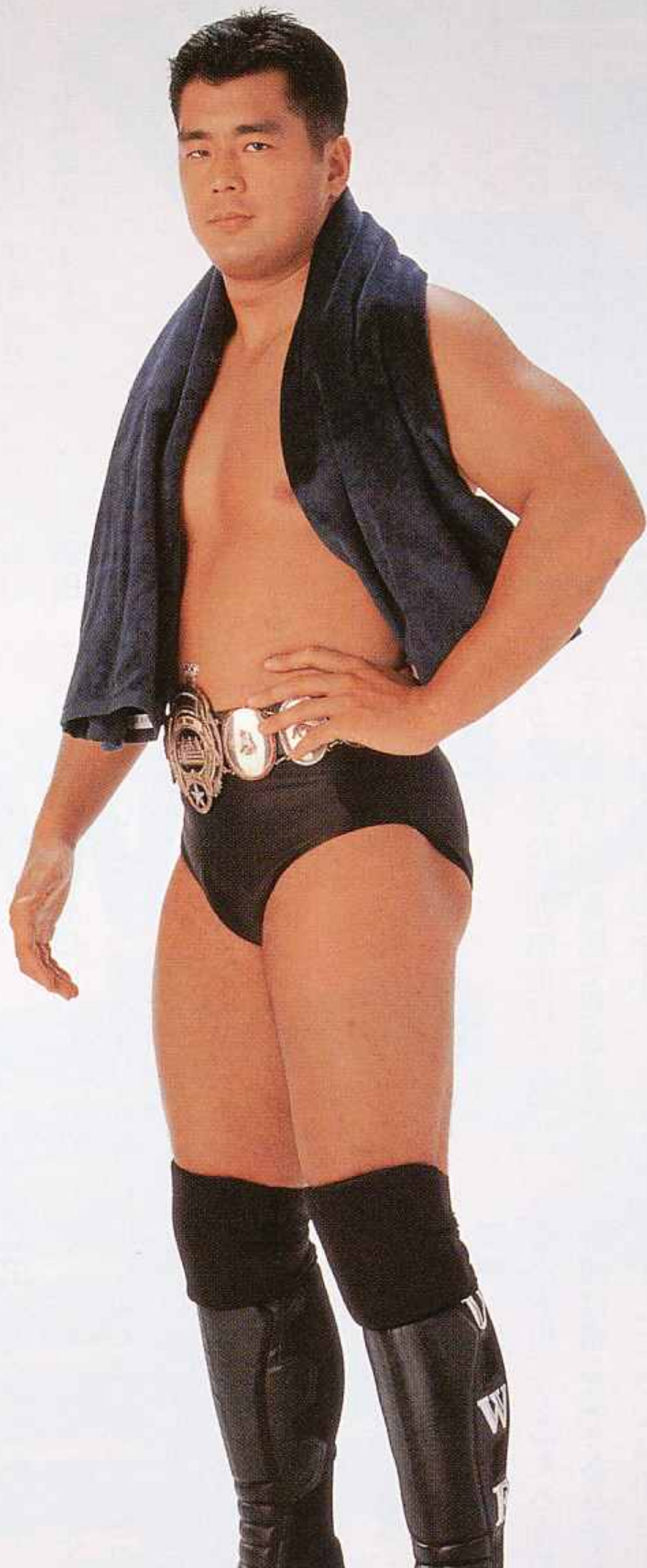
――でも、いま振り返ってみると、Uインターってイメージとしてもの凄く"蒼いな"っていう感じがあって、またその蒼さがたまらなく面白くて輝いて見えたんですよ。『1億円トーナメント』にしても何にしても、いま考えたら無謀すぎることやってますよね（笑）。だから、髙田さんっていうのは一時期は保守的な存在に見られたけども、圧倒的な"チャレンジャー"ですよ。冒険家だと思います。

髙田　人間、誰でもチャレンジャーだよ。『紙プロ』やってることもチャレンジャーでしょ？

――いや、僕らはそんなカッコイイもんじゃないです（笑）。でも髙田さんは、『PRIDE』以降も、そのチャレンジするということをリング上に昇華してきた。守ろうと思えばいくらでも守れたと思うんですよね。

髙田　うん。そのことの大きさよりも、何かにチャレンジしていくっていう方が楽しいし、自分が生きてるなって感じがするんだよね。その緊張感がいいんだよ。何かに向かってるときのビンビン来る緊張感がたまらなく刺激的なんだよ。

――そういう類の緊張感と同時に、髙田さんの場合は"プロレスラー"として挑戦していくという姿勢も見える。「世間を騒がしてやろう」「渦に巻き込んでやろう」という。

Uインターのこと
田村とやる
最後の"チャレ

【No.38=00年5月発刊】ボブチャンチン戦後、「『PRIDE』のリングに"忘れ物"を取りに行く」と言っていた髙田が、その"忘れ物"を小川直也と激白。しかしこの一戦は結局流れた

【No.19=99年7月発刊】当時、"霊長類ヒト科最強"と呼ばれていたマーク・ケアー戦に挑む直前に特写＆インタビュー。この頃の髙田は、WWF進出も思い描いていた

【No.12=98年9月発刊】2度目のヒクソン戦1ヶ月前の髙田に超ロング・インタビュー。ここまでぶっちゃけた髙田のインタビューに関係者や側近も驚いたほどだった

髙田　うん？……騒がしてやろうなんて思ってないよ。

――でも髙田さんを軸にして大騒ぎになりますよね、いつも（笑）。

髙田　確信犯じゃないんだよ。

――今回、最後の相手に田村潔司を選んだことだけでも巨大な渦ができましたよ。これ、もう何度も聞かれてると思うんですけど、田村戦を決意した理由は率直に言うとなんですか？

髙田　原点に帰るということだよ。

――今回、田村戦を選んだっていう時点で髙田さんの"チャレンジャー"としての本領は発揮されてますよ。最後の一戦なのに"チャレンジャー"。もちろん田村潔司に挑戦するとかの次元じゃなく。

髙田　うん。チャレンジだよ。何か、このすべてのものに……最後の試合に向けることも、Uインターのことを僕の口から言うのも、田村とやることも、すべてにおいて最後の"チャレンジ"だよ。いい言葉だよ。チャレンジ。

――だから『週プロ』や『ゴング』といった老舗ももっとこの一戦の意義に気づけ、と挑発したくなりますね（笑）。

髙田　あ、そう？

――最後の試合は、髙田さんはどういう試合になればいいと思ってますか？

髙田　わからないね。だからまた楽しみなんだけど。とにかく、もう最後は拍手でね、花道を帰るときに「よく頑張った」っていう拍手をもらえるような形を持ちたいね。

――それは勝ったとしても、負けたとしても？

髙田　うん。やっぱブーイングは……最後

ぐらいは遠慮したいとこだね（笑）。

——今回の引退試合は、エキジビションじゃない。しかも過酷なバーリ・トゥードですよね。

高田　うん。

——これ、たぶん初めてだと思うんですよ。引退試合でリアルファイトで、しかもバーリ・トゥードっていうのは。

高田　うん。そういう意味ではいいね。

——その一点だけでも〝チャレンジャー〟だし、凄い試合ですよ。でも下世話な話、その後輩の田村選手に、しかも最後に1本取られたらとか、そういう思いは頭をかすめなかったんですか？

高田　誰とやっても後輩なんだよ。道場のスパーも全員、後輩だよ。みんなに取られっぱなしだよ。

——あぁ、ボクは高田さんと同年代だし、ずっと前から「髙田さんが引退する頃にはオレも『紙プロ』やめるんだろうなぁ」って気持ちは、なんとなくありましたからね。

高田　ちょっと早かったね。

——早すぎると気もしますが（笑）。

高田　やめないの？

——残念ながらまだやめません（笑）。

高田　人間ってこんなもんなんだよ。潔さがないんだからね。

——ガハハハハ！　でも、これからも桜庭選手とかがガ然盛り上げてくれるんだろうけど、髙田さんがやめた後は、やっぱり寂しいだろうなぁ。ズーッと見てきましたからね。

高田　やっぱりね、昭和の匂いだね、これは。昭和の香り。いまのファイターはみんな新しいからね。

——だから、髙田さんが田村選手と最後にやることで、また何かのマグマが動き出すことを期待しますよ。

高田　だから、ホントに……やめるっていうのはホッとするね。

——ホッとします？

高田　もうカラダがね、悲鳴あげてる。

——あ、そういえば一部新聞で報道された凍傷のほうは大丈夫なんですか？

高田　凍傷はね、そんなにひどくないんだけど、いまは膿んじゃう手前まできてるから。それをいま強い薬で治してる。

——「アイシングの際の塩加減を間違えた」って新聞には出てましたね。

高田　アイシングのときはね、氷の中に塩を入れちゃいけないのよ、温度が下がるから。それを若いのが言わないもんだから、俺は氷だけだと思って「冷えろ、冷えろ」って念じながら、悪いとこにアイシングしてたの。で、時間だからパッと取ったら、もう真っ白になってた。肌がこんな色（真っ白のテーブルを指さす）。

——ゲッ、火傷ですよね。

高田　凍傷だから火傷だね、低温火傷。それでね、久しぶりにここの中（胸を指さして）で怒ったね。

——怒鳴らなかったんですか？

高田　やっぱり、アイツらも冷やしてあげようと思ってやったことだからね。まぁ、しゃあないな。

——プロレス団体の時代だったら大変なことになってましたね（笑）。

高田　ゲンコツだね。

——ですよね。

高田　丸くなったね。

——ガハハハ！　そんな寂しいこと言わないでくださいよ。ゼヒ引退試合は尖ってください。

高田　最後の一絞りだね。思いきり濃い1日になりそうだね。……あ、15分以上しゃべっちゃったね（爽やかな笑み）。

——試合が終わったら、またゆっくり話してください。

高田　終わったら語れることも出てくるだろうね。時間は腐るほどあるから。

——ところで髙田さん、選手をやめたら何やるんですか？

高田　調理師免許でも取ろうかと思って（ウィンク）。

——ガハハハ！　最後の一戦、ボクも覚悟して見に行きます。

【02年11月8日／髙田道場にて収録】

気がついたら、〝運命の日〟はすぐそこである。
髙田延彦vs田村潔司——。

そして髙田延彦、ラストマッチ——。

「プロレスこそ最強」と謳った〝蒼き炎〟の源流、背景、過去、現在、そして未来——。
すべてが凝縮された一戦から、必ず何かが産み落とされる。

「もう一丁」は、もうない。
何が終わり、何が生まれるのか——。
もはや、ただただ、見るしかない。

PRO·WRESTLING

UWF INTERNATIONAL

UWFインターナショナル

事件史

いまだ消えぬ爪痕を残した

暗黒闘争から歴史の扉を

切り開く、運命の交錯まで

新日本事務所"襲撃"、ヒクソンへの道場破り敢行!!

【92年10月26日／新日本事務所"襲撃"事件】

当時NWA世界ヘビー級王者・蝶野正洋が某専門誌において「髙田さんと闘いたい」と発言するや、蝶野の師であるルー・テーズに「チョーノ、タカダと闘え！」とUインターのリング上から吠えさせたり、対戦要望書を携えてアポなしで新日事務所に突撃するなど、Uインターは、素晴らしきアグレッシブさを見せた。新日本からすればプロレスラー特有のリップサービス的なコメントに、ハデに噛みつかれてはたまったもんではなかったはずだ。

しかし、実際に髙田vs蝶野を実現するために行われた両陣営の交渉では、いまさらながら新日本もよくも悪くも相当狂っていることが発覚！ なにしろ新日本側がUインターに提示した条件とは、大晦日に巌流島で蝶野への挑戦権を懸けたバトルロイヤル開催であり（新日本、Uインターから4名づつ出場。新日本からは長州、そしてなんとマサさんがリストアップ！ 巌流島だから？）、なぜか"リスク料"としてUインターが新日本に3000万円支払うというヘンテコなものだった。ところが、マサさん、永島勝司氏らと共に交渉に臨んだ長州は、「そんなに難しい条件じゃないぞ！」と傲慢に言い放つから、さすがマット界のド真ん中を往く男！

だが、Uインターも負けてはいない。Uインターの頭脳である宮戸、安生、鈴木健氏らは急遽記者会見を開催し、業界の仁義を犯してこの交渉内容を暴露！ その後も新日本を挑発し続けたあげく、長州に「アイツらが死んだら、墓にクソぶっかけてやる!!」と長州語で言わしめたのだから、いま考えると、試合をやらずともUインターの圧勝なのであった。

【94年12月7日／ヒクソン・グレイシー道場襲撃事件】

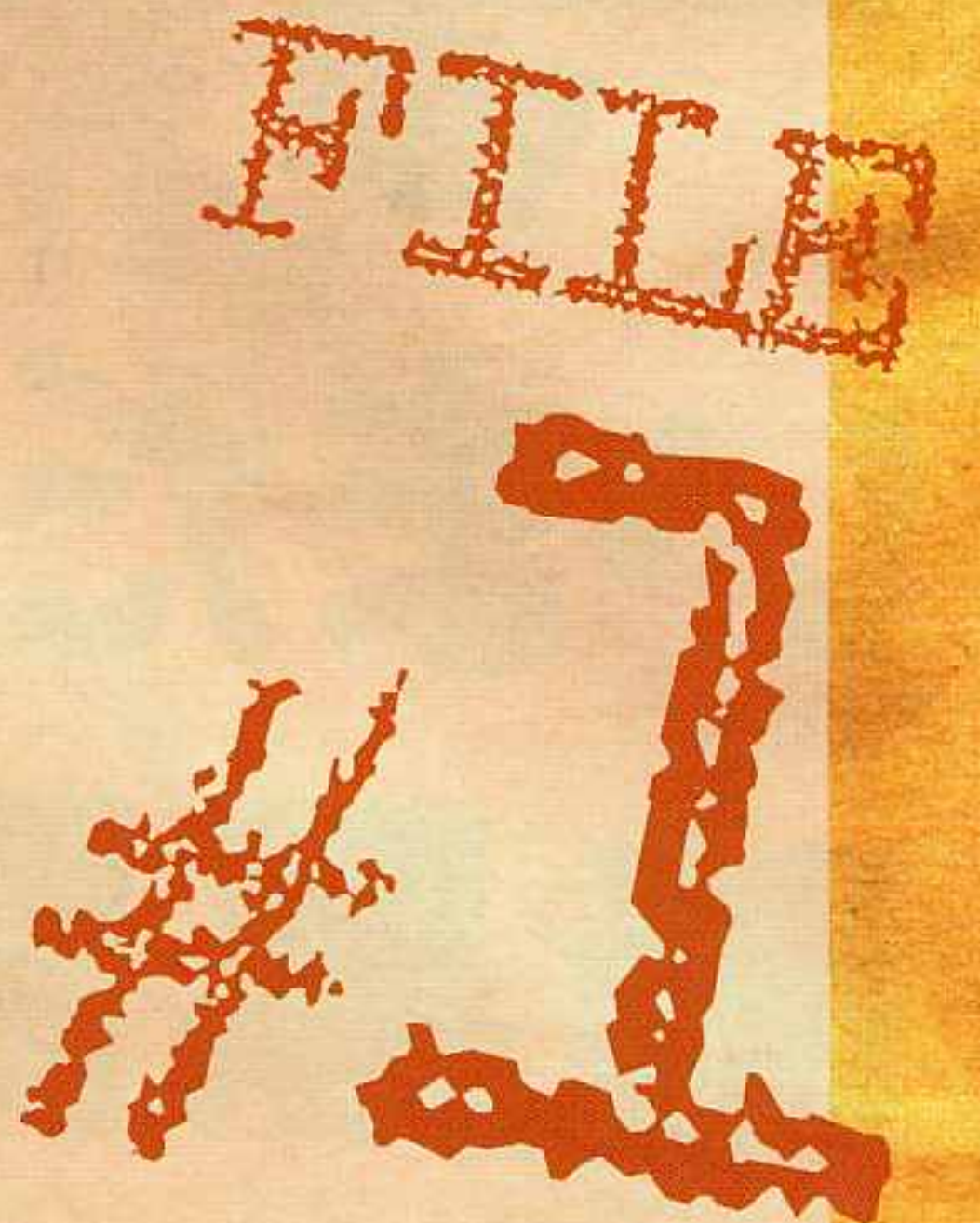
グレイシーが台頭してくると同時に、グレイシー一族にリング内外から挑発を繰り返していたUインター。

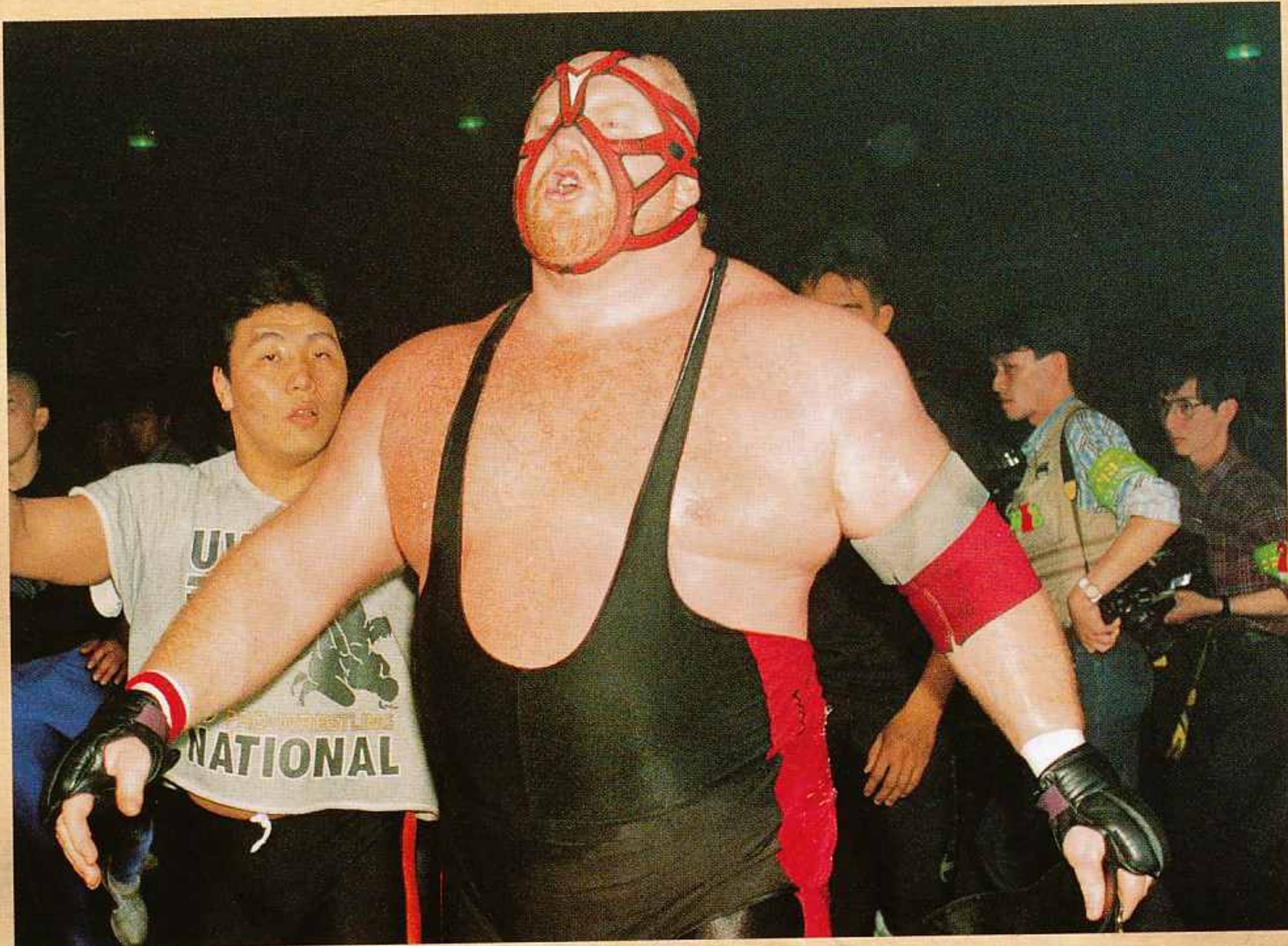
11月30日、日本武道館大会のリング上から、鈴木健氏が「我々はグレイシー潰しをこのままで終わらせない。安生をグレイシー潰しのヒットマンとして正式に送り込むことにしました」と宣言！ そして運命のこの日、安生洋二が道場破りを敢行！

ヒクソン側はあとで言い訳ができぬようビデオカメラをセットしたり、日本のマスコミを閉め出すなど手際良い進行振り。試合も散々いたぶるかたちで安生を締め落とし、噂通りの実力をみせた。

この事件は、日本にもすぐさまショッキングなニュースとして伝わり、5日後の12月12日に修斗のスーパータイガージム大宮でマスコミ向けビデオ上映会が限定開催された。そこには顔を腫らし血塗れになった安生の姿が映しだされ、"バーリトゥード"&"グレイシー"の脅威にマット界は未曾有の衝撃を受けた。電話で報告を受けた髙田も、のちに「Uインターは終わったと思った」とコメントを残している。そして髙田は、4年後の『PRIDE．1』で、ヒクソンと運命の遭遇を果たす……。

ちなみにヒクソン襲撃に失敗した安生本人は、惨敗後にそのまま食事に出掛けたり、再び道場に出向いたりと、大胆不敵&脳天気過ぎるエピソードを残していたのである。

対戦要望書を持参して、新日事務所を訪れた宮戸&安生&健&テーズ。蝶野もまさかこんな事態になるとは思ってもいなかったに違いない。

FILE #2

見た目がやたら強そうだったUインターのガイジン勢。世界最強タッグに出場するジョン・テンタも登場。デービーボーイ・スミスの参戦も噂されていたのだ。

PRO-WRESTLING
UWFインターナショナル
事件史

蘇れ! モンスター! Uインター同窓会にガイジン勢は欠席!?

史上最強のプロレス団体と謳われるUWFインターナショナルであるが、ガイジン選手たちも強豪揃い! 5、6年前に『PRIDE』が存在したら……一晩中そんな妄想にふけれる怪物ばかりなのである。

【スーパーベイダー】
新日本でも圧倒的な存在感を誇っていたベイダーだが、Uインターではさらなるモンスターぶりを見せつけた。権利の関係上、「ビックバン・ベイダー」のリングネームは使用はできなかったが、説得力十分のパワー殺法で髙田を苦しめた。当時WCW王者として参戦していた。ちなみに「U－JAPAN」からバーリトゥードのオファーがあった際、ベイダーはバンバン・ビガロを推薦。そしてビガロはキモに血敗している。

【ゲーリー・オブライト】
レスリング・オールアメリカン選手権を3度優勝を誇る190センチ、161キロの怪物が弱いわけないのである! ベイダーですら放り投げる殺人フルネルソン・スープレックスは、何人もの選手を病院送りするなど、一時は禁止技として協議された怖さなのだ。95年6月の田村潔司との試合は〝第2の前田vsアンドレ〟と呼ばれる不可解な試合となった。Uインターを離脱後は、全日本に移籍。2000年1月7日、アメリカでの試合中、心臓麻痺によってそのまま帰らぬ人となった。享年36歳。

【ダン・スバーン】
のちにアルティメットで大活躍したスバーンは、Uインターでは地味な中堅選手であった。テーズいわく「華がない」。ズバリである。

【北尾光司】
ガイジン選手ではないが、〝外敵〟として話題を呼んだ元・横綱の双羽黒。親方の女将さんに暴力を振るい廃業した北尾は、新日本では長州に暴言を吐き退団。次に移ったSWSでも、「八百長」発言で解雇。スーパーヒールとしてUインターに登場した。髙田の北尾KO劇は、10年に一度のシーンとして語り継がれてるいる。バーリトゥードで戦績は芳しくなかった。

【トレーバー・バービック】
髙田のローキックに場外逃走。ジャンクなファイターとして烙印を押されたボクシング元WBC世界ヘビー級王者。

【サルマン・ハシミコフ】
フリースタイル世界選手権4連覇の実績持つ。レッドブル軍団のエースとして新日本に参戦。印象の薄いファイトは、Uインターでも同様であった。

【デニス・カズラスキー】
レスリング・グレコでバルセロナ銀、ソウル銅メダリストと経歴だけではNO.1。そのせいか嫉妬したオブライトの投げの餌食なることが多かった。藤原組に来日していたディアンとは双子である。

前田日明vsUインター 暗黒闘争史

FILE #3

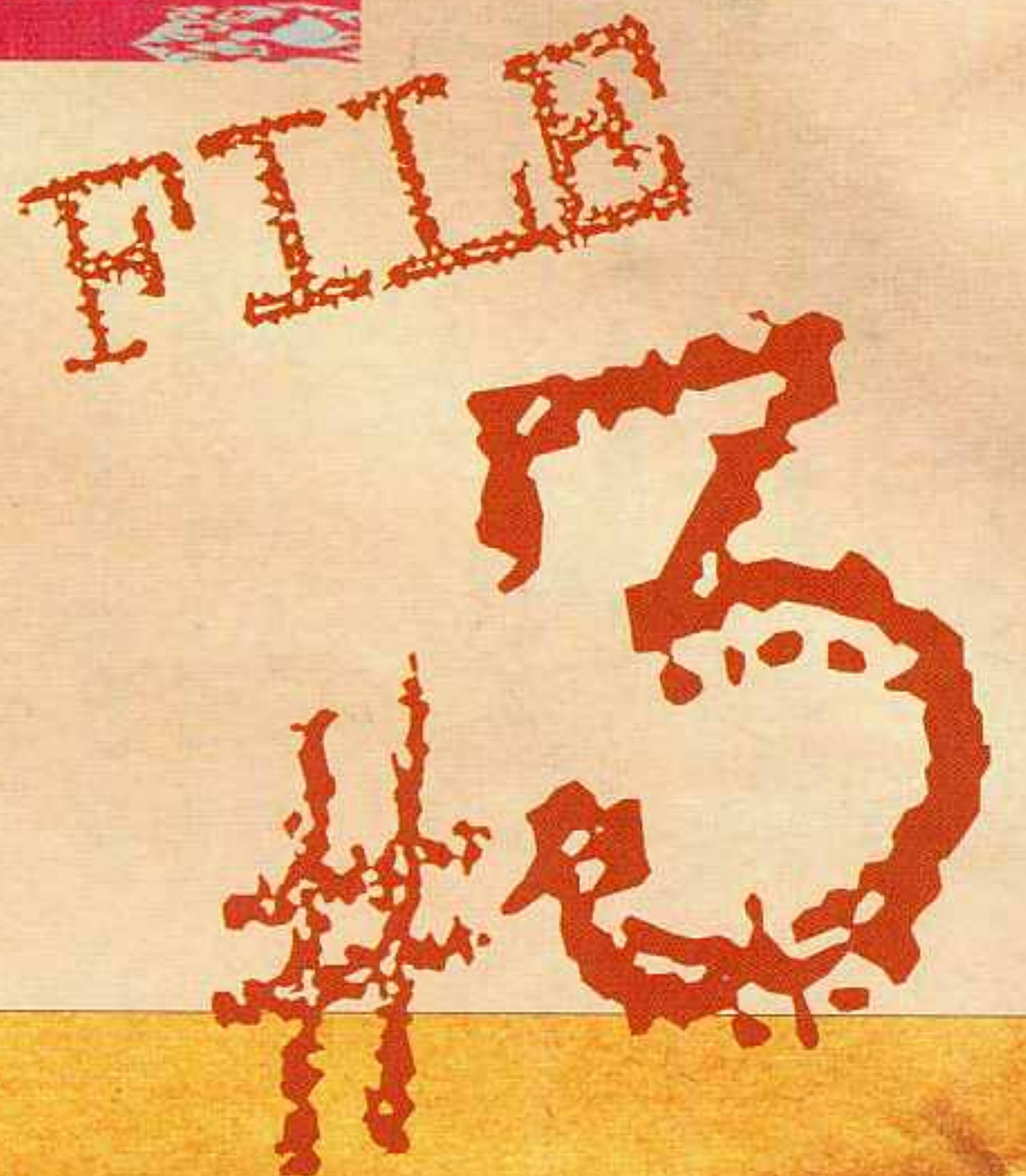
２０００年11月14日、安生は前田襲撃事件直後に「彼がいなければ、みんな仲良く一つの団体で出来てたんですよ」という意味深なコメントを残している。このコメントからもわかるように、安生は4年前に自身が受けた裏拳の因縁に限らず、新生ＵＷＦの清算も求めていたのだ——。

94年にＵインターが、1億円トーナメントの開催を発表してプロレス業界のトップ5人に招待状を叩きつけたとき、前田だけが食いついた。そこで前田が逆提案したのは、リングス・ネットワークとＵインター日本人全選手の「13対13の対抗戦」。宮戸が「どこ誰かもわからない馬の骨」と一蹴したリングスの選手達というのはリングス・オランダ、ロシア、グルジア、ブルガリア、ジャパンの精鋭選手。おそらく前田の構想にあったのはハン、コピィロフ、ズーエフ、ザザあたりのＫＯＫ以降に注目を浴びる真の実力者達だったのだろう。（これはいまこそ見たい）。

しかし、そんな前田の要求に対して、Ｕインターは挑発で返答。同年2月25日、Ｕインターの日本武道館の試合後に「前田さん、ゴチャゴチャ言わんと、俺は1回戦で待ってます！」と高田が呼びかけたのだ！　結局、この件は両者とも歩み寄りのないまま終結。すると、今度は舞台をプロレスマスコミに移して舌戦が繰り広げられる。この時点で安生が「前田はＵＷＦで終わった選手。今やれば200パーセント勝つ自信がある！」と挑発すれば、前田は「家族の前で制裁を加える」とプロレス史上最も凄惨な発言！　それを言っちゃあ、おしめえよ……という訳でＵインターは遂に前田を「脅迫」と「名誉毀損」で告訴する。結局は前田がＵインターに謝罪したことで告訴は取り下げられ、一応の決着がつく。

それから2年後。一度は謝罪した前田ではあったが、「サムライ！」の設立パーティーの会場で安生の顔面に裏拳が炸裂！　公衆の面前で恥をかかされた上に「アイツ、ビビッて何も出来へんやないけ」と言われた安生の心に芽生えた復讐心は、２０００年11月14日のＮＫホールで暴発することになる。『ＵＦＣ―Ｊ』が行われた会場で、試合後に前田は背後から安生のパンチを受けて失神ＫＯしたのは、本誌読者も記憶に新しいところだろう。

そもそも、91年1月7日に前田の自宅で新生ＵＷＦの解散が決まった時に、前田の方針に賛同しなかったのが宮戸と安生だった。Ｕインターに好戦的なイメージが強いのも、宮戸と安生が前田という圧倒的な存在に牙を剥き続けたからだ。パンクラスは前田と絶縁したが、Ｕインターは牙を剥き続けることで主体性を保ってきた。そして前田も新生ＵＷＦ崩壊の原因を宮戸と安生に求めた。その結果が、前田vsＵインター因縁の歴史を生んできたのだ。

96年6月蒼々たるメンツが集った「サムライ！」開局パーティー席上で、前田は安生をこづいた（左から2番目が安生。5番目が前田）。

「やれッ！　押さえちゃえ!!」という長州の一声から始まった新日本とUインターの対抗戦、10・9ドーム大会は爆発的な盛り上がりに。後にも先にも長州のベスト企画はこれだ！

経営悪化のため 新日本との対抗戦へ!! そして、崩壊の道へ……。

長州　もしもし、上井？　ちょっと（巡業）コース、変わっちゃうぞ。これはもうすぐやっちゃう。一番近い所でどこが空いてる？

上井　10月9日が押さえられるかな、という感じです。

長州　どこだ？

上井　ドームですが……。

長州　やれ！　押さえちゃえッ!!

「Uは東京ドームで消す！」
——新日本vsUインター全面対抗戦、電撃決定！

　当時、Uインターを離脱し新日本参戦をブチ上げた山崎一夫の契約問題ついて、両団体が同時間帯に別々に記者会見を開催。途中、「東スポ」柴田記者の仲介により、電話会談にて長州と高田が協議することになった。

　しばらくすると、長州は怒鳴り声を上げ電話を一方的に切り、なぜかマスコミを会議室に招集。そして不在の上井営業部長（現・取締役）と電話連絡で日程変更を審議。冒頭のやり取りとなったのである。

　95・10・9——会場となった東京ドームには、水道橋駅まで当日券を求める長蛇の列ができるほどの伝説の大ヒット興行となった。対抗戦は、新日本とは様々な因縁があるUインターが、新日本から派生したU系団体ということもあり、ファンの注目度も沸点に達していたのである。

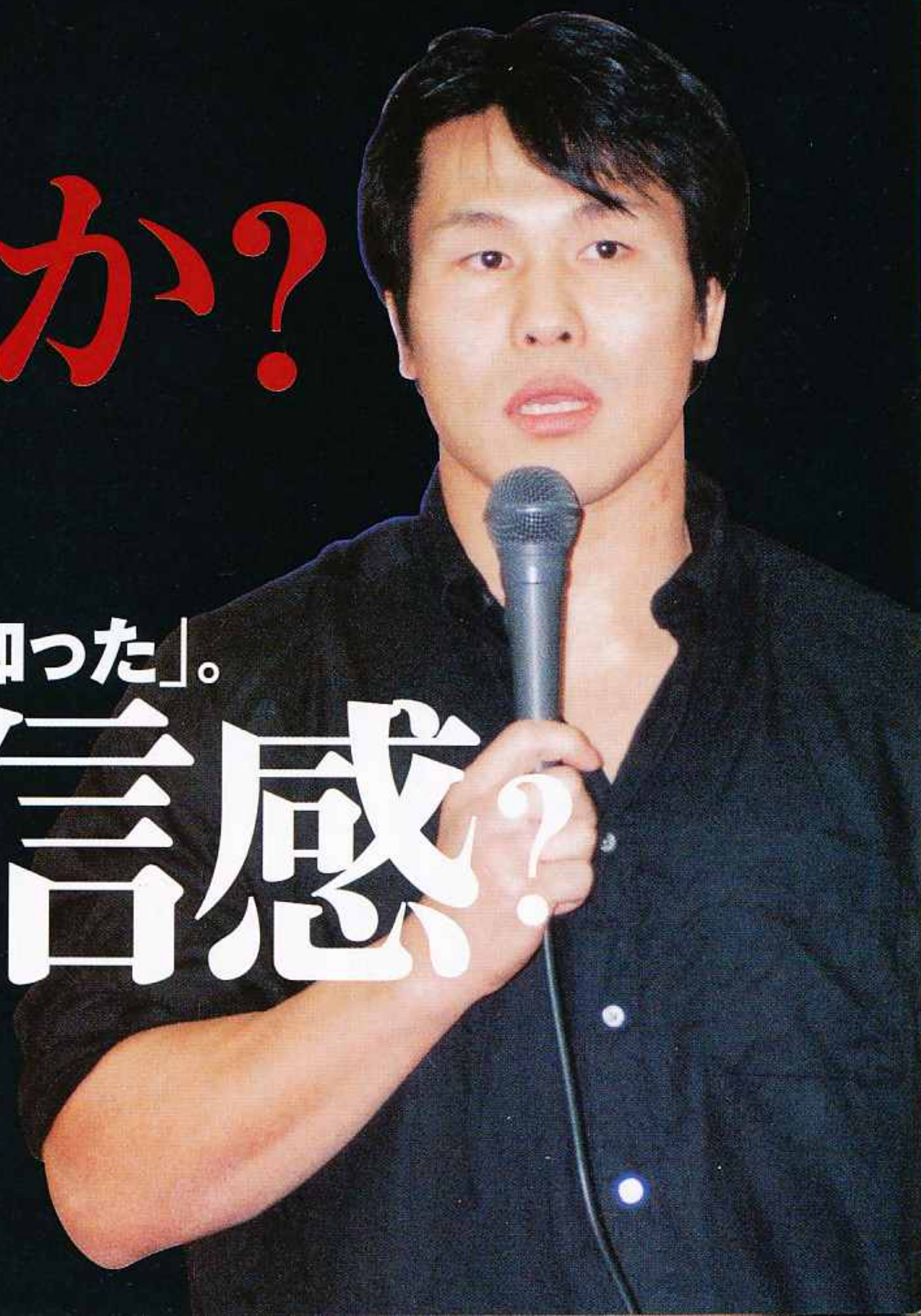
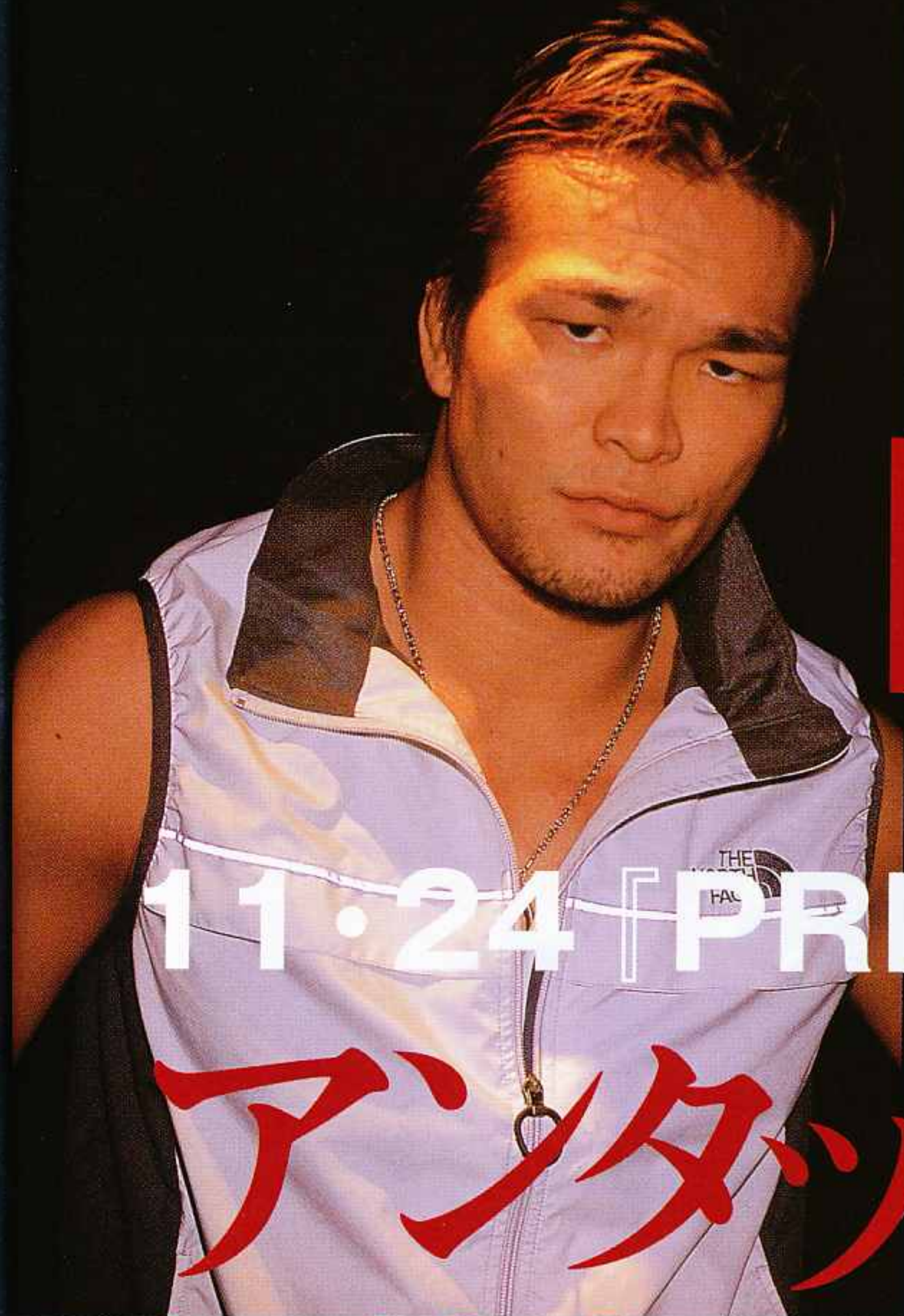
　勝負は新日本が圧勝し、当時U系に話題を独占され続けていた新日本ファンの鬱憤を晴らすかたちとなったが、実際、面白かったのはテレビクルーに「オレは負けてねえよ、バーカ！」と吠える高山であったり、キックトランクスを履いてレガースも付けずに、素足でむやみやたらに蹴りまくる金原だったりしたのだ。

　金原は試合前、タッグで対戦する石澤&永田の感想を聞かれて「まぁ、他の選手がやる（新日）選手よりは、強いんじゃないッスかね」とシュートな感想を述べたり、パートナーの桜庭が石澤の三角絞めで敗れても「アイツら、オレに蹴ったっけ？　蹴ってないよね。すぐにタッチしてさぁ」「（相手は）強いけど、ウチの道場に来たらもっと強くなるんじゃないスかぁ？」と、強気の姿勢を崩さない。金ちゃんの"若気の至り"ぶりも、いま考えると最高だった！

　さて、ドーム大会終了後、徐々にトーンダウンしていった対抗戦同様、新日本と絡んだことによって一時は盛り返したUインターの経営も再び悪化。路線の方も、ゴールデン・カップスのブレイクや、初代タイガーマスク、ザ・コブラが登場するなど様変わり。極めつけは、東京プロレスで行われた高田vsブッチャー戦である。

　それでもSB、正道会館と提携、キモの招聘と、格闘路線の息吹は残していったが、経営悪化の歯止めがきかないまま、96年12月27日、遂にUインターは、東京・後楽園ホールで団体の寿命を終えた。ラストマッチは高田延彦vs高山善廣。

　翌年10・11——ヒクソン戦で高田の培ってきた"蒼き炎"は燃え盛らなかった。

嵐を呼ぶ男が帰ってきた
山喧参戦
11・24『PRIDE.23』
アンタッチャブルな
領域の中、
何が生み
出されるのか?
「新聞紙上で参戦を知った」。
田村不信感?

「そのことを最初から知っていたら最初からお断りするくらいだった」
［U-FILE関係者］

「今回『PRIDE．23』のカードの発表がありましたが、その中にDSEさんに対して一部不信感が生じるようなカードがありましたので、いまDSEさんと話し合ってるところですので、田村の方から『PRIDE．23』に関するコメントは差し控えてさせていただきます」。

11月9日、大田区体育館分館で開催された、田村潔司が主催するU―FILE CAMPの自主大会。全試合終了後、大会の総評を記者陣に語った田村潔司が、それ以外は一切口を閉ざしたまま会場を去った直後に、U―FILE関係者の木下氏より冒頭の言葉が発せられた。

U―FILE関係者は「田村の希望としてましては今回、髙田さんと純粋に試合をしたかった。試合に集中したかったというところなんですが、過去の経緯などをドリームステージさんも知ってると思いますが、田村に配慮がなかったと。出場しないという形にはしたくはないんですが、ドリームステージさんのお考えを聞いてないので、お答えを聞いてから判断したいと思ってます」と、大会まで2週間を切った土壇場にきて、髙田vs田村“夢幻大の真剣勝負〞の対戦消滅の可能性まで示唆した！

そして「『PRIDE』さんのマッチメイクに口出しをするつもりはないですが、この件については配慮をしてほしかった。そのことを最初に知っていたら、(髙田戦を)お断りするくらいだった」とまで言い切った。田村サイドが〝そのカード〞に抱く嫌悪感は、関係者、ファン、マスコミの想像を超えていたのだ。「山本とは2度と同じリングには上がらない」と公言していた田村の感情をDSE側が軽くみていたわけではないだろうが、新聞紙上でヤマケンの出場を初めて知らされた田村側にしてみれば、その件自体が「配慮が足りない」という表現に繋がったのだろう。後日、DSEと田村サイドで話し合いが持たれ、出場撤回という最悪の事態は免れた。

田村サイドは最後まで口には出さなかったが、「配慮がないカード」とはケビン・ランデルマンvs山本喧一と推測され、「過去の経緯上」とはヤマケンとの過去にあったトラブルを指していると思われる。

大半の『紙プロ』読者は御存知だと思われるが、田村とヤマケンのトラブルとは、3年前にヤマケンによって田村に放たれた、もう一つの〝真剣勝負発言〞のことである。

その事件は、舞台裏での安生洋二による前田襲撃事件も勃発した、00年UFC―J〝魔の11・14〞NKホール大会で起こった。〝U集結〞と銘打たれたタイトルが、終わってみれば、〝U終結〞とまで言われた大会でもある。

様々な思惑、感情が会場を包む中、頭部の病気を理由にリングスを離れたヤマケンは、フリーとして「UFC―JAPAN」王者決定トーナメントに出場。一回戦で慧舟會・高瀬大樹を判定で破り、続く決勝では小川直也率いるUFOに電撃入団が決定した藤井克久に終始圧倒されていたが、一瞬の隙をつきヒザ十字で一本勝ち！　逆転優勝を飾り、ベルトを獲得したヤマケンはマイクを握り叫んだのである！

●

えー、長い間、お待っとうさんでした！　これだけは言わせてもらいます！　ファンのみんな並びUインターの選手全員にウソをついた田村潔司！　こいつだけは、大の偽善者です!!　オレがリングスを辞めた本当の理由はこれです。さぁ、結果出したんで、田村さん！　オレと真剣勝負やる根性あったら、いつでもUFCに来てください！

●

ヤマケンの突然の叫びに観客のどよめきは止まらない。そしてヤマケンは、コメントルームに戻ると、マシンガンのような〝口撃〞を30分以上に渡って開始した。

「(「Uインターを守る」だのUインターの全選手悪者にして、あのオッサンが髙田さんのことをつべこべ言える状況じゃないんですよ！　髙田延彦を悪者にして……髙田さんの方が偉いですよ！　オレら全員の面倒をみて育ててね、そのおかげでオレらは練習して喰っていけたんですよ。それなのに恩を仇で返しやがって」……真意は不明瞭な部分もあったが、Uインター時代の先輩・田村に対して剥き出しになった感情を、多くの報道陣の前でさらけ出したのだ。

当たり前であるがこの会見は当時、多くの物議を醸した。

UWFインターナショナル 過酷な同窓会に この男も名乗りを上げた

この発言を受けた田村は本誌のインタビューで「売られたケンカは、買わない!!　逃げます！」と笑顔で回答。2ヶ月後、多くの関心と興味を集める中、「U」を背負いヘンゾ・グレイシーに勝利。「U」を守るかたちで、ヤマケンの前から猛スピードで走り去っていった。そして田村が主催するU―FILEは、様々なリングに若手の人材を送り込むジムに成長した。

一方、ヤマケンは、田村がリングスKOKで勝利したパット・ミレティッチにUFC―Jで敗れるなど追走は及ばず。昨年12月、リングスでの須藤元気戦以来、マット界から姿を消したことにより、ヤマケンの〝真剣勝負〞発言は表面上の過激さはあっても、深み＆物語を生まないものになってしまった。

田村潔司は、かつて髙田延彦に放った、自身による「真剣勝負」発言を〝若気の至り〞と表現したが、3年経ったいまヤマケンはどのような心境なのだろうか?

田村は、U―FILEスタッフが代弁するかたちで、後日、「わだかまりはあるが、大会全体ではなく自分の試合だけに集中するという意味の割り切り方をした。大会に出ないわけにはいかない」とコメントした。

髙田は、自らの引退試合の対戦相手に〝あの〞田村潔司を指名をした。

そしてその田村と恩讐を抱えたヤマケンも同じリングに上がる。

髙田引退試合に花を添える意味でも、これ以上の泥沼化が懸念されたが、事態はとりあえず収束へと向かい、髙田vs田村戦は予定通り決行される。

アンタッチャブルな領域が様々に交錯する中、11・24『PRIDE』のリングは何を精算し、何を包み込み、何を生み出すのだろうか。　(構成／ジャン斉藤)

緊急TOPICS!!
UFOに大型即戦力 藤井克久が正式入団!!

00・11月の『UFC―J』ではヤマケンとも対戦した藤井

UFOに大型の即戦力が正式入団。今号が発売される頃には正式発表されているはずだ。その男の名は、藤井克久。パンクラスのヘビー級で1位、無差別級では8位にランキングされ、今年5月の『プレミアム』でもイリューヒン・ミーシャと堂々と渡り合った日本屈指の大型実力者だ。オーちゃんは「UFOの第2の男だったやつは、いま魔界だかなんだかの住人なんでしょ。ウチは練習しないやつはいらないから」と、藤井に最速で“UFO・第2の男”になるように指令を出し、11月15日には早くも伊原ジムで合同練習を行った。来年春に開催が噂される『LEGEND2』、ZERO-ONE、そしてUFOの自主興行と、純プロレスとバーリ・トゥードを股にかけた“UFO的プロレスラー”としての活躍が期待される。以下、詳報は次号!!　オー、エイチ、ホーッ!!

大好評!
蘇れ! UWFインター伝説
シリーズ第4弾
安生洋二
金原弢
ウィー・アー
㊙ゴールデンカップス!
司会／堀江ガンツ 撮影／森鷹博
designed by hisa (Two Three)

高山善廣

Uインター基礎講座……1

ゴールデンカップスとは何か?

“ミスター200”安生洋二をリーダーに高山善廣、山本健一(現・喧一)で結成された、Uインター末期のあだ花とも言えるユニット。これまでのU系の概念を破壊し、リング内に反則、リング外にお笑いを導入。一時期、バラエティ番組に出まくり、歌手デビューまで果たすなど一世を風靡した。ちなみにチーム名は蝶野の急所蹴りを警戒した安生が金カップ(ファールカップ)使用したことに由来する。

裏ゴールデンカップス！
高山善廣×安生洋二×金原弘

——というわけで、大人気企画「Uインター座談会」に今日は待望のゲスト、安生洋二選手をお招きしました！

安生 人気企画なの、これ？

——最初に金原さんと高山さんの対談をやったのが大好評だったんで、そこに宮戸さんや和田さんを加えた続編をやったんですけど毎回ブッチギリの人気なんですよ。

安生 じゃあ、今日は君達がホストで俺はゲストなんだな。

金原 ボクがリングスにいたらできなかった対談だからね（笑）。

高山 あ、そうか！ 金原さんがフリーになったからこそできる対談なんだ（笑）。

安生 リングス時代だったら、こんな企画絶対とおらねぇよ！（笑）。

金原 でも、今回は俺より山本（喧一）の方が良かったんじゃない？ 「ゴールデン・カップス復活！」とか言ってさ（笑）。

安生 いや、このメンバーは「裏ゴールデン・カップス」だよ。そもそも俺は最初、山本じゃなくて金原を誘ったんだから。

金原 ああ、そうでしたよね。「今度、高山とユニットを組むんだけど、お前も来るか？ 二人だと寂しいんだよな」って言われましたよ。

安生 最初、金原いって次に桜庭いって、最後にいったのが山本だから。

——桜庭さんにも話が言ってたんですか？

安生 あ、知られてないんだ。あいつも早くカミングアウトすればいいのに（笑）。

金原 そういえば、このメンバーでイスラエルとイギリスに行きましたよね。ビデオの販売とかキャンペーンしたり（笑）。

高山 安生さんがインタビュー受けて、その後ろでボクと金原さんがキックのデモンストレーションしたりしてたんですよね。

金原 そうそう。BBCラジオに出たりね。

安生 朝の子供番組とかも出たよな。

金原 「武士道がやってきた！」って放送されたんだよ。でも、イギリスじゃまだ人気が出てなくてビデオが一本しか売れなかったんだけどね（笑）。

高山 それに比べて、イスラエルは凄かったですけどね。特殊警察のトップが僕らを護衛してくれてたぐらいだから。

安生 楽しかったなぁイスラエルは。地中海料理美味かったしなぁ。

高山 ボクも大好きだったなぁ。美味しい所に連れて行ってもらいましたよね。

安生 いまでもトルコ料理屋行くとあの頃のこと思い出すもんな。金原なんか「ここで住むか？」って言われてたよな（笑）。

——金原さんがイスラエル永住ですか！（笑）。

金原 いやぁ、住みたくなるほど待遇がよかったからね。でも、あのときのメンバーが、まさかこうしてみんなフリーになるとは思わなかったですね（笑）。

安生 耳がイタイなぁ！ でも、フリーになったからこそみんなが羽ばたいたんだよ。俺らに鎖は似合わないよ！

高山 ゴールデン・カップスを結成したころも同じようなことを言ってましたよ。「俺らは養殖魚じゃない！ 大海原を駆け巡るどうのこうの」って（笑）。

——その〝鎖〟というとやっぱり宮戸さんだったんですか？（笑）。

高山 あ、宮戸さんは鎖だったんだ（笑）。

安生 確かにそれは言えるかもしれないなぁ（笑）。

金原 ゴールデンカップスで一回引きちぎったんですよね。

安生 引きちぎったねぇ。「もうどうにでもなれぇ！」「我慢の限界だぁ！」って。

金原 安生さんはUインターに宮戸さんがいた当時、ホントに「我慢してるんだろうなぁ」って感じはしてましたね。

安生 自分を押し殺してたからね。だって記者会見での発言一つでも大変だよ。KGB並だからね！

金原 アハハハハ！ そういえば宮戸さんが会見の後よく「安生さん、あの発言はないに!?（怒）」ってやってましたよね（笑）。

安生 「『です』と『だよ』が違う！」とかって。

——そんな語尾までチェックされましたか（笑）。当時の記者会見は、実際にしゃべるのは安生さんで、宮戸さんは会見場の一番後ろで目を光らせていたらしいですね？

安生 恐ろしかったよね、ホント。俺も頭いいほうじゃないから、一語一句思い出そうとしながらだから、表情カタイカタイ！

高山 あ、あれは凄んでたんじゃなくて、緊張してカタくなってたんですか（笑）。

安生 緊張の意味合いが違うんだよ！

金原 宮戸さんがいるときの発言とか凄い優等生でしたもんね。それがまさかあんなに変わるとは思わなかったですよ（笑）。

安生 変わるも何も、発言はすべて決められてたんだから。こないだも宮戸さんと本の対談したらさ、ゲラチェックしっかりやってたからね。

高山 そう言えば、ボクと金原さんがまだ新人の頃、初めて雑誌のインタビュー受けたら、宮戸さんにゲラチェックされて内容を全部変えられちゃったんですよ（笑）。

金原 そうそう。俺らが話したことが何ひ

高山善廣提供
思い出のイスラエル遠征写真館

いままでほとんど報道されることがなかったUインター、イスラエル遠征の写真を高山選手のご厚意により公開！ これは新日vsUインター開戦後、プロモーションとセミナーで訪れたときのものだそうです。3人ともメチャクチャ楽しそうですが、現地ではどんな楽しいことがあったのか？ 詳しい話はまた今度！

現地の柔道チャンピオン、キックボクシングチャンピオンとの交歓写真。現地の格闘家にとって、Uインターの選手は憧れの存在なのだ。

体育館でのセミナー風景。現地の格闘家に打撃の指導をする高山。それにしてもこの頃は細い！

イスラエル空手チャンピオンと金ちゃんのツーショット。ブルース・リー好きの金ちゃんは、なぜかヌンチャク持参だ。

安生さんの"ラッパ"はとにかく苦しくて あんな苦しい思いはなかったよ！［金原］

俺と宮戸さんは「UFO論争」だけで「殺す・殺さない」の話になるんだから！［安生］

宮戸さんがいたころといなくなってからの安生さんは別人ですよ！［高山］

とっ載ってなかったんだよね（笑）。
安生　それじゃあ、宮戸さんのインタビューじゃねぇかって（笑）。
高山　写真だけで自分の言葉じゃなかったですからね（笑）。
――それほどだったんですか（笑）。
安生　それだったら最初から全部やってくれよって感じだよな。当時は一事が万事その調子だから。それで、そのときの宮戸さんの必殺技が「会社のためだから！」だったからね。
一同　ガハハハハ！
安生　そう言われると俺も「ああ、そうですか」ってなっちゃうから。最後はいつもそうだったね。
――じゃあ、お二人にとって宮戸さんがUインターにいたころといなくなってからでは、安生さんに対するイメージは全然違ったわけですか？
高山　全然違いましたね。安生さんは押さえつけられてたから、ちょっとイラついてるときもありましたから。なんかいつも道場に無表情で現れて、ムッとしながらシャドーとかやって帰っちゃうっていうイメージでしたね。
――道場では"怖い"というイメージだったんですか？
安生　怖くはないでしょ？
金原　でも強い先輩でしたよ。道場では宮戸さんが睨みを利かせて、実際にスパーリングで若手を「ヒーヒー」言わせたのが安生さんだから。もう、安生さんの"ラッパ"（※編集部注＝押さえ込みから逃れるUWF系の名物練習。縦四方固め上になった選手の腹で鼻と口がふさがれて、息ができないため、そこからもれる呼吸音が「プー、プー」鳴ることから"ラッパ"と呼ばれる）が苦しくて苦しくて、もうあんな苦しい思いはなかったですよ！
安生　それもすべて宮戸さん指示だから！
金原　宮戸さんが練習中に「安生さん、ラッパいけ！」って言うんですよね。
安生　俺が自分の練習やってんのに、「ラッパ先生！　ラッパお願いします」って来るんだよ（笑）。
――「ラッパ先生」ですか（笑）。
安生　昔のヤクザのお世話になってるくいつめ浪人みたいなもんでしたからね。遠くのほうで酒を飲んでたら、「ラッパ先生！」って感じだったよね（笑）。
高山　宮戸さんに呼ばれると、安生さん、面倒くさそうな顔してましたもんね（笑）。
――じゃあ、元Uインターの選手たちは、みんな安生さんのラッパで強くなったっていうことですよね（笑）。
安生　そう、ラッパで寝技のディフェンスを覚えていったんだよ！　だからU系はディフェンスが上手いんだけど、俺にはラッパ先生がいないから、攻撃はいいんだけどディフェンスが弱いんですよ（苦笑）。
一同　ガハハハハ！
安生　だからお前らは俺と同じ時代に生きていたことを感謝しなきゃいけないぞ！
金原　でも、ホントに安生さんは宮戸さんといる時間が長かったですよね。
安生　もう逃れたくて逃れたくて。住んでるとこも一緒だったから、一日も早く逃げ出したくて一人暮らし始めたんだから！
高山　でも、合宿所の部屋では仲良くテレビゲームとかやってたじゃないですか（笑）。
安生　仲良くねぇよ！　喧嘩の連続だよ！
一同　ガハハハハ！
安生　テレビゲームやりながらも「殺す、殺さない！」だよ！　野球ゲームで「タイム！」って言われたあとボールを投げたぐ

らいで、「殺す、殺さない」の話になるんだから！（笑）。

高山 それでいつも宮戸さんが「表に出ろ！」ってなるんですよね（笑）。

安生 そしたらこっちも「出てやろうじゃねぇか〜！」って（笑）。

——なんで、テレビゲームでそこまで熱くなってるんですか！（笑）。

安生 ゲームならまだいい方だよ！「UFOが存在するか存在しないか」の論争とかで殺し合いにさせられるんだから！

一同 ガハハハハハハ！

——やっぱり宮戸さんは「存在する派」だったんですか？（笑）。

安生 もちろん「存在する派」だよ！ 1回火がつくと退かしてくれないから。「もういいよ、宮戸さん！」って言ったら「よくないだろ！（怒）」って。それで「わかりましたよ、じゃあ」ってこっちが折れると、これがまた気に入らないんだよな（笑）。

——ホントに心から納得しないとダメなんですね（笑）。

金原 あと宮戸さんと言えば、「邪気下し風呂」ですよね！（笑）。

安生 ギャハハハハハハ！

——その「邪気下し風呂」って何なんですか？ ちょくちょく耳にはするんですけど、この対談でも詳しく語られたことはないんですよ。

安生 なにィ!? 宮戸さん呼んだのに邪気下し風呂の話が出てないのか！ 宮戸さんと言えば邪気下し風呂、邪気下し風呂と言えば宮戸さんじゃないか！（笑）。あれに田村とかが入れられてたんだよなぁ（遠い目で）。

高山・金原 ガハハハハハ！

——ゼヒ、詳しく聞かせてください！（笑）。

安生 これは新生Uの頃の話なんだけど、当時の合宿所だった宮川荘って沸し風呂だったんだよ。で、宮戸さんはそのころ凄い喉が悪くて、「喉が悪い原因は何だろう？」っていろいろ調べてたら、気孔の先生に「いろんな人の悪い"気"を受けやすい体質だ」って言われたらしくて、それで周りにいるヤツの悪い気を飛ばすために、いろんな漢方薬やら何やらで炊いた入浴剤みたいなものを風呂に入れて、「お前らこの風呂に入れ！」って言ったのが「邪気下し風呂」なんだよ。当時の若手だった田村とかたぶんカッキー（垣原賢人）も入ったんじゃないかな？ で、ここからが問題なんだけど、それだけ大切な風呂だから、どんなに汚れても湯も換えないんだよな！

——ガハハハ！ 悪い"気"は飛んでも、悪い"菌"が入ってきそうですね（笑）。

安生 それでまた宮戸さんが、おもいっきり垢の出やすい体質で、風呂の底にこ〜んなに垢が溜まってる中にみんな入れられ

宮戸優光＆佐野直喜コンビやっていた気孔術を再現する金原＆高山。そう言えばかつてアントンも"手かざし"に凝っていたが、これも宮戸流の猪木イズム伝承なのだろう、たぶん。

宮戸さんと言えば邪気下し風呂、邪気下し風呂と言えば宮戸さんだよ！［安生］

てたんだよな。

——まったくもって、当時の若手はとんだ災難ですね（笑）。

安生 それで俺にも言うんだよ。俺は宮戸さんと2Kの部屋で一緒だったから、一番影響を受けやすいのが俺だってことで、なんとしても俺を風呂に入れようとするんだけど、ずっと抵抗してたんだよな。「そんな汚い風呂に入れるかよ！」って。で、ずっと抵抗してたら、ある日、部屋で寝てる時に人の気配を感じだよ。「なんだろう？」とパッと見上げたら、鍋に邪気下しのお湯を入れた宮戸さんが湯気を俺に振りかけてるんだよ！（笑）。

一同 ガハハハハハハハハ！

安生 こっちはオカルトチックな儀式の生け贄にされた気分だよ！（笑）。

金原 なんか、その光景が目に浮かぶなぁ（笑）。

高山 鍋持ってる宮戸さんに向かって、安生さんが「なにやってるんですか！」って怒鳴ってる姿が想像つきますね（笑）。

安生 そんなことやられてる割には、宮戸さんをその治療院までバイクで送り迎えしてたの俺なんだから！

金原 毎回、安生さんが運転してたんですか!?

安生 宮戸さん免許持ってないから移動手段は電車しかないんだけど、電車に乗るとまた他人の邪気をもらっちゃうらしいんだよ。それで俺のバイクの後ろだと、悪い気が風でみんな飛んで行くからって送り迎えさせてたんだから（笑）。

——都合のいい理由ですねぇ（笑）。

安生 俺、凄いいいヤツじゃない？

——いい奴というか、お人好しというか（笑）。

安生 だって宮戸さんが「頼みますよ。一生のお願いですよ！」って、毎日一生のお願いをするからしょうがないんだよ（笑）。

高山 そういう方面はUインターになって佐野さんの出現で随分と和らぎましたよね（笑）。なんかよく、宮戸さんと佐野さんが気孔の先生みたいに二人で手をかざして、こうやって気を練ってましたよね（笑）。

安生 ギャハハハハ！

金原 それで練った気を俺とかのところに持ってきて、「お前は気があるな」「ないな」とかやってたんだよね（笑）。

安生 佐野さんはそういうオカルトチックな方面に興味あるからいいけど、俺は全くないからさ。で、さっきの邪気治療院の話にはオチがあって、その先生のところに1年半通った挙げ句に「アイツはインチキだ！」って言い出したんだよな。「もっと早く気づけよ、お前！」って（笑）。

こちらは「真夜中に寝ている安生に、邪気くだしの湯気をかける宮戸優光」を見事再現する安生。Uインター取締役コンビ万歳！

――宮戸さんはなんで「インチキだ」って気づいたんですか？

安生　なんか宮戸さんがその治療院の先生に「宮戸さんの邪気は大きすぎて、他の患者に移るから、もう来ないでくれ」って言われたらしいんだよ（笑）。

一同　ガハハハハハ！

高山　それ妙に説得力がありますね。インチキじゃないんじゃないですか？（笑）。

安生　一年半も通ってさ、結構な額を払ってたと思うんだよね。その挙げ句に治らないから「来ないでくれ」だもんな（笑）。

――いやー、もの凄い前振りの効いたオチですね（笑）。

金原　この話は新生UWFからUインターまでずっと語り継がれていて、関係ない俺らまで知ってるからね（笑）。

――まさに裏UWF史ですね（笑）。

安生　今度、『紙プロ』で夢の企画として邪気下し風呂を復活させてよ（笑）。

高山　「宮戸さんと入ろう邪気下し風呂ツアー」でもやりますか（笑）。

安生　ホント臭くて、汚くて、あれは文句を言えない田村とか大変だったと思うよ。俺なんか入らなかったばっかりに、俺と宮戸さんの部屋をつなぐふすま上にある木彫りの透かしの所に「邪気封じ」のお札を貼られちゃったからね（笑）。

一同　ガハハハハハハ！

安生　ひどくないか!?　散々送り迎えしてやってるのに、しまいにお札を貼られてるんだよ!?　そりゃ引っ越すよ！

一同　ガハハハ！

安生　その揚げ句に「あそこはインチキだよ！」だからね。やっぱりあの狂気がなかったらプロレス界を動かせないよ！

――宮戸さんは「Uインター時代は、神がかり的なものを感じた」って言ってましたけど、そういうことだったんですね（笑）。

安生　凄い人ですよ。……いやぁ、笑ったな（笑）。

――いやぁ、今日の座談会は結構マジメな話になるかと思ったんですけどね（笑）。

高山　なるわけないじゃないですか！（笑）。

――安生さんの実力者ぶりを再確認しようというテーマがあったんですけどね（笑）。

安生　バカなこと言うなよ！　このメンバーでそんな話になるわけないだろ！（笑）。

金原　宮戸さんと言ったら安生さんだし、安生さんと言ったら宮戸さんだもんね（笑）。

安生　ある意味、Uインターではアクの強いコンビだったというわけだよ。

金原　なんか宮戸さんと安生さんって、いつも二人で記者会見やってるか海外に行ってるイメージがありましたよ。

安生　俺は旧UWFが新日本に行った時から外人係だったからね。

金原　Uインターのときは全外人の通訳やってたんですよね？

高山　契約書のチェックとかもしてましたよね。たまに道場に辞書を持ってきて練習しないでずっとペラペラ辞書をめくってましたからね（笑）。

金原　そう考えると安生さんの仕事って凄いよね。

高山　仕事量が凄いですよね。そりゃたまにはキレて桜庭も殴るかなって（笑）。

安生　そんな殴ったっけ？

高山　なんか1回そういうことがあったってサクが言ってましたよ。結構、ボコボコにやられてたんですけどサクはその後、ベロ出してたらしいですよ（笑）。大江さんが目撃してたらしいですけどね。

金原　俺も安生さんに1回だけ殴られたことあるな。田村さんが道場に来てなくて、ボクが高田さんに「田村は？」って聞かれた時に「ちょっと、わかりません」って言ったら、安生さんが飛んで来て「何で自分の先輩の居所がわからないんだ！」って殴られた覚えがありますよ。

高山　理不尽ですねぇ（笑）。

安生　それ理不尽か？　俺の解釈では何で一緒に住んでるのにわからないんだ、ということだよ。

金原　一緒に出ないんで休んだのかどうかわからないんですよ。

高山　金原さんは合宿所でも「便所の掃除の仕方が悪い」とか「おしっこを拭いてない」とかで「じゃあ、誰かがしたら毎回拭かなきゃいけないんですか？」とか口答えしてブン殴られてましたからね（笑）。

安生　それ誰？　●●？

UWFインターナショナル
お宝写真館

Uインター恒例の打ち上げで、カラオケを歌わされる新弟子時代の金原＆高山。あたりまえだが、ふたりとも実に若い！

“宮富徳”監視の元、チャンコ番を努めていた新弟子時代のヤマケン。奥にはなんと本物の周富徳の姿が！

これは貴重！　Uインター時代のサクのオールバック写真を発見！　この数年後に彼がマット界1の大スターになるとは誰が予想したか？

ご覧のようにUインターにはタッグマッチ（ダブルバウト）もあり、こんなコンビも。宮戸の口元には“闘魂”が宿ってます。

あまりに凛々しいプロレスリング世界ヘビー級王者・高田。そのセコンドには常に金原＆高山の姿があった。

北尾光司をハイキック1発でKOし御輿に担がれる高田延彦。担いでいるのは田村と金原だ！

高山 そうですね（笑）。

安生 そんな時からの因縁なんだ（笑）。

金原 （口を尖らせながら）立っておしっこしたらしずくが飛ぶじゃないですか！

安生 しずくは自分で拭くもんだよ。

金原 そうですよねぇ！ でも掃除してもその後、誰かがしたら絶対飛び散ってるんですよ！

安生 飛び散らせるヤツが悪いんだよ。

金原 安生さんホント言って下さいよ～もう。ボクが練習生の時はそういう助けてくれる先輩いなかったですよ。

安生 そんな合宿所は●●政権なんだから俺は見れるわけがないじゃないか！

金原 安生さんはいつもわかってくれると思ってたんだけど、口ではあまり言ってくれなかったですよね。

安生 俺は散々、宮戸さんに利用されてきてるのに、何でお前にまで利用されなくちゃいけないんだよ！（笑）。

金原 練習なんかでも「そのへんで止めといたら」って言ってくれる先輩って欲しかったなぁ？

安生 俺だって欲しいよ、そんな先輩！

――安生さんの時代も相当辛かったでしょうからね（笑）。

安生 あの旧UWFのバリバリのメンツ見てみぃよ！ おっかないに決まってるじゃねぇか！

高山 だって金原さんがリングス移籍したとき、あのキャリアで「タックルの打ち込み1000本やれ！」って言われてるんですから、新弟子にどれだけやらせるのかなって思いますよね（笑）。

安生 （嬉しそうに）そうだろ？ へべれけでしょ？ 当時の受身なんてなんだと思う？ とんでもないよ。普通、後ろ受身10連発以上やったらヤバイでしょ？

(裏)ゴールデンカップス！
高山善廣×安生洋二×金原

金原 10回ぐらいが限度ですよね。

安生 それを何回じゃなくて「○分でやれ！」とか言うんだよ！ もう意識朦朧でホントフラフラになるんだから！

――バックドロップを何10連発喰らってるようなもんですね（笑）。

金原 誰も止めてくれなかったんですか？

安生 俺だって止めてくれる人が欲しかったよ（しみじみ）。

金原 どの世代も一緒なんですね（笑）。

安生 それが何日も続くんだから、今週は「受身ウィーク」なのかって？ キャンペーン中なのか？ と思ったよ（笑）。

高山 お得だからやっとけよって（笑）。

安生 それでしばらくしたら飽きちゃったのかやらなくなって、今度は腕立て地獄だよ（笑）。

――凄い時代だったんですね（笑）。

安生 そういう時代だったんだよ。別に俺はそれはそれでいいと思ってるから、それについて云々っていうのはないけどね。

――安生さんの場合、それでいざ上に立ってみたら今度は宮戸さんがいたわけですからね（笑）。

高山 だからホントの意味で解放されたのは、宮戸さんがUインター離れてからじゃないですか。ボクと練習後にべらべら喋るようになったのも宮戸さんがいなくなってからですもんね（笑）。

――そこからゴールデンカップスも生まれたわけですよね。安生さんの中にはゴールデンカップス的なものは元々埋もれてはいたわけですか？

安生 もう、どうにでも書いてくれ！

高山 まぁ、開放感でしょう。坊主でずっとやってた野球部が引退したらいきなりパンチパーマになったようなもんですよ（笑）。

金原 それからはガラリと変わりましたよね。当時、和田（良覚）さんが安生さんのこと「遅咲きの狂い咲きだ！」って言ってましたよ（笑）。

道場破りにひとりで行かされたのは英語とラッパができるからだろ!?［安生］

――それはやはり、リング上以外でもその頃から狂い咲きだったんですか？（笑）。

安生 そうだなぁ（笑）。

高山 たしかに夜遊びは派手になりましたよね。ボク一人で六本木歩いてたら「今日は安生さんは？」って知らない人から声を掛けられてましたからね（笑）。

――そんなに六本木では顔が広くなってたんですか（笑）。

金原 俺らが六本木に飲みに行ったら「私、プロレスラーで知ってるのは安ちゃんだけ！」って、よく言われたよね（笑）。

高山 そうそう。飲み屋のねぇちゃんにね（笑）。

安生 それはいまでも生きてるからね。俺が全日本に出始めたばっかりの頃、渕さんと飲みに行って、渕さんは六本木のクラブに俺を案内しようとしてたらしいんだけど、行く店行く店でお姉ちゃんが「あ、安ちゃ～ん」って（笑）。

――ガハハハハハ！

安生 渕さんが「なんだよ、俺より顔売れてるんじゃねぇか」って言ってね（笑）。

高山 渕さんもガックシでしょうね。相当くやしかったと思いますよ（笑）。

金原 そんだけ夜の街では有名だからね。

――さすが「夜の街ではK―1ファイター」（笑）。

安生 俺の名言だよ。

高山 当時よく「K―1ファイターの安生洋二です」って言ってましたよね（笑）。それを言いたいがためにK―1やったんじゃないかって（笑）。

安生 いや、でもこれからは金原が「『PRIDE』チャンピオンの金原です」って言う番だから。

金原 ………。

高山 あ、黙っちゃった（笑）。

金原 え、何ですか？

高山 そういや前にボクと安生さんがクラブで遊んでたら、宮戸さんも誰か連れてきて、そこで急に「アンタが『Uインターは俺に任せとけ！』って言うから、俺は任せて出て行ったのにどういうことだよ！」って、いきなり言い合いを始めちゃったことありましたよね（笑）。

安生 そんなことあったけなぁ。

高山 覚えてません？ クラブの玄関前ですよ（笑）。

――宮戸さんはUインターをフェイドアウトする前に安生さんに「任せる」って言って出て行かれたんですか？

安生 ああ、なんか「任せる」って言ってたよ。でも、宮戸さんがいなくなるころの話は俺が一番わけがわかってないよ！

高山 またそんなことを言って、そんなわけないじゃないですか（笑）。

安生 だってあのころ結構、宮戸さんと集まって話とかしてたでしょ？

高山 1回だけありましたね。

安生 だからそういう場には俺は呼ばれてないからね。

高山 宮戸さんは安生さんと（鈴木）健さんの反対勢力でしたからね。

――宮戸さんが言うには「鈴木健さんが安生さんを取り込んじゃった」と言ってましたけどね。

安生 また、俺が宮戸さんと離れたい心につけ込んだんだよ（笑）。

高山 心の隙間があったんですね（笑）。

安生 こないだも宮戸さんと対談して出た結論が「あの頃は高田さんも安ちゃんも物事に疲れてたんだよ」って言われたから、

安生洋二 PHOTO GARALY

❶Uインターの記者会見と言えば、もちろんこの二人、宮戸優光＆安生洋二の取締役コンビ。「鎖に縛られていた」という安生の目に精気がないのは気のせいか？　❷「ヒクソンを倒すのに高田さんが出るまでもない。俺で十分です！」と、リング上から打倒ヒクソンを観客に宣言する安生。この安生による「道場破り失敗」は、その後のマット界の流れをとてつもなく大きく変えた歴史的事件といえるだろう。❸ゴールデン・カップス時代、"理不尽大王"冬木弘道と抗争していた安生の勇姿。この闘いは「生卵」「タコ」へとエスカレートしていった。❹これが噂の3億円ベルトだ！　石川孝士とのコンビでタッグ王者に君臨した安生は、同門・高山＆ヤマケン相手に見事防衛。この他、佐山タイガーとのコンビでも王者になっている。❺ルー・テーズ、ロビンソン、ダニー・ホッジという"レジェンド"にサインをもらいご満悦の安生＆宮戸。❻キングダムになると安生ゴールデンカップスから一転、エースとしてシリアスな格闘家へと変貌を遂げ、桜庭や金原らとハイレベルな闘いを展開していた。❼Uインター名物打ち上げ。高田の脇には宮戸＆安生がしっかりと固めるのだ。

俺も「その通りだよ」って言っといたからな（笑）。

――そのころの話で言うと、これも触れないわけにはいけないんですけど……、ヒクソンの道場破りっていうのはズバリどういう経緯だったんですか？

安生　どういう経緯って見ての通りだよ！　今さら何って言われても、俺だっていまいちわかってないよ。「ラッパ先生行くぞ！」って感じだったんじゃないの？

高山　ヒクソンをラッパ攻めするつもりだったんですか（笑）。

金原　俺らも前の日に「明日行ってくるから」って簡単に言われて、「え⁉　いきなり行くんですか？」って感じだったもんね（笑）。

高山　しかも前日、飲んじゃってるし（笑）。

安生　叩き起こされて行ったよ、俺は！

金原　あの時は宮戸さんはついて行ってないですよね？

安生　宮戸さんだって嫌でしょ。「お前も上がれ！」とか言われたらどうすんの（笑）。

金原　いつも宮戸さんついて行くのに行かないからおかしいなと思ったんだよね。

高山　それが間違いの元だったんですね。

安生　根性いるよ、やっぱり！

高山　そうですよねぇ。普通、何人かついて行くものだから、ボクとか金原さんあたりは「行け」って言われるかと思ってたんですけどね。

安生　絶対、経費削減だよ。英語とラッパの特技があるから「一人で事足ります」ってことだろ（笑）。飛行機も大韓航空でハワイ経由して行ったんだから！

一同　ガハハハハ！

――そんな遠回りで（笑）。でも、それがすべていまに繋がってるわけですからね。

金原　あれがあるからいまの格闘技があるんだよね。

高山　歴史を作った男ですよ（笑）。

安生　そうなんか！　じゃあ、銅像の一つでも建てろって（笑）。

高山　どこに建てるんですか！（笑）。

――Uインター自体も格闘技自体もあれから大きく動き出しましたからね。

高山　ヒクソンも安生さんのおかげじゃないですか？

安生　4％くらい俺の懐に欲しいよ！

高山　4％でも結構いい金ですよ（笑）。

――キングダムがああいう路線になったのも安生さんの影響ですよね？

金原　キングダムのルールを作ったのも安生さんだからね。「グローブ有りで肘有りで」って。

安生　基本はVTだけど、「ちょっと俺らに有利につくろうよ」ってな（笑）。

――アハハハハ！　そうだったんですか⁉

安生　いいじゃん、金払うの俺らなんだから！（笑）。

金原　いま思えば、あれもかなり最先端行ってましたよね。

安生　もうあと2、3年、踏ん張るお金があれば時代を掴んでたんだけどなぁ。でも、金原はリングスで修行して良かったんじゃないの？　いい選手とやる機会がたくさんあったんだから。それで今回、久々の試合が『PRIDE』のタイトルマッチだろ？　驚いたよなぁ。

高山　安生さんが全日本参戦の一発目で世界タッグ取ったみたいなみたいなもんですよ（笑）。

安生　そうだな。俺は一発で獲ったな！　まぁ、案の定期間は短かったけどな！

金原・高山　ガハハハハハ！

安生　でも、最近すっかりタイトル戦線か

キングダムルールはVTを基本にして ちょっと俺らに有利に作った（笑）［安生］

10月31日 東京プリンスホテル

金ちゃん遂にPRIDE出場決定!! いきなりシウバのベルトに挑戦！

本誌前号で「試合が決まらないんだよねぇ」とボヤいていた金ちゃんの復帰戦が正式決定！ なんと11・24『PRIDE・24』でシウバのPRIDEミドル級王座に挑戦という最高のカードが組まれた。ハッキリ言ってこれは、金原にとって一世一代の大勝負。勝て、金ちゃん！

「今回、このようなチャンスをいただきまして、まず最初に、高田（延彦）さんとDSEのみなさんに感謝します。今は、しばらく試合をしていなかったので、闘える喜びで一杯です。最高に強いチャンピオンと試合ができるということで、ボクは今まで11年間くらいこの業界にいますけど、まだ1回もタイトルマッチをしたことがなく、本当に嬉しいです。凄い強いチャンピオンなんですが、なんとか負かして、是が非でも勝ちたいです。一所懸命やります！」

会見の冒頭で、このように決意を語った金ちゃん。「是が非でも勝ちたいです」と語気を強めたところに、シウバ戦への並々ならぬ決意が伺えるではないか。

「シウバより自分が優っているところは？」という記者の質問にも「勝ちたい意欲じゃないですか」と答えるなど、今回の試合に対するモチベーションは、デビュー以来最高に高まっているようだ。

もちろん精神面だけでなく、肉体面では約9ヶ月のオーバーホールで体調万全。

技術面では、田村を一撃で沈めたシウバの拳について「ボクのパンチの方が痛い。右ストレートが当たればシウバは倒れると思う」と語るなど、打撃対策にも自信を見せ、さらにリングス前田日明総帥に『PRIDE』出場決定を報告した際、電話口で打倒シウバの秘策を授けられたという。

「シウバは、そんなに力が強いっていう話は聞いていないんで、そんなに驚くことはないと思う。打撃に対しての威力とか突進力はあると思うんですけど、巧さはない」と敵の研究も怠っていない。

DSE森下社長は今回の試合決定について「今まで諸処の要因があって、出場には至らなかったが、DSEにとって、かねてから、金原選手は出て欲しい選手のひとりでした。今回は高田選手の引退ということが、強く心を動かしたということだと思いますが、出場していただけることになりました」とコメント。周囲の期待も大きい。

現在は大橋ボクシングジムで打撃、高田道場で寝技の練習を積んでいるという金原。

「今までベルトを巻いたことがないんで、ベルトは凄く欲しい。防衛戦はしたくないもしれないですけど（笑）」と、金原節で会見を締めた。あとは当日を迎えるのみ。

11月24日、不遇の実力者に遂に春が訪れる！

らご無沙汰で干されてるだよ。そうだ高山に聞けば良かったんだ！　俺は全日本でどうすりゃいいの？

高山　武藤さんになってからの全日は、ボク全然わからないですよ（笑）。

金原　ダブルワンもやるんだよね？

高山　『ＷＲＥＳＴＬＥ―１』ですよ（笑）。安生さんvsブッチャーとかまたやるんじゃないですか？（笑）。

――東京プロレス再び、ですね（笑）。

金原　そう言えば、東京プロレスって３億円ベルトとかもあったじゃないですか。あれはもう返したんですか？

安生　終盤でそんな話はやめろよ！（笑）。

金原　あのベルトは凄かったよね。ダイヤとかが散りばめてあって、分厚い金のプレートでしたもんね。

安生　タイで作ったからそれなりに安いだろうけどな。

高山　日本で作ったら３億円っていうことだったらしいですね。

金原　ホントにそんなにするんだ。いまどこにあるんだろうね。

高山　もう、溶かして金になってるんじゃないですか。でも、東京プロレスのときは、最後の方で安生さん大仁田厚みたいにインディーのカリスマになっちゃって、気持ち悪かったですね（笑）。

金原　え⁉　安生さんが？

安生　なんかリングの周りにブワーっと客が取り囲んでな。

高山　ボクは怖くて近寄れなかったですよ。安生さんが石川（敬士）さんと組んで３億円ベルト巻いてたころ、ボクは遠くから見てて「怖わ～」って（笑）。

金原　そんなに凄かったんだ！　見とけば良かったなぁ。

安生　俺もあれでだいぶ引いちゃったんだよな（笑）。このままじゃ路線変えれなくなってヤバイと思ったもんな。

――最後は安生さんがなぜか東プロ社長になっちゃうし（笑）。

安生　あ～、結局この話になっちゃうんだよな（笑）。大一番の前なんだから金原の話をしようよ！

――じゃあ強引ですけど、金原さん３億円ベルトならぬＰＲＩＤＥミドル級ベルトへの手応えはどうですか？（笑）。

金原　いやぁ、頑張るよ。それしかないでしょ。でも、３億円プレイヤーっていないですよね、この業界。

高山　サクだってまだ稼いでませんからね。

安生　じゃあ、景気良く「シウバに勝って３億円プレイヤーを目指す！」って言いなよ。

金原　…………お願いします！

安生　そういうことでお願いしますじゃないよ！　せめて「マイホーム買いたい」ぐらい言わないと！

金原　そうですね。

高山　マイホームじゃ、サラリーマンの夢じゃないですか（笑）。３億円の話をして、いきなり夢はマイホームですか（笑）。

金原　いまボクは高山君を目指してますから（笑）。昔っから高山君って、後輩に「俺を目指せ」って行ってたんだよね。その意味がようやくわかってきたよ（笑）。

安生　よ～し、じゃあ次回は金原の祝勝会を兼ねて六本木のキャバクラで対談するぞぉ～～！

――ガハハハ！　いいですね！　そのためにも金原さん、絶対シウバに勝ってください！　今日はありがとうございました！

【02年11月4日／なぜか新日道場近くの焼肉店にて収録】

㊙ゴールデンカップス！
高山善廣×安生洋二×金原弘光

【たかやま・よしひろ】66年9月19日、東京都墨田区出身。25歳でUインターに入門。その後、キングダム、全日本、ノアを渡り歩き、現在は『ＰＲＩＤＥ』、新日本を股に掛け大活躍中。新日本1・4ドームでは、ＮＷＦのベルトを賭けてＴＫとの一戦が決定している。

【あんじょう・ようじ】67年3月28日、東京都杉並区出身。高校卒業と同時に旧ＵＷＦ押し掛け入門。その後、新生ＵＷＦ、Ｕインター、キングダムを渡り歩き現在はフリー。プロレス、ＶＴ、Ｋ－1すべてをこなす実力者で、現在の主戦場は全日本。ヒクソンへの道場破りはあまりに有名。

【かねはら・ひろみつ】1970年10月5日、尾張旭市出身。91年ＵＷＦインターに入門。キングダムを経て、98年にリングス入団。昨年は“リングス最後のエース”を努める。今年、心機一転改名。マスコミ各社を困らせる。11・24『PRIDE.23』シウバのベルトに挑戦決定。遂に春は来るか!?

この胸騒ぎは一体、なんだ!?

11・24東京ドーム『PRIDE.23』大予言!!

『Dynamite!』症候群を吹き飛ばす、超ド級のラインナップとなった今大会。勝つのはどっち？試合展開はどうなるの？読めばボンヤリわかります!!

編集部予想		
山口日昇	-	失踪中
松澤チョロ	田村	3Rヒールホールド
堀江ガンツ	田村	3R腕ひしぎ逆十字固め
ジャン斉藤	田村	2Rレフェリーストップ
ささきぃ	田村	3R TKO
スモーノブ	髙田	3R田村の戦意喪失

「真剣勝負」発言から7年……。時空を超えた夢幻大の真剣勝負!!

髙田延彦vs田村潔司

髙田vs田村をクマクマンボが特別解説

熊久保英幸（元『コン格』編集長）

田村vs髙田は実現すると思ってましたよ。いずれやるんじゃないかという気がしてました。今回の髙田選手の引退試合の相手に、田村選手の名前が上がるだろうとは予想していたんですよ。ボク的には、吉田選手の名前が上がったときのほうが逆に意外でしたよね。

何年か前に髙田選手が「忘れ物がある」って言っていたじゃないですか？　あれは結局、髙田選手が「小川選手」とタネ明かししましたけど、ボクはその髙田選手の"忘れ物"を田村選手だと思っていたんですね。それはやっぱり、7年前のあの発言の決着を付けるという髙田選手の気持ちがあったんじゃないかなと。田村選手自身も、前田さん、髙田選手には頭が上がらないと言っていたんで（笑）、指名されたら試合を受けると思ってましたから。髙田選手に「やるぞ」と言われたら、あの人の性格上、断れないですよ。だから今回の試合が決定したとき、ボクがそんなに驚かなかったんですよ。

髙田選手はホイス戦をみればわかるんですけど、ガチガチの守りに入るとかなり強いんですよ。でも、この試合ではそうはしないんじゃないかと。おそらく髙田選手の方からアグレッシブに仕掛けると思いますね。

実際、髙田選手は最後の試合だし、ガチガチの守りに入って観客からブーイングを浴びるようなまねをしたくないと思ってますよ。田村選手とは、かつては練習で肌を合わせた仲間じゃないですか。そういう意味では安心感はあると思うし、後輩に自分の守りの姿勢は見せたくないと思うんですよね。髙田選手は守りに入りません。絶対に入らない！……というか、入らないでほしい（笑）。

ここで守り入ったら男がすたりますよ。ここは玉砕覚悟で行ってほしいです。巷では膠着するとか言われてますけど、そんなんじゃ引退試合の意味がないですよ!!　ボクは髙田選手の男を信じたいなと。逆に田村選手の男も信じたいんですよ。それがロマンです！　ただ、田村選手は、髙田選手をグラウンドでは殴れないでしょうね。スタンドでは容赦なく殴ると思いますけど、打撃をやろうという気はないんじゃないですかね。

試合が終わった瞬間、様々な確執がすべて精算されるんです

田村選手はですね、髙田選手をあまり傷つけたくないという思いがあると思うんですよ。だからテイクダウンを取って、田村さんが腕十字で仕留めるんじゃないかと予想してます。髙田選手もアグレッシブなだけに、早いラウンドで勝負が決まると思いますね。

試合が終わればノーサイドですよ。試合中は感傷にひたったり、ちょっとでも相手に華を持たせようなんて思わないでほしいですね。試合が終わった瞬間にですね、7年間の様々な確執がすべて精算されるんですよ。試合が終わってから抱き合えばいいんですよ。髙田延彦の、ここ何年間のレスラー人生の集大成も見られるわけです。

髙田選手には、すべてをぶつける気持ちで戦ってほしいですね。なんといっても最後ですからね。

髙田馬場のシュート活字王

タダシ☆タナカ

髙田vs田村のテーマは、実は追憶のモンタージュなんです！

田村の「ボクと真剣勝負してください」の7年前の因縁からした因果応報、あるいはデジャヴ体験なんですよ！ つまりは過去の試合とその思い入れを投影させて見るのがこの試合の楽しみ方なんだと！ だから名勝負を期待するのは間違いなんですよ！ 髙田総裁はホイスにも極めさせなかったんです。だから勝負は判定までもつれ込みますね。でもそれでいいんですよォ！

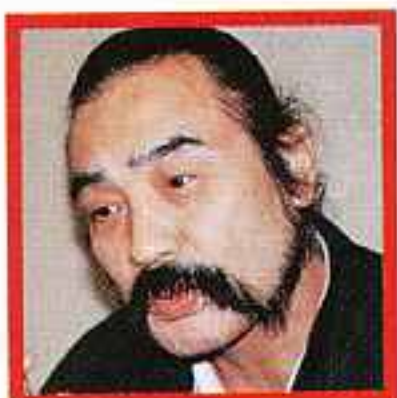
だって田村の前回の美濃輪戦は、もとから両者が「赤いパンツの頑固者対決」になることはわかっていましたけど、ボクは会場で見ていてずっと古館アナが実況した88年8月の猪木vs藤波戦の名調子が頭の中をグルグル回っていたんですよ！「これがまさしく戦いの生物の輪廻なのか？」「黒いショートタイツの〝二人の猪木〟が戦っています！」。おまけに『DEEP』の3R目は85年9月の猪木vs藤波で、レフェリーの鉄人ルー・テーズに「試合を止めなければナックルパンチをお見舞いする」って猪木がわめいてる場面が脳裏をよぎった！ 二人の光と影がおりなす七色の様式美学ってのは、要するに輪廻転生なんだと！ その有明のあとには、今度は新日本が14年ぶりに60分ドローのIWGP戦を福岡でやりましたよね!? すべてはつながってるんですよォォオ！ プロレスも格闘技も同じなんですよ。とくに今回はUWF同窓会なんだと！

ヒクソン戦でプロレスファンの罪をかぶって十字架にはりつけにされた総裁の最後の晴れ舞台。でも、その犠牲があったからこそ『PRIDE』は成立したわけです。昭和のファンは一連のマット界の流れに髙田引退の現実を絡めて失禁寸前は間違いないんです！『Dynamite!』の爆発を頂点に、本当に02年が大航海の終着駅なのかと！ それと、格闘技ブームの主役だった桜庭の快進撃と、リングスのエースとしての田村の総合力はコインの裏と表だったんです。この2人のメインとセミのライバル物語もあるわけですよ。おまけに山喧との確執なんか、みちのくプロ10周年にこなかったデルフィンとサスケになってしまう。シュート革命10周年と、その反対の方向の日本流ルチャ団体の誕生は、なんとリンクしてるんですよ！

髙田vs田村は、実は追憶のモンタージュがテーマなんです。UWFが青春の一ページだった方はぜひ会場に来てください。判定で勝つのはタムだけど、師弟対決を制するのは感動のフィナーレを迎える総裁のほうなんだよ。一緒に泣こうよ！ プロレス最強神話は正しかったことを確認するんですよォオ！

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

精神的には圧倒的に髙田選手が有利です

これは予測が難しい試合です！ ポジショニングの取り合いになって、次から次と攻防が入れ替わるようなグラウンド戦になれば田村選手が有利です。やっぱり身体の柔軟性や、細かいテクニックの変化に耐えられる点では、田村選手の方が上ですからね。

しかし、この試合で一番重要な点は、髙田選手自らが田村選手を指名したことなんです！ 髙田選手からすれば田村選手は下の人間でしたし、自身の引退試合になるわけです。髙田選手は意地でも負けられないわけですよ！ だから、それなりの勝算があって田村選手を指名したんじゃないかと思うんです。

田村選手からすれば、まさか指名されるとは思ってなかったはずです。だから、この逆指名はかなりプレッシャーになってるますよ。精神的には指名した髙田選手が有利。髙田選手は、田村選手の良いところを殺すぐらいの精神力で戦いに臨むと思いますよ。田村選手の有利なグルグル回る攻防に持ち込まないで、固まった試合。ずっと抑えこむ試合に持ち込むんで勝つんじゃないかなと。髙田選手の方が、体格的には大きいですからね。技術的に田村選手が有利ですけど、精神的重圧などを含めたトータル的なことを考えると、髙田選手が意地を見せて、抑えつけるような展開で判定勝ちをすると思います。

そうなると、動きだけで見れば面白い試合や楽しい試合にはならないですね。別の観点から、精神的な部分を注目しないといけない試合です。遺恨というか、いろんな感情が漂ってくるというか、入り乱れてるわけですからね。髙田選手も最後ですから、腕ぐらい極められても簡単にはタップしないんじゃないんですか？ 私自身も非常に楽しみな試合ですね。

嘆きの『DEEP』仕掛け人

佐伯 繁

田村さんは髙田さんを殴れませんよ

いや～、予想すると胃が痛くなる試合ですねぇ。ボクは田村さんとは一緒に旅行に行ったり、トークライブをやったり仲がいいんですけど、もともとは髙田信者ですからね（鼻息荒く）。やっぱりUWF時代からの憧れがあるわけですよ。だから、複雑な試合ですよねぇ。

ウ～ン、勝敗もそうですけど、どういう試合になるのか興味がありますよね。みんなも言ってますけど、田村さんは髙田さんを殴りにいけないと思うんですよ。こないだの美濃輪戦じゃないですけど、上を取っても叩くぐらいというかチョンチョンってかんじしかできないと思うんですよね。スタンドでも、ミドルキックで攻めるんじゃないですか。

そりゃあ、殴らないことで田村さんの勝つ確率が下がりますよ。気持ちの問題もあるんでその隙間が怖いですね。体格も違うし、髙田さんが勝つのかなあ……。

いや、でも、勝つのは田村さんだなぁ。たぶん、判定勝ち……いや、一本勝ちにしといてください（笑）。

技術の部分、関節技で勝負して、田村さんが一本で極めると思いますね！

内容的にいえば面白い面白くないじゃなくて、ホント緊張感のある試合になりますよね。どっちが勝っても、どういう結末になっても、最後はドラマチックになることは間違いないでしょ。この試合はハズレはないですよ。

ところで、ハズレがないと言えば、『DEEP』ですよ！ 12月8日ディファ有明を皆さん忘れてるんじゃないんですか？ ホント、頼みますよ！ なにしろ、修斗からチャンピオンがやってくるんです。ムエタイの現役チャンピオンもやってきますし、これはスゴイことなんです！ このスゴさをちょっと見に来てください。お願いしますよ！

12月8日は、ディファ有明です!!

編集部予想		
山口日昇	-	失踪中
松澤チョロ	フライ	1R パンチでKO
堀江ガンツ	吉田	1R 袖車締め（失神KO）
ジャン斉藤	吉田	2R フライ試合放棄
ささきぃ	フライ	2R 失神KO
スモーノブ	吉田	1R レフェリーストップ

『PRIDE』男艶の門をくぐる!! 柔道王がバーリトゥード初挑戦!!

ドン・フライ VS 吉田秀彦

活字プロレス第一人者
井上義啓

吉田のVT挑戦はまだ早い

吉田というのは柔道マンだけども、条件反射がいいというかね、パンチキックなんてのはちょっと練習すれば身に付くんだよな。ノゲイラなんかも菊田の足をカーッとやってバーンッと倒してるでしょうが。吉田が高田道場で練習して「凄かった！」とかワーワーと騒いどるようだけど、そんなの当たり前ですよ!! どっかにサンドバックあった日にはおそらく蹴ったりしとるだろうな、あの男は。

それでもいまの吉田のパンチキックじゃぁ、ドン・フライみたいな男とやらすのはいかんですよ。まだ二回目だぜぇ!? いくら吉田が指名したといえども、俺が吉田の参謀なら、吉田を殴ってでも止めますよ!! そりゃアンタ、吉田はマット界の宝ですからね！ もう2、3回ジャケットマッチをやって、もうちょっと自信がついたところでパンチキックの試合をやらせないかんですよ。まぁ、いざとなったら吉田には柔道殺法があるから、おそろく勝つだろうが、吉田はかなりダメージを被るだろうな。パンチやキックをやらせるのは早いというとんですよ！

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

吉田は簡単にテイクダウンとれます!!

吉田は打撃の面が不安視されていますけど、まず大丈夫です。フライのパンチは破壊力はあるんですが、シウバと違ってあんまり計算されていない打ち方をするんですよ。

吉田は何発かパンチはもらうかもしれないですが、フライが打撃でくるのはわかっていますし、致命的なダメージを受ける前にとにかく突っ込んで捕まえますね。吉田はもうそれくらいできると思うんですよ。

組んでからはすぐ倒せます。フライは道着を着ない、レスリングが強いといっても、吉田の柔道は周りが考えてる以上に強いんです。一度寝かせたら、早い時間で腕十字、もしくは裸締めで一本勝ちするでしょう。

もし、この予想に反しても、短い時間で試合が終わるのに変わりはないです。ドン・フライは気性が激しく一気呵成に攻める選手ですから、吉田もそれに合わせてハイスピードで勝負に出ないと、勝機が見えないでしょうね。吉田が勝つ可能性はかなり高いと思いますが、気を付けるとするならその部分だと思います。

嘆きの『DEEP』仕掛け人
佐伯繁

この2人が戦うのはどうだろう？

ボクはてっきり、吉田選手とハイアンがやると思っていたんで、それがドン・フライと発表されたんでちょっとビックリですねぇ。

いまの時期、この2人が戦うのはどうだろうって思いましたね。あまりにも意外だったんで、全カードのなかで一番、冷めた目で見ると思いますね。どういう試合になるんですかねぇ？

ウ〜ン、勝敗はですねぇ、やっぱり吉田選手は勢いがあるし、ホイス戦でタダ者ではないことがわかりましたからね。どういう試合になるかは見当もつかないですけど、日本の救世主に期待の意味を込めて、吉田が勝つと予想します。

ところで、どういう試合になるか見当もつかないと言えば、12・8『DEEP』ですよ！ なんといっても、バーリトゥード・タッグマッチが首都初見参ですからね。これはスゴイですよぉ！ あんまり大きい声では言えないですけど、来年にはタッグマッチのトーナメントをやろうと思ってるんですよ。もちろん、ベルトも造りますんで、楽しみにしていてください！

高田馬場のシュート活字王
タダシ☆タナカ

フライを指名した時点で吉田の勝ちです

まず言っておかねばならないのは、ドン・フライは過大評価されていると！ 誤解しないでほしいんですが、わたしはフライの大ファンですよ。

しかし、UFCで勝っていたときと比べたら、悲しいことにベストテンのランク外の人間なんです！

ケンシャム、高山戦はたしかに感動の名勝負でした。でも、世界最高峰レベルの戦いであったかというと、そうじゃないわけですよ。

技術的には吉田が圧倒的に上です。寝技になったらフライはオシマイです。7：3で吉田が勝つでしょうね。

フライが敗北するもう一つの理由を付け加えるなら、彼は高山戦後に引退すると公言してましたよね。オファーの条件が良いためか再び戻ってきましたけど、格闘技者としてのモチベーションは非常に薄いはずなんです。悲しいことにフライは、引退したオジサンなんですよォ！ そのオジサンを指名した吉田には優秀なブレーン付いていますね。この勝負、フライを指名した時点で、吉田の勝ちなんですよオオ！

編集部予想		
山口日昇	-	失踪中
松澤チョロ	シウバ	3R 判定
堀江ガンツ	金原	3R 腕ひしぎ十字固め
ジャン斉藤	金原	1R KO（ハイキック）
ささきぃ	シウバ	3R 判定
スモーノブ	シウバ	3R 判定

打倒シウバに最強最後の刺客！『PRIDE』ミドル級タイトルマッチ

［王者］ヴァンダレイ・シウバ VS 金原 弘光［挑戦者］

活字プロレス第一人者

井上義啓

金原は負けてもいいからバーンッといくべき！

金原は『Dynamte!』と『PRIDE』名古屋のオファーを待っとたらしいな。ということは、スタンバイはできてるということだから、良い試合はできると思うけどな。これだけクソーッて歯ぎしりして電話を待ってたわけですから、ここで萎縮する試合なんかしたら、何のためにいままで電話を待っとんだということですよ！

これは『ファイト』でも書いとんだけど、金原には総合格闘技に日本人選手なしなんてことをね、言わせん内容にしないといけませんよ。こないだの名古屋も酷かったからなぁ、あれは！　ああなるのはわかってたけど、あそこまでなるほどダラしないとは思わなかったな。誰か一人ぐらいはコンヤローッて勝つかと思っとんだけど。もうこうなったら、日本人がここにいるぞって試合を金原には示さないかんですよ！

金原はキックパンチはやりますからね。無責任な言い方になるけど、負けてもいいからバーンッといくべきですよ。

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

寝技に持ち込めば金原選手に勝機が見えます

リングスでの試合を見た限りでは、金原選手は髙阪選手とともに筆頭の実力を持っていた選手です。「コロシアム2000」でマリオ・スペーヒーとやったときも判定で負けましたけど、ポジショニングの技術では負けていなかったですね。シウバに上を取られても、田村選手ほど打撃を喰らわないとは思います。

しかし、その金原選手の寝技を持ってしても、シウバから一本は取れないでしょう。関節技、締めを仕掛けられる前に、シウバは雨あられのようにパンチを打ってきますからね。

金原選手が負けるとすれば、スタンドの打撃です。シウバはパンチとパンチの間を置かないでたたみかけてくるんで、打ち合うとかなり危険です！　その第一次接点を凌いで寝技に持ち込めば金原選手に勝機が見えると思います。

お互い実力者だけに過酷な試合になりますね。試合が長引いて判定になる可能性が高いです。判定になれば王者ということもあって、僅差でシウバが有利です。

嘆きの『DEEP』仕掛け人

佐伯 繁

ポイントは金原さんがどんだけ打撃戦やるか

金原さんは強いのはみんな知ってると思いますけど、ポイントはどんだけ打撃戦やるのかってことですね。どこまでシウバの打撃に金原さんが付き合うかが問題になってきますよ。スタンドでずっとやっていたら、シウバ勝つでしょ。シウバのラッシュは危険ですからねぇ。打撃はガンガンって打ち合わないでたまに合わせる程度にしといて、どっかでタイミング合わせてテイクダウンとって、上からいろいろ展開してけば判定勝ちはできると思いますよ。

金原さんはシウバとやりたかったんだと思うし、頑張ってもらいたいですよ。金原さんとボクは地元が名古屋で一緒なんで、やっぱり金原さんを応援しちゃいますよねぇ（笑）。

いやあ、今回の『PRIDE』のカードはホント、最高ですね！　そして、今回の『DEEP』も最高のカードが出揃いましたよぉ！

12月8日はディファ有明！　12月8日はディファ有明でお願いいたします。石川vs滑川はスゴイ試合になりますよォ！

髙田馬場のシュート活字王

タダシ☆タナカ

金ちゃん、世界最強になるときがきましたよ

個人的には金ちゃんファンですから勝ってほしいですねぇ。北米の変なガチ馬鹿連中は「カネハラはベルトに挑戦する資格がない」とバカなこと言ってますけど、金ちゃんがどれだけスゴイことやってきたか知ってるんですかと！　Uインター、キングダム、リングスで、とんでもない強豪と戦ってるわけですよ。ボクのジャッジでは、金ちゃんはダン・ヘンダーソンに勝ってるんです！　しかも一日2試合で、あのジェレミー・ホーンを倒した直後にですよ！　言うならば、金ちゃんは運が悪いというかタイミングが合わなかっただけでね、桜庭はたまたまタイミングが良かったわけですよ。

そして今回の絶好の機会、シウバに絶対勝ってくださいよと！　本当は、シウバみたいな不要打撃系の選手は勝ち続けるのは難しいんです。ラッキーパンチと言う言葉があるようにね、運が左右する世界ですからね。そろそろ連勝中のシウバも危ないと思いますね。金ちゃん、あなたが世界最強になるときがきましたよ！

髙田の引退に華を添えるUインター無限大決戦!!

初冬のドームにサクラ咲く!
サク、メインは頼んだゾーッ!

IQゾンビレスラー 桜庭和志 vs ジル・アーセン バンナの刺客

編集部予想

山口日昇	-	たぶんサク勝利を予想
松澤チョロ	桜庭	2R アキレス腱固め
堀江ガンツ	桜庭	1R ギロチンチョーク
ジャン斉藤	桜庭	1R ヒールホールド
ささきぃ	桜庭	1R 木魚
スモーノブ	桜庭	1R アキレス腱固め

髙田の引退に華を添えるべく、右目眼窩底骨折の負傷を押しての出場となる桜庭和志の相手は、ジェロム・レ・バンナからの刺客ジル・アーセンとなった。アーセンは、バンナのスパーリングパートナーでありながら、柔術の技術をバンナに伝授するだけあって、寝て良し立って良しのファイターと予測できる。カード発表当初は桜庭の希望もあり第1試合を予定していたが、髙田の強い意向でメインに昇格。引退する髙田からすれば次世代の選手がメインを張るべきであり、共に『PRIDE』を支え続けた桜庭が締めるに相応しいと思う一心からであろう。東京ドームという大会場のメインで、髙田vs田村の緊張感溢れる試合後、未知なるファイターを相手に、桜庭はどんなファイトで髙田の思いに応えるのだろうか!?

編集部予想

佐伯 繁	ケビン	1R KO
松澤チョロ	山 喧	2R ヒザ十字
堀江ガンツ	ケビン	1R グラウンドパンチ
ジャン斉藤	山 喧	1R TKO
ささきぃ	ケビン	3R 判定
スモーノブ	-	『W-1』ランデルマンの負傷で中止

嵐を呼ぶ男が帰ってきた!! 今年の2月にリングスで行われた須藤元気戦以来、マット界から姿を消していた山本喧一が、まさかの『PRIDE』登場! 関係者の証言によれば、山喧は海外にて格闘技修行を積んでいたという。髙田の引退試合に駆けつけるべくの緊急参戦なのだ。山喧とは因縁浅からぬ田村サイドは山喧の出場に関し、主催者であるドリームステージに対して不信感を顕わにし、一時は不出場を検討する騒ぎになった。思いもよらぬ参戦が、忌まわしき火種を撒き散らしたことになったのだ。観る側にとってもさらなる緊張感を増すという、ある意味、歓迎すべき登場である。相手はジャングル番長ことケビン・ランデルマン。カタイ、ゴツイ相手にどうする山喧!?

嵐を呼ぶマッチメイク!!
あの山喧が帰ってきた!

蘇る金狼 山本喧一 vs ケビン・ランデルマン ジャングル番長

ドーム激震!! 世界格闘技大戦勃発!!

編集部予想		
堀辺師範	ノゲイラ	1R 一本勝ち
松澤チョロ	ノゲイラ	2R 腕十字
堀江ガンツ	ノゲイラ	2R 腕ひしぎ十字固め
ジャン斉藤	シュルト	1R KO(ヒザ蹴り)
さささぃ	ノゲイラ	2R 三角絞め
スモーノブ	ノゲイラ	2R チョーク

ボブ・サップに引き続き、またもや人間離れをした怪物を迎え撃つことになったノゲイラ。この“世界最強の男”は今年になってから、エンセン井上、菊田早苗、ボブ・サップと、一癖も二癖あるファイターと戦い、いずれも観客をヒートさせるファイトを披露。今回も内容にハズレはなさそうである。勝敗も大方の予想ではノゲイラが断然有利。しかし、大道塾空手王者の経歴を誇り、グローブ戦経験わずか2試合でK-1WORLD GPの切符を手にしたシュルトの打撃も侮れない。2階の高さから繰り出されるパンチと、間合いを封じる前蹴りは脅威なのだ。サップ戦を控えるシュルトは、連勝に向けて意気込みは十分のはずである。

いつ何時誰とでも戦う!! ノゲイラまたもや巨人退治!!

『PRIDE』ヘビー級チャンピオン
アントニオ・ホドリコ・ノゲイラ vs セーム・シュルト
人間摩天楼

『PRIDE』ヘビー級王座挑戦者決定戦

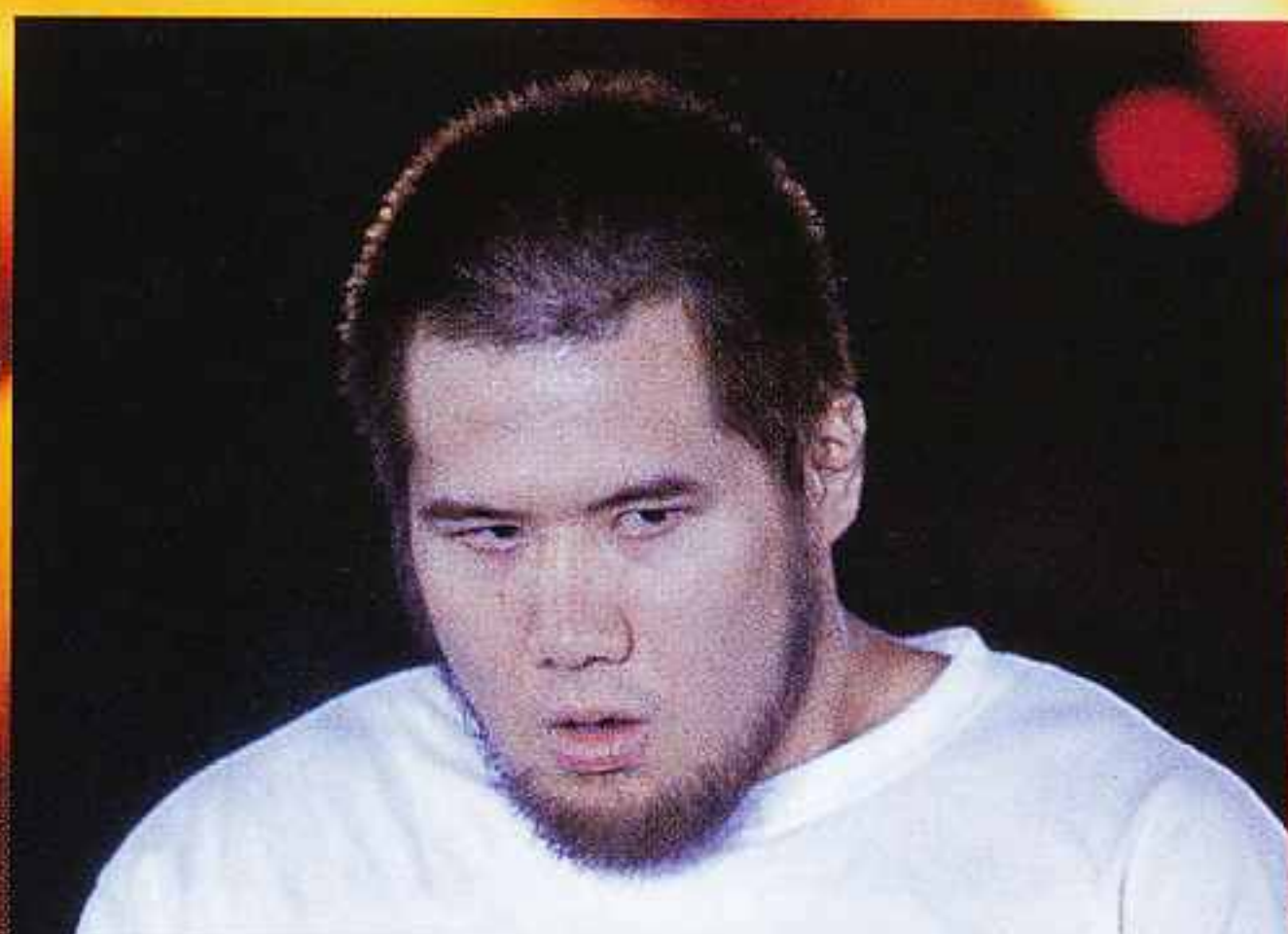
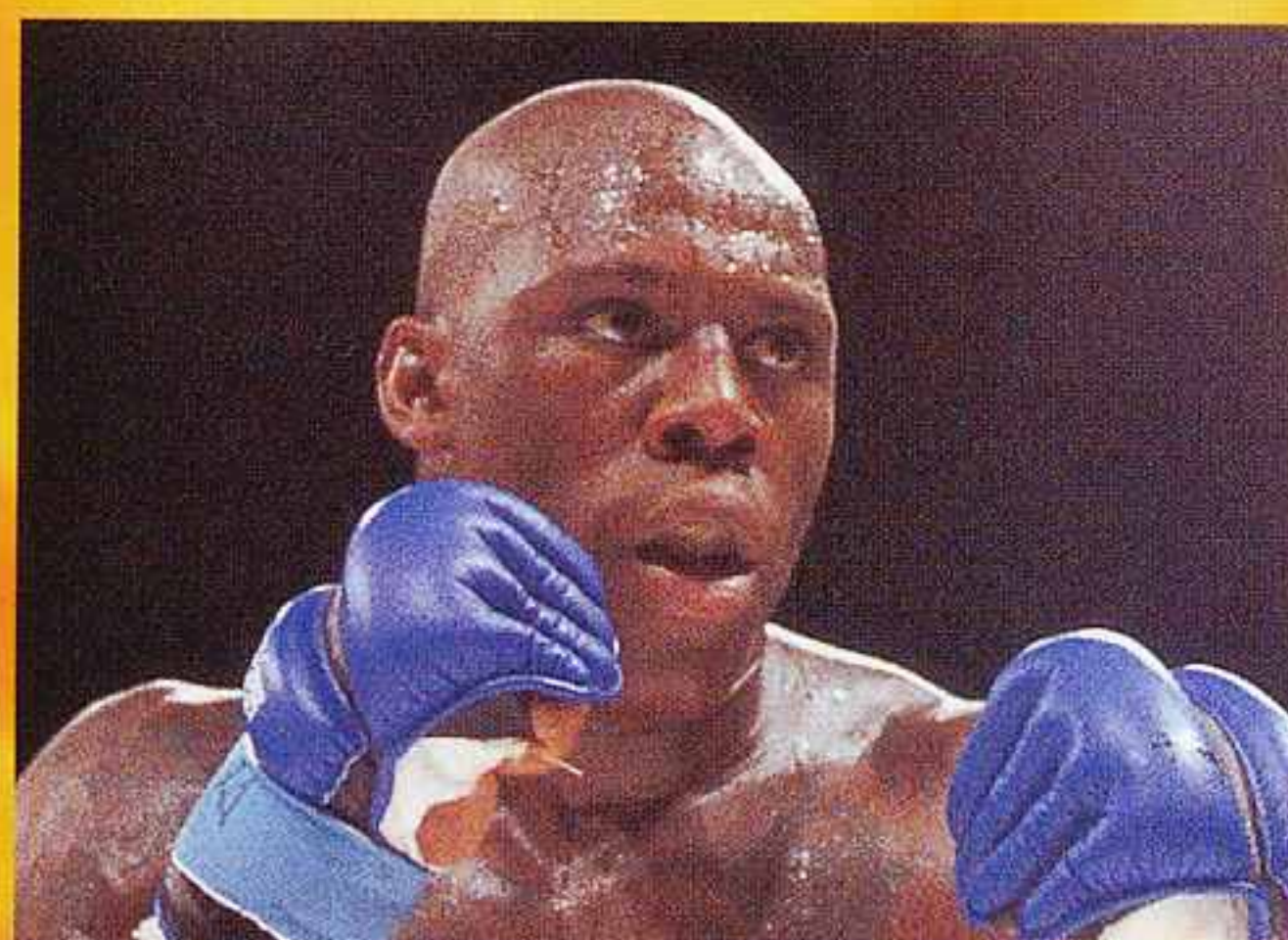
最後のリングス王者
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ヒース・ヒーリング
テキサスの暴れ馬

編集部予想		
コピィロフ	ヒョードル	?
松澤チョロ	ヒョードル	3R 判定
堀江ガンツ	ヒョードル	1R KO
ジャン斉藤	ヒョードル	3R 判定
さささぃ	ヒョードル	2R TKO
スモーノブ	ヒョードル	3R 判定

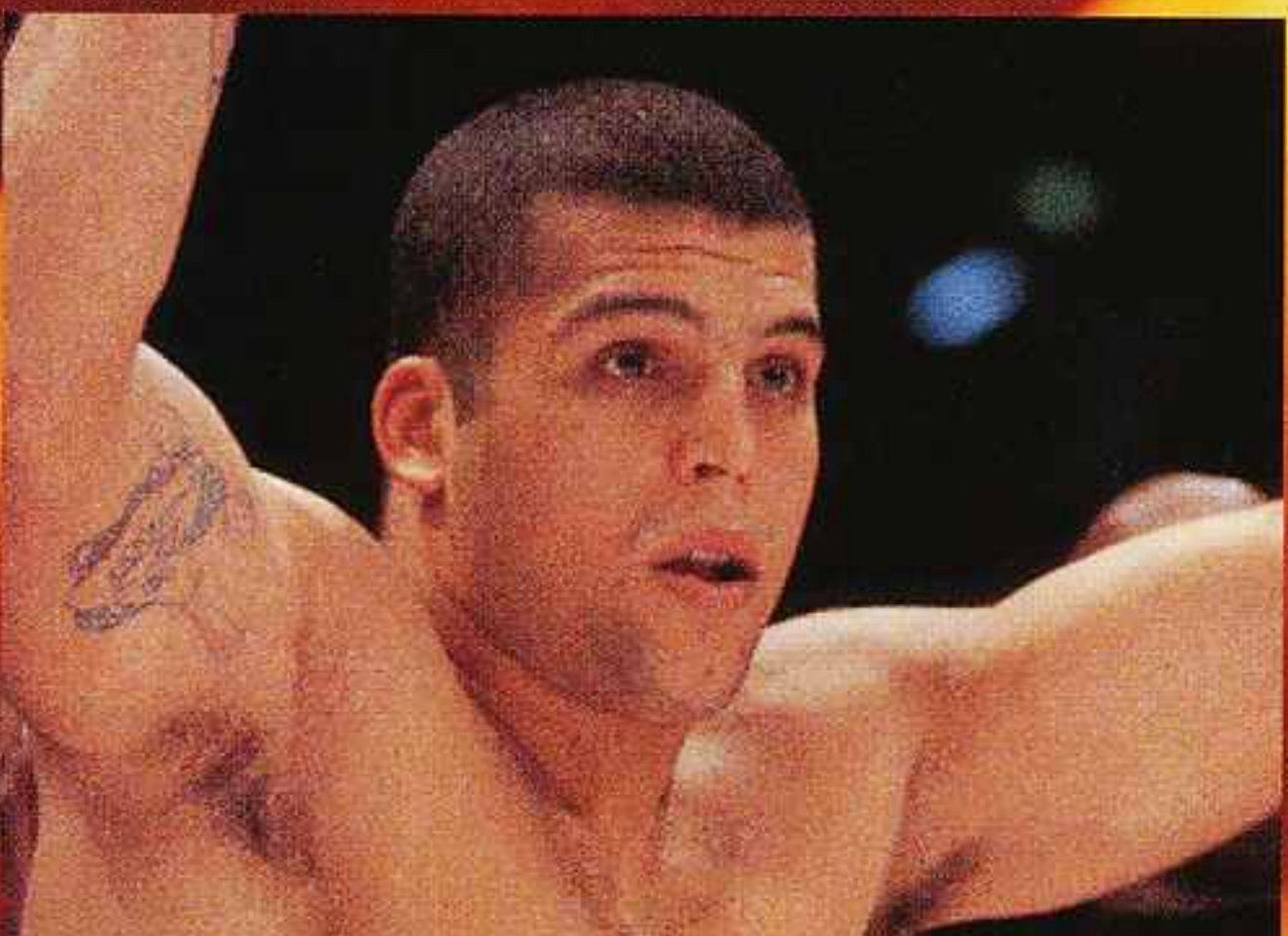
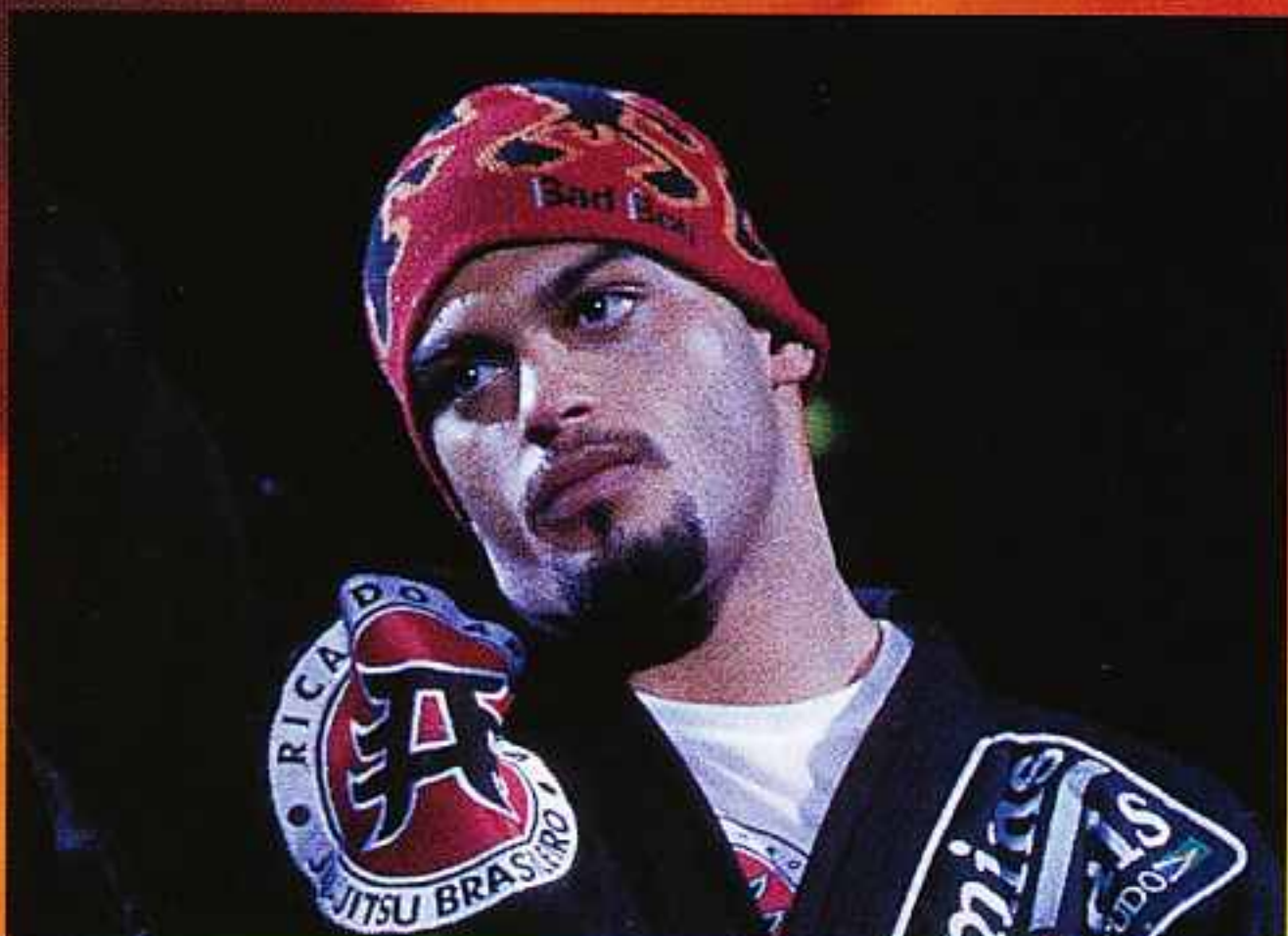
このド級のぶつかり合いが、サラリと第4試合の位置におかれているのが『PRIDE.23』のすごさである。前半戦のメインイベントとでも言うべきこの試合には、来月福岡で行われる『PRIDE.24』にて、ノゲイラが持つ『PRIDE』ヘビー級王座への挑戦権が懸けられている。昨年、同王座決定戦でノゲイラに敗れたヒーリングにとっては格好のリベンジチャンス。ヒョードルは、かつてノゲイラに惜敗したヴァルク・ハンが「私の魂を受け継いだ弟子たちが近い将来、君を困らせるだろう」と、ノゲイラに残した“狼の伝言”を現実化するための最終ステップとなる。盤石の王者の前に立ちはだかるのは、どちらの猛者だ!?

編集部予想		
佐伯 繁	横井	1R 腕十字固め
松澤チョロ	横井	2R チョーク
堀江ガンツ	横井	3R 腕ひしぎ十字固め
ジャン斉藤	横井	1R マウントパンチ
ささきぃ	横井	3R 判定
スモーノブ	横井	3R 判定

怪物君がやってきた!! 横井が『PRIDE』緊急参戦!

怪物君 横井宏孝 vs ジェレル・ベネチアン 松井を倒した男

近未来マット界のエース候補筆頭が、遂に『PRIDE』にやってきた！ ZERO-ONEでも絶賛活躍中の横井宏孝が、"怪物君"と言われるその所以を『PRIDE』のリングでさらすのである。リングスでのデビューから、いまだ総合では無敗の横井。相手のK-1戦士ジェレル・ベネチアンは、キックやK-1では優秀な戦績を収めており、総合への対応能力も『Dynamite!』で松井を下したことで証明されている。急遽決定したこのカードは、オープニングマッチということもあり、大会を盛り上がる掴みとして非常に重要。どちらが勝つにせよ、スカッとした勝利を飾ることで、大会成功の導火線に火を付けてほしいものだ。

血を血で洗う惨劇必至! ブラジル仁義なき戦い!!

殺戮忍者 ムリーロ・ニンジャ vs ヒカルド・アローナ 柔術王子

編集部予想		
タダシ☆タナカ	アローナ	とにかく勝つと!
松澤チョロ	アローナ	3R 判定
堀江ガンツ	アローナ	3R 判定
ジャン斉藤	ニンジャ	3R 判定
ささきぃ	ニンジャ	3R 判定
スモーノブ	ニンジャ	1R KO（ハイキック）

ブラジル仁義なき戦い、再び!! 母国が同じブラジルながら、犬猿の仲であるシュート・ボクセとブラジリアン・トップチーム。もともと争いが絶えない両チームであったが、トップチームの重鎮マリオ・スペーヒーがニンジャに敗れた一戦において、「オマエのかあちゃん、売春婦！」「オカマ野郎！」などど悪質（というか、子供）な野次を飛ばすシュートボクセ陣営（というか、ペレ）に怒り心頭だったアローナ。両者共にポジションをキープして殴るというスタイルであり、憎しみを糧にジワジワと痛めつける惨劇の気配十分である。その図式を抜きにしても、『PRIDE』ミドル級戦線のレベルの高さを堪能できる好カードでもある。

ドキドキワクワクの夢決戦!! ～髙田延彦引退試合～

『PRIDE.23』

【日時】11月24日 17:00～ 【会場】東京ドーム
【チケット】VIP席￥100,000／RRS席￥25,000／スタンドS席￥15,000
スタンドA席￥7,000／髙田延彦応援シート￥15,000
【お問い合わせ】DSE TEL.03-5775-5700

◆全対戦カード◆

第9試合……桜庭和志vsジル・アーセン
第8試合……髙田延彦vs田村潔司
第7試合……吉田秀彦vsドン・フライ
第6試合……ヴァンダレイ・シウバvs金原 弘光
第5試合……アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsセーム・シュルト
第4試合……ヒース・ヒーリングvsエメリヤーエンコ・ヒョードル
第3試合……ムリーロ・ニンジャvsヒカルド・アローナ
第2試合……山本喧一vsケビン・ランデルマン
第1試合……横井宏孝vsジェレル・ベネチアン

12・23『PRIDE.24』福岡

ノゲイラに挑むのは、ヒョードルか!? ヒーリングか!? 『PRIDE』ヘビー級防衛戦開催決定!

【日時】12月23日 16:30～
【会場】マリンメッセ福岡
【チケット】VIP席￥100,000／RRS席￥25,000
スタンドS席￥15,000／スタンドA席￥7,000
11月24日より一斉発売（10:00～）
【お問い合わせ】DSE TEL.03-5775-5700

056
CONTENTS

Cover Model : U.W.F.International

11・24運命の一戦直前
どうしても見たいけど
見たくない！
……でも見たい！

浅草キッド
大いに悩む！

いよいよ間近に迫ってきた"運命の一戦"髙田延彦vs田村潔司。同じ時代を過ごしたUインターから知るファンは、覚悟と決意をもってリングに上がる髙田、田村と同様に、さまざまな思いを抱いてドームへ向かうことだろう。あまりにも見どころが多すぎて、語っても語り尽くせないこの一戦を、ファン代表として浅草キッドが語りまくります！

司会／山口日昇　構成／堀江ガンツ　撮影／森鷹博
designed by hisa（Two Three）

〝蒼さ〟を取り戻せ!! プロレスファンよ、髙田vs田村戦を見たらみんなで死のう!

髙田vs田村戦は〝迫真〟の闘いだ!!

——いよいよ11・24髙田延彦引退試合。しかも相手が田村潔司という一戦が目の前に迫ってきました。さぁ、ドキドキしてますか？（笑）。

玉袋筋太郎（以下・玉袋） もう、発表されたときから胸の辺りがチクチクしてるよぉ、チクチクチクチク、チクチクチクチク。いまからどう見届けようかってさぁ。

——ボクも試合の1ヶ月前から胃が痛くなってますね、なぜか（笑）。

水道橋博士（以下・博士） この試合のことを考えるとメシも喉を通らないぐらいのものは確実にありますよね。そう言いながらも、いま凄い腹減ってるんですけど（笑）。

——ガハハハ！　まず食いましょう（笑）。

玉袋　食おう、食おう！　こんな目の前に立派な水炊きが用意されてるんだから、食わなきゃ始まんねぇやあ。

——というわけで、食べながらまずは玉ちゃんに聞いてみたいんだけど、ズバリ言って、髙田延彦が嫌いな時期ってありました？（笑）。

玉袋　ゲゲッ!?　嫌いなとき？　う〜ん、（絞り出すように）……ありましたねぇ。

——まぁ、ぶっちゃけた話、コアなファンなら、誰しも1回はありますよね（笑）。ちなみにいつ頃ですか？

玉袋　これは俺も蒼かったってとこもあるんだけど、やっぱり新日本との対抗戦のときとか、ダメだったなぁ。あのときはちょっと嫌いだったなぁ。

——世間一般でいうと、理念を曲げたように見えた時期。

玉袋　そうそう、あれはちょっとダメだったなぁ。

博士　（いてもたってもいられず）理念を曲げたっていうより、あの（95年10月の）髙田vs武藤というのは「（新日本で）やる」と決まった時点で、ああいう結果になるというのは順当だったかもしれないけど、北尾戦がああなったように、髙田なら「成立させなくすることだってあるんだ」っていうことを信じてたから。そこを期待していただけにガッカリさせられたっていうのはありますよね。

——あぁ、なるほど。

博士　だから髙田延彦が嫌いになった時期っていうのは、猪木さんを何度も嫌いになったことがあるのと同様、何回もありますよ。1回見放し、また好きになり、見放し、好きになりっていう紆余曲折があるからこそ、髙田延彦は……いま日本中のプロレスファンは内館牧子状態ですよ。

——は？

博士・玉袋　（声を揃えて）「髙田延彦は美しい！」。

——ダハハハハ！　でも一時期、美しくなかった時期もあったということでしょ。一時期とはいえ、そこで何でボクらはそのときに髙田延彦が美しく見えなかったのかっていうのを探らないと、髙田延彦の魅力が見えてこないような気がするんですよ。

博士　やっぱり、爽やかすぎたのかなぁ？

玉袋　そうかもしんねぇなぁ。そもそも考えてみりゃ、デビュー当時もどうだったのかなっていう。あの爽やかさが、もしかしたら俺たちにはダメだったのかもしれないなって。

博士　路線としてはね、「さわやか新党」のまま突っ走る可能性はあったしさ。

——デビューからずっと（笑）。

玉袋　うん、だから（政界に）出馬したとき辺りで、「ああ、"さわやか新党"がゴールか？」っていうのが見えちゃったから嫌いになっちゃったのかと思うね。

猪木・髙田は好きになったり嫌いになったりの振り幅が大きいところが凄い！（博士）

博士　でも、ちゃんと落ちるんだよね。そこが運の強さですよね。

玉袋　うんうん、そこで落ちるのが運の強さだよなぁ。

博士　落ちたからこそヒクソン戦というものもあったわけだし。

玉袋　そうだよなぁ。俺なんかも、その爽やかなところに、ヒクソン戦の負けっていう泥がベタッとくっついたときに、急にまた乗っかったからね。

——あのヒクソン戦が今日のマット界を作り上げたのは、紛れもない事実ですからね。骨法の堀辺先生なんかは「髙田は前田を超えたね。それぐらいの存在だ」って言ってましたね。

玉袋　その話は前田信者の俺らとしてはちょっとヤバい！　ヤッバいぞぉ。でも、そうかもしれねぇな。

博士　まぁ、前田さんとの比較をするかどうかは置いといて（笑）。髙田延彦の神輿への座りっぷりは猪木さん以来ですよね。デビューのときからスターの輝きを持ちつつ、最後の花道までスーパースターで居続けられたという意味で、そのスターとしての御輿の座り方が前田日明より断然うまかったね。

玉袋　うんうん、髙田さんは神輿の上でちゃんとジタバタせずにデ〜ンと座ってるよね。でも、前田さんは神輿の上で立ち上がっちゃってるんだよね。

——ガハハハ！　それじゃ落ちるって（笑）。

玉袋　ある意味、だんじり的なものがあるんだよな。ダーッと御輿のまんま商店街入ってっちゃって、店とかブッ壊しちゃうんだよ。

——ガハハハ！　わかりやすい！（笑）。

博士　あと、髙田延彦に関しては、担ぎ手も本気で担いでるじゃないですか。

——そうそう、鈴木健にしても、宮戸優光、安生洋二にしても、本気で担いでたもんね。ただ、ボクらが「うん？」って思ってた頃の

95年10月9日東京ドーム■経営難から踏み込んだ新日本との全面対抗戦で、高田は武藤の足4の字固めでギブアップ。"最強"を標榜したUのトップが古典的なプロレス技で敗れた衝撃はあまりに大きかった。

高田延彦のイメージは、神輿に担がれてるけど、本人がやりたいことが見えづらい時期だったと思うんですよ。

玉袋　あぁ～、そうかもしれねぇな。

――でも、その後の道程を見てみると、やっぱり高田こそが一番Uインター的。ホント、チャレンジャーというか冒険家ですよね。

玉袋　こりゃあ参ったよ！

博士　だって、引退試合のカードとして絶対無難なのは吉田秀彦戦じゃないですか。それにも関わらず、あえて田村戦というカードを引くことで自分の轍を振り返る。"プロレスラー"はそれをやるじゃないですか。自分の人生を背負って闘うということの見せ方を心得てますよね。

――しかも、高田vs田村戦をプランニングしたとしても、関係者の誰しもが、口説くのが大変なのは高田のほうだろうって思ったはずだろうにね。

玉袋　そうそう！

博士　過去を遡るとか、ケジメをつけるって、括り方としてはいまの流れと逆行してる。でも、ヒクソン戦で新しい扉を開いて、『PRIDE』がどんどん新しい世界を生み出していく中で、『PRIDE・22』が内容的に行き詰まった。その行き詰まりの中で敢えて自分で始めた過去へ、もう1回向かって行くっていうのは、ちょっとこのセンスは凄いと思いますね。

玉袋　いいネタ振りだよな。落語の中の返しがある、みたいな。前に十分振ってあるから最後の落ちが活きる、みたいな。活きてるなぁ、今回のは！

――凄い活き方ですよ。むしろ田村潔司の方が全然戸惑ってたもんね(笑)。

玉袋　うん、戸惑うでしょ。「いいんですか？」って感じでしょ。

――ましてや、あの「真剣勝負してください」発言が、いまこの時期に活きてくるとは思わなかったですよね、誰もが(笑)。

玉袋　そうだよ！　だから下手すりゃ北尾の「八百長野郎」発言もどっかで活きるかもしんねぇぞぉぉぉ(笑)。

博士　でも、ホント、そういう意味でのその長い振りが効いてるよね。

玉袋　効いてる、効いてる。これはやっぱ「プロレス」だよね。●

――ところで、お二人はUインターという団体自体についてはどういうイメージを持ってたんですか？

博士　例えば悪いけど、Uインターってオウム的なところがありますよね。

――オ、オウム？

博士　Uインターって、自分たちの手で教祖様を絶対最強のものにするってホント信じこんでる人たちでしょ？　一種、狂信的なカルト集団ですよね。その人たちが教祖様の最強を証明するために、『格闘技世界一決定戦』を開催し、『1億円トーナメント』を企画し、それを本気でやろうとしたっていう桁外れの面白さって凄くありますよ。

玉袋　あった、あった！

博士　だから『宇宙戦艦ヤマト』なんかを見ながら、現実世界で転覆を図ろうとか考えてたあの人たちと真剣度っていう意味ではカブりますよね。やったことの良し悪しは別として。だからそのへんの面白さっていうのは、他の団体にないですよ。

玉袋　ねぇな。あるわけねぇよ！

――一時期、メチャメチャ刺激があって面白かったからね、Uインターは。

玉袋　最高だった！

博士　だって、『1億円トーナメント』のやり方といい、長州力の「クソぶっかけてやる」発言といい、あの頃の流れを伝える『週プロ』とか一番面白いよね。

玉袋　おんもしろかったなぁ。ターザンもそこらへんが面白かったんだろうなぁ。実際、俺たちズッと実券買って行ってたからなぁ。毎回「招待券ありますよ」って言われても「いらない！　2万円払うことに意義があるんだから」って頑なになってたんだから。そしたら俺たちの前に電撃ネットワークの南部さんがいてさ、「南部さんも買ったんですか？」「いや、招待券」とか言われて。「俺の方が絶対Uインターを愛してる！」って気持ちあったもんなぁ。

――ガハハハ！　いいなぁ、「俺の方が愛してる」(笑)。

博士　俺、唯一ファンクラブに入ってたんですよ。

――え!?　Uインターの？

博士　入ってましたよ。ちゃんと応援したいっていうことで。

――それは凄い！(笑)。

博士　Uインターファンクラブに入ると、カードに自分の好きな選手の写真を載っけなきゃなんないの。で、俺は田村だったんですよ。俺、旗揚げ戦も行ってるんだけど、垣原vs田村の第1試合っていうのが俺の観戦歴の中でも"ベスト30分フルタイムの試合"。だから田村に対しての思い入れもUインター時代から凄いわけ。

玉袋　だから、ターザンの言った、今回が「青春の終着駅」っていうのは確かにそうなんだよ。Uインターってやっぱり、そういう蒼い部分が凄いあるんだよね。プロレスを見てきてて最後まで熱くなってた部分。だから高田vs武藤戦のときなんてさ、俺1人でバーッてビール地面に叩きつけてさ、泣きながら帰ったんだから。「俺もあのとき蒼かったなぁ」って思うわけよ。だからね、何かそこらへんがそそられるんだよな。

――いや、Uインターを見てた我々は実に蒼かったんですよ！

玉袋　蒼かった！　メチャクチャ蒼いよ！

――異常に蒼かった！(笑)。

玉袋　散々、いい頃の新日本を見てるわけだから、もう時期的には熟して紅葉になってもよかったんだよね。だけどUインターにはもう1回蒼くさせられたよね。

――リングスの熟成された魅力とは違う魅力があったよね。

玉袋　うん、違う違う。

博士　あれはちょっと大人びてるからね。酸いも甘いもわかってから見たよね。

玉袋　そう！　青い梅を齧ってたもん。「まだ漬かってないよ」って言われてんのにさ、青いまま食ってお腹壊すぐらい、あの頃のUインターは凄い！

――わざわざ下痢しに行ってたようなところあるもんなぁ（笑）。

博士　でも、あの頃の選手たちっていうか、フロントを含めてやっぱり蒼いんでしょうね。蒼い客が多いっていうより、団体そのものが蒼いんですよね。

玉袋　その蒼い中に赤いパンツがいたっていうのがまたいいんだよ。

――ガハハ！　赤だけ弾かれちゃって。

玉袋　それなんだよな、今回。

――むしろ田村の赤は、青すぎたが故の赤かもしれないですね。実は一番青かったのかもしれない、他のUインター勢よりも。

玉袋　自分の青さに気づいちゃって赤面した赤なのかもなぁ（笑）。

――だって「僕と真剣勝負してください」なんて、青くなきゃ言えないもん。

玉袋　そりゃ青すぎるよ！

――燃え上がりすぎちゃって青が赤に変色しちゃったみたいな話だもんね、あれは。

博士　あの辺の心理的な裏側の部分とか、もっと聞きたいですよね。聞きたいし、検証したい。

――でも、本人はまだ言葉にできないでしょうね、あの頃の心境っていうのは。

玉袋　蒼さゆえの霧の中っていう部分もあるしさ、そこらへんが難しいんだよな。

――だから、Uインターって恐らく、「世の中にままならないものはない」と思ってたところが面白かったんでしょ。

玉袋　そうだよなぁ。

――あの頃のUインター勢は、フロントも含めて、プロレス界の常識だなんだっていうことなんて、全部引っくり返していった世界でしょ。

玉袋　そうそう！　それがまた異常にプロレス的なんだよなぁ。

博士　「プロレスそのもの」って、そこですからね。体制の中にいるっていうのは嫌だし、秩序の中にいるのは嫌だし、世間の中にいるのは嫌だっていうのがプロレスそのものじゃないですか。新日本っていっても、ずっと猪木社会の中で世間になっていくわけだから、そこを取り出して自分たちが「ままなる世の中」を作ろうとした運動そのものが魅力あるに決まってるんですよね。

玉袋　でも、あの自信というのはどっから来るんだろう？

――やっぱりド素人だったからかなぁ？　でも髙田延彦なんかプロ中のプロだしなぁ。とにかく尋常じゃないですよね、あの頃のエネルギーは。

博士　ただ、ひとつ面白いのは、前田を外してそれができるようになったんですよね。

――あ、そうだ！　なるほど！

博士　前田日明は秩序破りに見えるけれど、実は一番秩序を下に求める人だから。

Uインター全盛時代、みごとなまでの御輿の担がれっぷりをみせていた髙田延彦。団体エースとして、これ以上ない実力と輝きと活躍をみせていた。ちなみに比喩でなくこの写真で髙田を担いでいるのは、田村と金原だ。

――あ、そうか。じゃあ前田日明のイラダチは、世の中には「ままならないことがある」っていうのを前提にやってたからかもしれないですね、もしかしたら。

玉袋　前田さんって人は、競技という部分にこだわったり、「ゆくゆくはオリンピック競技に」とかさ、妙に言い出すじゃない。でも、Uインターは言わなかったもんね。“最強”だけだからさ（笑）。

――ガハハ！　実にシンプルですよ（笑）。

玉袋　どっちが胡散臭いかっていったらさ、Uインターの方が胡散臭いんだけどさ。結局、佐山さんとかもそうだけど、「オリンピック」とか、そういうこと言い出す人に限って、いいとこに着地しないよね。

博士　Uインターってまったく逆ですよね。オリンピックでの競技化とかさ、世間に勝つための方法とかさ、そんなものは考えてないんだよね。“最強”っていう言葉のカッコよさとかさ、その実証のためには「ヒクソンっていうのが世界で一番強いって言ってるぞ、行ってこい」って道場破りに行くっていうような、その単純さですよね。

玉袋　オリンピックに道場破りなんかないもんね。「行ってこいよ」「行ってくるよ」っていう単純さが面白かったんだな。

博士　だからこそやっぱりUWFより、俺らはUインターの方が夢中になってたもん。

玉袋　そうだよなぁ。

博士　UWFは内輪だったけど、Uインターは外に討って出てるじゃないですか。いまの新日本の外敵よりも、Uインターの方がよっぽど外敵っていうイメージの取り込み方がうまかったよね。

玉袋　上手だったなぁ。

博士　そこのリアル感だよ。あの敵の作り方が凄かったんだよ。

玉袋　四面楚歌どこじゃないからな。『1億円トーナメント』の招待状を送りつけちゃ

うところとかさ、エゲツなさとかさ。

博士　罵詈雑言の度合いがさ、記者発表のレベルを超えてるじゃない。

玉袋　ありゃあ凄ぇよ。

——破壊王なんかもよく言うんだけど、プロレスというのは、敵を作っていかなくちゃいけないジャンルだ、と。でもそれがいまの純プロレスの庭の中では、やっぱりアングルの中での敵の作り方しかないから、いまひとつ盛り上らない。敵をつくるセンスはバツグンだったね、Uインターは。

玉袋　そうなんだよなぁ。対抗戦なんて言ったって、盛り上るわけねぇよな。三沢vs蝶野じゃねぇんだよ！　俺らが見たいのはさぁ。

博士　Uインターはアングルを作る段階でもう崩れてましたからね（笑）。

——だからホントの意味での戦闘集団ですよね。本気で敵を作って、それを商売に結びつけてたわけだから。面白くないわけがない。

玉袋　うん、面白いよ！

博士　新日本の外敵軍団が面白くないのって、ただのアングルに見えるからですよね。「全然怒ってないじゃん、藤田なんか」って思っちゃいますからね、そこですよね。

——しかも、「ファンはそう見てるよ」っていうのを遮断してますからね。それを団体は見て見ぬフリしてるから（笑）。

玉袋　そりゃダメだ。お話になんねぇや！

●

——ちょっとここで素人みたいな質問したいんですけど、髙田vs田村ってどっちが勝つと思います？　ホントはこれ、2人に一番聞きたいことなんだけど（笑）。

博士　もう、当日の試合に関しては思考停止してますよ！

玉袋　そっから先、ページめくってもズッと白紙なんだよ。いままで全部ストーリーを読んできてさ、「さぁ、どうなんだ？」って自分の中でめくっていっても、白紙の自分がいるな。

博士　「考えるのやめよっか」って思っちゃう。

玉袋　それを当日まで持ってってな、当日行ったら、そこからバーッとページが見えてくるって感じにしたいのはしたいんだよな。だからいま自分をコントロールしてるなぁ。

——2回目の髙田vsヒクソン戦の前に2人に話を聞いたとき、たしかそのときは「プロレスファンよ、祭囃子を鳴らせ‼」と言ってましたよね？

博士　うん、言った言った。

——それが印象に残ってるんだけども、今回はまたヒクソン戦とは祭囃子の趣がまったく違うでしょ？

博士　今回は祭囃子とは違うなぁ。ヒクソン戦みたいに「倒せ！」っていうのじゃないじゃない。だから言葉は不適格だけど、それを仮に〝哀愁〟だとすると、哀愁を表現するために2人は傷つけ合うんだってところのカッコよさっていうか。何でお互いがわかり合うために顔を殴り合わなきゃいけないんだっていうところが、もう他のジャンルにはないですよね。

玉袋　たまんねぇなぁ。

髙田は神輿への座り方が堂々としてる。片や前田は神輿の上に立ち上がっちゃうから！（玉袋）

博士　何でこんな屈折した表現なんだって。映画なら、ちゃんとストーリーを書いて演出してもらえばいいけど、そうじゃないわけでしょ。そこが不思議ですよね。

玉袋　どうなっちゃうんだろうと思うもん。だから想像したくねぇんだよな。親のセックスを見ちゃうような。

一同　ガハハハ！

……………親のセックス（笑）。

玉袋　うん、表現悪いかもしれないけど。

博士　悪すぎるよ（笑）。

玉袋　悪すぎるよね、そりゃ失礼だよ（笑）。

だけど、それぐらいの何か。それは俺の言葉が少ないから、そういう例えしか出てこないんだけど。でも見たくない兄弟ゲンカを見るようなもんだしな。

博士　っていうか、見たいんだか、見たくないんだか、よくわからないんだよね。

玉袋　でも見なきゃいけないんだよな、これ。それを出してくるところが凄ェよ！

博士　それをドームでやるところがジャンルとしての凄さだと思うけどなぁ。

——だから今回の一戦っていうのは、もともとマス向けじゃない。たとえばいま地上波で『PRIDE』中継してるけど、換算すると何百万人が見ている計算になる。そのテレビ的な見地から考えると、髙田vsノゲイラ、髙田vsシウバ、髙田vs吉田の方が断然よかったと思うんですよ。

玉袋　うん、そりゃそうだ。

——で、髙田vs田村戦はドームに来るコアな5万人に対しての落とし前の付け方。その5万人が熱狂するものを何百万人にどう届けるかっていうのも勝負ですよ。だからK−1がハリウッド映画だとしたら、今度の『PRIDE』は日本映画ですよね。

博士　それは届かせるところの心象みたいなところで言うとATG的ですよ。それぐらいマニアック。例えば悪いけど、いわゆる近親相姦モノみたいな、そんな感じじゃないですか。それをエンターテインメントとして、どこまで届かせるかっていう能力がある2人が闘う。しかもそれが〝闘い〟っていう表現の手法で届かせるっていうようなテーマの取り方は凄いですよね。

——ましてや最後の真剣勝負ですからね。

博士　うん、凄いと思う。映画なんか見てるより圧倒的に面白いですよね。

玉袋　その、真剣勝負ってルールなんだけど、そこを邪魔する上下関係とか、人間関係ってところのサジ加減がパンチの力に出るじゃない。憎み切ってるんであれば完全に潰すまで行くけどさ、その中でどれぐらいの力を出すのかってところも、見たいよな。だけど、たとえばそれがさ、3割の力で殴ったって切ないよ。もう10割の力で殴ったたって切ないし。とにかくその力の加減をしてる部分も切ないし、全力でやっても切ないし、全部切ないんだよね、俺……。

博士　このテーマを誰かに届かせろってなったときに、演劇とか映画とかって〝迫真の演技〟が最高のホメ文句じゃない。だけど、これは〝迫真〟そのものなんだよね。そこが凄いよ。

――確かにさっきの前フリから物語から何から、全部〝迫真〟ですからね。

玉袋　うん、そうなんだよ。迫真なんだよ。ドキュメンタリーでもあるしなぁ。

――例えば純プロレス用に脚本を書けって言われても、これは書けない（笑）。

玉袋　書けない！　このザラザラ感とチクチク感は無理だよ。いまとなっては無理だな。

――いま格闘技界の中で、経済的に見てもハリウッド映画のK―1は頭二つくらい抜けてる。そのK―1とリンクした『PRIDE』が、いままたATG的な実験をするっていうところもまた凄いですよね。

玉袋　実験なんだよなぁ。

――そして、そのATG的な手法でやり残したことがあるっていう感じで踏み出した髙田も凄い。「何でいまさらATGなの？　いくらでもハリウッドへの道開けてるじゃねぇか」っていうなかでね（笑）。

博士　ホントそうだよ。もうハリウッド・スターまっしぐらだったのにね。でもそういうところが日本人は好きだよ。

玉袋　日本的だよなぁ。だけど、俺たちもホントはそれを届かせたいんだよね。このオモロさっていうか、この感覚ったらねぇもん！　どうしたらいいんだろうな？

博士　もうさ、「この試合を見たら1週間以内に死ぬ」とかどう？　まさに『リング』っていう（笑）。

――ガハハハ！　『リング』もハリウッド版ができたけどね（笑）。

玉袋　でも、それしかねぇかもね。俺たちだってかなりの脈拍数になるだろ。どうなっちゃうんだろう？

――ああ、もはや会場に行くのさえ息苦しい感じがする（笑）。

玉袋　俺も嫌なんだよなぁ。

博士　もう『紙プロ』読者は何人か死のう！

――「死ねキャンペーン」を張る（笑）。

博士　それぐらいのものだっていうのを訴えなきゃダメだよ。

――誰かホントに死んだら、博士は死神博士ですよ……くだらねぇなぁ、これは（笑）。

試合結果なんて想像するだけで失礼。俺らはただ「見させていただきます」これしかねぇよ！（玉袋）

玉袋　ダッハッハ。でも俺ね、まだ蒼いなぁ、その結果さえも見たくないって言ってるんだから。ホント俺はしょっぱいよ、まだ。

――「俺はしょっぱい」（笑）。まだヒトとして蒼さが残ってるところが発見できちゃったのが、また辛いところでもあり、嬉しいとこでもありますよね。

玉袋　様々なことを経験しながらも、まだその結末を見たくない自分がいるのが偉いな！

――自分で自分を誉めてあげたい（笑）。

玉袋　そうそう。だけど、また戻っちゃうけど、『PRIDE』以後の髙田は、何度も言うけどよくなったよね。よくなったっていうか、惚れちゃったなぁ、俺！

博士　でもそれは猪木も似てるよね、何度も何度も裏切られて。何回も何回もそれにすがってるうちに……。

玉袋　あっちゃ〜。最終的には「猪木が偉い」って話になってくるよ、これ。

――ガハハハ！　でも、髙田にしても、いままで何回『PRIDE』で試合前にこういう高揚した気分になって、試合を見て落ち込んだか（笑）。

博士　毎回毎回、入場でもの凄い燃えて、毎回試合になって下向いて過ごしたなぁ（笑）。

――今回も2人が入場してくるところを想像するだけで、ドキドキしっ放しでしょう。

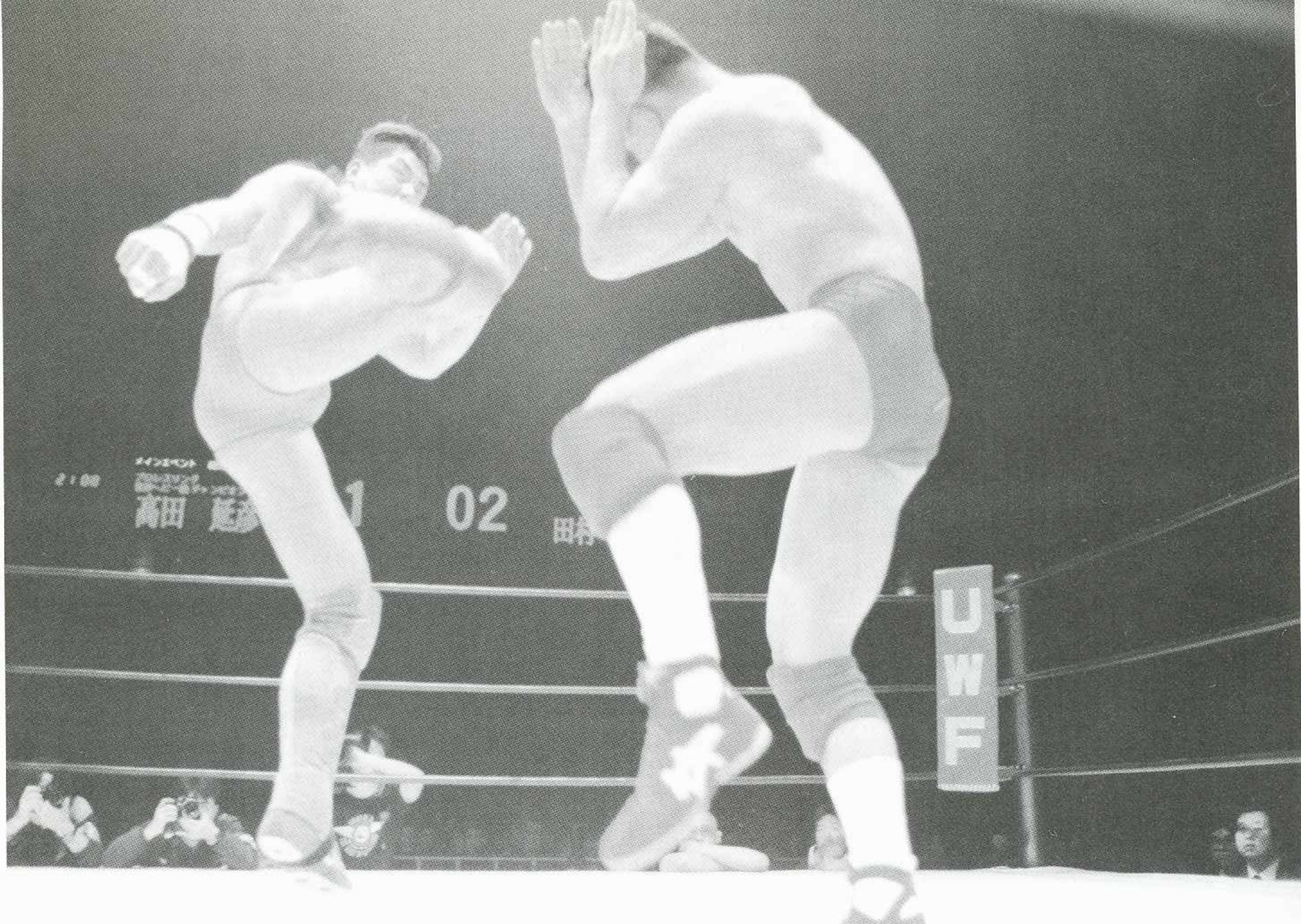
博士　だから想像しないようにしようってことだよ。

玉袋　うん、想像しないことにしようよ！　いや、これは目をつぶってるってわけじゃないんだよ。想像すること自体が最近の髙田に対して失礼だっていうことだな。俺たちは髙田以上のことなんて何もしてないんだから。ただ見てきて騒いできただけなんだからさ。それは最後はさ、ホントに想像もしない、「ただ見せていただきます」と。これしかねぇな、こりゃ‼

――でも、試合自体もホントにどうなるかわかんないですよね。

玉袋　なんか俺、ボケッとしてるとその日のことシミュレーションしてるんだよ、いろいろ。「ヤバいよ、このパターンはダメだ。でもこうなったら凄ぇな」って。でもそれは言わない。一番いい結果は頭の中に置いとく。

博士　なに？　教えてよ、一番いい結果って。

玉袋　一番いい結果はねぇ……それが凄い

プロレス的に見えちゃうから嫌なんだよな。

博士 いいよ、教えてよ。

玉袋 そりゃあ髙田の勝ちでさぁ。

博士 ベストかどうかわかんないけど、髙田の勝ちはベターですよね。

玉袋 あと、田村が涙しながら髙田を殴る姿とかね。それも良すぎてダメだろ？ どっちかなんだよなぁ。

――博士の思い描く一番いい結末は何ですか？

博士 人のを聞いてみたかったんだけど、まぁ、髙田が勝ちっていうのは望みますよね、田村の勝ちよりは。

玉袋 だけど、それは「あり得ねぇ」って言い出すヤツがいるからさ。

博士 山口さんは結果としてはどっちがいいですか？

――……………難しい（笑）。

博士 それも難しいんですよね。じゃあ個人じゃなくて、ごく大衆的に言って、ドームに集まる人が望む一番いい結果は？

――そこも難しいですよね。ドームに集まった5万人は、一般的に見た場合は、髙田が最後にキレイに勝つっていうのを一番望んでること……かな？

博士 でも、そうなった場合、田村の選手生命はどうなるの？

――そこがまた難しいんだよなぁ（笑）。

玉袋 一般的に言っても「やめていく人が勝ってやめるわけ？」ってことになるもんな。

博士 でもどうだろう？ ドン・フライに勝ってやめていった、猪木さんみたいなパターンもあるし（笑）。

玉袋 まぁ、猪木なら許されるからなぁ。

博士 あれも意表を突いたよなぁ。

玉袋 俺なんかやっぱり田村が勝った場合の、Uインターの髙田側のセコンドが、どう田村に噛みつくかっていうところもホント見たいんだよね、俺。そうしないと、ドラマが終わっちゃうのが嫌なんだよな、ホントのことを言うと。

――よし！ じゃあ1人ずつ、何が自分にとっていい結末か潔く明言しましょう！

玉袋 久々だなぁ、こういうのも（笑）。

博士 敢えて言えば……。

――うん、敢えて言えば！

博士 「ない」って多くの人が言う、桜庭vs田村戦を想定したいがために、田村が髙田に勝って、引退する者が負けて、次世代に託すっていう結末を、いろんなパターンの中のデメリットもあるけど、自分はそれを望む！……かも。

――〝かも〟（笑）。

玉袋 全然明言じゃね～よ～（笑）。

博士 で、できないんだよ！

玉袋 できないんだよなぁ。もしかしてね、髙田がこの試合を受けるっていうことは、それを想定して、「後も頼むぞ、お前ら盛り上げろ」ってことも踏まえたマッチメイクかなとか思っちゃうしな。

博士 そう思うとそっちだね。

玉袋 で、ターザンなんかは「桜庭vs田村は絶対なしだ」「絶対やっちゃダメ」って言うけどさ。確かにあの人の予言も妙に当たっちゃうところがあるから、怖いのは怖いんだけど、俺はアリでもいいと思うね。その分、そこに横槍突っ込んでくるヤツがまだいるから、『PRIDE』ってさ。

――オレはね、髙田は『PRIDE』のため、あるいはマット界のためにいままでやってきたところが大きいですよね。ヒクソン戦にしても、ケアー戦にしても、ボブチャンチン戦にしても。『PRIDE』という場を根づかせるために髙田が身を捨てて挑んでいった。で、今回は髙田自身が自らの現役生活22年間を振り返って田村を選んだ。だから髙田最後のワガママって捉えてもいいと思うんですよ。そういう意味も込めると、髙

“蒼さ”を取り戻せ プロレスファン!! 浅草キッド 髙田vs田村戦を大いに語る

田は絶対勝ちに行くと思うんですよね。

玉袋 うん、うん。

——ホントの意味でのバーリ・トゥードをベースにしたプロレスが展開される。だから髙田には勝ってほしい。でも！ そうなったら、オレが望むのは田村の勝ちですね。

博士 髙田が勝ちに行くけど、負ける。

——勝ちに行くけど負ける。そのときの髙田の背中を見たいし、その背中を見て声を枯らしたいね。田村側に立つと「勝っていいのかな?」と思いながらも、精神的にも踏ん張って、最後に勝つ姿を見たい。

玉袋 それいいなぁ。

——……かも（笑）。

玉袋 やっぱ、〝かも〟なんだよなぁ（笑）。言い切れないんだよなぁ。どうしよう、俺？

——さぁ、玉ちゃん！ トリを務めてください！（笑）。

玉袋 ……難しいんだよなぁ………難しいよ、ホント。……ドローっていうのも、俺、許せちゃう……かも。

——ガハハハ！ 許しちゃう〝かも〟（笑）。

玉袋 許しちゃう〝かも〟だよ！ そのときの条件は、お互い顔を腫らしてドロー。お互い青タン作ってるドローがいいな。

——お互いが死力を尽くしたドロー。

玉袋 そう！ 青タンだらけでドローだったら、俺たぶん涙だけじゃなくてウンコまで漏らしちゃうかもしれないよ。「あぁ、よくやった」っていうさ……ああ～、俺ってアマちゃんだよなぁ！ メルヘンだよ、俺なんか。

——蒼いなぁ（笑）。

玉袋 蒼いよなぁ。俺はボコボコでドローで感動しちゃう〝かも〟、で終わりです。

——3人の中で髙田が勝つっていうのがなかったね（笑）。

玉袋 でも、そこにまた一縷の望みがね……だって絶対そうじゃん！ 髙田が勝つって予想しないで勝つからいいんじゃない。ね？ そりゃそうでしょ？

——モハメド・アリの「キンシャサの奇跡」っていうのもありましたからね。

玉袋 そうだよぉぉぉ！

博士 でも、引退していく選手が勝つっていうのに抵抗があるんじゃない？

玉袋 そうかねぇ？

博士 それと田村に対する……田村完敗っていうのはちょっと。

玉袋 それも痛々しいねぇ。

博士 あり得ないっていうか、想像しちゃうのが嫌でしょ？ ささくれ立つよね、予想するだけで。

玉袋 チクチクチクチクするのよ、ホントに。その割には意外とメシが喉を通っちゃったりするんだけどね（笑）。ゲップ！ もう満腹だよォォ！

——たらふく飲んで食って、これだけ語れるっていうのは貴重ですね。これを含んでの「プロレス」ですよ（笑）。

玉袋 そう！ それが大事だ！

——いま、流行語のように「あれもプロレス、これもプロレス」ってなってるけど、これが「プロレス」ですよね。

玉袋 うん、これが「プロレス」だな！

——あとは死ぬ気で当日を待つばかりということで、今日はお開きにしたいと思います。

博士 （ボソッと）……俺、ホントに当日、死のうかなぁ。

一同 ダーッハッハッハ！

【02年11月6日／新宿『水たき 玄海』にて収録】

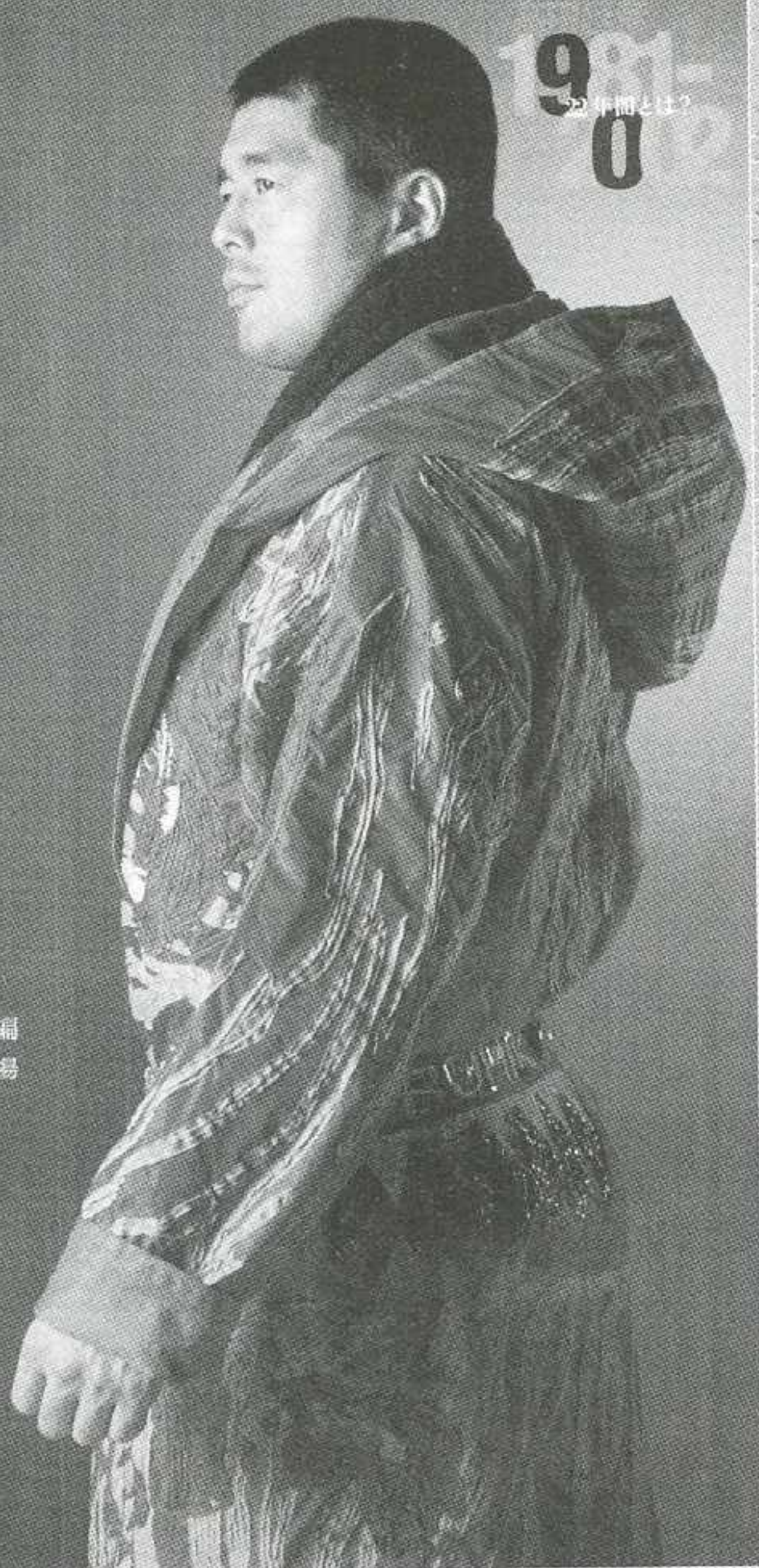
髙田延彦引退記念本、緊急発売!

「髙田延彦」のカタチ

東邦出版 編　協力／髙田道場
定価（本体1,333円＋税）
11月24日発売

髙田延彦 1981-2002 22年間とは？

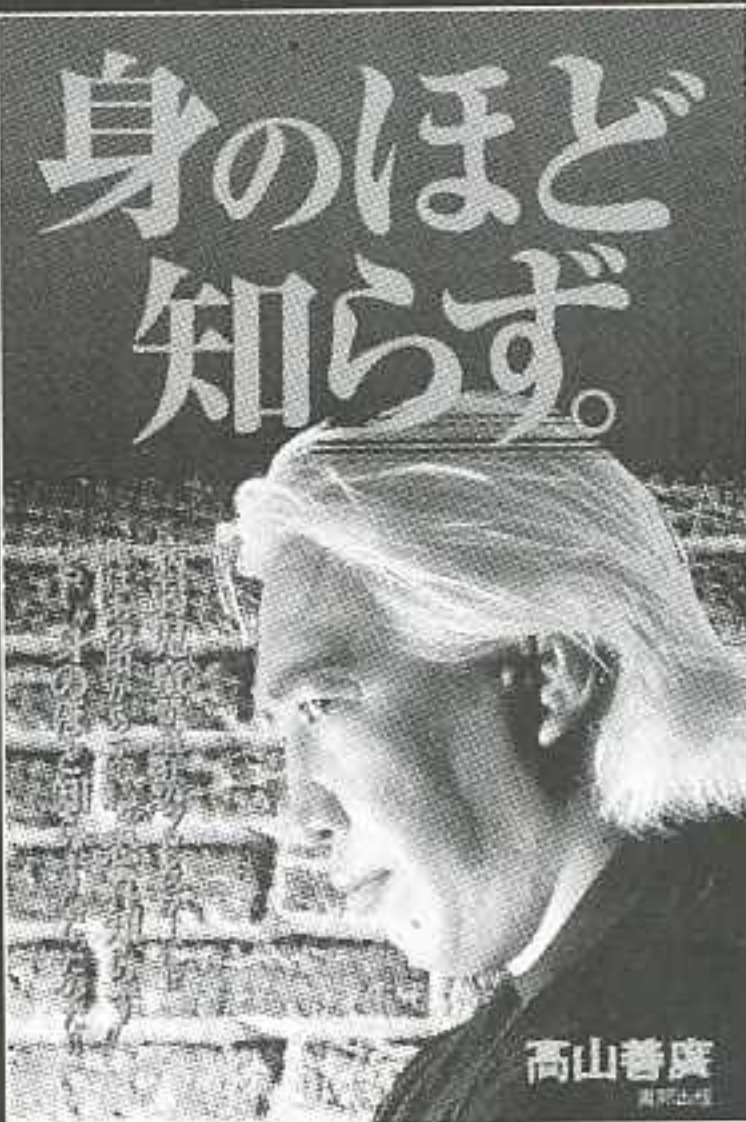
◎かつてのライバル、先輩・後輩、髙田と縁の深い友人・知人、関係者、記者たちが徹底的に髙田を研究し、語り尽くす!

アントニオ猪木
天龍源一郎　山本小鉄　佐山聡
山崎一夫　越中詩郎
武藤敬司　蝶野正洋　橋本真也
吉田秀彦　佐竹正昭
桜庭和志×高山善廣
安生洋二×宮戸優光
百瀬博教　森下直人　鈴木健
田村潔司
ほか総勢45名もの人々が登場!

- ●妻・向井亜紀が綴る「夫」髙田延彦
- ●友人たちから見た「素顔」の髙田延彦
- ●レスラー、格闘家から見た「スター」髙田延彦
- ●髙田自らが後書きを執筆!

ぼくらのサクが帰ってきた!

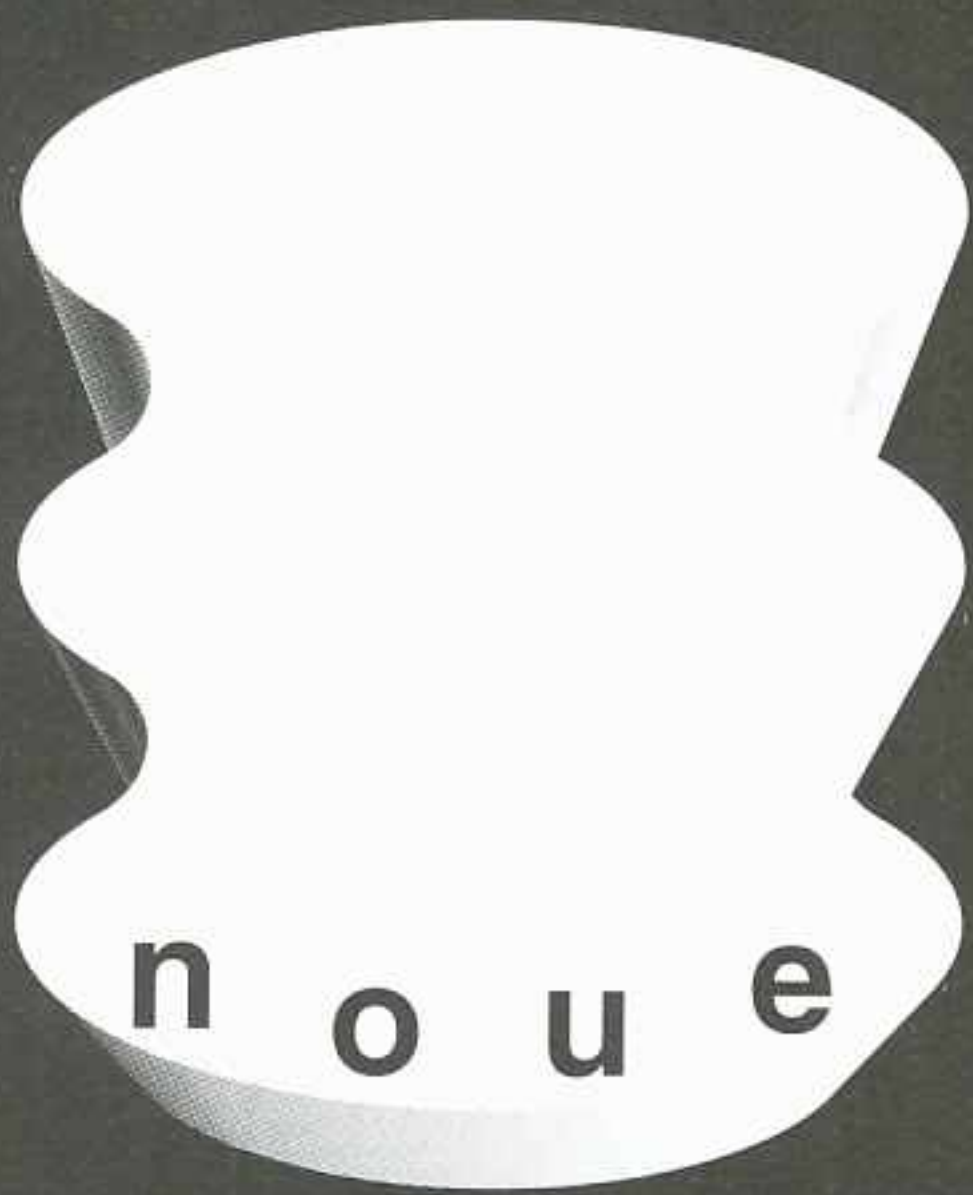
帰ってきたぼく。

桜庭和志著　自伝第2弾
定価（本体1,400円＋税）　絶賛発売中
★オリジナル桜庭ステッカーつき

2002年最も活躍したレスラー

身のほど知らず。

高山善廣著　初の自伝
定価（本体1,400円＋税）　絶賛発売中
★アントニオ猪木との特別対談を収録

東邦出版　〒171-0014 東京都豊島区池袋2-30-13 サブコート
TEL 03-5396-7100　FAX 03-3989-1232
http://www.toho-pub.com

書店にない場合は『ブックサービス』（☎03-3817-0711）へご注文ください。宅配便にて（代金引換で）お届けとなります。送料は全国どこでも（何冊でも）210円です。

――さて、今日は高田延彦引退について大いに語っていただきます！　井上さん的には高田vs田村戦というのは、どう見ますか？

井上　まず、俺の率直な感想を言わせてもらうとだね、なんで田村を持ってきたのかっていうのが疑問なんだよな。

――はぁ、まずカードが疑問ですか。

井上　やっぱり高田の引退試合なんだから、それらしい相手をぶつけないといけませんよ。だから俺だったらね高田vs吉田でメインを組みますよ。なにもこれは「田村がダメだ」と言ってるんじゃないですよ。ただ、大きな大会には華というものが必要だからね。ましてや、高田と吉田というのはもうもう対戦することがないんだから。まぁ、高田だってまだ若いんだから、非公式の野試合だったらあるかもわからんけどね。

――高田vs吉田の野試合ですか！（笑）。

井上　そういったこともありうるからねぇ！　でも、リング上で我々の目にとまる闘いはできないわけなんだから、これはやっぱり高田には吉田をもってくるべきですよ。これが第一の考え方。

――それが第一。

井上　第二番目というのは田村と高田の問題になりますけどね、これは皆さんご存じの7年前の「ボクと真剣勝負やってください！」っていう田村発言というのがあったけどね、あれを引きずっての闘いということになったわけでしょ？　しかしそういうプロレス的な発想とか想定はダメなんだよな。

――あ、ダメなんですか!?

井上　そんなことを『ＰＲＩＤＥ』に持ってくるべきじゃないですよ。これがね、7年間二人がホントにジュクジュクしたものを持っていて、未だにいがみ合ってるというのであればそれでもいいですよ。それだったら、もう辞めるんだから思いっきり心にあるカスを吐き出してしまえばいいわけだからね。ところがこの二人はそうじゃないわけだよ。田村にしたっておそらく「くだらんことを言ったな」とか「若気の至りだ」とか、後悔してるはずなんだよな。だから田村のそういった気持ちを中心に考えてやらなきゃイカン。

――ふんふん。別にあれも恨みがあって言ったわけじゃないですからね。

井上　だからマスコミもそういう田村の心のわだかまりに焦点を当てなきゃおかしいんだけど、それをどこもかしこも「7年目の因縁がいま決着」とかくだらんこと書いとるんだよな！　ちょっと前に猪木とウイリー・ウイリアムスがドームでやったときも、「17年目決着」とか、くだらんことをやっただろ？

――やってましたね（笑）。

井上　あのとき「そんなくだらんこと書いたらイカン！」と言うたのは俺一人なんだから。ハッキリ言ってそうだよ！　大体「17年目の決着」ってあれは何なんだよ！　しかもウィリーは猪木の手を取って「今日、私があるのはミスターイノキ、アナタのおかげだ」と、そういうようなことを言ってるわけでしょ？　猪木も「真剣勝負だ、いや、八百長だ」と言われた中で、ホントの意味での真剣勝負の一つだったということを思ってるはずですよ。そういった二人が17年も経って、かれこれ60になろうかというオッサンを捕まえて「17年目の決着！」というようなバカなことは、いかにプロレスマスコミといえども、書いたり、喋ったりするなと！

――確かに60になってから決着つけられても困りますよね（笑）。

井上　だから今度の田村と高田にしたって同じことなんですよ。二人がいま言った通りいがみ合ってるんだったら、その通りやったらいいけど、そうじゃない以上はね、そういったことに触れたらイカンですよ。「7年前にこんなことがあった」とか、事実を言うのはええわ。事実はいいけど、「それが二人が闘う理由だ」なんてチャンチャラおかしいってもんですよ！（ドンッ）。

――そんな理由で闘うわけじゃない、ということですね。

井上　そうですよ。そんなことを言ってるからいつまでたってもこの業界はバカにされるんだ！　書いてる本人、記者、デスクあたりがね、もう少し襟を正して「バカなことはもう書いたり、報道したりしないようにしようぜ」とそういうふうにもっていかなくちゃダメですよ！　そんなこと書いたからって売れないんだよな。売れればまだいいけど、売れないのよ！

――ぶっちゃけて言うと（笑）。

井上　それなのに、マスコミだけが売れると思うて書いとるんだよ。読む方は「バカなことをやってるな」っていうのが大半なんだよ。そりゃ

今月のお題

高田延彦引退試合とはどうあるべきなのか？

いよいよ高田vs田村戦が直前に迫り、プロレス者の頭の中では、連日〝運命の一戦〟のシュミレーションが行われているであろう今日この頃。ご多分に漏れず、Ｉ編集長の頭の中でも巨大な妄想が広がっていた！ Ｉ編集長が考える高田vs田村とは何か？ 心してお読みください。

聞き手／堀江ガンツ

小学生ぐらいにはわからないから「7年目の～」とかで通用するけどね、ちょっとしたプロレス通とかファンとかっていうんだったら「またここはくだらんことを書いてるな」と言われるんですよ。

――小学生にしか通じませんか（笑）。

井上 「過去にこんなことを言ってすみませんでした」という単純な田村の反省というか、そういったものを試合前に出してあげないといけませんよ。

――なるほどなるほど。

井上 古い話だけど、俺なんかも日プロ（日本プロレス）から取材拒否を喰らった時にいろんな事を書きまくったことがあったわけよ。そのときもやっぱり何年か経って「ああ、くだらん事をやったな」と思ったんで「一度謝ろう」と思ったんだけど、チャンスがないわけね。ところがそれから30年ぐらい経って「力道山メモリアル興行」っていうのが横アリであってね、夏の日だったですよ。その時に芳の里（当時の日プロ社長）とバッタリ会ったんだよ。

――おぉ！ 30年の時を超えて会いましたか！

井上 俺も〝この時しかない〟と思ったからね、芳の里さんに近づいて、「すいませんでした！」と頭を下げたんだよ。その時に芳の里さんが言ったのは「いやぁ、もう過ぎたことですから」と。この一言ですよ！

――ほぉ～、30年間のわだかまりを一言ですべて水に流したわけですね。

井上 これをやっぱり試合前にリング上で田村、高田の師弟にやってほしいと思うな。田村が頭を下げて、高田が「いやぁ、もう過ぎたことだから」と。これですよ！ そういったことが重要であってね、実際の試合は高田vs吉田と持ってくればいいんですよ。

――そこまでやっといて、試合はやっぱり高田vs吉田ですか！（笑）。

井上 そうすると君なんかも「高田と田村はどうなるんだ？」と思うだろう。これは道場でやったらいいんですよ！

――高田vs田村は道場マッチですか！（笑）。

井上 そう！ 報道陣を全部シャットアウトしてだね、取材のリリースなんかも流さずにやるんですよ。夜の夜中に、まぁ10時頃だな、高田道場に誰か訪れてきたと。一人残ってた桜庭が……、まぁ、奥には高田もおるんだけどね。桜庭が玄関に出ていってみたら田村が立っていたと。それで「実はこうこうで、高田さんに謝りに来た」と。するとサクが「道場に入ってください、奥に高田さんがいますから」と言うわけだな。

――ドキドキしますねぇ（笑）。

井上 それでサクが高田を呼んできて、田村は道場に正座して「申し訳ございませんでした！」と一言だけね、頭を下げると。それを見た高田が「いや、もう過ぎたことだから」と、このセリフですよォォォ！（興奮気味に）

――いや～、いいですね！（笑）。

井上 しかし、それだけじゃ終わらんのだな。そこで「二人で思いっきりやったらどうだろう？」という提案をサクがするわけですよ。

――そこで、サクが提案しますか！（笑）。

井上 そして「よし、やろう！」と高田が快諾して、無制限の道場マッチがスタートするわけですよォォ！

――高田と田村が、誰も見ていない中で真夜中の道場マッチ！（笑）。

井上 立会人はサクだな。そこで二人は思う存分、ヘトヘトになってもう動けなくなるまで闘って、「ここまで！」と思った時にサクが入って試合を止めると。そして冷たいタオルでも渡すわけですよ。うんうん。（感慨深げに）そうしておもむろに一升瓶をドーンと置くわけよ。

――ほう、一升瓶を置きますか（笑）。

井上 そして手には〝ぐい飲み〟が三つあるわけよ。それをバーンと並べて「注がせていただきます」と。これですよ！ そして「私も一杯いただきます」と。これで三人が黙っ

高田のレスラー生活で一番の試合を最後に残してほしいんだよ

て一杯だけ酒を酌み交わすというね。道場のど真ん中で。そして「失礼いたします」と田村が帰って行くというね。これですよォォォ！（大興奮）。

ーーいやぁ、最高です！（笑）。

井上 田村と高田の闘いっていうのは、こういうもんなんだから！（キッパリ）。リング上でね、「7年前にこんなことがあった」と、「だからやるんだ」というくだらん幼児性のあることをやったらイカン！ もうそんなことやったところでね、二人が前に闘ったっていうのは9年前かなんかでしょ？

ーーそうですね。

井上 どんな試合だったか忘れてしまってますよボクは。7年前に田村が高田に言ったということも「そう言われてみたら、あったな」という程度ですよ。しかし、あの言葉はいま言ったように非常に失礼な言葉なんだよな。なぜ俺が「謝れ！」と言ったかと言えば「真剣勝負してください！」っていうのは「Uインターと高田さん！ アンタがやってることは真剣勝負じゃないよ」と「俺達が真剣勝負でやってるんだよ」と。だから「真剣勝負でやってください」と言ったのと同じだからね。

ーーそうですね（笑）。

井上 田村からすれば「一生懸命、真剣勝負でやってるのは俺だけだ」と。「Uインターも高田さんもハッキリ言ったら出来試合じゃないか」と。だから「真剣勝負でやりなさい」と言ったのと同じじゃないですか。だからこんな失礼なことは本当のことであっても言うべきじゃないのよ。それを俺は咎めてるんですよ。何で俺が「一言だけ謝りなさい」と言ったかと言ったらそこなんですよ。ホントのことだから言ってもいいわけじゃないんだ、世の中は。

ーー確かにそうですね。

井上 さっきの俺と芳の里さんとの関係にしたってね、取材拒否した向こうが悪いんだから。俺がホントの事を書いただけだから、俺のほうに是があって向こうに非があるようだけども、ジッと眺めてみると俺が悪いんだよ。だから俺は心の中に長い間ムシャクシャしたものがあったしね。それを芳の里さんの前で頭を深々と下げて謝って、その時に消えたんだよ。それでもう左右に別れたんだからね。だから俺だったらそういった場面を想定するね。

ーー実に理想の高田vs田村戦ですよ！

井上 まぁ、これとは別に、高田vs田村戦を『紙プロ』的に、オタクの山口の旦那の発想であればね、これはやっぱり黒澤明の『姿三四郎』の世界ですよ。

ーー高田vs田村は黒澤映画ですか！

井上 荒野で風がビヤーっと吹いてね、黒澤明の映画といえばみんなそうですよ。『用心棒』から『姿三四郎』から『七人の侍』から。そんな風がビヤーっと吹いてる荒野でね、高田と田村が向き合っとるとね。そしてもう二人の影があるわけだ。これは立会人ですよ。高田の方はサクでね、田村の方は誰かと思ったら……これは前田日明ですよ！

ーー素晴らしい！（笑）。

井上 前田と田村もちょっといろいろあったけども、そこは田村のほうが頭を下げてね、「お願いします！」と「過去のことは水に流そう、よしわかった！ 俺が立会人を務めさせてもらうよ」と。そういうことですよォ！ だから高田vs田村というのは、『紙プロ』的に言えば『荒野の決闘』ですよ！ それは何だかんだの決着をつけるっていうんじゃなくて、ホントに二人が力一杯闘うっていうね。そういったものが田村と高田の闘いじゃないの。

ーーなるほど。たんなる競技的な試合じゃないわけですね。

井上 リング上で仰々しく「7年前はこうでした」というもんじゃないと俺は思いますよ。

ーー「因縁の闘い」っていうわけじゃないですからね。

井上 だからやっぱり東京ドームで引退試合をやるなら、高田vs吉田でメインを締めくくるというのがベターですよ。やっぱり華がないとイカンですよ！

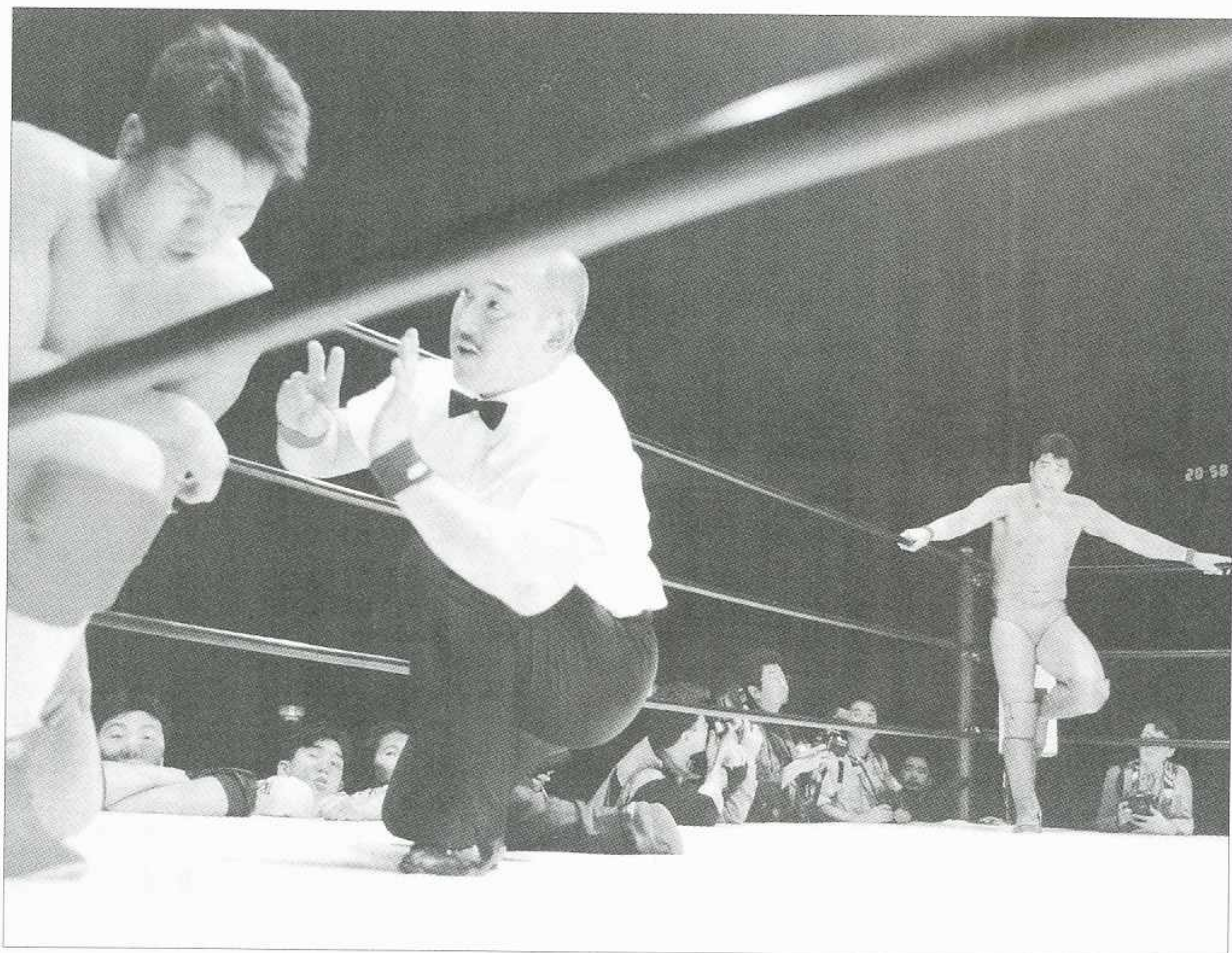
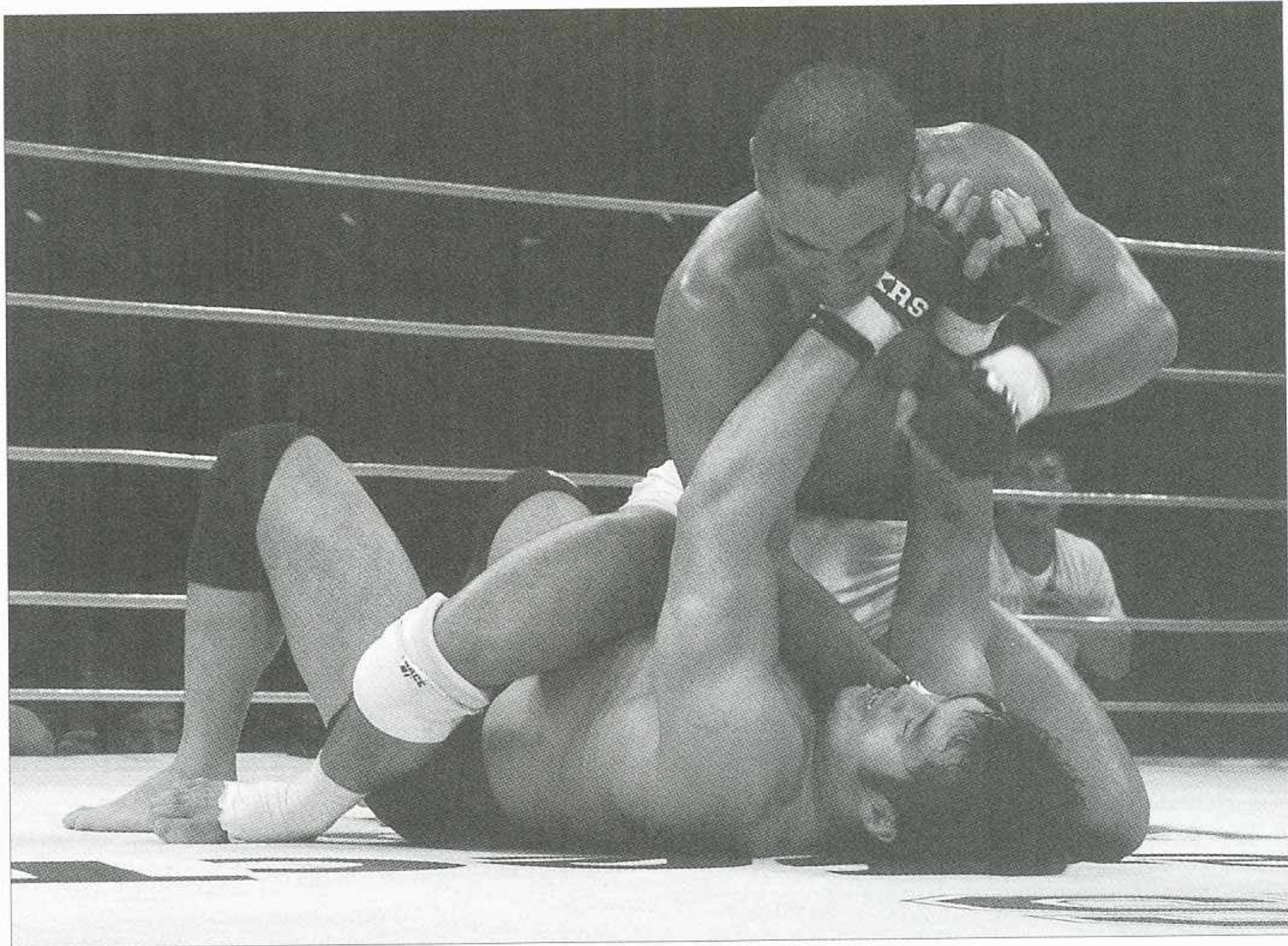
ーー高田選手はそういうビッグネームと闘って、華々しく最後を飾るようなスター選手だということですよね。

井上 それだけじゃなくてね、高田と田村が下手な試合をやると膠着戦になるんだわな。この二人は「膠着の王様」って呼ばれてるからね。

ーーガハハハハ！ 膠着の王様ですか（笑）。

井上 「膠着キング」と呼ばれてるんだから。その二人がまともにやったらまた膠着しちゃうに決まってるんだよ！

ーーキング同士の闘いですからね（笑）。

井上 だからこの二人のマッチメークっていうのはハッキリ言って避けるべきなんですよ。でも、普通のヤツとやったらまた高田のほうが寝転

がって蹴飛ばすと。
──ミルコ・クロコップ戦の時のような（笑）。
井上　だいたい高田の引退試合っていうのは高田が負けていいんだから！　負けていいというか、思い切って高田と吉田がやって高田が負けても、それでいいわけですよ。高田が「引退試合だから俺が勝つんだ！」と。だから「吉田、オマエは負けてくれ！」というふうに持っていったらこれはダメですよ。これは吉田が承知しませんよそんなもん！
──そりゃそうですよ（笑）。
井上　これで高田が負けようがどうってことないんだからね。だから俺としたら、高田の終生のレスラー生活の中で一番のベストマッチは「これだ！」っていう試合を、吉田相手に最後に残して欲しいんだよ。やっぱり高田の試合と言ったら「ああ、ダメだ」っていう印象しかないじゃない？
──確かに『PRIDE』になってからはそう試合が続いていますね。
井上　高田ほどの男が、やっぱりこれだけの不評を背中に負ったまま引退していくっていうのは寂しいですよ。だから人間は最後に華を咲かせるんだから。最後に負けても勝っても吉田と壮絶な凄い試合をやってね、「高田というのは凄かったんだ」と。やっぱりこれだけのものを持っとったというものを残して引退して欲しいわな。そういった意味もあるんですよ。
──そういう意味での吉田戦だったんですか！
井上　そ〜うですよ！　田村とやってもそれが出てきませんよ。その他、小さな事を言ったら「メインをサクに譲る」といったようなくだらんことを言ったりとか、そういうことはいろいろありますよ。アイシングに失敗して大火傷をしたとか。「何をやってんだ！」と。そういった小さなことはあるけど、大きなことと言ったらそれやね。
──なんだかんだ言って、井上さんは高田選手の引退試合に凄く期待してるんですね。
井上　そりゃそうですよ！　だから高田vs田村と決まったわけだから、これはもうホントの意味でのサブミッション・マッチをやってほしいな。
──ゴッチ、猪木と受け継がれてきた、サブミッションの試合を見せてほしい、と。
井上　やっぱりそういった「男のロマン」で闘ってほしいな。そうでないと、プロレスラーは『PRIDE』で勝てない。日本人は『PRIDE』で勝てないとなったら、段々K-1のほうに客を取られてしまって『PRIDE』といえどもK-1に吸収されてしまいますよ！　もう吸収されつつあるけどね。
──もう危機は迫っていますか！
井上　だから『PRIDE』は『PRIDE』の試合としてね、打撃っていうのはできるだけ少なくして、ホントの意味でのサブミッションでみせると。それを俺は高田と田村に期待したいな。そうなってくると『紙プロ』なんて書くことがいくらでも出てくるわけですよ。
──一冊の本ができてしまいますね（笑）。
井上　臨時特別号をださなくちゃいけませんよ！　アンタ！　俺に「書け」と言ったら100ページぐらい書いてやるで！
──おぉ！　是非お願いします！（笑）。
井上　それだけのネタが出てくるんだから！　そういったふうに『紙プロ』に臨時特別号を出すというぐらいのお膳立てを森下さんにしてもらわにゃ！
──そういう試合ですからね。
井上　いまからでも頭を下げて頼んでみぃよ！　アンタ。「よし、わかった。じゃあ吉田vs高田にすると」言わんとも限らん。あの人のことだから人の言うことは何でも聞くからね。
──ガハハハ！　何でも聞きますか（笑）。
井上　そうしたら桜庭と田村と第一試合でやらせますよ！　……まあ、こうは言わんはな（笑）。ハッハッハッハ。
──来月もよろしくお願いします（笑）。

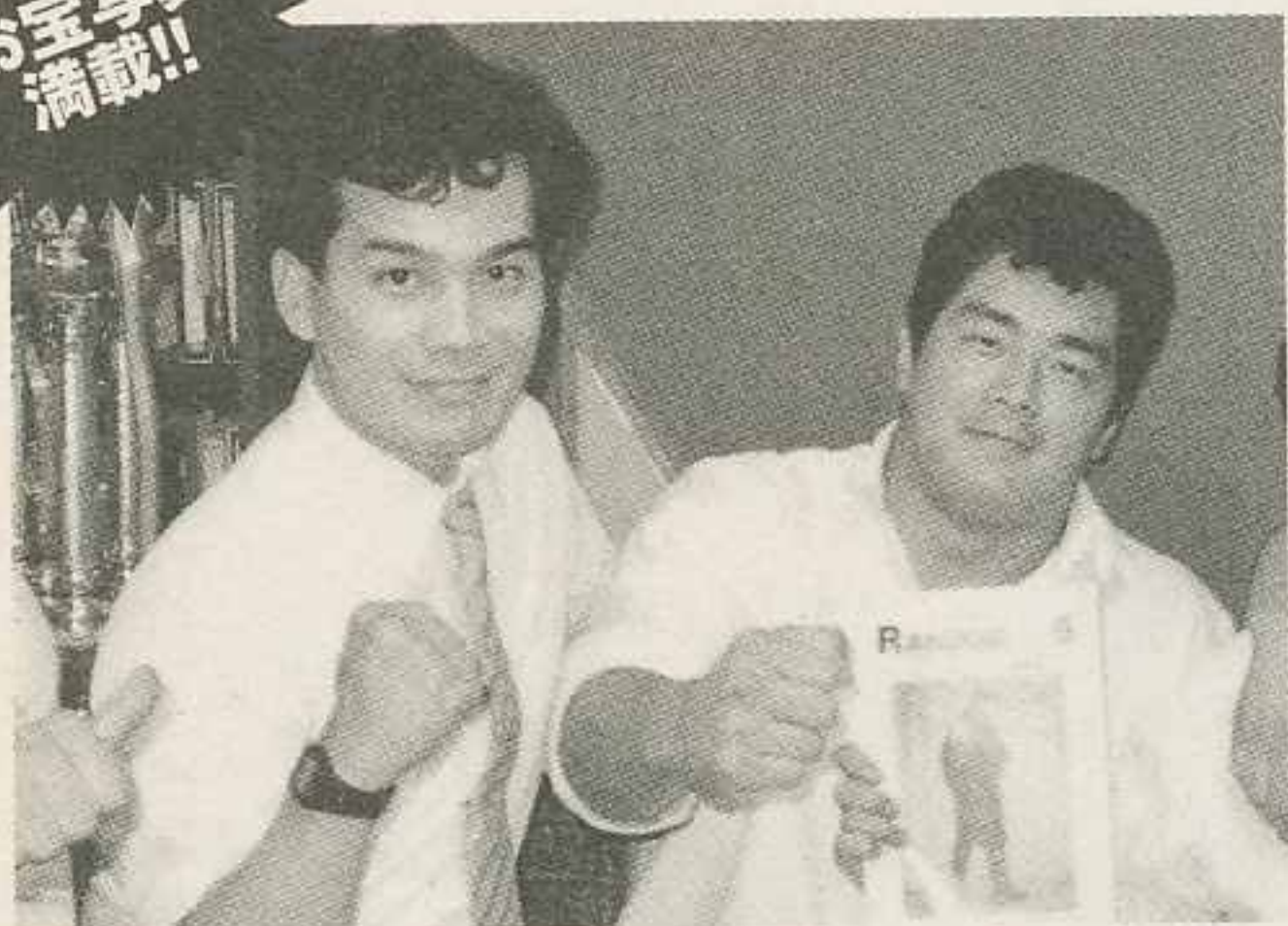
いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミでI編集長に影響を受けた人間は数知れない。

言うちゃ悪いけど今日の結論

高田vs田村は誰もいない道場か風吹く荒野で動けなくなるまでやるべきなんだよ

「避けて通れる道なのに、
髙田さんは避けなかった。
それこそが"Uインター魂"ですよ!」

遂に"最強"の「Uインター&髙田本」完成！"Uインターの黒幕"が髙田延彦に送った衝撃のラストメッセージとは!?

Uインター お宝写真 満載!!

元・UWFインターナショナル取締役
現・串焼き「市屋苑」マスター

鈴木 健

いよいよ11・24『PRIDE.23』での髙田延彦引退試合が近づいてきたが、最後の相手として髙田が自ら指名したのは、Uインター時代から因縁浅からぬ、あの田村潔司だった。「髙田延彦スペシャルファンクラブ」会長として、さらに元Uインター&キングダムのフロントとして、長きに渡り髙田の側にいた、現・市屋苑マスターの鈴木健氏が、あらためて髙田への熱い想いと、遂に完成した最強のUインター本の中身まで熱く語った！

聞き手／松澤チョロ　秘蔵写真提供／鈴木 健
designed by matsu (Two three)

——鈴木さん、因縁の髙田vs田村戦が遂に実現することになりましたね。

鈴木　ねぇ。最初に聞いたときはホント、ビックリしたよ。でもさぁ、髙田vsヒクソン戦の一回目の前に「もしタイソンとヒクソンと闘えるとしたらどっちと闘いますか?」って言われたら、普通はタイソンを選ぶでしょ?

——世間的な知名度とか考えれば普通はそうでしょうね。

鈴木　でしょ? いま、吉田(秀彦)と田村(潔司)って言ったら、吉田を選ぶでしょ、普通。

——まあ、世間一般的にはそうなるでしょうね。

鈴木　でしょ? 大きく見た場合にね。でも髙田さんは田村を選んだんだよ! 前に田村がリング上で発言したことあったじゃない?

——Uインターでの「ボクと真剣勝負してください」発言ですね。

鈴木　そうそう。髙田さんは、それをちゃんと受けるんだよ。逃げないでしょ? それが凄いよ!

——それも最後の最後にですからね。

鈴木　だから俺は髙田さんに言ったの。「いつもハイリスク・ローリターンだね」って。そしたら髙田さんは「そう。俺はいつもハイリスク・ローリターンだよ」って言ったのよ。それ聞いて、それこそがUインターの心だなって思ってね。それがUインターの挑戦していく心! それがあったからUインターがあった。っていうのを今回再確認できたよね。

——それがUインター魂なんですね。

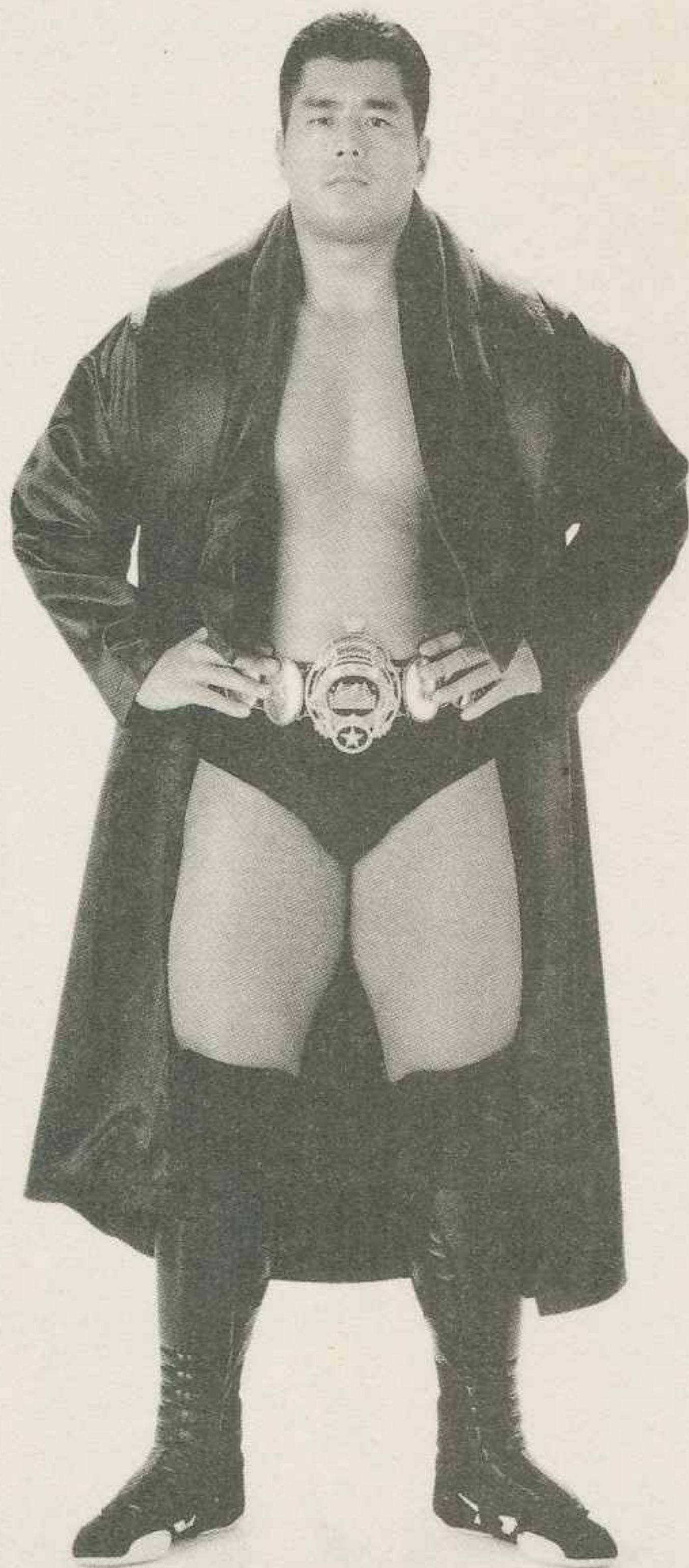
鈴木　うん。だから、もし田村潔司が誰かから逃げたいっていうようなヤツから挑戦されても、それをもう逃げられなくなっちゃったよね。

——ヤマケンのことですか?(笑)。

鈴木　まあヤマケンも同じことをやったわけだからね。でもヤマケンに限らず、それを髙田さんは教えたよね。闘う前にもう教えちゃった。

——鈴木さんは、いまでもプライベートで髙田さんとゴルフをやったり、いろいろとコミュニケーションがあるみたいですけど、昔から髙田さんを見てきた人間として、引退試合の相手に田村潔司を指名したっていうのは、ある意味、予想してた部分があったんですか?

鈴木　いや、正直驚いたよね。だから、さっき言ったUインターの挑戦する心、Uインターの魂、そして最強のプロレス団体の真実っていうのは髙田延彦の生き様にあったわけよ。

——あぁ、それは言えるでしょうね。

鈴木　最後の最後に田村潔司を選んだっていうのが、それが髙田延彦なんですよ! これはホント凄いこと! だって、田村潔司は、いま一番乗ってて、一番いい時でしょ?

——年齢的にも、いい時でしょうね。

鈴木　『PRIDE』でのマッチメイクとかブランクもあって、分が悪い闘いをしちゃったけど、ただ、コンディションは最高にいいでしょ。それに田村潔司はボブ・サップとも平気で闘っていくような男だよ。結果はともかくとりあえず闘ったわけだよ。やられたけど、本気で悔しい顔してたじゃない?

——試合後は、納得いかないっていう表情をずっとしてましたからね。

鈴木　でしょ? ということは勝ちにいってたんだよ、あの男は! 悔しがってる顔を見て俺は思ったの。「あ、勝ちにいってたんだ!」って。

——自分なら攻略できるんじゃないかって思ってたでしょうね。

鈴木　だから髙田さんは、たぶんね……たぶんじゃないな。髙田さんは勝ちにいくだろうなって。で、もし負けたら「クソッ!」って本気で悔しがるだろうな。でも、「頑張ってやっていけよ!」って言うと思う。それで勝った時は……。

——なんて言いますかね?

鈴木　いや、俺は髙田さんが勝つと信じてるから(キッパリ)。

——髙田さんが勝ちますか?

鈴木　もちろん! あ、それでね、髙田さんからチラッと聞いたのよ。

最強のプロレス団体の真実は髙田延彦の生き様にあったわけよ

——エッ、何をですか!?

鈴木　髙田さんはね、「アイツに教えてやんなきゃ」って言ってたよ。

——チラッと言ってましたか(笑)。

鈴木　そう。チラッと言ったのを俺は聞き逃さなかった(笑)。ふとした時に髙田さんの言葉でね、「アイツに教えてあげなくちゃ」って。

——「教えてあげなくちゃ」ですか? それは田村戦が決まったあとの話なんですか?

鈴木　決まったあと。電話だったか、会った時だったか忘れちゃったけど、チラッとそれを聞いたわけよ。

——でも、教えてあげるっていうのは、どういうことなんですかね?

鈴木　だからそれは「勝つ」って、ことなのか、要は勝っても負けても〝教える〟ってことでしょ? 勝ち負けなんて、どっちでもいいよって。でも、そういう風に思う心と、そして田村潔司を選んだという心がUWFインターナショナルだったなと。この選択にすべてが集約されてるなって。たぶん、Uインターの選手も、みんなそう思うだろうね。

——ただ、『PRIDE』から髙田さんの試合を見始めたファンにとっては、Uインター時代の田村さんとの因縁だったりっていう部分は知らない人の方が多いじゃないですか?

鈴木　そうだろうね。

——フロントとして、ある意味一番近くにいた鈴木さんから見て、Uインター時代、髙田延彦と田村潔司っていうのは、どういう関係だったんですか?

鈴木　やっぱりね、避けて通れる道なのに、そして避けて通っていい道だったのに、髙田さんは避けなかったでしょ?

——見事に避けませんでしたよね。田村さんもかなり悩んだみたいですけど、最後は髙田さんの指名を受ける形になりましたからね。

鈴木　いや、タムちゃん(田村潔司)は

紙のプロレス RADICAL スーパースター外伝

髙田さんは「アイツに教えてやんなきゃ」って言ってたよ

自分で「やりたい」って言ったんだから、やるに決まってるでしょ？　大喜びだと思うよ。だって、そうじゃない？

——う〜ん、田村さんは、いまとなっては例の「真剣勝負」発言も若気の至りだったって言ってますからね。

鈴木　いや、悩むはずないよ。だって自分で言ったんだから。それを髙田さんが大将としてちゃんと受けたんだよ！　馬場vs猪木が実現できなかったものを髙田さんは実現させたわけよ！　これってホントに凄いことだと思うよ。

——ある意味、髙田vs田村戦っていうのは、馬場vs猪木ぐらいに実現は難しいと思われてましたからね。

鈴木　そう。それも髙田さんは最後の舞台で田村潔司を選んだんだよ！　タムちゃんは、その価値がどれだけ大きなものかっていうのをわかると思うよ。

——逆に、その価値の大きさがわかりすぎてて二つ返事で即答できなかった部分もあるでしょうね。

鈴木　なるほどね。最後まで髙田延彦は、Uインターの魂を持ち続けたまま引退するっていうことだよね。……ただね、吉田戦も見たい！（ニコニコ）。

——エッ⁉　それって髙田vs吉田秀彦戦が見たいってことですか？

鈴木　そう！（笑）。だって見たいでしょ？　見たくない？

——実現するんだったら見たいですけどね（笑）。

鈴木　でしょ？　自分も吉田戦が見たい！　だから、髙田さんに、お願いがあるの（笑）。

——なんですか？　いきなり可愛らしくなって（笑）。

鈴木　田村潔司のあとに吉田ともやってもらいたい！　ダメ？（笑）。

——アハハハ！　気持ちは非常によくわかりますけど、さすがにそれは難しいでしょうね（笑）。

鈴木　誰か、そんなマッチメイクして！　だって、そう言ってるの俺だけじゃないもん！

——やっぱり、市屋苑に来るお客さんとかもそう言ってるんですか？

鈴木　そう！（笑）。「なんなら、全国民の多数決で決めませんか？」と。

——アハハハ！

鈴木　ダメ？（笑）。

——できるもんなら多数決を取りたいですけどね（笑）。ちなみに、なぜ鈴木さんは髙田vs吉田戦をそんなに見たがってるわけですか？

鈴木　吉田戦だけじゃなく、他にもやり残しちゃったのがいっぱいあるんじゃないかなと思うのよ。

——いわゆる、"忘れ物"ってヤツですね？

鈴木　そうそう。他にはね、これは髙田さんの中ではどうでもいいと思ってるかもしれないけど、自分を含めたファンの中には「橋本を倒して欲しい！」っていうのもあるし。

——破壊王vs髙田戦ですか？（笑）。

鈴木　うん。あのままじゃ嫌だ、と。

——新日本のドーム大会で髙田さんは橋本さんに負けてますからね。

鈴木　あのままじゃ嫌だよ、と。あと、それから……。

——あ、まだありますか？（笑）。

鈴木　もちろん！　でも一番は吉田戦。オリンピックの金メダリストになった、そしてホイスを子供扱いして押さえ込んだ吉田が「髙田さんと闘えるっていうことは光栄だ」って発言してたよね。そしたら、そういう闘いも見たいし。他にも、いくつか残ってるよね。

——すっかり飲み屋のマスタートークになっちゃってますね（笑）。

鈴木　だって、いまそうなんだもん（笑）。それに、もう一つ言えば前田vs髙田戦

上の写真は今号の表紙にも使用したUWFインターナショナルのパンフレット用の集合写真だ。まだ、高山、桜庭、ヤマケンらの姿はないが、それでも凄いメンツだ。そして、見てみ、下の写真！　鈴木健氏、和田良覚レフェリー、そして田村潔司の衝撃のスリーショットだ！　一度でいいから、このトリオで漫才でも披露してもらいたいものだ

2年ほど前に前田vs髙田戦の
オファーをかけたんだよ。
だって見たいもん

何回目かはわからないけど、
髙田さんはヒクソンに100%勝つ!

だって見たいしね。

―ま、前田さんまで引っ張り出しますか？（笑）。

鈴木 だって正直言って見たいもん。それで、実は2年ほど前にね、前田さんに電話したんだよね。その時は、もう市屋苑の仕事してたんだけど、U－DREAMっていうのが、まだゴソゴソなんか動いてたんだよ。

―あぁ、ありましたねぇ。

鈴木 それで「ファイトマネー1億円で前田さん、髙田さんとやってもらえませんか？」って。

―エッ！ 前田vs髙田戦の試合のオファーを出したんですか？

鈴木 そう（アッサリと）。その前に髙田さんにも聞いたの。「ファイトマネー1億円で前田さんとやってもらえませんか？」って。

―お互い1億円ずつですか？

鈴木 そうそう。髙田さんは「いいよ。前田さんがいいって言うんだったら」って言ってくれたんだよ。それで前田さんに電話したの。

―鈴木さんが前田さんに直接連絡したわけですか？

鈴木 そうだよ。簡単なことでしょ。電話して聞けばいいんだから（笑）。

―まあ、そりゃそうですけど（笑）。

鈴木 そしたら「いや、俺は引退したから、もうやらない」って。

―やっぱり、ダメでしたか。

鈴木 「でも、1億円ですから、ビジネスとして考えたら、とてもいいお話だと思うんですけど。時間はまだありますから、コンディションも作れるじゃないですか？ 髙田さんとは年齢的にも、そんなに差がないですし、いかがでしょう？」って言ったんだけど、最後まで「やらんやらん」の一点張りだったね。

―へぇ～、そんなことがありましたか。今回の髙田vs田村戦がUインターの総決算なら、髙田vs前田戦はUWFの総決算マッチになりますからね。しかも舞台的にはU－DREAMならピッタリでしたよね（笑）。

鈴木 そうでしょ？ 実現させたかったよね。

―髙田vsヒクソン戦っていうのは、もう見たくはないですか？

鈴木 正直言うと、ヒクソンとは勝つまでやってもらいたいね。

―か、勝つまでですか？（笑）。

鈴木 そう。必ず勝つと思うから。これはファンに断言しておく！

―それは、次にヒクソンとやったらってことですか？

鈴木 いや、何回目かはわからないけど、髙田さんはヒクソンに必ず100%勝つ！（キッパリ）。

―何回目かはわからない？（笑）。

鈴木 それはわからない。次もまた負けちゃうかもしれない。やっぱり昔からの悪いクセがあるから。

―というと？

鈴木 プロレスラーっていう部分で隙を作っちゃう悪いクセ。それは髙田延彦が悪いって言うんじゃなくて、いままで18年間か、いやもっとか？ プロレスルールになれ過ぎちゃった髙田さんの、その隙をすべて排除できた時に、必ずヒクソンに勝つ日が来る！ これは100%勝つ!! いや200%！（笑）。

―アハハハ！ その時こそ、本当の意味で髙田さんの最後の闘いにして欲しかったっていう感じですかね？

鈴木 そう。そうして欲しかったの。ヒクソンを倒して終わりにして欲しかった。自分としては髙田さんがヒクソンに勝つまで引退はして欲しくなかったっていうのが本音。

―鈴木さんは髙田さんのスペシャルファンクラブまで作った人ですから、いつまでも現役でいて欲しいでしょうね。

鈴木 そうそう。髙田さんが好きで入ったプロレス界と自分が好きで入った格闘界。だから俺は共鳴した部分もあるし、共鳴して1人の人間として付き合ってきて、闘いだけじゃない部分でも応援してあげたいっていう気持ちもあるし。やっぱり、自分にない部分をたくさん持ってる髙田延彦に協力してあげたいっていう気持ちがドンドン膨らんだからね。

女子プロレスラーから格闘家、芸能人まで、店中にサイン色紙が飾られている市屋苑（それで取材を受けたことも）。もちろん、髙田、桜庭のサインも飾ってあるぞ

―その気持ちはいまでも変わってないわけですね。

鈴木 そうだね。やっぱり、その中でも髙田さんが自分でちっちゃい時に選んだ道、そこを一番、髙田さんは求めて好きで入ったわけだから応援してあげるのが自分のできる最大のバックアップだなっていう気持ちがあるからね。絶対、髙田さんは心残りがあると思う。終わって何年かして、死ぬ前に「アイツは倒しておきたかったな」っていうのが必ず出るんじゃないかなと。

―最後の相手として田村潔司はベストな相手ではあるけれども、他にも闘うべき相手は残っていると？

鈴木 そう。田村潔司っていうのは男としてやらなければいけないことだったし、そしてそれを選択して、俺たちに「やっぱり凄いな」って気づかせてくれた。何度も言うけど、馬場さんは猪木さんから逃げてた。でも髙田さんは逃げないんだよ。しかも「やろう！」って、それをラストに持ってきた。凄いカッコいいよね。日が経つにつれて、それを感じてきた。みんな知らないかもしれないけど、このマッチメイクの凄さっていうのは、髙田延彦の闘う姿勢と、その心がすべて集約されたものだから。……でもやはり人間だから、これは話は別として、ヒクソンともやって、あれともやってこれともやってって言ったら、髙田さんの身体がホントもたないよね（苦笑）。

―そうでしょうね（笑）。

鈴木 コンディションだって間に合わないしね。そういう試合をやっていくと、そんなにできるもんじゃないしね。あくまでも自分の希望だから（笑）。

―「ヒクソン戦が見たい」「吉田戦が見たい」って言うのはあくまでも鈴木さんの希望と、お客さんからの要望でもあると？（笑）。

鈴木 そう（笑）。プロレスファンとか100人いたら100人の人が髙田さんが大好きっていう人が来てるからね。でもね、正直言って、たまたま来て、プロレスとか関係なく、それに自分がやってるって知らないで来てるお客さんの方が遥かに多いわけよ。プロレスファンだから来るっていうお客っていうのは、ほんの一握り。そんな人ばっかりでいっぱいになってるんだけど、そういう中でたまたま自分を発見して「あっ、ひょっとしたら、これって髙田さんのサインですか？」とか聞いてくるからね。

―髙田さんとか桜庭さんのサインとか市屋苑には選手のサインがたくさん飾ってありますからね。

鈴木 それでトイレに入って「あれっ、この1億円積んでる写真見たことある」って。それでバイトに聞くわけよ。「あの1億円積んでる写真の人って、この店と関係があるんですか？」って（笑）。ウチのバイトは「あ、あそこで焼いてるのが鈴木です」って（笑）。

―アハハハ！ 鈴木さん自ら焼き鳥を焼いてますからね（笑）。

鈴木 それで、プロレスの話をするっていうことが何度もあった。つい最近も、4年間来たかったけど来れなかったUインターの大ファンだった人が来て、凄く仲良くなったからね。今度、その人たちと髙田応援シートに座って一緒に応援するんだけどね。

―あ、鈴木さんは髙田応援シートで観戦するわけですか。

鈴木 そう。その日は市屋苑も休みにして……。

―年中無休の市屋苑が、その日は定休日になるわけですか？

鈴木 年中無休だけど、やっぱりこれは特別な日だから。

―Uインター同窓会のような大会にしたいって髙田さんも言ってましたけど、実は、鈴木さんも同じような構想があったんですよね。

鈴木 自分も本当は夢が一個あったんだけどね。まあ今回の『PRIDE』の大会は髙田応援シートから一ファンとして見たいんだよね。

―関係者としてじゃなく、あくまでも一ファンとして見届けたいと？

鈴木 髙田延彦の一ファンとして見たい。ウチの店でも何も言わないのに髙田応援シート50枚ぐらい注文が来てるから。そんなキップの受け渡しやってたら大変だなって（笑）。

―それは大変ですよね（笑）。

鈴木 大変だよ（笑）。「髙田さんの試合は『PRIDE』もプロレスも見たことないけど、鈴木さんがそれだけ憧れてる髙田延彦さんの引退試合を見に行きたい」とか言って、一回も見たことない人が1万5千円の応援シート買って

髙田さん、忘れ物を年に一度ずつ5回くらい取りに行きましょう!（ニコニコ）

るからね。

——決して安い金額じゃないですからね。

鈴木　でも、それだけの価値がある最後の試合だからね。

——ファンの夢として、先ほどいろんな選手の名前を挙げていましたけど、髙田さんの忘れ物と言ったら、やっぱり小川直也さんとの試合も見たかったりするんですか?

鈴木　見たかったねぇ。そう考えると髙田さんの忘れ物っていっぱいあるよね（笑）。たぶん、髙田さんが忘れ物を拾いに行くって言ったのは小川選手だったんじゃないかなって、勝手に想像してるけどね。（突然）忘れ物がいっぱいあるよ、髙田さぁ～ん!

——アハハハハ!

鈴木　忘れ物は一辺に拾いに行かなくていいから、年に一回ずつ拾いに行くっていうのはいかがでしょうか?（笑）。

——それはいい案ですね（笑）。

鈴木　引退してから、また復活していうプロレスのセオリーっていうのとは違ってね。それに髙田さんがコンディションを作るのは大変な年齢になったから、年に一回の試合でもいいじゃん?　年に一度だけ。そういう新しい発想を持ってやれば、誰も何も言わないと思うよ。忘れ物を年に一度ずつ5回ぐらい取りに行きましょう!（笑）。

——5回ぐらい（笑）。それこそホントのU－DREAMですね。

鈴木　そうだね。UWFインターナショナルとしてやりたいけどね（笑）。

——それじゃあ、前田戦は難しくなりますよ（笑）。

鈴木　そっか（笑）。まあ、いまの自分の実力じゃ、大きな興行を一発打つっていう力がないからね。でも提案と協力はできるから。

——それはまた控え目ですね（笑）。

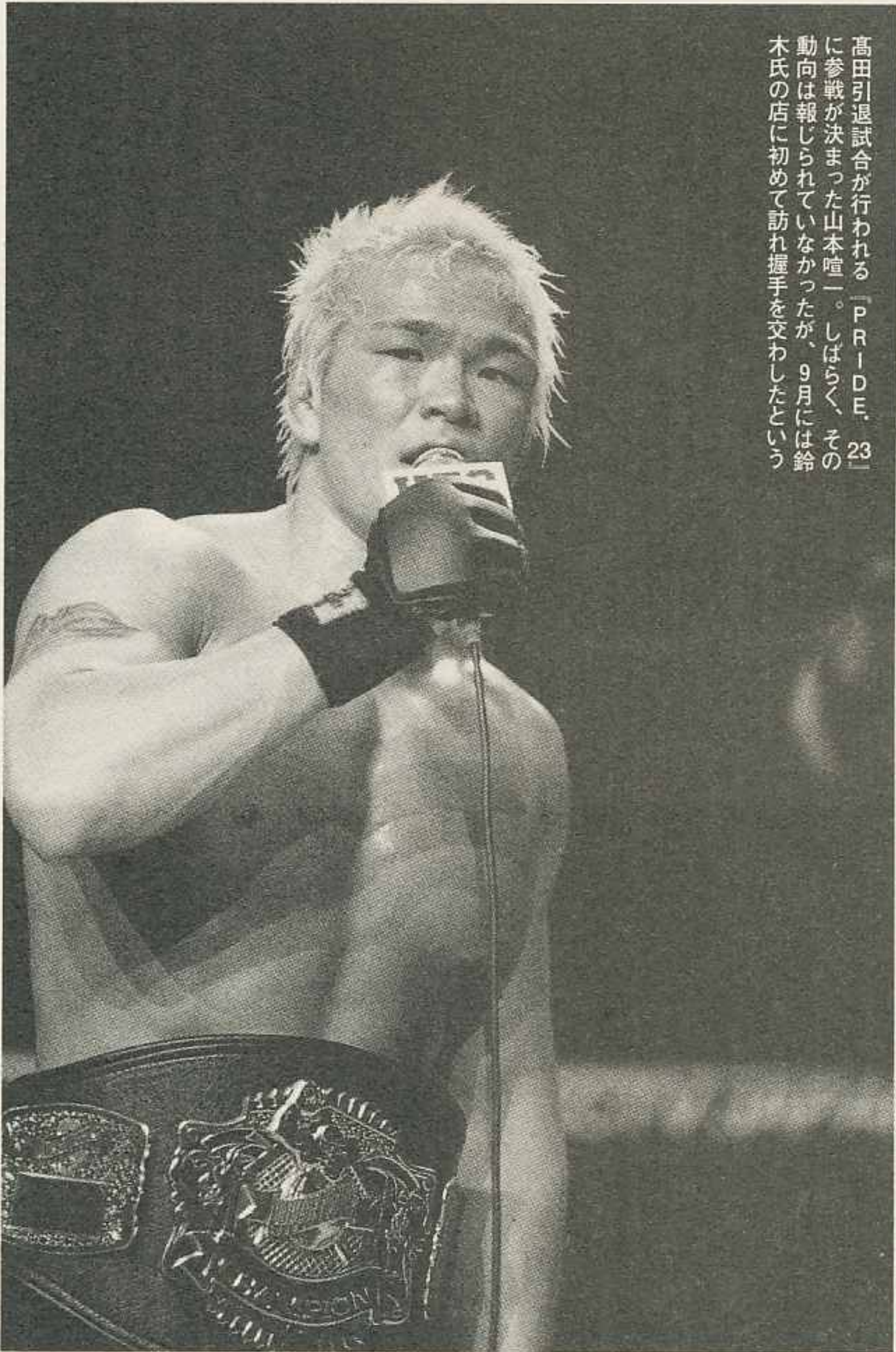
鈴木　提案と、協力してくれる人と、そして賛同してくれる一番大切な選手が動いてくれれば不可能ではないよ。と、自分は思ってるけどね。

——今回の『PRIDE』でも髙田さんは元Uインターの選手何人かに声を掛けてるみたいですけど、鈴木さんは髙田延彦応援シートで見てるわけですね（笑）。

鈴木　そう。

——話は変わりますけど、ヤマケンが最近、市屋苑に来たみたいですね。

鈴木　そうなんだよ。

髙田引退試合が行われる『PRIDE.23』に参戦が決まった山本喧一。しばらく、その動向は報じられていなかったが、9月には鈴木氏の店に初めて訪れ握手を交わしたという

——鈴木さんとヤマケンは、キングダム解散後あまり関係が良くないと聞いてましたけど。

鈴木　俺、アングル作っちゃおうかなと思ったんだけどね（笑）。

——どんなアングルですか（笑）。

鈴木　このままヤマケンとケンカしたフリをしてね（笑）。

——どっかの会場かなんかで劇的な和解でも演出しますか?（笑）。

鈴木　どうする、それ?（笑）。あ、でも、ヤマケンの話、今回の本に書いちゃった。

——じゃあアングルは作れませんね（笑）。

鈴木　一瞬考えたんだよね。アングルにしようって（笑）。俺が選手だったら最高のアングルできたのになって。「俺が用意した選手とやれ、コノヤロー!」って煽って、ヤマケン出したりとか出来たじゃない?（笑）。

——もう遅いですけどね（笑）。

鈴木　先月かな?　突然店に来て握手したんだよね。

——これまで、いろいろ誤解とかもあって、ヤマケンは鈴木さんのことをよく思ってなかったんですよね。

鈴木　そうそうそう。自分は自分なりに一生懸命やって来たんだけど、ただ一生懸命やることだけがいいことじゃないっていうのを自分でわかってるから。一生懸命じゃなくて結果を出せなかったら一生懸命っていうのは裏付けされないんだよね。

——どの世界でもそうですよね。

鈴木　その結果を俺は出してないんだよね。今度出す本でも書いてるけど、自分は本当に素人だったんだなって。未完成な人間だったから完璧な仕上げを出来なかった。ただ今回、山本喧一が9月8日に店に来てくれたんだけど、俺はヤマケンのこと好きだったし、UFC－Jの時も普通に応援に行ったわけ。それで勝ったから「おめでとう」って舞台裏に行ったら、ようするに山本喧一の中にはキングダムを壊してもらいたくなかったっていうのがあったのよ。それで、その時に言った言葉っていうのは「俺はいまでも鈴木さんのことをブッ飛ばしたいぐらいの気持ちですよ」って。

——言われたみたいですね。

鈴木　そういうこと言ってたの。俺は正直言って凄く悲しかった。それはヤマケンに対して悲しかったっていうか、自分がそういう風にしか思われない程度の力しかなかったっていう部分に対して、悲しかったんだよね。でも、いつかわかってくれるんじゃないかなって、自分が出来る範囲内で一生懸命頑張ったつもりだから。キングダムの時の負債で、俺と髙田さんが返し続けている一億円以上の金額っていうのが実際あるしね。

——前のインタビューの時にも言ってましたよね。

鈴木　それを頑張って逃げないで返してるわけだから。そういうものは必ずわかってもらえる日が来るなって俺は確信してた。髙田さんはわかってくれた。安生洋二もわかってくれてた。中にいる人はわかるんだよ。Uインターの時も宮戸優光はわかってたし。「鈴木さん、俺たちはいいから。これだけあればいいよ」って。いつもそういう感じだったから。髙田さんも安生洋二も、そして宮戸優光、そして自分も、俺たちの給料はいいから、まずタムちゃん、垣ちゃん（垣原賢人）にちゃんとギャラを払ってあげようって。それで、こっちの支払い優先しようって。経営者っていうのはそういうもんだから。Uインターの時は取締役っていっぱいいたけどね（笑）。

——そうでしたね（笑）。

鈴木　髙田延彦、山崎一夫、中野、宮戸、安生、自分。みんな平等なんだけど、責任は頭の方で動かしてる者たちが、やはりいろいろな責任感っていうのを持たなきゃいけないし、そういうのを行動で示して来たつもりなんだけどね。キングダムの時にも大きいスポンサーが付くって言って付かなかった、資金を出してくれるって言って出してもらえなかった、そういう中にはいっぱいの嘘もあったし。嘘を付かれた人もいる。それで、お金も出っぱなしで、ツライ状況になっちゃってね。でも凄い大きな心で見

紙のプロレス RADICAL スーパースター外伝

守ってくれた人もいたんだよね。某不動産会社の社長とか（笑）。

——悪い人ばかりじゃなかったと？

鈴木　そうそう。そういう人たちに支えられながら、やってきたけど、やはり限界があってね。出ていく金と入ってくる金の比率が合わなかった。で、最後には粘って粘って粘ったけど、待ってもらえなくなっちゃって、もう資金的にもホントに底をついちゃったからギブアップしたんだよね。そういう意味では、みんなに申し訳ないなって。そういう、お金担当でやって来た俺がお金を集められなくなったら、もう俺の役目はなくなっちゃうわけよ！

——一辺、そうなっちゃうと背広組とレスラーの関係は壊れちゃうってよく言いますからね。

鈴木　そうだね。もうお金は集められなかったし限界だったから。いろんな人をダマしたと同じような状況にもなっちゃってたし、こっちはそういうつもりがなくても陰にいっぱいそういう人たちがいたわけだから。で、なぜ山本喧一が来たかというと、あの若さで自分で道場を開いて、自分で経営してみて、結果的にいろんなことがあって、その時に、髙田延彦、鈴木健の気持ちがわかったっていう風に言ってたね。「自分でやってみて初めてわかった」って。それは前にタムちゃんも言ってたことがあって聞いたことがあるしね。

——田村さんもUインターを辞めてからジム経営を始めましたからね。

鈴木　その辺の話は、今度の本の中に、事実をいろいろ書いてあるから、読んでみてください（笑）。

——わかりました（笑）。

鈴木　田村潔司、そして山崎一夫に対しては、ちょっと厳しい感じで書いちゃったけどね（笑）。ただ俺は「大嫌いだ」って意味で書いたわけじゃなくて、事実を克明に書いただけであって、誰が好きで誰が嫌いだとかいうのは、いまでもないしね。みんな好きだから。それはホントそうなんだよね。

——ヤマケンは、しばらく試合からは遠ざかっていて、現在は武者修行中っていうことでしたけど。

鈴木　ウチの店に来たあとアメリカに格闘修行に行ったみたいだね。今回の『P

【写真上】こちらはUWF時代、鈴木氏が会長を務めていた「髙田延彦スペシャルファンクラブ」でのイベントのもの。よく見ると髙田だけではなく、前田、中野らの姿も【写真右】写真を見てビックリ！　キックの立嶋篤史と田村、鈴木氏のスリーショット。写真には写っていないものの、この日は髙田、山崎、宮戸、和田レフェリーたちとの大宴会が行われた【写真中央】こちらも「髙田ファンクラブ」時代の鈴木氏と髙田。会報には鈴木氏のイラストも満載で、いまみても十分に楽しめる【写真左】長きに渡って髙田の側にいた鈴木氏は当然、髙田夫人の向井亜紀さんとも旧知の仲なのだ。ふたりでポーズをキメた素敵なツーショット！　う〜ん、最強！

ボクの本の内容？　結果的には、かなり暴露本になっちゃいました（笑）

RIDE』出るのかな？

——どうなんですかね？

鈴木　いい身体してたよ。でもケガとかはしてるからね。ベンチプレスで180キロとか挙げて手首悪くしたとか言ってたしね（笑）。

——まあ、なんだかんだ言ってもヤマケンは、まだまだ年齢的には若いですからね（笑）。

鈴木　そうだよね。でも、もっと時間が経ってから、いつか来るかなって思ってたけどね、こんな早く来るとは思わなかった。

——しかも2日連続で来たみたいですね（笑）。

鈴木　そうそう（笑）。2日目は「鈴木さん、いま練習終わったんで、これから行っていいですか？」って言うから「おいでよ」って言ってね。正直言って嬉しかったよね。でも髙田さんは言ってたから。「健ちゃん、これから、どんどんどんどんみんな来ると思うよ」って。

——時間が解決するっていう部分もあるでしょうからね。

鈴木　時間が解決するっていうよりか、髙田さんは「みんな自分たちが体験して、経験して大人になって、わかって来るよ」って。正直言えば、自分は髙田さんでスタートして髙田延彦で終わればいいんだけど、そういう中で、やはり髙田さんを通して知り合った人たち、そして髙田さんの元に集まった人たち、そういう人たちとは家族のように永遠に、形は違っても一生仲良くしていきたいなって気持ちは当然あるしね。

——前回のインタビューでも予告してましたし、今日も何回か話に出てますけど、鈴木さんの本が髙田引退試合の前に、ついに発売されるということで、最後に宣伝でもしておきますか？（笑）。

鈴木　そうだね（笑）。

——前に言ってたのはタイトルは『悪魔の囁き』もしくは「天使の囁き」ってことでしたけど（笑）。

鈴木　そうだったんだけど、やはり、自分みたいなズブの素人が本を出して、最強のプロレス団体に入ってどういうことをやって、どういう結果が生まれて、どうなっていったかっていうところをみんなに伝えたかったから、タイトルは『最強のプロレス団体　UWFインターナショナルの真実～夢と1億円～』にしたの。

——夢と市屋苑じゃないと？（笑）。

鈴木　違う違う（笑）。UWFインターナショナルには、どういう心があったか、それをすべてではないけれども、すべてを書いたら、広辞苑10冊ぐらいなっちゃうからね（笑）。

——広辞苑10冊分ぐらいはネタがあるわけですか（笑）。

鈴木　全然あるよ。

——内容的に載せたくても載せられなかったっていう話もたくさんあるでしょうし。

鈴木　そうそう。ページ数に限りがあるし時間も掛かるからね。もっと知りたい人は、もしこれがたくさん売れれば第2弾、第3弾と出そうと思ってるんで買ってください（笑）。これを読んで、いま活躍しているUインター出身の選手達と、そして、いま隆盛してる『PRIDE』が生まれていった流れというか、最後は何だっけ？

——いや、まだ読んでないんで、ボクはわかりません（笑）。

最強のプロレス団体
UWFインターの
真実
～夢と1億円～
鈴木健
プロレス界にシュートした5年11カ月
"UWFインターの仕掛人"がすべてを明かした!!

この素晴らしい表紙（今号の『紙プロ』と同じ写真!）が目印の鈴木健、入魂の一冊『最強のプロレス団体　UWFインターの真実～夢と1億円～』（エンターブレイン）。「髙田延彦の内臓の中に入って書いた」と鈴木氏が自信を持って語る、最強のUインター本だ!　下の写真で、鈴木氏の隣に写っているのは今回のUインター本を一緒に手掛けた元『ゴング』等でも活躍した杉本氏。丸坊主姿の桜庭の姿も実に初々しい。ん～ッ、Uインター!

鈴木　まあ、自分が素人で苦労してきて、いろんな選手の生き様や、自分のUインターの中での動きっていうのをかなり細かく書いてるから、ホントに楽しく仕組まれてる本だと思うんだよね。書き終わったあとに読んでみたら、自分の本に引き込まれちゃって感激しちゃってね（笑）。

——自分で感激したんですか（笑）。

鈴木　あの時は凄かったなぁって頭の中で回想しちゃったからね。

——さすがに書きすぎちゃったかなって思う部分もあるんですか？

鈴木　いや、書きすぎちゃったなって思ったとこは直しました（笑）。

——あ、そうですか（笑）。じゃあ、結構無難な内容になってると？

鈴木　まあ、ちょっと危険な部分もあるけどね（笑）。

——前から、いわゆる暴露本にはしたくないって言ってましたけど、噂によると、かなり生々しい話も出てるみたいですからね。

鈴木　いやぁ～、結果的には、かなり暴露本になっちゃいました（笑）。

——アハハハ！　髙田さんの引退試合の前に読めば、今回の髙田vs田村戦の意味がわかるわけですよね。

鈴木　そうですね。読んでから観に行ったら闘いの意義もわかるし、また買い忘れた人は東京ドームの近くの本屋さんで当日山積みになってますんで、買ってください！（笑）。

——今度の『PRIDE23』前には、他にも髙田さん関連の本はかなり出るみたいですからね。

鈴木　あ、ホント？　まあ、自分の本は正直言って、18年間、ずっと髙田延彦の側にいた自分しか知らない真実の姿を書いてるからね。誰にもわからない髙田延彦、俺だけが知っている髙田延彦を克明に書いてあるから、他の本には負けないと思うよ。

——かなり期待して良さそうな内容になってるみたいですね。

鈴木　そうだね。自分で言うのも何だけど、間違いなく俺の本が一番面白いと思うよ。外側から見た髙田延彦じゃなくて、髙田延彦の内臓の中に入って書いたものだから（笑）。

——それは必見ですね（笑）。

鈴木　まあ、自分の本だけじゃなく、いろんな本も是非買って欲しいっていう気持ちもあるけど、髙田延彦とUインターの内臓を見たければ、自分の本を買ってください！

【02年11月2日／用賀『市屋苑』にて収録】

新日本、UWF、藤原組、そしてパンクラス。この男の考える理想の〝プロレス〟とは……

紙のプロレス RADICAL 初登場!!

「歳をとって、先輩たちがやってきたことがわかってきましたね」

鈴木みのる

『紙プロ』に横浜の風が吹きまくるぜぇぇぇ!
獣神サンダー・ライガー戦を間近に控えた鈴木みのるが、RADICAL初登場!
みのるのこれまでのプロレス人生を振り返ることによって、
この一戦から浮かび上がるみのるのプロレス観にあらためて刮目!
みのるが掲げる"理想のプロレス"とは何か?
新日本からUWFを経てやっと辿り着いたパンクラスのリング……。
みのるにとって一体、なにか?

聞き手/松澤チョロ　構成らしきこと/ジャン斉藤　撮影/丸山剛史
designed by matsu(Two three)

11・30横浜に〝風〟が吹く!
獣神サンダー・ライガーと激突!!

鈴木　『紙プロ』って取材受けた記憶がないんですけど、出たことあります？

――昔、一度出てもらってますけど、いまの判型になってからは初めてですね。それにウチは最近まで、パンクラスさんを取材できない状態でしたから（笑）。

鈴木　あ、もしかしていろいろと問題のある本なんですか？　じゃあ、ボクも気を付けないと（笑）。

――よろしくお願いします！（笑）。実際、鈴木さんはプロレス雑誌とかを読んでるんですか？

鈴木　パンクラスが旗揚げしたころは気になって読んでましたけどね。いまは悪口でもいいからいっぱい載ってる方がいいって思うんですよ。

――それはパンクラスがですか？　それとも鈴木みのるがですか？

鈴木　両方ですね。何も扱われないのが一番ダメなんですよ。ブーイングでもいいからお客さんが声を出すような試合をしなくちゃいけないのと一緒で。だから話題をいっぱい提供したいなというのはありますね。だから、欠かさず見てるのは釣りの本とか『サンデー』とかね（笑）。

――釣りか『サンデー』（笑）。釣りの本って結構種類は出てるもんなんですか。

鈴木　結構出てますけど、ボクが買ってるのは凄いマニアックな偏屈が読むようなヤツですね。

――マニアックで偏屈な釣り師ですか（笑）。この間、『格闘Xパンクラス』で放送された、髙阪選手との釣り対決はかなり面白かったですよ。

鈴木　髙阪とは、彼がリングスにいた頃から「釣りに行こうよ」っていう話をしてて、なかなか時間が合わなかったんですけど、やっと実現したって感じですね。

や髙田さん……もちろん前田さんも入るし

――釣りにはどれぐらいのペースで行かれてるんですか？

鈴木　それが悩みどころなんですよね。凄く釣れるいい時期に、試合があったりして「どうしよう？」ってことがありますからね。去年は毎月試合をしたんですけど、試合が近くても結構釣りには行きましたね。

――酒好きな選手は、試合が近くても飲む人は飲みますしね。

鈴木　ボクの場合、飲みとはまたちょっと違うかもしれないですけどね。パチンコが好きなのとあんまり変わらないんじゃないですか。

――飲みといえば、パンクラスの忘年会で「鈴木さんは凄かった」という話を聞きましたけど（笑）。

鈴木　バカ飲みは、最近だとそれぐらいですね。ピーズラボの会員さんたちも集めて道場でやるんですけど、たった3千円で吐くほど喰えますからね（笑）。

――酒を飲まずとも吐けますか（笑）。やっぱり、ホントのバカ飲みをしてたのは新日本時代まで遡っちゃうわけですか。

鈴木　昔は凄かったですよ。

――後藤達俊さんの家で飲んでて、鈴木さんが酔っ払って大暴れしたと、なんかで読みましたけど（笑）。

鈴木　いや、あれはですね、正確に言うと暴言を吐いたんですよ。酔いにまかせてヒドイこと言った気がするなぁ（笑）。

――内容は覚えてないと（笑）。

鈴木　UWFのときは飲まされるのが多かったですね、髙田さんに（笑）。

――髙田さんの酒豪振りは、あらゆる伝説になってますよ（笑）。

鈴木　髙田さんは凄いですよ!!「飲みに行こうよ」って誘われて付いていくと、大体ツブされますね。

――完膚無きまでにやられますか（笑）。

鈴木　なぜか最後は安生さんと肩組んでカラオケを歌ってたるんですよね（笑）。

――気がつくと、すでに髙田さんはいないわけですね（笑）。

鈴木　そうそう。「あれ？　髙田さんはもう帰っちゃったよ」みたいな（笑）。

――その髙田さんが今度の『PRIDE.23』で、引退試合を迎えるわけですけど、正直どう思われますか？

鈴木　「お疲れ様でした」しかないですよね。ボクなんかが余計なことを言うと、髙田さんがやってきたことが安っぽくなっちゃいますからね。

――対戦相手の田村さんとは鈴木さんもいろいろ接点はあったわけですけど、単純に髙田vs田村戦ってどう思いますか。

鈴木　過去にあった問題というのはボクは全然知らないじゃないですか。ただ、雑誌とかから入ってる情報だけで考えたら、最後に田村を指名するっていうのは髙田さんらしいと思いますね。

――鈴木さんが知っている髙田延彦らしい選択だと？

鈴木　そうですね。自分たちがパンクラスというものを作ってやってますけど、その前にやっぱりUWFというものがありましたよね。その扉を作ってきた先輩たちが佐山（聡）さんであったり藤原（喜明）さんであったり、そこに髙田さんも入るし、もちろん前田さんも入るし……。先輩たちがやってきたことが、最近わかってきましたよね。自分が歳とってきたこともあるけど（笑）。

――やっぱり若いときは反発じゃないですけど……。

鈴木　（遮って）いや、若いときは「そんな扉、早く開けちゃえよ！」って思ってて（笑）。パンクラスをスタートしたのはボクが23とか24歳ですからね。まあ若さゆえの暴走ですよ（笑）。

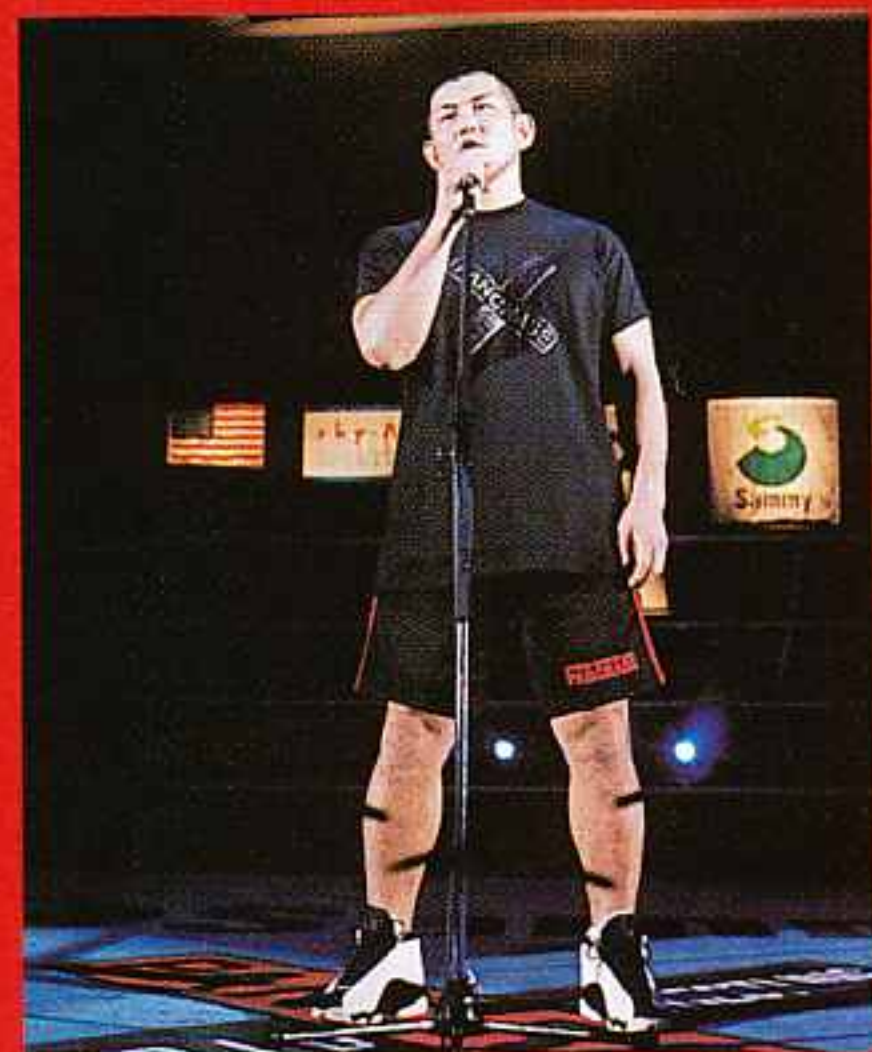
――新日本を辞めた直後の『週プロ』で、鈴木さんのインタビューが3週に渡ってありましたけど、内容的にかなり凄いこと言ってましたね（笑）。

鈴木　う〜ん（腕組みをして考え込む）。

超省略版

みのるvsライガー戦決定までの流れ

新日本前座時代、将来メインの対戦を約束したみのると健介。5・2新日東京ドームの30周年セレモニーに登場したみのるに、健介が接近したことで現実味をおびてきた。

一時は試合がほぼ決まりかけていたが、健介が乱闘でケガを負ったため延期に。ヴァーッ！　そして怒りの獣神が代打として名乗り上げた！　みのるは、この日は返事を保留。

当初は健介が来場予定であった9・29パンクラス文体。「佐々木健介に関してですが、男の男の約束は守れよな！」とマイクアピールをしたあと、対戦を表明したライガー戦を「パンクラス・ルールでやります！」と受諾した。

一方の健介は「大好きッ！」と新日本に辞表を提出！　次回リングに上がるときは「みのると必ずやる」らしいです。健介の復帰は、メガトン級のマグマが吹き出すぞ！　ヴァーッ!!

——記憶にないですか（笑）。「武藤さんとスパーリングをしてても極められなくなってきて、他の人に頭を下げてお願いしても誰もスパーリングをやってくれなかったのが嫌だった」とか、実に鈴木さんらしいことを言ってましたよ（笑）。

鈴木　え、そんなこと言ってました？（と、資料として持参した当時のインタビューを見て）懐かしいヤツを掘り出してきますねぇ。でもね、この頃は凄い虚勢を張ってますよ（笑）。

——やっぱり若さゆえの暴走ですかね。

鈴木　不満が一気に爆発したんじゃないですかね。それを引き出したのがターザン（山本）だったと思いますけど。

——あ、ターザンに引き出されてしまいましたか（笑）。

鈴木　それ、インタビュアーはターザンじゃないですか？

——いや、インタビュアーは安西（伸一）さんですけど、「新日本のどこが気に入らないの？」って聞かれて「トップの人が練習しないのが一番嫌だ」とか言い放ってますよ（笑）。

鈴木　アハハハ！　でも、それは確かに嫌でしたよ（笑）。でもいまになって考えてみると、そんなのできるわけがないんですよ。40、50になって練習なんてね。

扉を作った先輩たちが、藤原さんや髙

——普通に考えれば、そうですよね（笑）。でも、自分が若いころにそういう発言をしたこともあって、パンクラスの下の選手にそう思われたくはないでしょうね。

鈴木　それは嫌ですね！

——いまは上からガミガミ言う人はいないでしょうし、自分のペースでできるからなおさらですよね。

鈴木　そうなんですけど、昨日、船木さんが他誌の取材で道場に来て、ボクの臨時コーチをしてくれたんですよ（笑）。

——それはライガー戦に向けてということですか。

鈴木　そうですね。船木さんも久々に練習を見たいということで、（リングを指し）そこで久々にイジメられました（笑）。

——ライガーさんもそうですけど、新日時代の船木さんは後輩に対する、〝かわいがり〟が凄かったみたいですね（笑）。

鈴木　いや、あの2人のは、かわいがりじゃなくてイジメです！（キッパリ）。

——そうでしたか（笑）。鈴木さんも、2人には、かなりイジメられたと？

鈴木　いや、ボクは一緒になって遊んでましたけどね（笑）。「こんなことにも耐えられないんだったら厳しい世の中に耐えていけないぞ」っていう風にボクは受けとってましたからね。

——プロレスラーとしてデビューするからには、そういう世界をクリアしなきゃいけないみたいな感じで？

鈴木　そういう考え方はボクも嫌いじゃないですけどね。やられるのは嫌いだけど（笑）。

——まあ、普通はそうでしょうけど（笑）。

鈴木　ボクなんか一番下だからタニマチの所に連れてってもらうと、「コイツ、凄い飲みますからね」ってドンブリに酒を入れられて飲んだり、鯛を一匹丸ごとお造りにしてもらって「コイツなんか、これ3匹は喰っちゃいますから、社長喰わしてやってくださいよ」って、喰いたくもないのに3匹喰ったりとかね（笑）。

——道場の前で酔い潰れて寝てたところを、ライガーさんと船木さんに引きずられて、新品の皮ジャンをボロボロにされてこともあったみたいですね（笑）。

鈴木　ありましたねぇ（しみじみと）。朝、目が覚めたらテーピングで目隠しされてて、何も見えないんですよ。なんとかハズしたら素っ裸にされてて（笑）。

——気が付いたら全裸ですか（笑）。

鈴木　手と足をテーピングで縛られて、トップロープに引っ掛けられて素っ裸で吊されてましたからね（笑）。

船木さんが「この団体では、これとこれが抗争してて」とか解説してくるんですよ

―アハハハ！　そこまでされて気づかないほど泥酔してたんですね（笑）。

鈴木　よく見たらチンポコにもテーピングされてましたからね（笑）。

―アハハハ！　手が込んでますね（笑）。そんな、かわいがりを受けても鈴木さんは、ライガーさんがカナダに遠征行く前に「寂しいじゃないですか！」って号泣したらしいじゃないですか。

鈴木　やっぱり同じ感覚の人が他にいなかったんで。先輩のご機嫌を伺ってばっかりの人もいたし、そういうの凄いイヤなんですよ。そんな強かったらいいじゃんって気持ちがありましたからね。

―プロレスラーだったら強ければ何をやっても許されると？（笑）。

鈴木　ホントそんな感じでしたよ。新日本で船木さんに出会って「若手でもこんなに強いんだ！」って感動した自分がいるわけじゃないですか。あと藤原さんとか。でも、そうじゃない人もいるわけで、そのギャップに失望感がありましたね。

―鈴木さんもいまとなっては「UWFがなかったらパンクラスは生まれなかった」って言ってますけど、UWF時代は「こんなはずじゃなかった」「格があるのは良くない」と言ってたこともありましたし、UWF時代でも失望感を感じたこともあったわけですよね。

鈴木　ありましたねぇ（苦笑）。

―その後の藤原組でもですか？

鈴木　「藤原さんだけは違う」って思ってたのに「何だ、結局同じじゃねぇかよ」って。それが藤原組で上手くいかなくなった原因ですね。それで藤原組にいたときは凄い迷惑をかけたと思いますよ。

―同じことの繰り返しだったですね。鈴木さんもライガーさんも藤原教室出身なので、藤原組長にこの試合のコメントを求めたんですけど「他人のことはどうでもいい。ノーコメント！」っていう暖かいお言葉をいただきました（笑）。

Suzuki

鈴木　……ありがとうございます（笑）。

―鈴木さんにとって組長っていうのはオヤジみたいな感じなんですかね。

鈴木　やっぱり、いまボクが人に教えている技術とか、自分の身体に染み付いてるものは藤原さんから教わったものが一番大きいですからね。

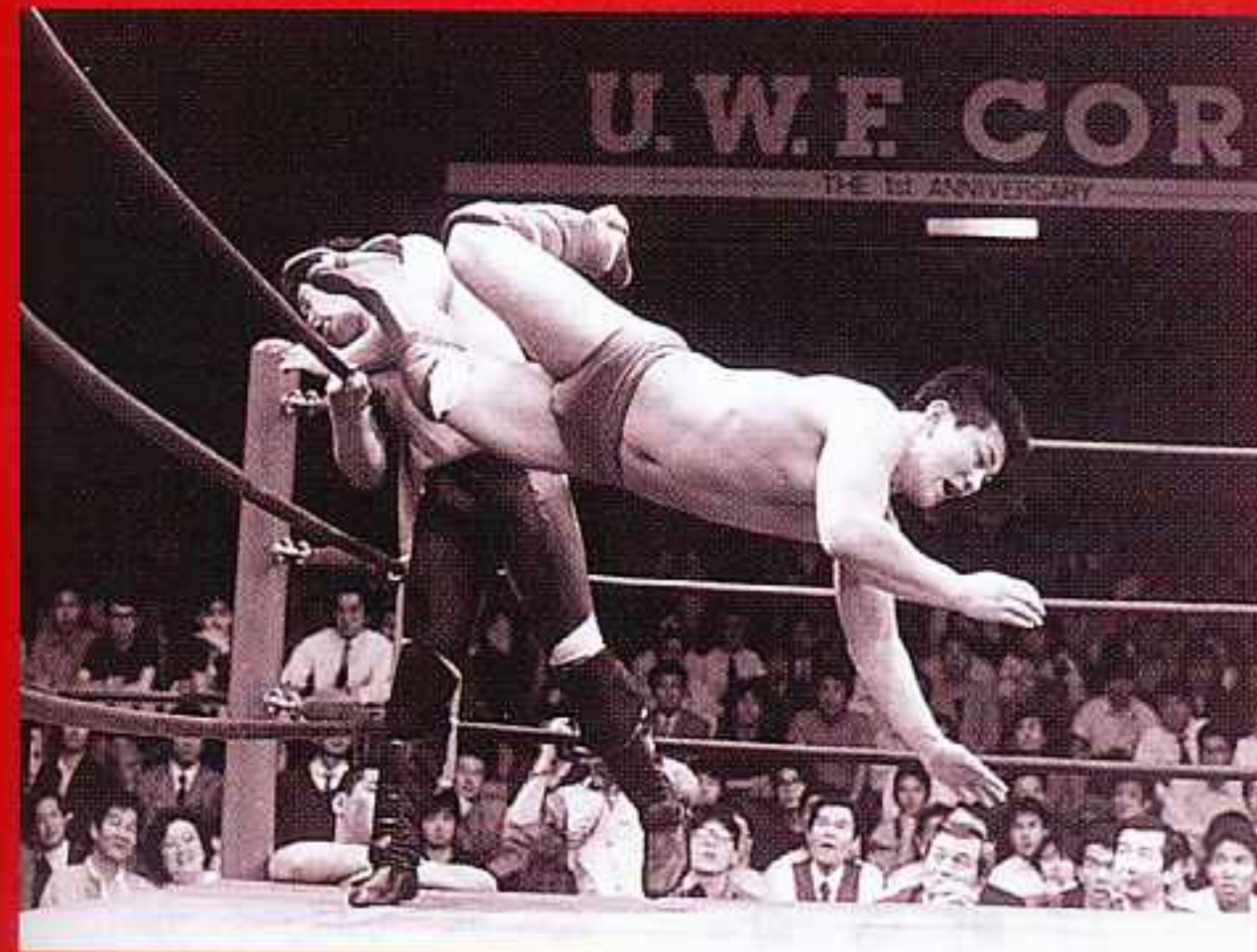
―髙田さんが「UWFで培ったものでは技術的にはバーリ・トゥードには通用しなかった」っていうことを言ってたんですけど、鈴木さん的にはどうですか。

鈴木　やっぱり時間が経ったことで、いまは競技化されてますからね。だけど当時は紛れもなく最先端でしたからね。

―練習では最先端のものを身に付けられても、それがなかなか試合では発揮できない環境にあったんで、常に不満を吐き出してたんでしょうね。

鈴木　たぶん、力がないから口で言うしかないんですよ。チャンスを貰えない、実力を発揮する場面も貰えない。だから口で攻撃してたんですよ。当時の現状の中ではなかなか上にいけないっていうジレンマ……って言っても新日本には2年ぐらいしかいないんだから、気が短いんですけどね（笑）。

―さすがに当時キャリア2年ぐらいじゃ、強さに自信があったとしても簡単には

パンクラスにたどりつくまでの みのるの歴史

UWFでのデビュー戦の相手は安生洋二。しかし、理想のリングだったはずのUWFにおいても、膨らんでいた期待は試合をこなせばこなすほど、失望に変化。インタビューなどで不満を口にするようになった。

円満退社という形で新日本プロレスを離れ、新生UWFに移籍したみのる。移籍第一戦となった89年4月に行われた後楽園大会では、入場式の挨拶を任された。それほど注目されていたのだ。

89年3月15日、念願の猪木戦を実現させたみのるだが、試合を終えるとその憧れはいつしか失望に変わっていた。みのるの闘いに対する情熱は、猪木ですらも受け止められなかったのだ。

上に行けないでしょうからね（笑）。

鈴木　歳取ってから気づきました（笑）。でもUWF、藤原組も短かったから、よっぽど気が短かったんでしょうね。あと、あの頃は鼻も高くなってただろうし。

──わかる人には評価されてるという部分でですか。

鈴木　いや、チヤホヤされ始めてその気になってるっていう鼻の高さですね。でも、だから自分の思いも伝えることもできたし、衝突もできたんですよ。衝突したことは経験値として自分の中に凄く大きなものとしてあるんで、いま考えるとすべて良かったんだと思ってますよ。

──当時から「猪木さんと闘って失望した」とか、トップに対しても正面向かって言ってましたからね（笑）。

鈴木　いや、この当時の自分にまたムカツクんですよ。要するに知り合いのライターさんにグチ言ってるだけじゃんって（笑）。直接、猪木さんに自分の思いを伝えたのはUWFに移籍するときだけだったと思いますしね。「俺の話を聞いてみないか？」「世界格闘技ナントカ」とかって言い始めたときに。

──あ、鈴木さんも世界戦略をレクチャーされましたか（笑）。

鈴木　はい（笑）。そのときに「申し訳ありません。凄く興味はありますけど、ボクの意志はもう変わりません！　それでいいんだったら聞かせてください」って言ったんです。そしたら「もういい」って言われました（笑）。

──テメエはそれでいいや、と（笑）。

Minoru S

鈴木　まあ、ボクの方からその当時に世話になったと方いうか、迷惑をかけた先輩たちにはいまはもう何も言えないっていう感じですよね。本気で全員に感謝してますから。

──前田さんともいろいろありましたけど、最近は釣りをしてることが多いみたいなんで、それこそ釣りしててバッタリ会うかもしれないですね（笑）。

鈴木　会うかもしれないですね（笑）。

──で、間近に控えたライガー戦の話に移りたいんですけど。その前に、鈴木さんはいまの新日本プロレスをテレビなり何なりで見たりはするんですか？

鈴木　たまに見ますけど、船木さんの方がよく見てますよ。船木さんは、全団体見てるんじゃないですか？

──え!?　全団体ですか？（笑）。

鈴木　展開を解説しますからね。「何とかっていう団体では、これとこれが抗争してるね」とか言ってますから（笑）。

──そうみたいですね（笑）。鈴木さんが主にチェックするのは、どういった団体なんですか？

鈴木　『PRIDE』でもK―1でも、テレビでやってて「見たいな」って思うときは見ますね。団体っていうより、この試合が見たいって感じで。「（ジョーニー・）ローラーは誰とやるんだ？」と思ったときは、たまに見たりするし（笑）。

──あら、爆乳戦士まで（笑）。で、どうですか、鈴木さんから見たローラーは？

鈴木　新日の（5・2東京ドーム）会場で会ったことがあるんですけど、デカイですよね。ちょっとビビリましたよ（笑）。

──船木さんは新日本でローラーが一番頑張ってる。あの姿勢はウチに限らず、見習ってほしいと感心してましたけどね（笑）。でも、昔の新日本の考えでいったら「女とやるなんて」というのが当然あるとは思うんですよ。橋本さんにもこないだ話を聞いたら「俺には理解できん！」って言ってましたから。

鈴木　たぶん（山本）小鉄さんが女子プロのコーチをしたりしてから変わったのかもしれないですね。

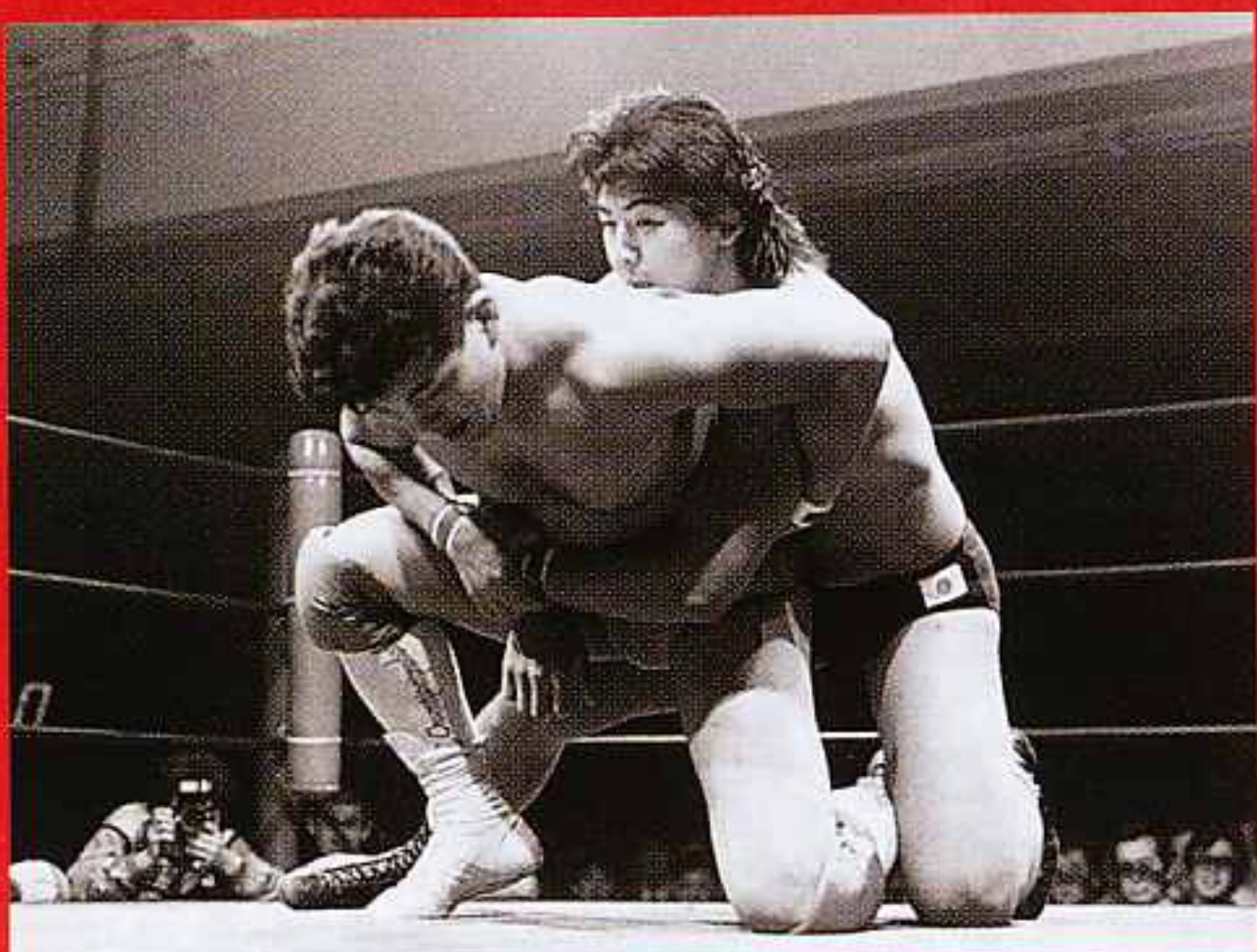
──あぁ、小鉄さんはジャパン女子のコーチをしてましたからね。

鈴木　でも、それまでの「プロレスは男がやるもんだ」というのも小鉄さんが作ったような気がするけど（笑）。

──小鉄さんの心境の変化が新日イズムを変えていったんですかね（笑）。そういえば鈴木さんは、ライガーさんに対して「最後の新日イズムを感じた」って言ってましたよね。あれは、どういう意味で言ったんですか？

鈴木　ボクが憧れた新日本っていうものがあるんですけど、それをライガーはいまも持ってるなって感じたんですよ。

──新日本に対するこだわりというかプライドというか。

鈴木　マスクを付けてるから余計に感じますね。普段はお客さんを楽しませるために試合をしているけれど、（胸を指して）ここにいつも刀を持っていていつでも出せるようにしている人が、昔ボクが入った頃の新日本プロレスではほとんどだったし、それが本物のプロレスラーだっていう感じがするんですよね。

新生UWFでは発言のみならず、試合内容でも波紋を起こしていたみのる、船木の両雄。2人は、藤原組を経て、パンクラスに辿り着くことになる。船木が引退したいま、ミスターパンクラスはみのるなのだ。

田村潔司のUWFデビュー戦の相手を務めたのは鈴木であった。一時期、UWFルールでの対戦が噂されたが、その可能性はあるのか!?　高田vs田村に続いて、夢の一戦は実現するか!?

新日時代から変わらぬ信頼をおいていた船木、藤原組長。新生UWFみのるが分裂後には、船木と共に藤原組に走ることになる。しかし、藤原組でもそのイラ立ちは変わらず、またも飛び出すことになる。

プロレスルールをやるんなら、パンクラスを辞めてやってほしい

——逆にいまのパンクラスに対して、何か足りない部分を感じてないですか？　船木さんも「鈴木は、いまのパンクラスが忘れかけているものを試合を通じて見せようとしてるんじゃないか」って言ってましたし、鈴木さんの方も「俺がパンクラスを本腰入れて面白くしていく」っていうことを言ってましたよね。

鈴木　さあ……。

——あれ、これもわかんないですか（笑）。ある意味、「下の選手たちも、もうちょっと意識を変えてやっていけ」というメッセージとも受け取れますけど。

鈴木　だから、口だけのメッセージはもういいんです、面倒臭いし（苦笑）。それは試合で伝えていかなければいけないと思いますから。試合で見て感じたものは言葉なんていらないですもん。言葉に出したら、きっと安っぽい言葉でしか並べられないと思いますよ。

——リング上の試合から感じてくれと？

鈴木　俺から発するんじゃなくて、みんなが自由に見ることができて、なおかつみんなを満足させるのが理想ですね。でもそんな夢のようなことができるんですかね？（笑）。

——鈴木さんは「俺ならできる」と思ってるんじゃないですか？（笑）。鈴木さんの人生設計によると、すでにベルトを巻くことは決まってるらしいですし。

鈴木　その発言は、新日のときの虚勢を張ってる自分と一緒ですよね（笑）。

——テレビ東京の『格闘Ｘパンクラス』での発言だったんですが、テレビ用のリップサービスというか（笑）。

u Suzuki

鈴木　そうですね。カメラが回ってたから、お調子者なんで言っただけですよ。

——でも、鈴木さん絡みの夢の対決が噂されては流れることが多いじゃないですか。健介戦も延期になっちゃいましたし、去年、健介さん以外にも闘いたい相手に挙げた、橋本、田村戦も難しそうですし。

鈴木　その3人は、とりあえず名前を出しときましたって感じですよね（笑）。

——とりあえずでしたか（笑）。でも、田村さんは、あまりやる気がないような発言をしてましたけど。

鈴木　う〜ん、でも会って話をしたときに「手がまだ治らなかった」っていうのを言ってたんで。

——この間の美濃輪戦で鈴木さんがセコンドについて、リング上で一瞬、田村さんと向かい合ったとき「見たいな」って思いましたからね。

鈴木　そうですか！　もう1回考えちゃおうかな。金になります？（笑）。

——なると思いますよ（笑）。橋本さんも『真撃』という舞台があったからパンクラスとの接点もあったと思うんですが、正直、橋本さんがパンクラスマットにっていうのは、あまり想像できないですからね。かなり見たいですけど（笑）。

鈴木　もちろん考えられないですよ。

——となると橋本戦は、やっぱり無理なんですかね。

鈴木　でも橋本さんとは機会があればやっ

ライガー、そして、みのるにゆかりの深い2人に聞く

鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー！

喧嘩の展開になったら、ライガーが爆発します！

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

これは面白そうだねぇ！　ライガーはプロレスに残ったけど、格闘技色が強い選手でしたからね。その格闘技の範疇を超えて、ストリートファイトでも強くなければならないというハート持ってましたね。船木選手や鈴木選手と違うのは彼らは格闘技は好きだけど、ライガーは町とかでナメられたらやっちゃうよと。有事の際にはやる覚悟があるんですよ。

ライガーはウチ（骨法）に来ていたからわかるけど、ものすごい爆発力があるんですよ。身体は小さいけど、身体の大きいプロレスラーより瞬発力はありますよ。しかも、彼は頭がキレて、「コンニャローッ！」となったときに爆発するんですよね。危機に陥ったときや怒ったときに、凄い力を出すんですよ。自分が追い込まれたときや、キレた状態での計算外の力が凄いんです。肉体的なことは鈴木選手には劣ってないんですし、鬼気迫るかんじでメチャクチャガーッと攻めれば、鈴木選手がやられる可能性がありますね。鈴木選手は新日本をやめて、UWFとかやってライガーと比べて技術はあると思うんですよね。でも、喧嘩みたいな展開になったらライガーが強いと思うんですよ。殴り合いみたいなことになったら、鈴木選手は負けますよ。肉体的と精神的にライガーは強いですから。ただテクニックな試合になったら鈴木選手ですね。だからファーストコンタクトでガーッと行くか、それとも綺麗に技術で向かっていくかで試合の流れはまったく変わってきます。だから、ライガーからすれば、鈴木選手が汚いことをやるぐらいのほうが、精神的にキレるからいいかもしれないね。ライガーは頭がいいから、そういうことを考えて試合に臨むかもしれないです。

でも鈴木選手もライガーの人格を知ってますから、警戒して臨むでしょ。ナメては絶対いかないですよ。ライガーがキレたら危ないのは知ってますから。ライガーの爆発力には用心しながら闘うと思います。

ライガーのパワーと瞬発力は本当に凄い

——アポロさんと過去に何かと接点のある鈴木みのる選手とライガー選手の対戦が決まったんですけど、コメントをいただけますか？（笑）。

アポロ　また、そういう時だけ、人に話聞きに来るんだから（笑）。

——すみません（笑）。

アポロ　その2人だったら、どう転んでも面白い試合になりますよ。でも、ルールは何ルールなの？

——パンクラスルールでやるみたいですね。

アポロ　だったら鈴木選手の方が有利なような気もするけど…でもライガー選手のパワーと瞬発力ってホント凄いからね。

——ライガーさんと闘ったことありましたっけ？

アポロ　直接はないんだけど、ボクが新日本に出させてもらってた時よく試合前の練習とか見てたからね。でもやっぱり2人とも30過ぎて、いまが一番脂が乗り切ってる時だから、間違いなく素晴らしい試合になると思いますよ。

【10・1／IWA代々木大会にて収録】

SWSでみのると
"不思議"な試合をした男
アポロ菅原

Minoru Su

てみたいですね。「SAMURAI!」かなんかの対談でたまたま司会だった勝俣（州和）さんが「やらないんですか？ やったら見たいな！」って言ったのにボクが「いいですよ」って言ったのが広がっていっただけの話なんですよ（笑）。

――それもリップサービスですか（笑）。

鈴木　そうですね（笑）。よくファンの人が友達と「夢のオールスター」とか言ってカードを出し合うじゃないですか。あの感覚ですね。だからそのときにいつ誰とでも闘える準備はしておかなければいけないなって思うんですけどね。チャンスを逃したらないですし、ライガーとは間違いなく2度とないですからね。それにパンクラスというもの以外では闘えないですから。

――「パンクラスルールでしか考えられない」ってよく言ってますからね。

鈴木　こだわりですから。

――逆に言うと、『DEEP』とかは別にして、他の団体に上がるのが嫌なんですか。

鈴木　パンクラスの鈴木みのるであればボクはいいんですけどね、他の団体でも。ただ、いままで外とはゴチャゴチャモメることもたくさんありましたからね。自分から仕掛けたのかもしれないですけど、ただ自分から仕掛けたっていう記憶はいまだに一つもないんですよ（苦笑）。

――鈴木さんからすると、いつの間にか巻き込まれたって感じなんですか（笑）。

鈴木　根本的に「鈴木は生意気だから潰したい」っていうのがあると思うんですよ。アポロ菅原さんとか昔、そういうグチャグチャになっちゃった試合もあったし、UWFでもあったし、藤原組時代も外人選手と裏でゴチャゴチャあったし。

――いろいろとあるんですねぇ（笑）。

鈴木　いろいろありましたよ。そんな経験をしてまで作った、パンクラスという自分たちの理想のプロレスのスタイルは絶対、捨てられないですから。

――でも、鈴木さんの意志とは反するかもしれないですけど、個人的には謙吾さんのプロレスルールの試合は是非見てみたいですね。

鈴木　もし謙吾がプロレスルールをやるにしろ、（パンクラスを）辞めてから行って欲しいですね。

――それこそ使い分けるっていうのはダメなんですか？

鈴木　ボク自身の頭の中にその柔軟性がないんで。ただ謙吾はそういうつもりはないだろうし、そういう選手がもしいるんだったらとりあえず辞めてから行くべきですね。パンクラスの名を背負っていくんならここで一緒に俺と両手で支えて欲しい。他のことがやりたかったら他のところに行った方がいいですよ。

――鈴木さんの中では理想のプロレス＝パンクラスっていう感じなんですね。

鈴木　ただプロレスというのはいまはたくさんありますから。マスクマンの国があったり、違う地味なスタイルがあったりする国もあったりするわけじゃないですか。だからそれは否定も肯定もないじゃないですか。ただ、俺のプロレスはパンクラスなんです。船木と鈴木と何人かの小僧と作ったのがこれなんですよ。あのときの気持ちはやっぱり大事にしたいですからね。

――そこの部分はいつまでたっても突っ張ってというか、若い頃の気持ちのままなんですね。

鈴木　ボクのいままでやってきた15年のプロレスっていうものを、ここで表現できたらいいなって思いますね。

【02年11月7日／パンクラス道場にて収録】

今年はキャッチレスリングに出場する機会が多かったみのるだが「来年はパンクラスルールでドンドンやる」と宣言した。ライガー戦に続いて、夢の対決の実現に期待しよう。ちなみにテレ東「格闘Xパンクラス」では、先日、謙吾を破壊したロン・ウォーターマンを希望。階級を超えた闘いにも意欲をみせている。

赤いパンツ（“田村潔司”）の遺伝子が格闘最前線に躍り出る!!

12・8『DEEP』迫る！ 再び全員勝利で飾れるか!?

U-FILE CAMP.COM

聞き手／松澤チョロ
構成／ジャン斉藤
撮影／松本 崇
designed by matsu(Two three)

9·7『DEEP』では、メイン登場の師・田村潔司に勝利のバトンを渡すが如く3連勝をはたした上山、長南、大久保のU-FILE戦士たち。田村も美濃輪に横綱相撲で完勝。U-FILE大躍進の一日となったのである。今回はその原動力となった3人の素顔に迫り、戦いに懸ける思いを語ってもらった（回答があやふな選手がいることを御了承ください）。

『DEEP』ミドル級チャンピオン
上山龍紀

U・FILEの番長
長南亮

“逆”IQレスラー
大久保一樹

上山龍紀
長南亮
大久保一樹
U-FILE CAMP

――さて本日は、ここ最近活躍がめざましいU―FILEの若手3人にお集まり頂いたんですが、呼んどいてなんですけども、皆さんの仲は、いいんですか？

上山　仲はいいですよ。プライベートでも遊んでいますし、大久保ちゃんの恋愛相談も聞いてますしね（笑）。

大久保　あ、それは、いや……（汗）。

――恋話もする仲なんですか（笑）。

長南　それが、らちがあかないんスよ！（大久保を指差し）自分のレベルがわかってないくせに、女のジャッジが厳しいんですよね。どう見てもカワイイ女の子でも「下の中」とか言いますからね！　オマエが言うなと思いますよ（笑）。

――長南さんは『紙プロ』初登場になりますけど、いきなりトバシますね（笑）。大久保さん、実際のところ女の子を見る目は厳しいんですか？

大久保　ジャッジ大久保と呼ばれてます（ちょっぴり胸を張って）。

――U―FILEには府川（唯未）さんや女の子のジム生もいますけど、ジャッジ大久保の採点はいかがでしょう？

大久保　そ、それは、ノーコメントで。

上山　大久保ちゃんはクリスマスのことで頭がいっぱいなんですよ（笑）。

――あ、特別な人がいるわけですか（笑）。

大久保　い、いないですよぉ。……ボクは「SPEED」の「white love」を聞きながらベンチプレスをやるだけです（なぜか満足げ）。

上山「来年こそ、来年こそぉ！」って言いながらやってると思いますよ（笑）。

大久保（両手でバッテンを作り）も、もうこの話はオシマイ（恥ずかしそうに）。

――それじゃ話を変えますけど、大久保さん、撮影用にお願いしてたアイアンマンベルトはどうしたんですか？

大久保（突然、挙動不審になり）あ、あ、こないだの『DEEP』の記者会見のときに一宮（章一）さんに「ちょっと使うから」って持ってかれちゃいました。

いまだに田村さんには、「はい」「すいません」しか言えないです

え、あ、田村さんは面白いですし、楽しいときもあります……。

田村さんに「U-FILEの番長」と名付けられました

――あ、前王者の一宮さんに。アイアンマンベルトは24時間いつでも闘うルールですけど、マスコミが知らない間に防衛に失敗したわけではないんですね？

大久保　ち、違うと思いますけどぉ。どうなってんでしょうねぇ……謎です。

――謎ですって、大久保さんが王者じゃないですか！（笑）。

上山（子供をかばうように）大久保ちゃんは何も考えてないんですよ。チャンコ作るときも白菜を2分の1に切ってナベに丸ごと入れたり、ニラなんか全然切らないで、そのまま入れてパスタみたいにしちゃうんですから（笑）。

大久保（ムキになって）い、いや、ニラは違いますよぉ……ニラは‼

――白菜はホントなんですね（笑）。

大久保　やっぱりチャンコは「ドンドーンッ！」って感じですからねぇ（微笑）。

長南　全然、意味わかんねえよ！（真顔で）大久保ちゃんはIQが低いんスよね。逆IQファイターっていうか（笑）。（店員に向かって）あ、大生ください！

――あ、もう飲み干したんですか。

長南　グッフッフッ！　オレ、試合の二日前まで飲んでますからね（笑）。

上山　酔っぱらうと急変しますからね。ちょっと前に路上で女の子をテイクダウンして、腕十字を極めてましたから（笑）。

――まさに路上の王ですね（笑）。長南さんは田村さんから「U―FILEの番長」とネーミングされてますけど、昔は相当なワルだったんですか？

長南　ケンカは強かったですけどね（自信たっぷりに）。でも不良じゃないですよ。

――当然、武勇伝とかたくさんあるんですよね。

長南　ここ最近だと、地元のバーのカウンターで飲んでたら、いきなり後ろから襲われたんですけど、二度とそんなことしないようにしっかり制裁しときました（平然と）。

――お疲れさまです（笑）。襲われた理由に何か心当たりはあるんですか？

長南　ん〜、何だったんでスかね？　よくわかんないですけど、まあ、オレは悪くないです。正当防衛ですから。

――ケンカが強い人は大抵「相手が悪い」って言いますからね（笑）。先輩の上山さんから見て、長南さんの入門当初って、どんな印象があります？

上山　とにかく目つきが危なかったですね。一言で言えばチンピラです（笑）。長南の家に遊びに行ったら彫り師の人がいて、刺青を彫ってる最中なんてこともありましたね（笑）。

――そんな現場に遭遇しましたか（笑）

上山　滅多にできない経験です（笑）。

長南　オレ、左肩に雷神を入れてるんですけど、実は足にも「U」って入れてるんですよ。UWFとかに憧れて格闘技を始めてそれでいろんな人を知り合えたんで、その思いを大事しようと思って。

――その辺は、U―FILEらしいですね。上山さんもUインターに所属していたこともあって、"U"に対する思い入れは人一倍あると思うんですけど。

上山　それはありますね。

――今度の田村vs髙田戦には、どういう思いがあるんですか？　昔は髙田さんの付

き人もしてたみたいですしね。
上山　複雑ですよね……。
——どっちのセコンドに付くか悩んでるとか？（笑）。
上山　いえいえ、それは田村さんです！
——ですよね（笑）。でもマジメな話、髙田vs田村は実現すると思ってました？
上山　実現しないと思ってましたね。でも、田村さんが髙田さんのことをキライだったら、ソッコーで「OK」の返事すると思うんですよ。
——実際、そう言ってましたね。
上山　田村さんは迷っていたと聞いてたんで、嫌いじゃないんですよ。ボクは髙田さんとは宮戸さんの結婚式のときに久しぶりにお会いしたんですけど、田村さんのことを心配されてましたし、周りが言うほど嫌い合ってないと思います。
——上山さんは田村さんの初代付き人として、昔は、とにかく怖い人っていうイメージだったみたいですけど。
上山　いや、いまでも怖いです（微笑）。やっぱりUインターからのイメージがありますから、いまでも「はい！」「すいません！」しか言えないです。大久保ちゃんがたまに田村さんに話しかけるの横から見てたりするんですけど、変なこと言わないかビクビクしてますよ（笑）。
大久保　いやあ（照）。
——上山さんはUインターでプロレス式の団体生活を送ってきたわけですけど、やっぱりジムでの指導方法は、かなり違うわけですよね？
上山　そうですね。練習内容とか上下関係はかなり違いますね。
長南　上山さんは本当に優しいですよ。誰とでも気さくに喋るし、自分がやられたらイヤなことは絶対しない人ですからね。
上山　まあ、自分が新弟子のころのことをいまやったら、みんないなくなっちゃいますし（笑）。いまの若い子は厳しくすると、すぐいなくなっちゃいますからね。

やってみたい相手だったら、体重差とかも気にしないです（上山）

——厳しいといっても、Uインターのときと比べたら……。
上山　かわいいもんですよ（微笑）。Uインターの新弟子時代は練習中に水が飲めなかったんですよ。だから、隠れてトイレの水を飲んでましたから。
——エッ!!　トイレの水をですか!?
上山　桜庭さんも飲んでたらしいですよ。人間って極限状態になると便所の水でも飲むんだなって思いました（笑）。ただ、その便所すら、なかなか行けるような雰囲気ではなかったですけど。
——先輩たちの視線が痛いと（笑）。大久保さんはUWFに対する思いはないんですか？
大久保　いや、ボクは新日マニアだったんで（キッパリ）。
長南　大久保ちゃんは新日本の入門テストを受けてるんですよ。
大久保　（嬉しそうに）書類を出したら審査を通っちゃったんですよぉ。
長南　でも、体力テストを受けに行ったら、長州さんに「スクワットのフォームが違う!!」って言われたらしいですよ（笑）。
——大久保さんの新日本デビューは幻に消えたんですね（笑）。
長南　プロレスだと、横井（宏孝）君が大久保ちゃんを狙ってますよ。
——そういえば横井さんは「大久保ちゃんは永遠のライバル」って言ってますけど、何か狙われる理由があるんですか？
大久保　ボ、ボクにはわからないです。
長南　マット界にこんな弱いヤツはいらない。抹殺ということですよ。
——長南さんはホント厳しいですね（笑）。
長南　男に優しくしてどうすんですか。女に厳しい大久保ちゃんよりマシですよ。

～11・4シュートボクシング後楽園大会～ 滑川負傷により、ピンチヒッター、大久保ちゃん！

なりふり構わない攻めをみせたが、結局、大久保ちゃんは大差の判定負け。10日前のオファーを受けた心意気には拍手をしたい。

的確にパンチ&ローキックを当てる鈴木だが、大久保ちゃんは驚異の打たれ強さで対抗！　スゲエ。

大久保ちゃんの相手は、ボクシングのプロライセンスを所持する鈴木亮司。しかし、大久保ちゃんは恐れずに前に出る！

上山龍紀
長南 亮
大久保一樹

U-FILE CAMP

上山　女には厳しいんですけど、大久保ちゃんは合コンが大好きなんですよ（笑）。

大久保　大好きッ!!

長南　でも、大久保ちゃんはトークができないから戦力外なんですよ（笑）。

――あらら、戦力外通告ですよ。

大久保　合コンやってるときが一番楽しいと思ってるんですけど（しょんぼり）。

――大久保さんは、いま田村さんの付き人をやってるみたいですけど、師匠と一緒にいるときよりも楽しいと?（笑）。

大久保　エッ……!?（しばらく固まって）。い、いや、田村さんも面白いですし、楽しいときもありますから。

――「楽しいときもある」と?（笑）。

大久保　い、いや、いや、いや、いや、あぁ……（と頭を抱え込む）。

上山　取材にならないですね（苦笑）。

大久保　ボ、ボクは、パスしてください。

――長南さんは、田村さんに対して、どういう印象を持ってるんですか（笑）。

長南　ボクは田村さんとの関係が薄いんですよ。ボクは定職に就いて自立してるとこがあるからか、尊重してくれてるのかなと思うんですけど。

――たしか、大工さんなんですよね。

長南　はい。朝6時に起きて、8時から夜6時まで仕事をして、そのあと10時ぐらいまで練習してます。

――それはハードですね！　で、今回の『DEEP』で長南さんは、メインで修斗現役王者の須田選手との対戦になるわけですけど、須田選手にはどういう印象をお持ちですか?

長南　須田選手はアナがない選手ですね。でも、一つだけ弱点を見つけたんで、そこを突ければなと。

――メインイベントだと聞かされたときはどう思いました?

長南　記者会見で知らされたんですけど（笑）、やっぱ興行のシメですし、気にはなりますね。ボクは負けることには恐れはないんですけど、しょうもない試合はしたくないんで。観てる人も面白くない、自分がやってきたことを出せない試合はやる価値ないと思ってるし。結果じゃなくて、あくまでも内容ですね。だから、もし勝ってもヒドイ内容だったら格闘技をやめるかもしれないです。

（須田戦は）ヒドイ内容だったら格闘技をやめるかもしれないです（長南）

――それぐらいの決意があると。上山さんの意気込みもお聞かせください。

上山　タッグマッチは前からやってみたかったんで楽しみですね。今回のルールは極められた選手は退場になって、残った一人が闘うんで、「秒殺されないように頑張ろう」とは話ましたけど……。

大久保　まあ、大丈夫ですよ（呑気に）。

――このタッグチームは大丈夫なんでしょうか（笑）。

上山　大久保ちゃんは田村さんと練習してるんで、防御力は上がってるんで大丈夫です！（微笑）。

――期待してます！　今回はタッグマッチですけど、上山さんは『DEEP』ミドル級チャンピオンですし、今後の防衛戦も楽しみですよね。

上山　来年にはやりたいですね。

長南　でも上山さんもこれから大変ですよ。次々と挑戦者が名乗り出てますから。須田さんも狙ってるらしいですからね。

――前回の『DEEP』の試合後に、「挑戦者求む」のタレ幕でアピールしたのが効いてるみたいですね。

上山　そうみたいですね。あのときの『DEEP』には、この3人と田村さんが出場しましたけど、ボクは3勝1敗になるんじ

～U-FILE地獄の無限ループ劇場～
大久保ちゃんの意味不明コメントに長南が突っ込み、上山は微笑（以上繰り返す）。

大久保ちゃんはウーロン茶で乾杯。ウーロン茶でも酔える特異体質らしい。ギョ!?

騒いだのは長南。ボーッとしていたのはこの人です。

見てみぃ、大久保ちゃんの目にも止まらぬハシさばき!! カメラも撮れぬ早技である。

頭を抱える大久保ちゃん。長南がトドメを刺したか？ そして上山は微笑である。

ゃないかと予想してたんですよ。

——誰か1人だけ負けるんじゃないか、と。もしかして田村さんですか（笑）。

上山 ち、違いますよ‼ 田村さんは100%勝つけど、負けるとしたらボクだろうなって。相手は（ブラジリアン・）トップチームの選手でしたからね。

——でも、全員勝利で飾って、いい意味で予想が覆りましたね。先陣を切った大久保さん、感想はいかがでしたか？

大久保 （ゴージャス）松野さんが本当に骨折してると思わなくて。松葉杖なんか突いて「おいしいなあ」って（笑）。

長南 こっちはえらい迷惑だったんですよ。オレは次の試合だったんですけど、松野さんとしばらくリングを占拠してたじゃないですか？ 「早く引き揚げろ」と思ってイライラしちゃって。

——そのイライラを臼田（勝美）さんにぶつけて、5秒の秒殺劇になったと？

長南 いや、あの飛びヒザ蹴りは、試合が決まったときからやろうと思ってたんですよ。とにかく自分は毎試合、インパクトを残したいんです。自分はデビューしてまだ1年半ということもあって若手とか言われてますけど、もう歳は26ですから。時間はないんで、須田戦を転機にしたいですね。

——正念場になるわけですね。大久保さんは今後の展望はありますか？

大久保 ……ノ、ノーコメントです。

上山 大久保ちゃん、そこはノーコメントするとこじゃないよ（笑）。

——上山さんはどうでしょうか？（笑）。ここ最近、評価も急上昇してます……。

長南 （遮って）いや、上山さんは昔から強かったんですよ！ リングス時代は膠着して「つまらない」とか言われてましたけど、20キロとか体重差がある選手とやってたら誰だってそうなりますよ。

——いまは競技的に整備されてきてますから、いい時代になりましたよね。

上山 そうですね（微笑）。

長南 上山さんはそういう言い訳を一切しないから偉いんですよ。

上山 ただ一つ、嫌いな選手とは肌も合わせたくないんですけどね（微笑）。

——そういう選手がいるんですか？

上山 あんまり人は嫌いにならないんですけど、1人だけいるんです（微笑）。ホントにやってみたい相手だったら体重差とかも気にしないんですけど、その選手とのオファーはソッコー断りますね。

——非常に気になりますねぇ（笑）。

上山 まあ忘れて下さい（微笑）。チャンスがあればカーロス・ニュートンとかとやって面白い試合がしたいですね。

——大久保さんは闘いたい相手とか、ドンドン他流試合をやっていきたいだとか、闘いの欲求はないんですか？

大久保 た、他流試合ですか……。ボク、試合が始まって相手がこっちに向かってくると「イヤ、イヤ。来るなぁ（怯）」って感じなんですよ。

上山 ……この人とタッグを組みますからね。ホント大変ですよ（微笑）。

長南 タッチしに行ったら、拒否されるんじゃないですか（呆れて）。

——ワハハハ！ 合コン参加をエサにして頑張らせてください！ 皆さんの今後の活躍も期待してます！

大久保 （急にそわそわして）あ、あの、ボク、終電なんでお先に失礼します！

【11月6日／U－FILE近くの『成城・やきにく工房』にて収録】

上山龍紀
うえやま・りゅうき。181センチ、81キロの26歳。Uインター、キングダムを経て、U-FILEへ。1DAYトーナメントで梁正基、村浜兄、グラバカ石川を下し『DEEP』ミドル級王座を獲得。9・7『DEEP』ではトップチームのギルソン・フェレイラから見事な一本勝ち。女性ファンがすごく多い。

大久保一樹
おおくぼ・かずき。180センチ、80キロの23歳。『DEEP』ではカト・クン・リー、美濃輪育久、一宮章一と異端な対戦相手が続く。パンクラス・ネオブラッドトーナメントでは、優勝者である門馬秀貴を最も苦しめた。先日、田村から「お客様に挨拶しなさい」と言われて宴会用の挨拶を披露し、頭をはたかれる。

長南 亮
ちょうなん・りょう。175センチ、80キロの26歳。『DEEP』では、禅道会・秋山賢治、パンクラス富宅、バト臼田勝美らを撃破している。ミドル級1DAYトーナメントの1ヶ月前にバイク事故で大怪我を負ったがそのまま出場。「骨が剥き出しになってましたよ。グッフッフッ」と、結構な豪快さんである。

た、他流試合ですか……。相手が向かってくると『イヤ、イヤ。来るなぁ（怯）』って感じです（大久保）

12・8 DEEP
長南の相手はこの男だ!!

修斗ライトヘビー級王者 **須田匡昇**

【すだ・まさひろ】1973年生まれ。180センチ、87キロ。サンボ、トーナメントオブJなどで名前を上げ、修斗では、菊田、郷野、佐々木有生らとの対戦経験を持つ。今年の1月にランス・ギブソンを破り第3代修斗ライトヘビー級チャンピオンに就く。淡路島に所在する修斗オフィシャルジム「CLUB J」所属選手である。

――須田さん、御電話で申し訳ないですが、よろしくお願いします!

須田 はい。オレ、『紙プロ』読んでますよ。

――あ、そうなんですか。

須田 昔から、プロレスファンだったんですよ。大仁田さんも見に行ったし（笑）。

――電流爆破にアクセスしてたんですね（笑）。それで、12月の『DEEP』のお話なんですけど。参戦することになった経緯をお聞かせください。

須田 経緯というか、9・7『DEEP』で上山選手が挑戦者を募集してたんで、それで挑戦しようと思ったんですよ。

――修斗ライトヘビーと合わせて2冠王を目指すわけですね。

須田 いやいや、2冠王だなんてとんでもないです（笑）。

――対戦相手は上山選手ではなく、同じU－FILE所属の長南選手になりましたね。

須田 強い選手だと思います。『DEEP』では自分より実績がある選手ですし、チャレンジャーとして臨みたいですね。

――『DEEP』に上がることで、修斗側からの引き留めはなかったんですか?

須田 それはありました。

――修斗側にはどのタイミングで報告したんですか?

須田 試合が決まったあとですね。でも、ボクの試合の予定がないことや、修斗の選手が『DEEP』に出ることに問題がないことを修斗コミッションに確認した上で、『DEEP』さんとお話したんですよ。だから、止められたときはビックリしましたね。

――須田さんは修斗の契約選手ではないんですよね?

須田 違います。たしかにチャンピオンということで、三島（☆ド根性ノ助）選手とは立場が違うことはわかります。でも試合が決まった以上、『DEEP』さんに筋は通さないといけないですから。それにこのまま試合をしないと、ベルトの価値だって下がっちゃうと思うんですよ。

――防衛戦の予定はなかったんですか?

須田 ないです。NK（ホール大会／修斗12・14）にも出れるように、何回もお願いしたんですけどね……。

――試合が組まれない理由があるんですか?

須田 う～ん、階級に合うガイジンがいないことや、ボクの試合がハデじゃないこともあるんじゃないですか（苦笑）。修斗は競技だから、試合では勝ちに徹してきたんですけどね。

――逆に『DEEP』では、客の視線を意識する部分はあるんですか?

須田 メインイベントに相応しい内容にする自信はあります。とにかく試合がしたくてたまらないんですよ!! チャレンジャーとして頑張るんで期待していてください!

【02年11月8日／電話取材にて収録】

CLUB J
【所在地】兵庫県洲本市中川原町厚浜568
【入会金】一般:¥10,000　女性:無料
【月会費】一般:¥5,000　女性:¥3,000
【ＴＥＬ】0799-22-1857

『U-FILE2』
仰天!!　U-FILE自主大会でアイアンマン王座交代劇!!

11月9日／大田区体育館分館

Style-Gルール		
○長南 亮	[判定]	佐々木恭介●
Style-Eルール		
●大久保一樹	[逆さ押さえ込み]	越後 隆○
Style-Uルール		
●白井裕一郎	[一本]	太田 裕之○
Style-Sルール 3分2R		
○小武 悠希	[判定]	吉村 直記●
Style-Sルール		
●吉田 智彦	[TKO]	山田 護之○
Style-Gルール		
○小林 悟郎	[判定]	市川 直人●
Style-Gルール		
●松田 英久	[判定]	太田 洋平○
Style-Uルール		
○上山 龍紀	[判定]	中村 大介●

Style-G＝寝技限定ルール、Style-S＝立ち技限定ルール、Style-U＝総合ルール、Style-Eルール＝プロレスリングルール。

マットが敷いているだけでロープ張られていないのに、それでも振ろうとするのはプロレスラーの性か!?　これには山喧問題で心中穏やかではない田村さんもニンマリ。「入場するタイミングが早いよ」などとブツブツ言ってました。

佐伯『DEEP』代表と、イメチェン島田レフェリーも来場。熱心に試合を観戦してました（いや、ホント）。

王座奪取に喜んだのもつかの間、三日天下どころか1時間弱天下になってしまった越後隆（肩書きは元アイアンマンヘビーメタルチャンピオン）。11・14バト後楽園大会では、ZERO-ONE佐藤耕平と対戦したが、こちらも敗戦となった。

U－FILE自主大会で、なんとプロレスのベルト移動劇が勃発した!

先日の『DEEP』で偽造王・一宮章一を破り、24時間いつでも戦うことが義務づけられるDDT認定アイアンマンヘビーメタルチャンピオンに君臨した大久保ちゃん。

この日はプロレスリングルールで、バトラーツなどで活躍する越後隆（U－FILE所属）との防衛戦を敢行したが、まさかのフォール負け! 越後が新王者に輝いたのである。

大会終了後、観客もまばらとなった会場で、勝利者インタビューを受ける越後。しかし、そこに忍び寄る黒い影が……。その正体は、元王者・一宮章一!

偽造王は背後から越後を急襲! 越後に馬乗りになったところを、たまたま居合わせた島田レフェリーが職業柄のせいか、条件反射的にカウントを入れてしまい、なんと一宮が王座返り咲き!

早くも王座から陥落してしまった越後は、悔しさいっぱい! 大久保ちゃんは24時間戦うことから開放されて、ホッとしてる模様です!?

U-FILE CAMP.COM

	一般	女性	学生
入会金	¥25,000円	¥25,000円	¥25,000円
月謝	¥12,000円	¥10,000円	¥10,000円

【場　所】神奈川県川崎市多摩区登戸1568
【アクセス】小田急線・向ヶ丘遊園駅から徒歩5分
【TEL】U-FILE CAMP　044-932-0282

12・8『DEEP』ディファ有明大会
佐伯代表のイチ押しカードは滑川vs石川戦だ！

「似たようなキャラは2人いらないんで、石川雄規をブッ潰します！」

滑川康仁

いまRINGSを一番感じさせる男

12・8ディファ有明で開催される『DEEP2001 7th IMPACT』。前回の有明コロシアム大会での三島☆ド根性ノ助に続き、修斗現役王者・須田匡昇の参戦や、偽造王・一宮章一の再出陣、ムエタイvs日本選抜等々、まさにディープなカードがズラリ並んだ今大会。その中で試合前から「ピンと来ない」「マッチメイクの意味が分からない」など、ある意味、話題になっているのが滑川康仁vs石川雄規戦である。当の本人、滑川は何を思う!?

聞き手&撮影／松澤チョロ　designed by さおとめの事務所

滑川　ボク、『紙プロ』の申し子なのに、最近取り上げてくれないですね。

――申し子だったんですか？（笑）。

滑川　そうッスよ!!

――そんなご無沙汰でしたっけ？

滑川　ご無沙汰ですよ！　だってリングスのハワイ大会……？　あっ、違う違う！　髪染めたとき以来だ。

――真っ白くしたときですね（笑）。あれは誰との試合前でしたっけ？

滑川　あれは、骨折の試合前ですね。

――骨折というか、ほぼ毎試合ケガしてるじゃないですか？（笑）。

滑川　それがボクの売りなんで（苦笑）。

――どんな売りなんですか（笑）。そういえば、この間（11・4）はシュートボクシング初参戦が決まってましたけど、残念ながらケガで流れちゃったんですよね。

滑川　申し訳ないって気持ちでいっぱいです。ファンの方にもシーザー会長にも本当に申し訳ないと思ってます。

――どこをケガしたんでしたっけ？

滑川　練習中にヒザ蹴りで脇腹折られちゃったんですよ（苦笑）。

――誰に折られちゃったんですか？

滑川　（小声で）金原さんです。ヒザが入った瞬間吐き気がしたんで、「これは折れたな」ってわかったんですよ。

――『DEEP』の石川雄規戦までには、ケガは治りそうなんですか？

滑川　それは間に合わせますよ。

――で、その滑川vs石川戦なんですが、ファンの間でも「ピンと来ない」とか否定的な意見もかなり出てて、イチ押しのカードと言っていた佐伯代表もかなりショックを受けてましたけど。

滑川　ボクも最初聞いたときは正直ピンと来なかったんですけど、最近ムカつくことがあったんで、やっとモチベーションが上がってきたんですよ！

――いったい、何があったんですか？

滑川　大会のポスター見たら、石川さんが真ん中にデカく載ってて、自分の方が扱いがちっちゃいんですよ！

――扱いが気に入らないと？（笑）。

滑川　だって、石川さんを大きく載せてもチケット売れないッスよ。頭きたんで佐伯さんに文句言っときました。

――理由はともあれ、それで、やる気になったんならオッケーです（笑）。

滑川　そうでも思わないとモチベーション上がんないんで（苦笑）。でも、なんで叩かれるのかがわかんないッスねぇ。石川さんはリングスで成瀬（昌由）さんともやってますからね。まあ、いろいろと言ってるファンを黙らせる試合をしますよ！（キッパリ）。

――それは期待できそうですね。

滑川　ボクは今度の石川戦もそうですけど『DEEP』の3連戦は「負けたらあとがないシリーズ」ですからね。

――たしかに、パンクラスの渡辺大介戦、この間のMAX宮沢戦、そして今度の石川戦も負けたらあとがないカードですよね。

滑川　ただ、石川さんはバトラーツもB―CLUBも石川屋も背負いまくってますからね（笑）。ボクより凄いプレッシャーはあると思うんですけど。

――この間の会見では「胸を貸してやる！」っていう滑川さんの挑発に対して「それより、お金貸して」っていう石川社長の自虐的なギャグで、すでに一本負けしてますからね（笑）。

滑川　そうですねぇ。でも、そのあとにすぐ「1万円なら貸す」って……誰かに言ったんですけどね（笑）。

――誰かに言ってもしょうがないですよ！　それに1万円っていうのも貧乏臭いし（笑）。

滑川　（ムキになって）だったら5万までなら貸しますよ！

――いや、5万っていうのも、なんか現実的すぎてダメですね（笑）。

滑川　そうッスかね。やっぱり、そういう発言は向こうの方が上手でしたね。でも、自分は最近、プロレスラーに目覚めてきたんですよ。

――リングスで一緒だった坂田さんや横井さんもプロレスラー宣言してますけど、同じような感じなんですかね。

滑川　違うんです！　ボクのはガチン

コとしてのプロレスなんですよ。自分の中ではガチンコのプロレスと従来のプロレスの2つに分かれるんですけど、ボクらがやってることは格闘技じゃないですか？　でもボクは新弟子っていうか入門テストを受けて、スクワットやって、長い下積みがあってっていう、プロレスのしきたりで育ってきてますからね。

――総合で主流となっているジム生上がりの科学的なトレーニングをやってきた人たちとは違いますからね。

滑川　そうそう。そういう意味でもプロレスラーのプライドはあるんで。結果だけ出せればいいって考えはないし、内容で見せて、その上で結果出さなきゃしょうがないって思ってるから。

――それで、ここ最近は元リングス勢も様々なところで活躍してますけど「滑川が一番リングスを感じさせる」って言うファンが多いんですよ。リングスのテーマを入場曲のイントロで使ったり、マウスピースにもリングスって入れてましたし。やっぱり、リングスへのこだわりは強いんですか？

滑川　そうッスね。ボクの中からリングスっていうのは一生なくならないと思うし、ずっと関わっていきたいッスね。死ぬまでリングスっていうのは意識していきたいです。気持ちというかハートというか、スピリットの部分で。

――リングスと言えば、KOKルール採用の新団体ZSTが今月、旗揚げされますけど、どう思ってます？

滑川　日程が合えば出たいッスね。リングス時代負けてる（エギリウス・）ヴァラビーチェスとサム・ネストが出る可能性があるんで、リベンジしたいです。負けたままは気持ち悪いんで……負けたままの選手はいっぱいいますけど（苦笑）。

――また自虐的な（笑）。

滑川　言い訳になるけど（笑）、サム・ネストの試合前は通風で朝も起きれないぐらいで、それに6日前に交通事故に遭ってムチ打ちだったんで（苦笑）。

――そういえば言ってましたね（笑）。

滑川　サム・ネストは組んでみて全然負ける相手じゃなかったからキッチリ勝っておきたいッスね。ヴァラビーチェスは、それがわかる前にやられちゃったんですけど（苦笑）。

――アハハハ！　やっぱり、滑川さん的にはリングス時代と同じように強豪外人と闘っていきたいと？

滑川　そうすッスね。『PRIDE』の名古屋大会を見て、（ケビン・）ランデルマンとかハイアン（・グレイシー）とかとやってみたいって思いましたね。ああいう感情ムキ出しで来る選手を見ると本能的に殴り合いたいなって……実際リング上で向かい合ったらどうなるかなって思うんですけど（苦笑）。

――また拳の骨が折れますよ（笑）。でも『PRIDE』に上がりたいって気持ちもあるわけですね？

滑川　チャンスがあれば出たいッスよ。毎回、大きい会場で毎回超満員だし、演出もいいんで田舎者の俺としては上がってみたいッスね（笑）。でもやっぱり自分の中心は『DEEP』です。契約した以上は『DEEP』を盛り上げていこうと思ってるんで。佐伯さんには、いろいろ世話になってるし、それに『DEEP』を始めてから、かなり損してるみたいなんで、自分の力でビッグにしてあげたいです（笑）。

――体は十分ビッグなんですけどね。

滑川　そうなんですけどね（笑）。でも、ボクと石川さんって、かぶってるとこあると思いません？

――エッ、どこがですか？

滑川　カッコ悪いじゃないですか、ボクも石川さんも。お互い不器用で（笑）。

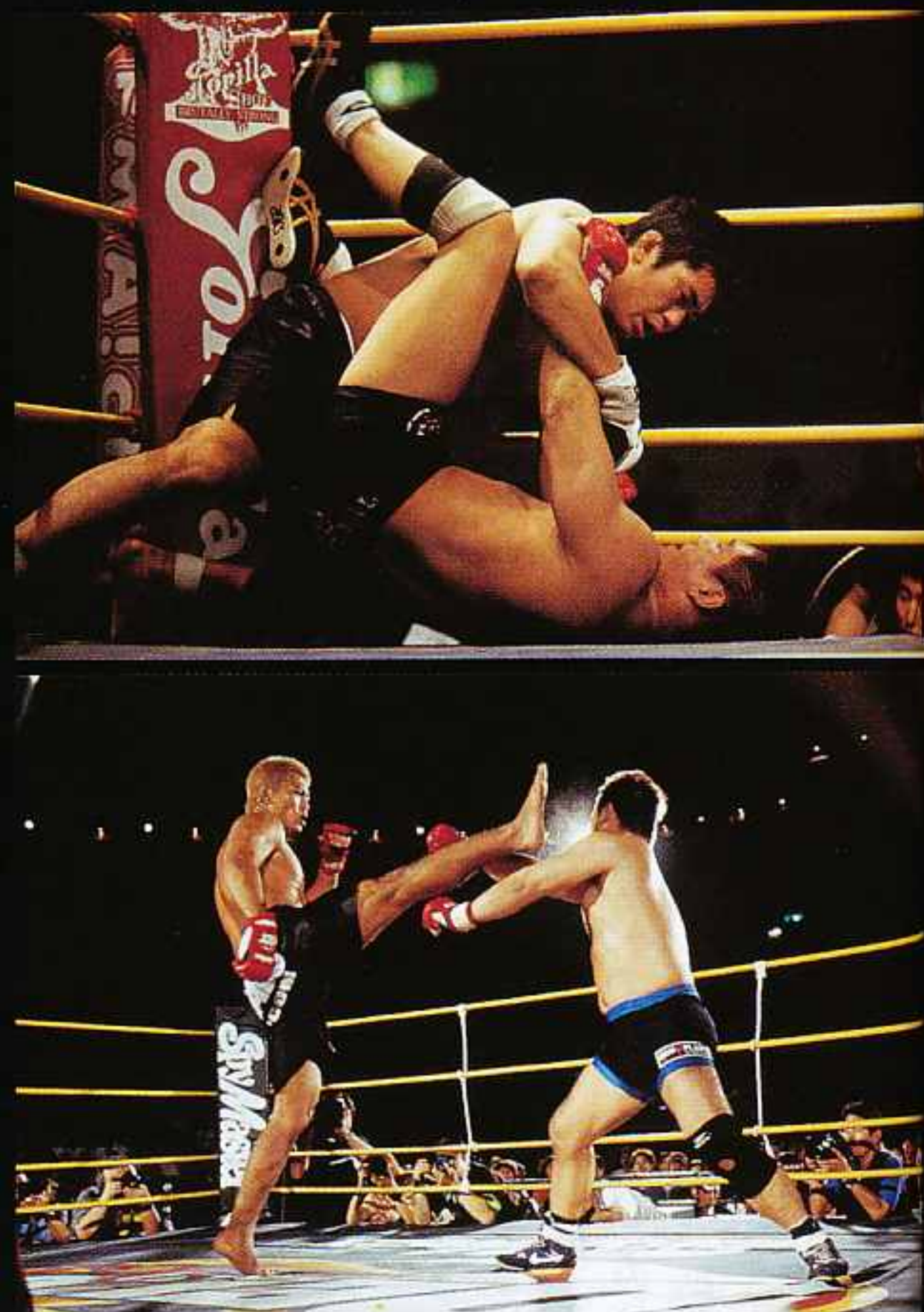
――かもしれませんね（笑）。でも前田さんも、よく言ってましたよね。「カッコ悪いことがカッコいいんや」って。

滑川　そうッスよね。ボクのカッコ悪さと不器用さっていうのは石川さんと共通するところだと思うんで、似たようなキャラは2人いらないし、とりあえず、ブッ潰してやりますよ！

――そのテンションを試合当日まで持続させて頑張ってください！

滑川　エッ!?　もう締めなんですか？　まだまだ言いたいことがいっぱいあるんで、インパクトのある試合して勝ったら、またインタビューしてくださいよ！

――わ、わかりました（笑）。

【02年11月7日／さいたまスーパーアリーナの近くの『白木屋』にて収録】

現在『DEEP』と契約を結んでいる滑川。石川戦で3度目の出場となる滑川の『DEEP』初戦の相手はパンクラスの渡辺大介。判定ながらVTデビューを飾り、9月の有明大会ではMAX宮沢相手に一本勝ち。この勢いで3連勝となるか？　それとも石川が意地を見せるか？

滑川康仁、バンガローミュージックと契約？　つーか、バンガローって何？

CD製作からレコーディング、TV&ラジオ番組の企画&制作、さらにアーティストのマネジメントまで幅広い活動をしているバンガローミュージックが滑川を全面サポート。テーマ曲も手掛けるプロデューサーの鈴木力氏の協力のもと様々な企画が進行中だという。詳細&滑川への応援メールは右のアドレスまで。なお12・8ディファ大会から、恥ずかしくて街では着られないTシャツ、テーマ曲CD付きTシャツなど、滑川新グッズが登場！

yn-project@bungalow-music.com

頑張れ佐伯代表！『紙プロ』読者の皆さん、12・8は『DEEP』に全員集合だ!!

DEEP2001 "DEEP2001 7th IMPACT in DIFFER ARIAKE"
2002年12月8日（日）東京・ディファ有明
開場・14：30　開始・17：00（フューチャーキングトーナメント15:00開始）

■第11試合　82kg以下契約　5分3R
須田匡昇（CLUB J／修斗ライトヘビー級王者）
vs長南亮（U-FILE-CAMP.com）

■第10試合　契約体重なし　5分3R
滑川康仁（フリー）
vs石川雄規（格闘探偵団バトラーツ）

◎日本人選抜 vs ムエタイ戦士3対3対抗戦
（スタンド肘ありの特別ルール）

■第9試合　大将戦　68kg以下契約　5分3R
山崎剛（Team GRABAKA）vs ナルポン・タックホームシン（タックホームシンジム）

■第8試合　中堅戦　57kg以下契約　5分3R
廣野剛康（和術慧舟會GODS）vs“ランバー”ソムデート吉沢（M16ジム）

■第7試合　先鋒戦　68kg以下契約　5分3R
TAISHO（バルボーザ&NBJC）vs タッパヤー・クロスポイントジム（シスオージム）

■第6試合　タッグマッチルール　20分3本勝負
上山龍紀&大久保一樹（U-FILE-CAMP.com）vs 窪田幸生&金井一朗（パンクラスism）

■第5試合　90kg以下契約　5分3R
MAX宮沢（荒武者総合格闘術）vs 伊藤博之（フリー）

■第4試合　82kg以下契約　5分2R
フューチャーキングトーナメント決勝戦（82kg以下級）

■第3試合　69kg以下契約　5分2R
フューチャーキングトーナメント決勝戦（69kg以下級）

■第2試合　95kg以下契約　5分3R
一宮章一（フリー）vs アステカ（プロレスリング華☆激）

■第1試合　82kg以下契約　5分3R
KAZE（プロレスリング華☆激）vs 原学（格闘探偵団バトラーツ）

＜第1回フューチャーキングトーナメント開催＞
82kg以下と69kg以下の2階級を予定。各8人制トーナメント戦とし、フューチャーファイトオフィシャルルールに準ずる。開始：15:00より　※各階級決勝戦2試合のみ17:00より開始の本戦内で行なう。

入場料金：　VIP（最前列）￥15,000　SRS￥9,000　アリーナA￥7,000
アリーナB￥5,000　※当日は全席種500円増し

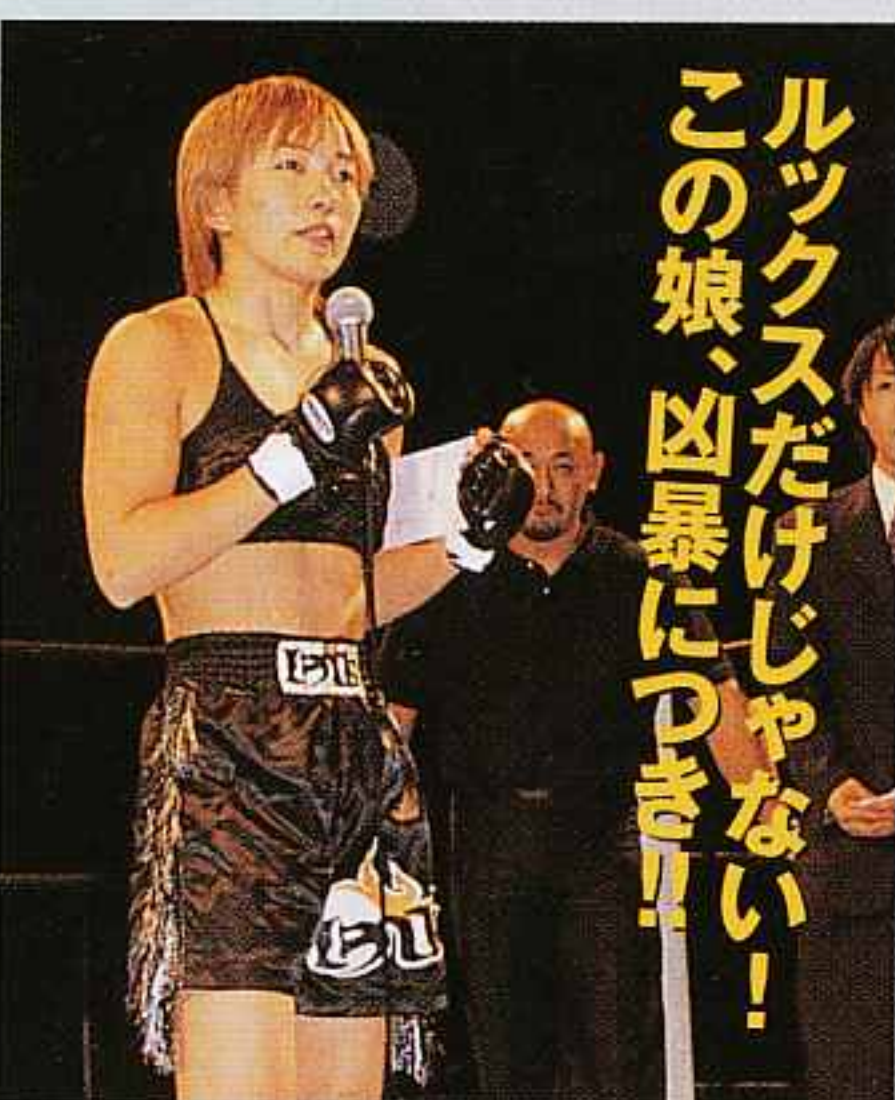
＜お問い合わせ＞
DEEP2001事務局　Tel.052-339-0303

格闘エンターテイメント **SMACK GIRL**

～JAPAN CUP2002 エピソード2～
11・9　ディファ有明

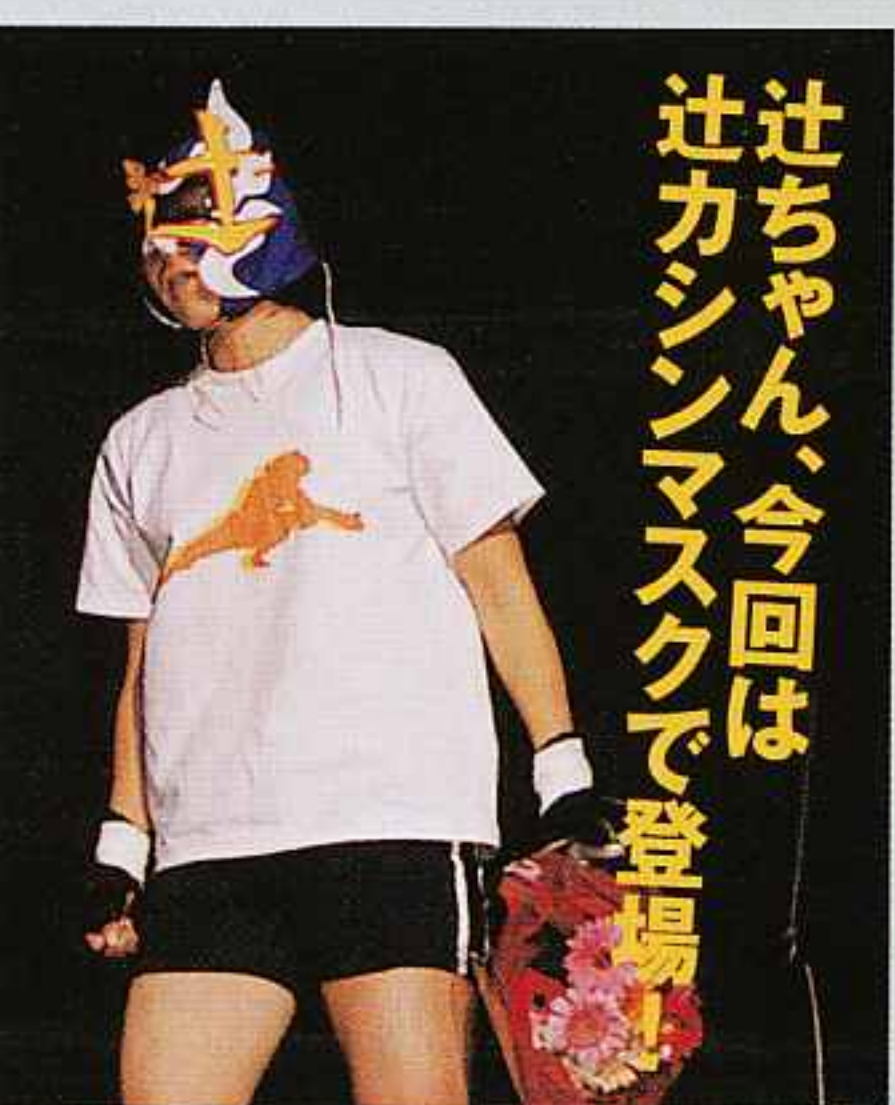
言葉の意味はわからんが またもや、スマックガールがヤバイ!!

ルックスだけじゃない！この娘、凶暴につき!!

カワイイ顔して凶暴な打撃が売りの渡邊久江。この日もスマック初登場の山田純琴相手に男もビックリのボコボコのシバキ合いに打ち勝ちライト級トーナメント決勝へと駒を進めた。次回大会では、しなしさとことライト級頂上決戦が実現！

マァ★ティンの衝撃再び！タマちゃん、ハジける!!

その動きっぷりから、理解不能な天然マイクまで、まさに第二のマァ☆ティン、その名は玉井敬子。久々のスマック参戦となった今回、元女子プロ＆現在、建設現場で働く張替に腕十字で勝利。体の芯から喜びを爆発させた

ブルガリアのサンボ女王スマックに上陸！

みちプロより先にブルガリア（といっても日本在住）からスマックに初参戦となった山本ルボフ。ブルガリアで柔道を学び、国内大会7年優勝、サンボ世界選手権3位のルボフは、最近好調の亜利弥'とグラップリングマッチで好勝負を展開！

辻ちゃん、今回は辻カシンマスクで登場！

関西地方では、ここ最近、何度かテレビで取り上げられ、実力だけでなく知名度も急上昇中の辻結花。前回のサクマシン姿での入場に続き今回は辻カシンマスクで入場。試合でも強烈なバックブローを炸裂させ、最後は腕十字で勝利を飾った

この日のメインはミドル級トーナメントの準決勝、金子真理と女子キックの暴走王・ウィンディ智美戦。試合は前回のリベンジを果たし金子が勝利！

「試合を見てる人が無駄にならないように頑張ります」とアピールした吉住は実際、無駄にならない激しいグラップリングマッチを大室相手に展開

ブルガリアのサンボ女王相手に一歩も引かない試合を見せたのが女子プロ出身の亜利弥'。エグイ角度で逆片エビ固めを極めルボフを手こずらせた

スマックガール、久々に大爆発！

この日のスマックは女子総合の全盛期とも言っていい渋谷時代を彷彿とさせる盛り上がりを見せた。

女子の総合が誕生してすぐに登場したマァ☆ティンこと星野育蒔のあまりにも凄いインパクトに、それを上回るキャラ＆実力を兼ね備えた選手はなかなか現れなかったが、この日のスマックには個性豊かなスマック向きのファイターが多数登場した。

まずは、デビュー当時から、あまりにもマァ☆ティンに似てるため、ニセマァ☆ティンなどという、ありがたくない呼ばれ方をされていた玉井敬子が久々にスマックに参戦した。一緒に練習している藪下めぐみや高橋洋子がセコンドに付く中、張替美佳相手に見事な一本勝ちを収め、勝利者インタビューでは、マァ☆ティンを彷彿させるジタバタしながら「ホ、ホントに、うれじい～」と顔をクシャクシャさせながら喜びをアピール。闘うことが楽しくてしょうがないと顔に書かれたまま闘う玉井は、見る者を幸せな気持ちにさせてくれる天然系ファイターである。

他にも、常に面白い試合を見せてくれる辻ちゃんこと辻結花が、前回のサクマシンに続き、オリジナルの辻カシンマスクで登場するなど、選手の側もスマックガールというエンターテインメント路線を理解し始めてきたのだ。

最後にスマックを象徴する選手と言えばナナチャンチン。この日はパフォーマンスは見事だったが試合は、やっぱり秒殺。オメエはそれでイイヤ！

女子総合にもボブ・サップ旋風吹き荒れる！

スマックファンには、すっかりお馴染みのナナチャンチン劇場。今回はボブ・サップの人形劇を見事にパクリ歓声を浴びた。試合は秒殺されました

先頃、とんねるずの番組で男相手に大暴れした石原美和子。この日も、女子には対戦相手が見つからないということで、急遽、男相手の3人掛けを披露した女サップ。

11・9スマック対戦結果

〈第1試合〉●ナナチャンチン（チーム南部）〈1R2分8秒　腕ひしぎ十字固め〉
小寺麻美（和術慧舟會）○

〈第2試合〉●張替美佳（GF2）〈1R2分52秒　腕ひしぎ十字固め〉
玉井敬子（三晴塾）○

〈第3試合〉●亜利弥'（フリー）〈3R判定3－0〉山本ルボフ（安谷屋道場）○

〈第4試合〉○吉住絹代（東京元気大学GGG）〈2R2分51秒　腕ひしぎ十字固め〉
大室奈緒子（和術慧舟會）●

〈第5試合〉○渡邊久江（LIMIT）〈1R1分37秒　KO〉
山田純琴（Yパーク）●

〈エキシビジョンマッチ〉SGGルール　石原美和子 vs 禅道会中年三人衆

〈第6試合〉○しなしさとこ（GIRL FIGHT AACC）〈2R2分28秒　ヒールホールド〉
大門まい子（闇愚羅）●

〈第7試合〉○辻結花（闇愚羅）〈1R4分13秒　腕ひしぎ十字固め〉
杉本由美子（禅道会）●

〈第8試合〉●ウィンディ智美（作新会館）〈2R判定0－3〉金子真理（禅道会）○

※次回大会は12月を予定で現在調整中
スマックガール公式サイトアドレス　http://www.smackgirl.com/

大谷晋二郎

聞き手／松澤チョロ＆ささきい
撮影／福島勝儀
designed by さおとめの事務所

前号での本音ぶっちゃけトーク（＆ゲップ）も好評だった"炎武連夢"大谷晋二郎。タッグベルトも失い、戦績も芳しくないものの、その勢いは増すばかり。ついには予告どおり、全日武道館に田中と共に乗り込み、実力行使で最強タッグの出場権を手に入れた。そして、NOAHへの殴り込み宣言、さらにはアメリカでタッグベルトを奪取するなど、マット界を掻き回し続ける大谷の本音が炸裂！　さあ用意はいいか？……ゲッ！

ささきい　最近の後楽園大会とか見てて思うんですけど、大谷さんの人気って、すでにZERO—ONE内では1位って言っていいぐらいですよね。

大谷　そうなのかなぁ？　ファンレター減ったけどなぁ。減ったっていうか、いま来ないし。ファンレターのファの字も来ない！（キッパリ）。

——ファの字も来ない（笑）。ZERO—ONEでは誰が多いんですか？

大谷　（佐藤）耕平とかじゃないかな？　わかんないけど。ボクなんかもうジジイになったから来ないですよ。

ささきい　でも紙テープの数で言えば大谷さんは確実に一番ですよ。大谷さんがコールされると、リングが真っ赤になったりするじゃないですか。

大谷　いやぁ〜、あれはね、ウチのファンクラブの会員さんがやってくれたりとか、自分に近い人間がやってくれてる部分もあるでしょうし。でも……とにかく、ファンレターが来ないッ!!

——アハハハハ！　今日の取材で一番、声がデカかったですねぇ（笑）。

大谷　特に女の子ね！　女の子のファンレターが来ないんですよ。結婚してピタッとなくなるのはわかるんですよ。それならカッコよく言えるじゃないですか。「結婚してから来なくなって……」って。してないっちゅーの！

——結婚は、まだしてないですよね？

大谷　してないも何も彼女もいないっちゅーの！（キッパリ）って書いといてくださいよ！

——かしこまりました（笑）。大谷さんが●モって噂も聞かないしなぁ。

大谷　（必死に）いやいや、ボクは●モじゃないですよ！　だってボクね、結婚願望メチャメチャ強いんですよ。

——前から言ってますもんねぇ。

大谷　ここ最近、永田（裕志）選手、中西（学）選手が籍入れたじゃないですか。同期が、どんどん結婚していくんですよ！　いつになったら……。

——かなり焦ってますね（笑）。

大谷　ボクね、早く子供が欲しいんですよ。……いまのはね、いい人イメージをつけるコメントですけど（笑）。

——アハハハ！　家庭的な人だと思われたいんですか（笑）。

大谷　いや、本心なんですけどね。それで子供はね、間違いなく女の子が産まれるんですよ！　名前は平仮名で、あすかちゃんだしね（満足げに）。

——それも前から言ってますよね。

大谷　（無視して）あすかちゃんを会場にいつも連れて行くんですよ。それで、控室で試合前に、いつも、あすかに言うわけですよ。「パパ、ちょっと闘って来るから」って。それでリング行くじゃないですか。それでちょっとしたら、血だらけでチャンピオンベルトを肩にかけて帰って来るんですよ。「あすか、帰って来たぞ！」って。

——そんな血まみれで帰ってきたら怖くて泣き出しますよ（笑）。

大谷　それは慣れさせるんですよ（笑）。それでチャンピオンベルトを、あすかにかけてやってね。そういう生活をしたいんですよ。ホント、子供が欲しくてねぇ。誰か作ってくれる人いませんかね？

——アハハハハ！　じゃあ、産んでくれる人を募集しますか？

大谷　募集してくださいよ！（笑）。

——さすがに、それは来ないと思いますけど（笑）。でもホント、リング上もリング外も不満だらけなんですね。

大谷　……いや、そんなことないですよ。適当にやってますから。……「やってます」って言い方おかしいな（笑）。

——適当にエンジョイしてると（笑）。

大谷　そう、エンジョイしてますから。飲みに行ったりして発散してるんで。

ファンレター減ったっていうか、ファンレターのファの字も来ない！

ささきい　ところで、今度の後楽園大会（10・20※このインタビューは10月8日収録）で橋本さんが第一試合に登場しますけど、「第一試合でサコダと闘うっていうことは、大谷、田中に対する、こちらの意思表示っていう意味がある」って言ってましたけど。

大谷　第一試合でどうのこうのって言うのは、よくわかんないけど。ボクは試合順なんてこだわったこともないしね。何か予定でもあんじゃないの？

——アハハハハ！　そんな気もしますけどね（笑）。

大谷　合コンとかじゃない？（笑）。

ささきい　それはわからないですけど（笑）、橋本さんは「第一試合の何たるかを見せてやる」ってことを言いたいんだと思いますけど。

大谷　「アンタが第一試合やったの、何年前の話だ？」って言いたいですね。

ささきい　それが、わりと最近なんですよ。藤波さんとドーム（H12・10／9）でやったじゃないですか？

——折り鶴兄弟のときですね（笑）。

大谷　あぁ、ありましたねぇ（笑）。

——ちなみに大谷さんが、いま第一試合に出たら、試合内容とか……。

大谷　（遮って）それは当然変えますよ。橋本真也とボクが言ってることはどこまで一緒かわかんないけど、やっぱり、一試合目の意味っていうのは、ボクだって新日本の前座を何年もやってたんだから。その時のプライドってものをボクは持ってますよ。

——ウチの編集長なんかは、ZERO—ONEの何が面白いかって言ったら、やっぱり、格が存在するっていうのと、1試合目からメインまで色合いの違う試合が見られるとこだって言ってるんですけど、ZERO—ONEでは山笠選手とかが、いわゆる前座っていうオーソドックスな試合をするじゃないですか。それは、いまの新日本の第一試合とは明らかに違いますよね。

大谷　うん。でもそれはボクが新日本時代に培ったものですからね。いまは炎武連夢ってものを作ったからあんまり言えないけど、その前は、一試合目に出たヤツが控室に戻って来る度にキツイことを言ってたしね。そいつらがいい試合した気になって満足して戻って来てもボクは怒鳴ったこといっぱいあるし。そういう部分も橋本真也は見てると思うんだけどね。

——橋本さんは、荒川さんの試合になると、控室から出てきて、よく覗いてますけどね（笑）。

大谷　なおさら「俺のことは何も見てねえのか！」って言いたいですよ。「俺は伊達に10年、新日本でやってたんじゃねえぞ！」って。ジュニアで抜擢された時も第一試合は、しょっちゅうやってましたけど、その時は第一試合らしい試合をビシッとやってたしね。そういうの何も見てなかったのかってことですよ。「アンタがメインでやってる時、俺らは黙々とやってたんだ！」って、そういうプライドもありますね……いま、いいこと言った（笑）。

——自分で持ち上げますね（笑）。ちなみに大谷晋二郎の第一試合のこだわりっていうのは何かあるんですか？

大谷　第一試合目はね、若いヤツによく言ってたのは「お前らの必殺技って何かわかるか？」って。たとえば山笠Z"信介……変な名前だけど（笑）。

——小川さん命名ですよ（笑）。

大谷　でも変ですよ（笑）。前にアイツに「お客さんがお前に何を期待してるかわかるか？」って言ったら答えられないんですよ。「お客さんは山笠っ

ぶっちゃけトーク 後編

バカ兄弟(by小島)、真っ正面から全日最強タッグ出場権を奪取!

10・27全日本プロレス武道館大会にスーツ姿で来場し武藤と会談、その場で最強タッグ出場を決めた炎武連夢。大谷＆田中はターゲットとして名前を挙げていた小島とリングサイドで乱闘を繰り広げた。炎武連夢と小島＆ケア組の直接対決は12・6、場所も同じ日本武道館だ！

て選手自体知らない人が半分以上だぞ」って冷たい言い方で言ってやりましたけどね……ゲッ！（ゲップ）。

――そこでゲップですか（笑）。

大谷　（かまわず）たとえば大谷晋二郎だったらスワンダイブ、田中将斗だったらエルボーとかね、そういうお客が期待するもの、お前ら何も持ってないんだよってことを言ってたわけですよ。「お前の存在自体を知らない人が初めて見た時、何を提供するの？　いまの時点では元気のよさだろ」ってよく言ってたんですよ。「お前らの必殺技は元気のよさだ」って。

――猪木さんじゃないけど、やっぱり元気が一番なんですね（笑）。

大谷　そうそう。「プロレスっていうのは相手だけじゃなくてお客さんとの闘いもあるぞ。汚くてもいいんだよ、ガムシャラにガンガンやって玉砕したっていいし、それで負けたって、お客さんが帰り際に、『一試合目の山笠ってヤツは、メチャクチャ元気あるなぁ、何なんだ、アイツは？』って、そう言わせたらお前の勝ちなんだよ。それがお客さんとの勝負なんだ」ってよく言ってたんですね。だからよく、一試合目で大技を使わないなんだかんだって言うけど、そういう問題でもないんですよ。たしかにボクは大技使ったら「バカヤロー」って怒るんだけど、なぜ怒るか考えて欲しいんだよね。

――ズバリ言うと、なぜなんですか？

大谷　それはね、「そいつらが使う大技はプロレスごっこなんだよ」って思うんですよね。でも、ちゃんと自分のものにして使えば「大技使うな」なんて誰も言わないですよ。ただ見よう見真似とか、まだものにしてないのに、「やってみようかな？」なんて感じでやっちゃうと、申し訳ないけど学生プロレスになっちゃうんですよ。

――技の形だけなら学生プロレスも変わらないですからね。

大谷　だから、なんでもかんでも「大技を使うな」って言ってるんじゃないんですよ。「お前らが使ったってプロの技じゃねえんだ」ってことですよ。これは偉そうだけど、やっぱりそういう風に教えてあげなきゃいけないし。それがボクの第一試合の原点ですね。とにかく、第一試合は元気のよさを見せなきゃいけないんです！

――そういう意味では最近のZERO―ONEの第一試合は、元気も感じられるし、いいんじゃないですか？

大谷　たまに「コノヤロー！」と思う時は怒りますけどね。でも、ボクもそうだったけど、レスラーってクソミソに言われる時代って絶対必要なんですよ。第一試合目でやってるヤツらの気持ちってわかるんですよ。一生懸命やろうとするけど空回りしちゃうっていうね。見ててわかりますもん。

――自分もそんな時代があったと？

大谷　「前に前に」って出ようとするけど、空回りしちゃうっていうね。ボクはそういう時は怒んないです。「良かったよ」って言ってあげますし。

――毎回毎回、怒ってばっかりではないんですね（笑）。

大谷　そうです。あと、これもしょっちゅう言うんだけど、「お前らがキレイな攻防やるのなんて誰も期待してないよ」って。それをいまの若いヤツに伝えてやりたいし、だから若いヤツが試合終わると、ボクはガミガミ言ってたし。「いっつも俺ばっか」って思うかもしれないけど、それはね、後々いい経験になるんですよ。第一試合でやってたヤツらがね、10年以上経った時に、その時の若いヤツに言えるんですよ。ボクもいっつも怒られて「クソッ！」って思いながらも、「何でこう言われたんだろ？」って考えたしね。

――大谷さんがガミガミ言われたのって、やっぱり長州さんなんですか？

大谷　いや、長州さんよりもボクは馳さん、健介さんですね。まだジュニアに抜擢され始めた頃、マスコミの人にもいろいろいい評価をいただいて、ボク、（天狗ポーズをして）こんなんなってたんですね。その頃に山口県の地元で試合があったんですよ。

――それは張り切りますよね。

大谷　自分とライガーさんが組んで、相手はメキシカンのマスクマンだったんですよ。ボクは、「地元で知ってる人がいっぱいいる、いいとこ見せたいな」って気持ちがあったんですよね。でも、いい試合やろうとしてるけど空回りしちゃってね。それで、自分の不甲斐なさ、うまく相手とスイングできない悔しさで、ヤケになってワーッと暴れちゃって。試合が終わった後も「コノヤロー！　なんだ、お前ら！」みたいな感じで外人に突っかかっていったんですよ。乱闘がいけないっていうんじゃないけど、その時は間違いなく乱闘する雰囲気じゃなかったし、それで控室戻ったらライガーさんが「何だ、あの試合は！」って怒って来たんですよ。

――怒りの獣神が来ましたか（笑）。

大谷　ボクも納得いかないまま終わって、まぁ、正直いいとこ見せたいなって気持ちがあったしね。「チクショー！」とか思ってライガーさんのことシカトしてたんですよ。ライガーさんはずっ

と怒ってるんだけど、「うるせえな！」みたいな感じで。そしたらライガーさんにボッコボコにされて。
――エッ!? 控室でですか？
大谷 やられながらもボクも悔しいし、「何スか！」みたいな感じで言っててね。そしたら「いまのお前はプロレスラーじゃねえよ」って言われたんですよ。ボクも若かったし、「何だよ、俺はレスラーだよ」みたいな気持ちはあったけど、「お前、レスラーじゃねぇよ、辞めちまえ！」って言われたんですね。「何だ、コノヤロー！」と思ってですね。で、殴られてる時に周りに先輩レスラーもいっぱいいるんだけど、誰も止めに来ないんですよ（苦笑）。
――誰も助けてくれなかったと（笑）。
大谷 やられながら「普通だったら誰か止めるだろ」とか思ってたんだけど（笑）、みんな止めないんですね。それでライガーさんが「考え直せ！」って言って離れて行ったんですけど、ボクはボコボコにされてうずくまってて。そしたら、長州さんが来て「ライガーの言う通りだ」って言ったんですよ。「クッソー、ナメんな！」とか思って。まあ、いまとなっては若気の至りなんですけどね（苦笑）。間違いなくボクが試合をブチ壊したし、ライガーさんの言いたいことは、いまになって凄い身に染みてわかりますよ。それで、その後、馳さんが来て「あ、終わったね、ちょっと来い」って控室から出されて……あ、ウーロンハイ下さい。
――アハハハ！ なんですか、一番いいところで（笑）。
大谷 それで廊下の隅でね……あの人は先生みたいじゃないですか。
――っていうか、実際先生やってましたからね（笑）。
大谷 「ライガーが何でああいうこと言ったかわかるか？」「わかりますけど、ボクも納得いかない部分があるんですよ」って、いろいろ話してたら、「そうか、まぁ、何年か経てば絶対わかるから。納得いかなくても今回はライガーに謝るべきだ」って言われて。でもボクはね、あとになって冷静に考えたら、何となくわかってきたんですよね、「自分はプロじゃなかった」って。

炎武連夢、気持ちいいぐらいに OH砲に完敗！

ただ自分が若さにまかせて、知り合いがいるとこでいいとこ見せたいって気持ちだけでやっちゃってたって、あとになってホントに思って。それで、ライガーさんがシャワー浴びて出てきたところで、深々と頭下げてね、「すいませんでした」って言ったら「いい経験したな。まぁ、若気の至りだよ」って言ってくれたんですよね。だからボクの中では、それは"若気の至り事件"なんですね（笑）。
――若気の至り事件ですか（笑）。
大谷 その時は、もういつものライガーさんに戻ってたんですよ。「いい経験したな、お前伸びるよ」って言ってくれて「頑張ろうぜ！」みたいな。
――青春ドラマみたいですね（笑）。
大谷 そうでしょ？ 正直、怒られてる時は「コノヤロー！」って気持ちしかなかったけど、その時は「こういう先輩になりたい」って思ったし、プロっていうのは何たるものかっていうのはライガーさんと馳さんにその頃は教わりましたね。これは、いままで取材とかで話したことない話なんですよ！
――じゃあ、本邦初公開ですか！
大谷 そうですよ。でもボクはあの時、ボクが目標とする人間がライガーさんで良かったなって素直に思ったし、器のデカさを感じたんですよ。そういう意味では、ボクのこの10年ちょっとっていうのは周りの人に恵まれてたなって思いますよ。先輩、同期、後輩、全部含めてボクは恵まれてたなって思いますね。先輩たちからいっぱい、いろんなものを教わったし、それをいまの若い子に伝えたいですからね。……カッコいいでしょ、いまの（満足げに）。
――また自画自賛ですか（笑）。
大谷 いまの言葉は良かったでしょ！ これ見出しですよね。自分でシビれた！（かなり満足そうに）
――ボ、ボクもシビれました（笑）。そういえば、高岩さんとかは、長州さんから「もう辞めろ」とか、よく言われてたみたいですね。
大谷 高岩に関して言えばね、ボク、一緒に入ったでしょ？ やっぱり、ボクと高岩は雑用が多いわけですよ。テスト生上がりだし。それはそれでいいんですよ、ボクはエリートより雑草を目指したい人だから。そっちの方がカッコいいじゃないですか。
――雑草から必死に這い上がってトップに立ってたらカッコいいですよね。
大谷 あの時、思ったんですよ。「あ、自分は雑草組だな」って。「俺がトップになったら、絶対『雑草の中から這い上がって来たんだよ』って言おう」

空手家コンビに"プロレス"を叩き込み炎武連夢、初勝利！

10・25名古屋大会で初対決となった炎武連夢とOH砲。奇襲を仕掛けた大谷&田中は小川を孤立させ攻めまくるも、その後、怒濤の大反撃を受け、最後は大谷が、オレごと刈れで小川にフォール負けを喫した。しかし、試合後、炎武連夢は「全日本に乗り込んでやっから！」と力強く宣言！ 翌日の大阪大会では小笠原&小林の空手家コンビに「プロレスを教えてやる！」と叫びながらの噛み付き攻撃など、いやらしい攻めを見せ、最後は大谷が必要以上に反りまくりの逆片エビ固めで小林からタップを奪った。遅ればせながら、この日が炎武連夢初勝利！

って。その時アマレス三銃士っていうのがいて。石沢（常光）、永田、中西っていうのと、ボクと高岩がいて。もう自然に分けられるじゃないですか。でもね、そのアマレスの3人を立てるわけじゃないけど、エリートって人は、どっかで自分らより努力してる部分があるのかもしれない。エリートと言われるまでには凄い苦しい時期があると思うんですよ。たとえばアマレスで全日本、オリンピックに出るっていったら、それまでに凄いシゴキがあったと思うんですよ。ボクらは、それを飛ばしてプロに入ったわけじゃないですか。

――そういうことになりますよね。

大谷　だから苦労する時期が違ってるだけだなって感じがあったんですね。だからボクはあの3人を凄い認めてるし、ある意味尊敬の念もあったしね。でも、その中で「いや、俺は雑草。美味しいなぁ」って気持ちもあったんですよね（満足げ）。

――実に大谷さんらしいですね（笑）。

大谷　高岩なんてね、さっきも言ってたけど、よく先輩から「お前、素質ないよ。もう辞めろ」って言われてたんですよ。それも冗談っぽくじゃなくて本気で言ってるんですよ。高岩はメチャメチャ悔しかったと思いますよ。ボクも、いつも側にいたから凄い悔しかったんですよ。

――雑草組としては、自分が言われてるような仲間意識を感じていたとか？

大谷　仲間意識なのかどうかはわかんないけど、自分と一緒に入ったヤツって感覚もあるし、テストで同じ日に入った人間が6人いて、残ったのは2人だけだったんですよ。で、高岩には「こいつは絶対残って欲しい」と思ったし、先輩たちからそういうこと言われるでしょ？　言われた時に、ボクはね、高岩はどう思ったか知らないけど、のほほんとしたヤツだから。ボクは絶対、高岩に一人前になって欲しいって思いましたね。絶対ベルト巻いて欲しいって。そして、いま言ってるヤツらをホントに見返して欲しいって思ったんですね。そしたらアイツ、やったじゃないですか。IWGPジュニアのベルトを獲って、高岩も凄い嬉しかったと思うけど、ボクもメッチャクチャ嬉しかったんですよ。高岩がジュニアの頂点に立った時、ボクは高岩をそれまで、けなした人間に心の中で叫びましたよ、「見たか、お前ら！　お前らは見る目がねえんだよ！」っていうぐらいの気持ちがあったし……これも涙が出るぐらいのいい話でしょ？

最近、すっかり大谷の持ちネタ（※本人は否定）となっている試合後のロープずり落ち！

――は、はい。感動的な話ですねぇ。

ささきぃ　今度ジュニアの『天下一武道会』を開催するって言ってますけど、高岩さんに頂点取って欲しいって気持ちはあるんですか？

大谷　頂点取って欲しいって気持ちはあるけど、それ以上にね……ゲッ！………ボクはね……ゲッ！

――2連発ですか（笑）。

大谷　ここ、ちゃんと「ゲップ2回」って書いて下さいね。

――わかりました（笑）。

大谷　ボク、『火祭り』っていうのをプロデュースしたじゃないですか。ボクはね、そういう役を高岩に体験して欲しい。たとえ優勝はできなくても、やり終えたっていう、終わった時の充実感を高岩に味わわせてやりたい。ボク、『火祭り』で凄く成長した気持ちになりましたからね。実力的にもあるかもしれないけど、それ以上に精神的に。「やり遂げた」って気持ちがね。いまのジュニアでそういうリーグ戦が開かれるんであれば、間違いなくその役目は高岩しか考えられないですから。その充実感を味わって欲しいですね。それに伴って優勝できたら、それは最高じゃないですか。高岩がいろいろ動いて「リーグ戦やるぞ！」って名乗りを上げて、「出たいヤツ、出て来い！」みたいな。自分は「熱いヤツ、集まれ！」って言ったけど、それは高岩流の言い方でいいですよ。「ぬるいヤツ、集まれ！」でもいいし（笑）。

――アハハハ！　「競馬好きのヤツ、集まれ」でもいいでしょうし（笑）。

大谷　そうそう（笑）。それを実現させて、やり終えた時の充実感を高岩に味わわせてやりたいって気持ちはありますよ。それでね、精神的にも成長して、炎武連夢に来て欲しいな、と。

――なんか、今日は、素敵な話がたくさん飛び出しますねぇ。

大谷　いいこと言うんですよ、ボク（笑）。あとボクはね、引退する時に書くんですよ（遠い目をして）。

――エッ!?　何を書くんですか？

大谷　「大谷晋二郎物語」ですよ！　売れる売れないは関係ない。書くのが夢なんです。

――最近では高山さんが自伝を出しましたけど、いまはまだ早いんですか？

大谷　まだ売れない！（キッパリ）。

――あ、売れませんか（笑）。

大谷　まだ早い。これから何があるかわからないじゃないですか。書くんだったらプロレスラーを辞めた時に全部まとめて書きたいですね。辞書みたいな厚さになるんじゃないですか？

――一冊じゃ、まとまりきれないかもしれませんね（笑）。

大谷　そうですね。そして、ドラマ化！　これもボクの夢なんですよ。

――夢がいっぱいあるんですね（笑）。ちなみに大谷役は誰がやるんですか？

大谷　ボクに決まってるでしょう！　もうギャラ、ガッポガッポですよ（笑）。

――ガッポガッポ（笑）。今後もマット界を、大いに掻き回してください！

【10・8／港区『六本木ハリウッドスター』にて収録】

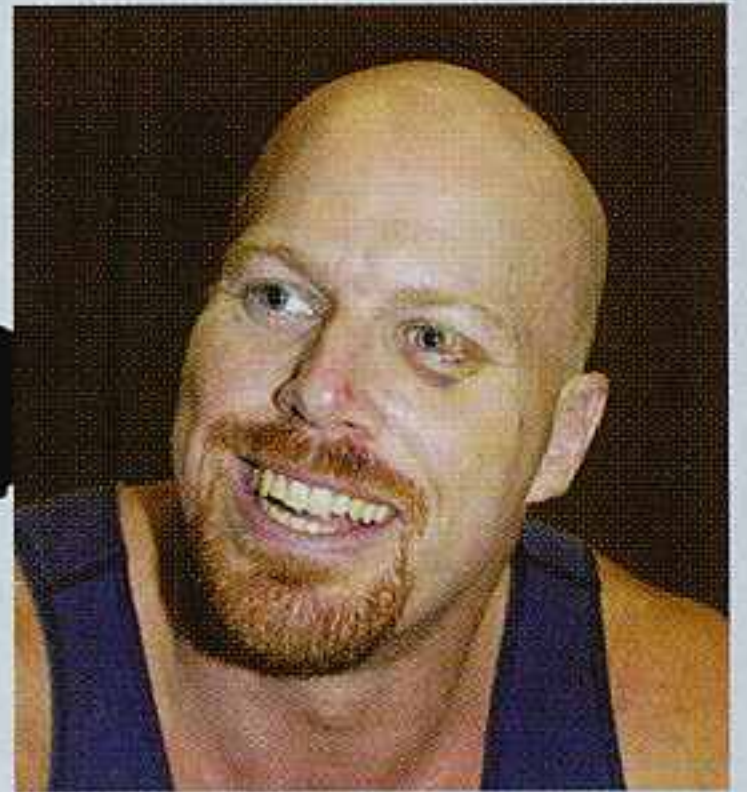
本音ぶっちゃけトーク 後編

試合も熱いがトークも熱い！ 大谷晋二郎、学園祭でも大炎上!!

11・3　亜細亜大学　大谷晋二郎　講演会

「こういう講演会とかでしゃべるの大好きなんですよ！　もう終わりですか？　いっくらでもボクしゃべりますよ！」。プロレス界一熱い男・大谷は、200人以上の観客を前に、ここでも「夢は結婚ですね！　ボク、結婚したくてしょうがないんですよね」と熱く「ぽっかぽか」について語った他、新日本時代、長州力の付き人をしていて、遅刻してタクシーの中でブン殴られた話、タバコを吸っているファンの高校生に突如ブチ切れた金本浩二の話など、1時間半熱くしゃべりまくって観客を沸かせた。最後は「ボクは、プロレスが好きで好きでしょうがない。たとえ自分が犠牲になったとしても、プロレス界をもういちど活性化させたい」と熱い思いを語り、NOAHの12月7日・横浜大会へ乗り込むと宣言した！　『ゴング』の編集長、GKも絶賛する大谷晋二郎のプロレスに今こそ注目せよ！

ネイサン、事件です！
ZERO—ONEの〝鋼鉄大巨人〟にも
WWEの巨大な影が!!

WWE？　その件に関してはノーコメント！ ただ、北尾にはリベンジしたいね

NATHAN JHONS

『PRIDE.1』での北尾戦から約5年。いまや、プレデター、ハワードらと並びZERO-ONEのトップ外人として大暴れしているネイサン・ジョーンズ。10月シリーズでは、タッグながらも遂にベルトを獲得し、今後のZERO-ONEマットで、さらなる活躍が期待されるネイサンだったが、スパンキーに続き、この男にもWWEの影が!?

聞き手／松澤チョロ
撮影／丸山剛史（P78写真）乾晋也
designed by さおとめの事務所

——大谷&田中組を破ってのNWA世界インターコンチネンタル・タッグベルト奪取、おめでとうございます！

ネイサン　オォ～、センキュー！

——まずはじめに、ネイサンさん、ZERO—ONEマットの印象を聞かせてください。

ネイサン　そうだな？　ひと言で言うとファンタスティックな団体だよ！

——ファンタスティック！（笑）。どの辺がファンタスティックなんですか？

ネイサン　すべてだよ。最初にZERO—ONEに来てから自分の力を徐々に発揮できるようになってきたことが一番嬉しい。これからもハシモト、オガワ、オオタニとかとタフな試合をしていこうと思ってるよ。

——ZERO—ONE以外では、どんな団体で活躍してるんですか？

ネイサン　地元のオーストラリアにWWAっていう団体があるんだけど、帰国したら、そのヨーロッパツアーが2週間ぐらいあって、それに参加することになってるよ。

——ちょっと小耳にはさんだんですけど、WWE参戦の噂が流れてますが？

ネイサン　その件に関してはノーコメント！

——でも、ノーコメントって、逆に疑われちゃうんじゃないですか？（笑）。

ネイサン　う～ん、そう取られてしまうか？　でも、いまの段階ではノーコメントだ！

——わかりました（笑）。この間の新日引き抜き騒動とかもあって、ネイサン・ジョーンズというとトラブルメーカーと見ている人が多いと思うんですが（笑）。

ネイサン　ガッハッハッ！　オレがトラブル・メーカーだって言うのか？（笑）。

——ズバリ言ってそうです！（笑）。

ネイサン　オォ～！（と頭をかかえ込む）。

——実際、新日本プロレスに対して、どう思ってますか？

ネイサン　オレはニュージャパンに行こうなんて、これっぽっちも思ってなかったんだ。

——えぇ～、本当ですか？　でもオファーがあったのは事実なんですよね？

ネイサン　そういう話はあったような気もするが、具体的な話は何もなかったよ。

——一説によると、ネイサンさんがギャラのつり上げを狙って、そういう話を流したんじゃないかとも言われてるんですが？（笑）。

ネイサン　（必要以上に大きく首を振りながら）ノーノーノー！　そうやってジャパンのマスコミは、人のことをすぐ悪者にしようとするんで困ってるんだよ（苦笑）。

——いや、悪人にするつもりはないですけど、どうみても善人には見えませんよ（笑）。

ネイサン　自分でもよくわからないんだよ。噂ばっかり先行してるからな。オレは言いたい。ジャパンのプレスはヒドイよ！

——ジャパンのプレスはヒドイ？（笑）。

ネイサン　オレは、そう思う（笑）。まあ、自分としては変わらずZERO—ONEで暴れるつもりだよ！　なにしろ、いまはタッグチャンピオンだからな。

——そうでしたね（笑）。

ネイサン　このベルトも神様がZERO—ONEで活躍しろって言ってプレゼントしてくれたものだと思ってるんだ（笑）。

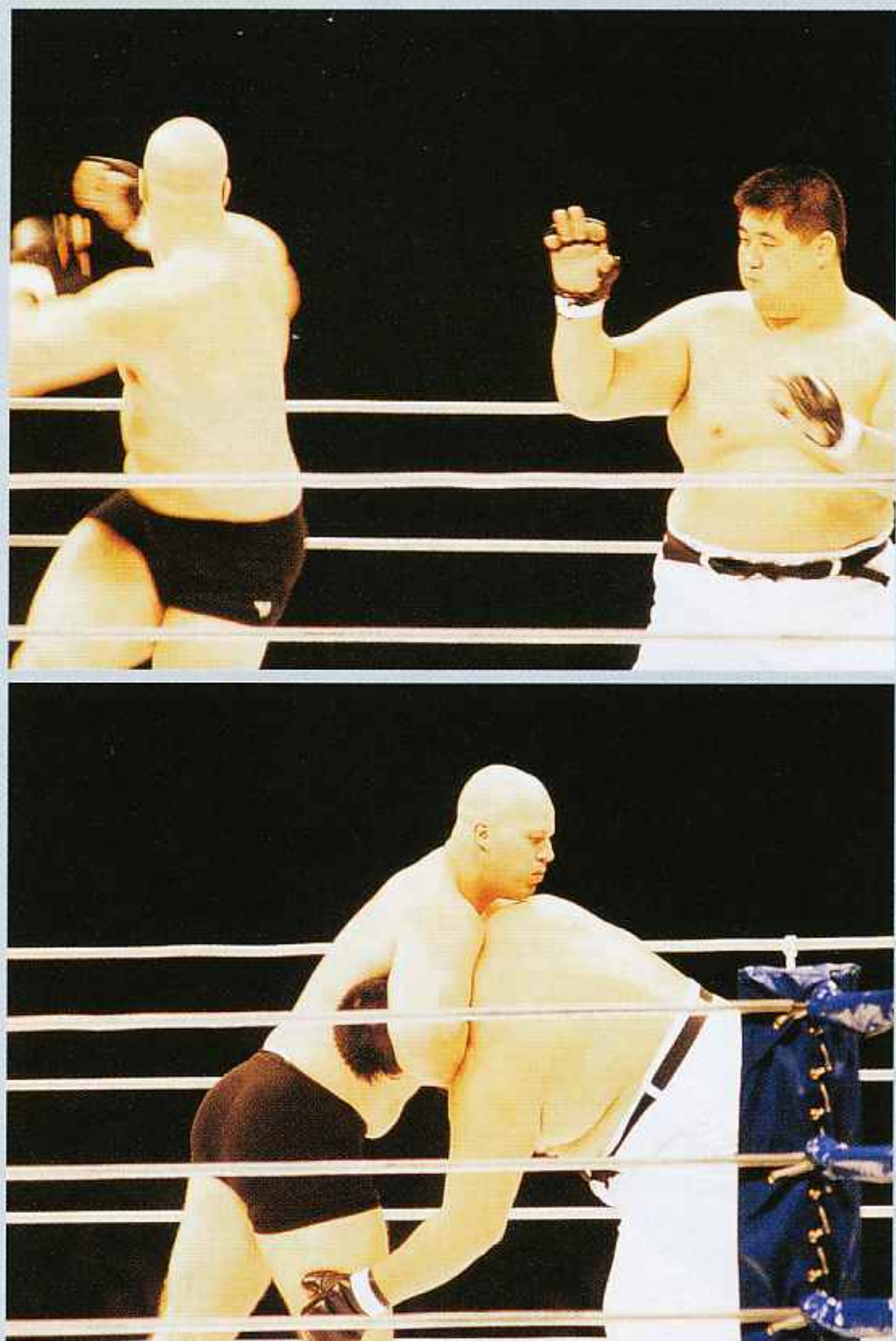
——でも、今日の橋本&小川戦はベルトが賭けられるかもしれないんですよね？

ネイサン　いまのZERO—ONEでOH砲がタッグのトップだと思ってるヤツら多いだろ？　そいつらの目を覚ますために、あえてベルトに挑戦させて恥を掻かせようと思ってるんだ。ガッハッハッハッ！

——かなり自信がありそうですね。それで、ネイサンさんと言えば『PRIDE・1』で北尾（光覇）さんと闘ったのが印象深いんですけど、あの時が初来日になるんですか？

ネイサン　そうだね。（資料として持っていった、その時のパンフレットをマジマジと見ながら）懐かしいよなぁ。

——実際、『PRIDE』には、どういった経緯で出場することになったんですか？

ネイサン　アメリカのプロモーターから声が

掛かって出たんだけど、そいつが誰だかも忘れちまったよ（苦笑）。

――忘れちゃいましたか（笑）。

ネイサン　そのプロモーターから「オマエにピッタリの相手がいるんだよ。それに東京ドームっていうデカイ会場だし出てみないか？」って誘いの電話があったんだよ。

――そうなんですか。たしかに体格的にはピッタリの相手でしたけどね（笑）。

ネイサン　ただ、あの時はオレはコンディション的にあまり良くなかったんだよ。

――当時は総合格闘技の練習とかは何かやってたんですか？

ネイサン　ボクシング、キックボクシング、テコンドー、合気道、それにマーシャルアーツとか、たくさん習ってはいたが、あまりにも練習時間が足りなかった。

――それだけ、たくさん習っていても、練習時間は足りなかったわけですか？（苦笑）。

ネイサン　いや、もちろん、同じ時期に全部習っていたわけじゃないからな（笑）。

――失礼しました（笑）。

ネイサン　それに、あの時は『PRIDE』を想定した練習は、ほとんどしていなかったんだよ（苦笑）。

――じゃあ、しょうがないですね（笑）。

ネイサン　ただし、アームレスリングならキタオにも絶対負けないよ（ニヤリ）。

――北尾戦の時のプロフィールにも書いてましたけど、ネイサンさんはアームレスリングのチャンピオンだったんですよね。

ネイサン　そうさ。スウェーデンのアームレスリングチャンピオンと、まだ経験がない頃にやったんだけど、オレはテクニックは何一つわからなかったんで、とにかく力だけでブッ倒してやろうと思ったんだ。そしたら、あまりにも力を入れすぎて腕の骨が折れて、血管も破裂してしまったっていう苦い思い出があるんだよ（苦笑）。

――血管破裂ですか！　腕相撲でも大ケガすることがあるんですね。

ネイサン　危険だよ。それからだな、本腰入れてアームレスリングを始めたのは。

――日本のファンに腕相撲チャンピオンとして有名な格闘家はゲーリー・グッドリッジっていう選手なんですよ。ネイサンさんも出た『PRIDE』やK―1でも活躍してる選手なんですけど。

ネイサン　ふ～ん、聞いたことないな。

――同じ大会（『PRIDE1』）に出てたんですけどね。この選手ですよ（と、グッドリッジが写っているパンフレットを見せる）。

ネイサン　あぁ～、コイツなら知ってるよ。まあアームレスリングだったら間違いなくオレが勝つだろうな（ニヤリ）。

――それこそ、グッドリッジは新日本でプロレスもやったことがあるんですけど、プロレス対決とかどうですか？

ネイサン　まあプロレスでもオレが勝つだろうけどな（またもやニヤリ）。

――2連勝ですね（笑）。最後にK―1ルールでやったら、どうなりますかね？

ネイサン　K―1？　それはノーコメントにさせてくれ（なぜかニヤリ）。

なんでだ（笑）。ネイサンさんは一度『PRIDE』に出てるわけですけど、いまボブ・サップっていう、総合、K―1、プロレスと、いろんなリングで活躍してる選手が大人気なんですけど、ネイサンさんは総合とか格闘技系の試合をするつもりはあるんですか？　それともプロレス一本でやっていきたいっていう感じなんですか。

ネイサン　チャンスとメリットがあれば、どこのリングでも上がりたいって思ってるよ。

――ここ最近もプロレス以外の格闘技系の練習は続けているんですか？

ネイサン　ボクシングは、いまでも続けてるし、プロレス以外にも格闘技の練習は続けているよ。いつ、おいしい話が転がってくるかわからないからな（ニヤリ）。

――おいしい話があったら、すぐ食いつきそうですからね（笑）。ちなみにバーリ・トゥードは北尾戦の一回だけになるんですか？

ネイサン　オンリー・ワンだ！

――その時の『PRIDE』のパンフレットには「ストリートファイト負けなし」って紹介されてたんですけど、それはズバリ言って事実なんでしょうか？

ネイサン　事実だ！（キッパリ）。

――かなり悪ガキだったんですか？

ネイサン　まあ、良い子じゃなかったな（笑）。小さい頃からケンカばっかりしてたしな。オレが住んでたのは、あまり治安が良くないところで、しょっちゅう「オレにチャレンジしたいか？」ってカラまれてたんだ。

――しょっちゅうですか？　日本だったら、まずカラむ人はいないでしょうけど（笑）。

ネイサン　たしかに、日本ではリング上以外ではカラまれたことはないな（笑）。

――でしょうね（笑）。それでカラんで来た

『PRIDE.1』で北尾と対戦したネイサン・ジョーンズ。ストロングマン・コンテスト優勝＆ストリートファイト無敗という肩書きを引っさげ北尾に挑んだネイサン。ジャンピング回し蹴りで威嚇するなど、巨体に似合わず軽快なところをみせたが、あえなく秒殺！

オレはストリートファイトなら一度も負けたことはない！

この取材は10・25大阪大会での試合前に行った。その時点でタッグ王者だったネイサン＆ヘンデンリッチのツインタワーズ、当然ベルトを巻いての撮影となったが、数時間後、ベルトはOH砲のもとへ

400戦なんて1年ちょっとで済んじまうだろ。楽にクリアしてるよ

相手と片っ端から闘ってきたわけですね。

ネイサン YES！「もちろん、オレだって闘いたいよ」ってことでケンカになっちまうんだ。たとえ、自分より大きなヤツでも年上でも、オレは闘ってきた。ウチの母親には「やめなさいッ！」って、よく足にしがみつかれたりしたよ（笑）。

――必死にしがみつく母親の腕を振りほどいてケンカに明け暮れてたわけですか？

ネイサン いまとなっては、悪いことしたなって思うこともあるけど、ケンカが好きだったからしょうがないさ（ニヤリ）。オレは12歳の頃からヒゲを生やしてて、いつも18～19（歳）ぐらいに見られてたんだよ。

――12歳からヒゲを生やしてたんですか？ そんな小学生は日本にはいないですよ（笑）。

ネイサン そうだろうな（笑）。自分がストリートファイトで闘ってた相手っていうのは、常に5歳か6歳上のヤツらばっかりだったんだ。

――その当時の5歳差って、かなり大きな差があると思いますけど、それでも負けてないっていうのは凄いですね。

ネイサン おかげで、知らず知らずのウチに強くなったってわけさ（笑）。

――ヒクソン・グレイシーは400戦以上無敗って言われてますけど、もしかしてネイサンさんは、それ以上なんじゃないですか？

ネイサン 別に自慢するわけじゃないが、400戦なんて1年ちょっとで済んじまうだろ。いったいオレが何年闘ってきたと思ってんだ！ 400戦は楽にクリアしてるよ。

――あっさりヒクソン越え達成ですね（笑）。それとネイサンさんっていうと、ジャッキー・チェンの『ファイナル・プロジェクト』っていう映画にも出てたみたいですけど、俳優業は、いまでもやってるんですか？

10・20後楽園で炎武連夢からNWAインタコンチタッグ王座を奪取したネイサン&ヘンデンリッチ。10・24名古屋ではプレデター組相手に防衛成功、最終戦で組まれたOH砲戦にベルトを賭けるよう自ら要求、小川&橋本を苦しめたが、パートナーが敗れ再び無冠に

ネイサン ジャッキーの映画に出たのは本当だよ。凄くエキサイティングな体験だったね。映画の世界でも、これからもチャンスがあればドンドンやっていきたいと思ってるんだ。映画はそれぐらいだけど、あとアメリカの子供番組に出たことがあるよ。

――えっ、子供番組ですか？（笑）。どんなことをやってたんですか？

ネイサン 巨大なモンスターの役だったよ（笑）、顔にはペイントをして出たんだよ。でもヒールじゃなくてベビーフェイスのモンスターだったんだ（笑）。

――ZERO―ONEでは橋本さんやプレデターも映画とか出てますけど、演技力は、その2人に負けない自信はありますか？（笑）。

ネイサン もちろん、自分がイチバンだと思ってるよ（ニヤリ）。でもハシモトはプレスリーに似てるからな。ジャパニーズ・プレスリーだね（笑）。

――それは、ガファリも言ってましたね（笑）。また『PRIDE』の話に戻っちゃうんですけど、その時、闘った北尾さんは、いまは引退しちゃってるんですけど、彼にリベンジしたいっていう気持ちはあるんですか？

ネイサン もしキタオが、またリングに戻ってくるようなことがあるなら、いつでも闘ってやるさ。そんなに見たいのか？

――是非、ZERO―ONEで実現して欲しいですね。今度の両国大会でネイサンvs北尾戦の相撲マッチとか（笑）。

ネイサン オ～、グッド・アイディア！

――次に闘ったら必ず勝てますかね？

ネイサン 相撲ルール以外だったら、そういう結果になるだろうな（笑）。

――関係ないですけど、ネイサンさんは結婚はしてるんですか？

ネイサン いや、ガールフレンドはいるけど、結婚はしてないよ。

――ガールフレンドは、たくさんいるんじゃないですか（笑）。

ネイサン 1人だけだよ。オレにはオーストラリアで待ってる大切な彼女がいるんだ。1人いれば十分だよ（笑）。

――そうですか。意外とマジメなんですね（笑）。何か苦手なものはありますか？

ネイサン そうだな。しいて挙げれば、ハシモトぐらいだな（笑）。

――アハハハ！ これからもZERO―ONEでの活躍を期待してますけど、もしWWEに行っても頑張ってくださいね！（笑）。

ネイサン だから、その件に関してはノーコメントだって言ってるだろ！（笑）。

【10・25／大阪・臨海スポーツセンターにて収録】

【ねいさん・じょーんず】 オーストラリア出身の32歳。初来日は『PRIDE1』の対北尾戦。あっさり北尾のアームロックで秒殺され、再来日はないだろうと思われていたが、今年1月、突如ゼロワンマットを襲撃。一発目から破壊王が保持するNWA王座に挑戦、敗れはしたが、その後、ゼロワン常連外人の仲間入りを果たす。209センチ、122キロ

〃大衆格闘芸術集団〃ZERO-ONE、まだまだ大進撃中！

ZERO-ONEの秋は激闘の大収穫!!

先月号で触れた10・20後楽園大会からスタートした、ZERO-ONEの10月シリーズ〃improvement II〃。後楽園の後の四日市・名古屋・大阪、4大会を『紙プロ』はもちろんフルで追いかけた!! 10月になってもZERO-ONEマットに〃秋風〃は吹かず!! あいかわらず熱いZERO-ONE地方大会レポート!!

構成／ささきいい　撮影／乾晋也

designed by cutty（Two Three）

名古屋国際展示場は、22日・四日市会場のオーストラリア記念館とはうってかわった近代的な建物。会場外の綺麗で広いエントランスホールで、新弟子が「橋本真也、小川直也参戦のプロレス当日券ありま〜す!!」と声を張り上げる開場前、坂田亘が小笠原和彦と突然大乱闘!! 報道陣もロクに見ることが出来なかった突然の乱闘で、小笠原は顔面を真っ赤に染める大流血!! いまや絶好調の坂田亘という男の恐ろしさを印象づけた。

メインで、とうとう激突したOH砲vs大谷&田中組。大谷・田中の相手を巻き込む力強いプロレスと、走り出したら止まらないOH砲のパワーが真っ向からぶつかり合った。連携プレーで小川の顔面に低空ドロップキックを決め「何が暴走王だ、このヤロー」と、大谷が小川を挑発。OH砲は、場外で田中に強烈な「オレごと刈れ」をぶっ放し、田中を失神状態に追い込む。リング上で孤独な闘いを強いられる大谷は、2人に顔面ウォッシュをかけるも、そこからOH砲の攻撃を受けまくってしまう。小川の払い腰、STO、破壊王のDDT、そして〃刈龍怒〃。すべてカウント2で起きあがり、OH砲の体にすがりつきながらも立ち上がる大谷だが、最後は必殺技・オレごと刈れでマットに沈められてしまった。

リングに乗り込んできたガイジンタッグを追い払い「大谷、出直して来い!!（観客に）今日はありがとうございました！ 最高に熱かったです。またここに来てもいいかな？ 来るゾーッ!! 最後しめるぞ、オー、エイチ、ホー!!」と叫び、超満員の観客も拳を突き上げてそれに応えた。OH砲とツインタワーズの激突が待つ、シリーズ最終戦へ向かう!!

今日のコリノ

ロウ・キーとのタッグでなぜか「FIRE」を入場テーマに、ドラゴンズTシャツ&メガホンで登場のコリノ。会場に投げると見せかけてストンピング、股間まで拭いて大ブーイング。今シリーズから、タッグに限り「真っ赤な顔でレフェリーに猛抗議」というネタも登場させているコリノ、試合後は、ちゃっかりスパイガールズをナンパしていた

2002.10.25
名古屋国際展示場
"SPY Master Presents Fighting Master"
観衆2500人
超満員札止め!!

〝SPY MASTER PRESENTS〟と銘打たれた今大会。休憩時には東海地区出身の〝スパイガールズ〟が登場し、ビンゴゲームを開催。いきなり列番号も言わず「26番の方〜」とかまぶボケぶりもあったが、可愛いので良し

OH砲と大谷・田中が激突! 坂田・小笠原一触即発!!

大谷に"格の違い"を見せつけるかのように打撃を叩き込むOH砲。翌日の大阪大会で激突するツインタワーズのジョーンズ&ヘンデンリッチがリングに乗り込んできた!! 英語で挑発されるも言葉がわからない破壊王は「オマエら、よく聞いとけ、オー・エイチ・ホーだ!!」と、突然ブチかました後「よく聞いたか!?」と追い出すポーズ。ギクシャクした空気の中、小川がこの言葉でわかりやすくやり返し、ツインタワーズを追い返すことに成功!

地元でジムを構える坂田には「坂田さーん」と、黄色い声、対するアンダーソンには低い声の「アンダ〜ソ〜ン」という声援が飛んだ。フロントネックロックで固く勝利した坂田は「どんな試合でも、向こうのやりたい形式でいい」と、小笠原とのシングル対決を早急にと望み「試合組まれるまでやってやる」と、今後も小笠原を〝襲撃〟するとブチあげた

横井&耕平組と対決した小笠原&小林組は「空手バカ一代」のエンディングテーマ「空手道おとこ道」で入場、演舞を披露。横井に額のテーピングをはがされた小笠原は、見てのとおりの大流血!! 小笠原勝利後も乱闘に。「ゼロワンの若い奴らまとめて、礼儀を叩き込んでやる!!」と、流れる血もそのままに激昂

2002.10.22
四日市オーストラリア記念館
観衆1400人
超満員札止め!!

〝炎武連夢〟3人での初陣飾れずも、破壊王を急襲!!

『週プロ』や『ゴング』等の、専門誌も訪れておらず、マスコミは新聞関係3人+『紙プロ』の、合計4人しかいなかった四日市大会。ボロい体育館といった雰囲気の四日市オーストラリア記念館大会は、チケット盗難騒ぎにも負けず、満員の観衆を集めた。

10月20日、そのデカさと圧倒的な強さで大谷晋二郎&田中将斗の持つNWAタッグのベルトを奪い去った、ネイサン・ジョーンズとジョン・ヘンデンリッチ。大谷&田中は、この雪辱をはらすべく、サコダ・ケイジを加えたチーム〝炎武連夢〟3人全員でツインタワーズ&スティーブ・コリノ組に立ち向かったが、またしても3メートル近くの高さからマットに叩き付ける恐怖の技・タワーダンクで敗北。〝炎武連夢〟初勝利を飾ることはできなかった。

だが、この敗戦にも〝炎武連夢〟の闘志は衰えはしなかった。メインの佐藤耕平&橋本真也組vsザ・プレデター&ジミー・スヌーカJr.の試合後、〝炎武連夢〟の3人がリングに乱入、破壊王&耕平に襲いかかった!

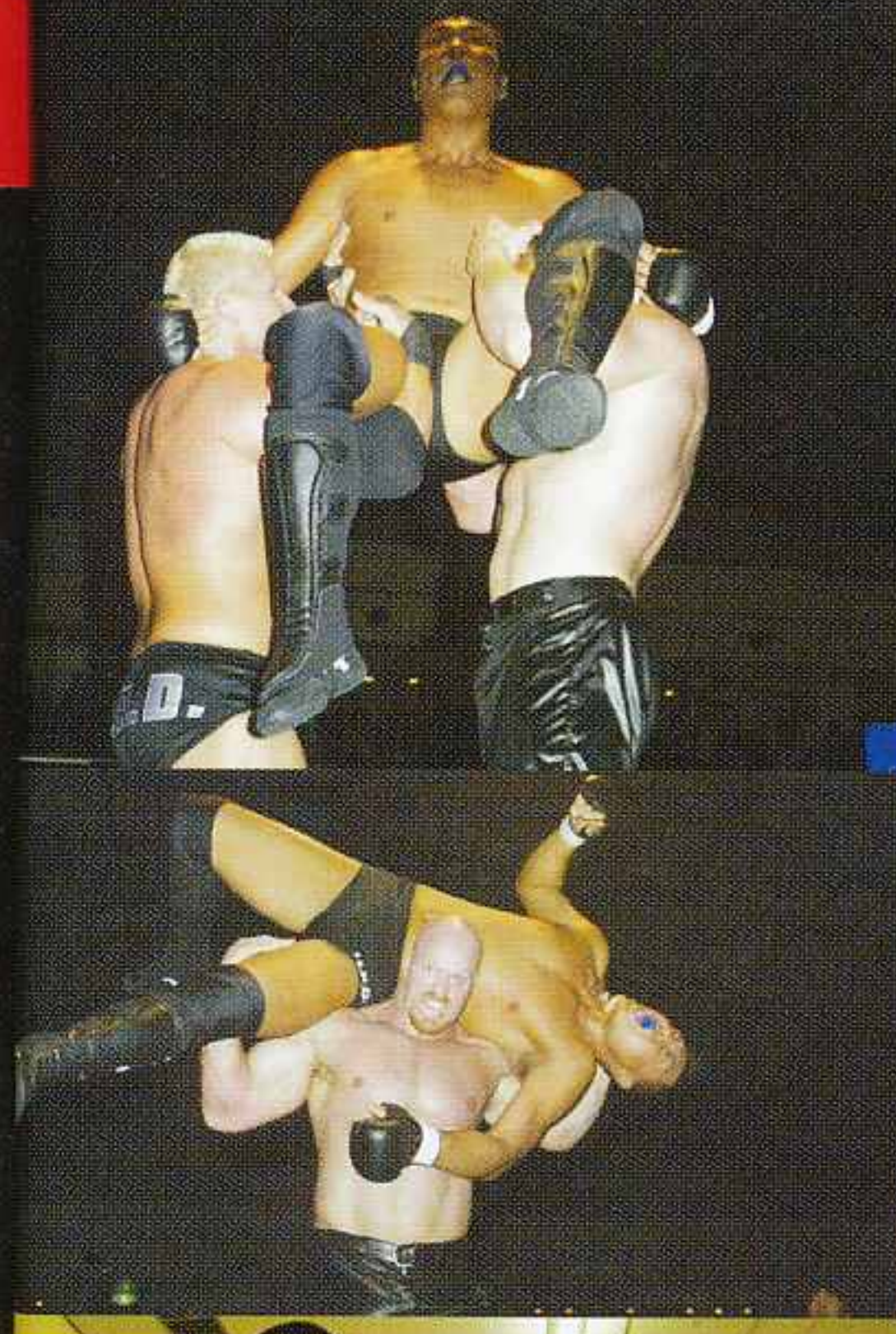
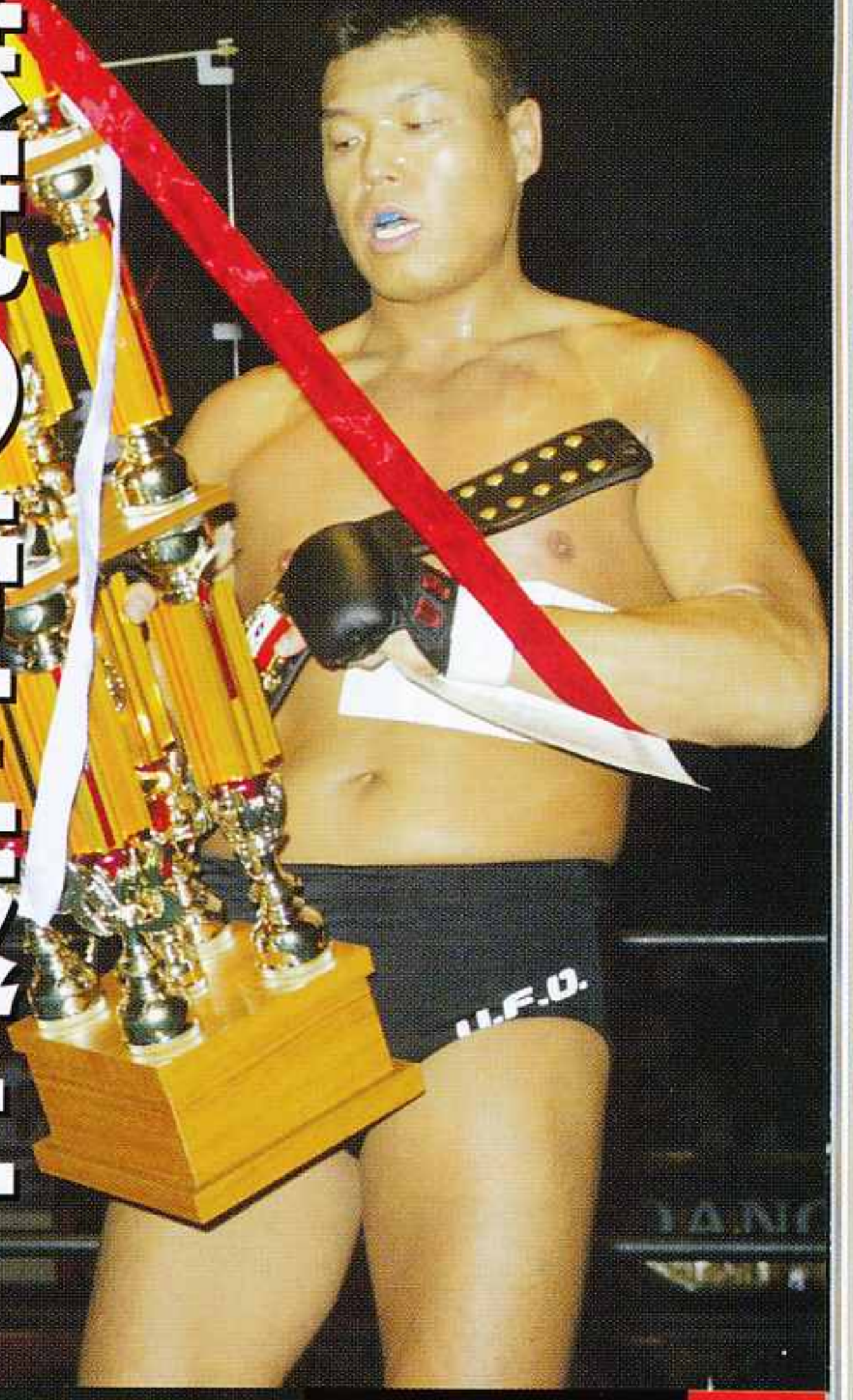
破壊王をリング下に蹴りだした大谷は「いつまでも、殿様ぶってんじゃねぇぞ橋本! 25日、名古屋で小川もろともオマエをつぶしてやるからな!!」と宣言。大谷&田中&サコダは、そのままノーコメントで会場を去り、タクシーに乗り込んだ。

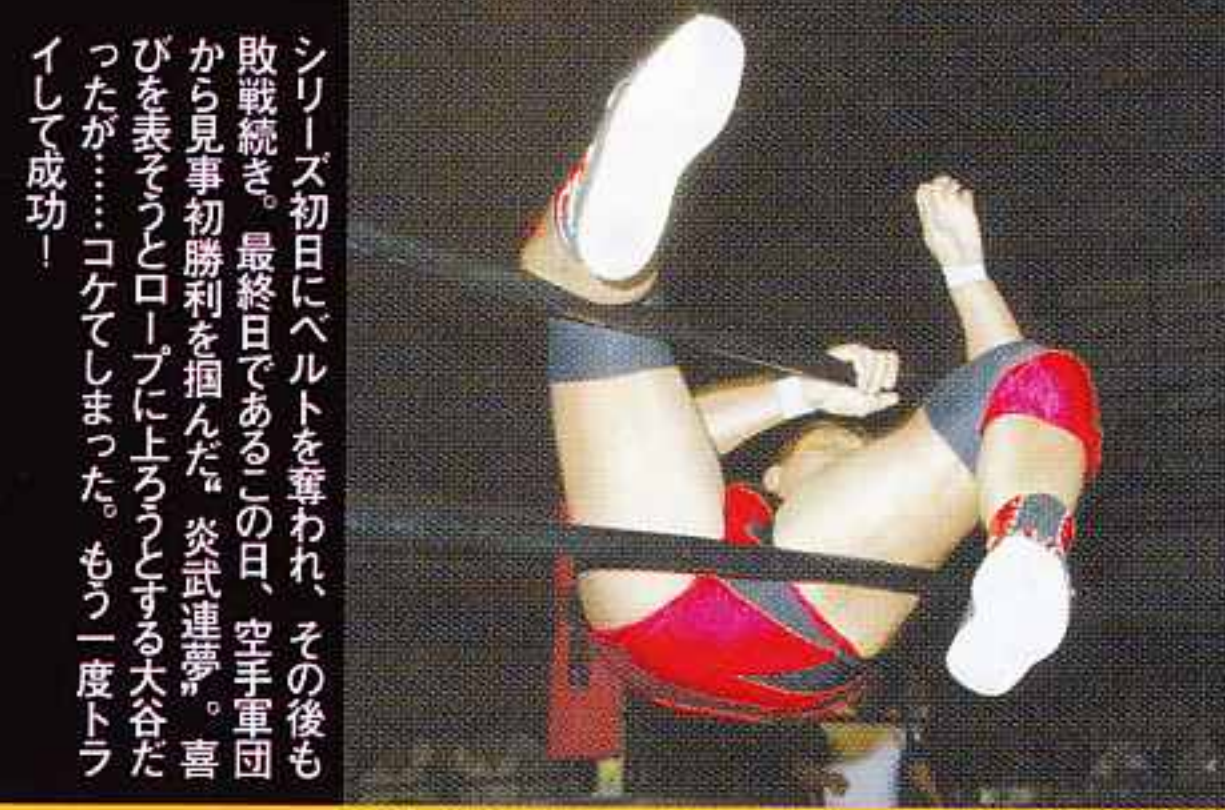
破壊王は「あんなもんじゃ弱い。逆の立場だったら、オレはもっとすごいことをやっている。まだまだ、足りません」と、炎武連夢組をジャッジ。「殿様にされちまった。バカ殿じゃなきゃいいけどな。名古屋では、オレはシャチホコになるぞ。破壊シャチホコの前に、ヒレふさせてやる」と、高度なダジャレで勝利宣言。「名古屋は、おれのお膝元みたいなもの。シャチホコ固めでもやるか」と、新技もブチあげたが「反ってるだけか」と即取り消した。25日名古屋で、OH砲と大谷&田中組が激突する!!

セミ終了後、和牛太が「自分は上に行くために、炎武連夢でやっていきたいんですよ!」と、マイクで直訴したが、大谷&田中は何も語らずリングを降りた!「今はあえてコメントしなかったけど、今後、お手並み拝見しますよ」

全カード、当日発表だったこの大会では、三重県出身のWEW・金村キンタローが凱旋試合を行い、地元でのブリブラダンスを披露。『本日はこの金村キンタローだけの為に735300人の方が集まっていただきましてありがとうございます。今後も故郷に錦が飾れるよう頑張りますのでご声援宜しくお願いします!!』

無冠の帝王返上！

OH砲、NWAタッグ王座に輝く!!

破壊王も「小川があんなに高いところに上がったのは初めて見たな」としみじみ語った、ツインタワーズの激烈タワーダンク!! 小川は「あれ（タワーダンク）で、意識が飛んでしまった。タッグじゃなきゃ負けていた。予想外のベルトだったけど、どんと来いって感じで次がんばります」

炎武連夢、ユニット結成初勝利!!

「打撃は強烈だよ。これは認める。だがな、プロレスをもっと勉強しろ！（by大谷）」。この日も「空手道おとこ道」で登場した小笠原&小林。放つ打撃の重さに観客が唸ったが、試合は終始大谷&田中がリード。プロレスの奥深さを2人から叩き込まれる結果に。フィニッシュはこれでもかと締め上げる大谷の片エビ固めだった

シリーズ初日にベルトを奪われ、その後も敗戦続き。最終日であるこの日、空手軍団から見事初勝利を掴んだ〝炎武連夢〟。喜びを表そうとロープに上ろうとする大谷だったが……コケてしまった。もう一度トライして成功！

新大阪駅から地下鉄を乗り継いで約1時間、和歌山に近い高師浜駅。近くにコンビニどころか駅から会場までの道で店はキオスクのみ（閉まっている喫茶店が2つあった）という、イナカの住宅街の中にそびえ立つ臨海スポーツセンター。トイレには茶色くなったわらばん紙の『O157について の注意』が貼ってある〝体育館〟が、ZERO-ONE11月シリーズの終着駅だった。

明かりひとつの照明設備。音響も割れて聞こえ、時にはスピーカーが暴発（突如大きな音になる）する会場。その中に、子供・おっさん（ネイティブ大阪弁）・プロレスファンと思われる若者がぎゅうぎゅうに集まった。見ていて興味がないと思うとすぐに席を立つ大人、暴れ回る子供たち。非常にまっとうな楽しみ方をする観客の中で行われた激闘ぞろいの今大会は、シリーズ最後にふさわしく、もっとも完成度が高い、ZERO-ONE史上に残る名大会となった。

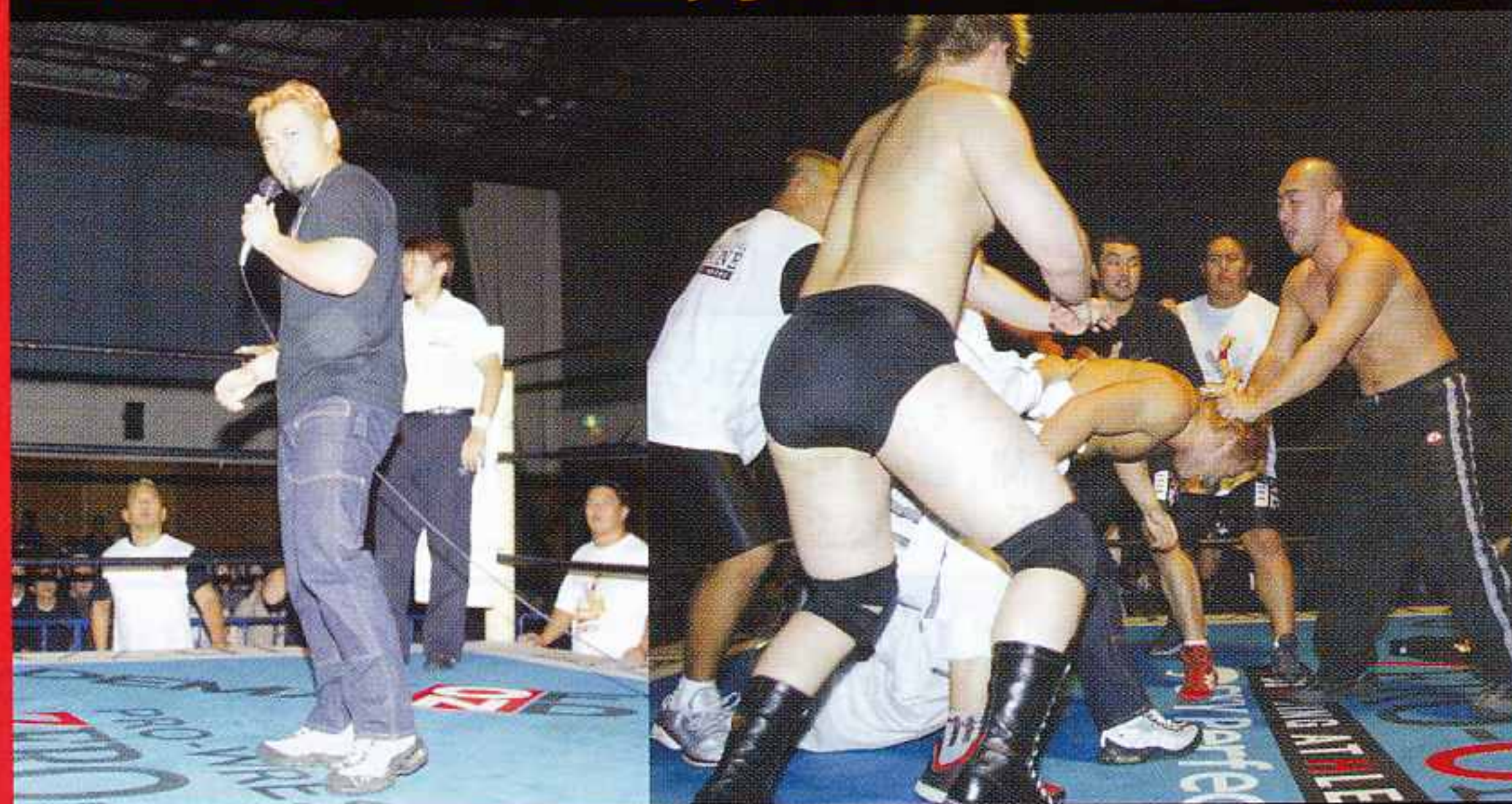
チャンピオンチームの2人のOKにより、NWAタッグベルトをかけて行われることになった、OH砲vsツインタワーズの一戦。ザ・プレデターの乱入によってツインタワーズのコンビネーションがいきなり崩れた。プレデターとネイサン・ジョーンズがリング外で乱闘をはじめたスキをついて、破壊王がジョン・ヘンデンリッチにDDT。続けざまに小川のSTO、最後は2人がかりで〝オレごと刈れ〟を決め、見事勝利。試合後、ツインタワーズやプレデター、シリーズ最初に破壊王に敗れたケイジ・サコダらがリングに乱入して大乱闘。休場中の崔リョウジ（地元）らも間に入り、場を納めようとするが、プレデターは辺りかまわずチェーンを振り回し、会場をめちゃくちゃにして去っていった。

最後は小川の先導による「オー、エイチ、ホー!!」コールの後、破壊王が「プロレスは、俺たちが守ってやる!!」と力強く宣言。ベルトを手にした破壊王は「天下一タッグへのいい布石になったかと思う。もちろん今後、防衛戦をやっていくけれど、つまんない相手とはやりません」と〝夢のカード〟実現の可能性を示唆。「防衛の舞台はアメリカの可能性もある」とも語った。他団体との対抗戦が噂されている今、OH砲がベルトを持ったことで〝闘いの意味〟がはっきり出来た。初防衛の相手は誰になるのか!? ん〜っ、オー、エイチ、ホーッ!!

2002.10.26
大阪臨海スポーツセンター
"SOFT ON DEMAND Presents"
観衆3000人
超満員札止め!!

超獣組と坂田&横井が危険な初接触!!

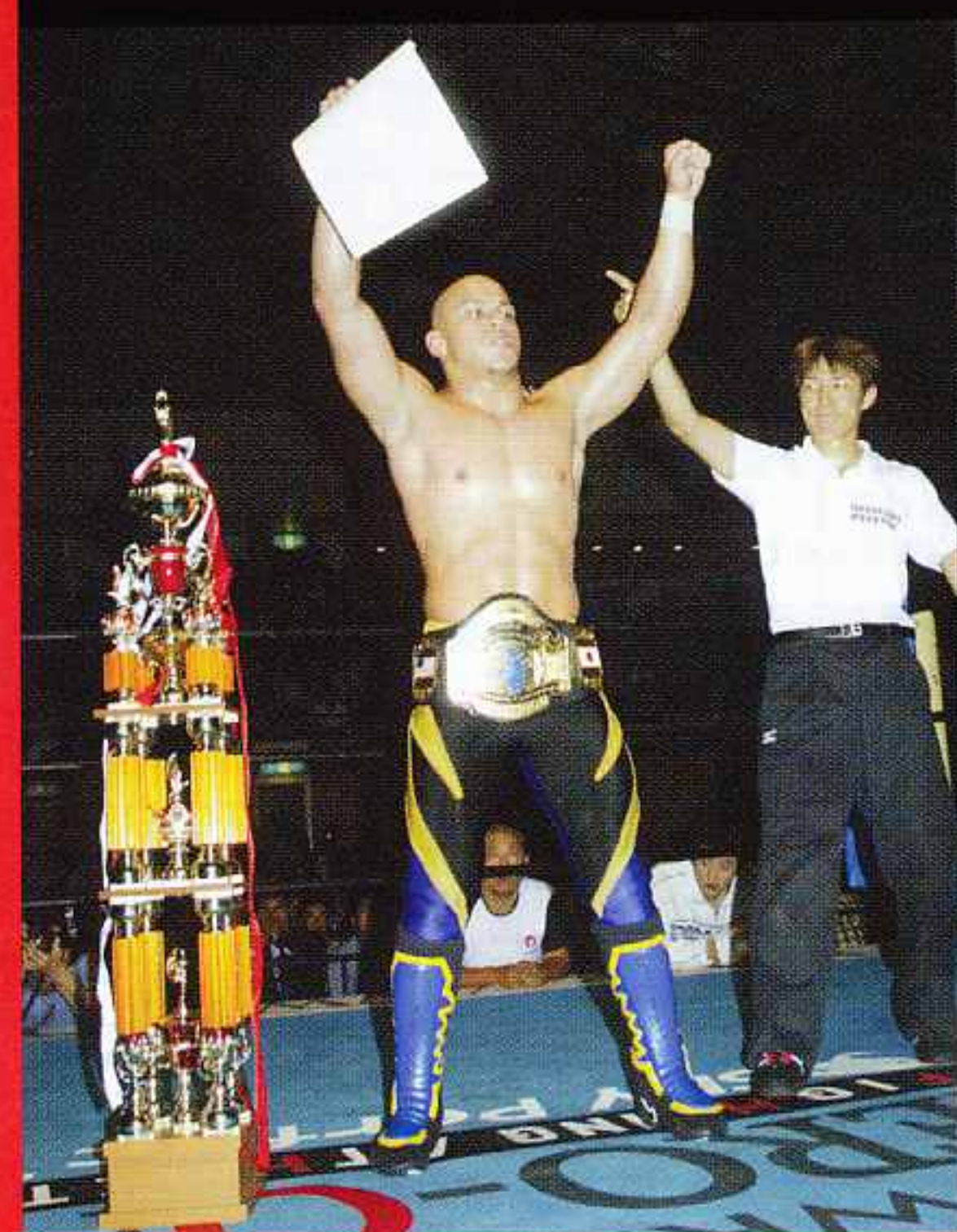
ザ・プレデターが、坂田＆横井組に、圧倒的な力の差を見せつけた。坂田にグラウンドでの極めを許さず、横井をカナディアンに担ぎ上げて、マットに叩きつける!! 元リングス勢が殺気をムキ出しにして、超獣のパワーに立ち向かっていく、見逃せない攻防となった。２人が攻略できなかったことで、プレデターの実力の奥深さも見えた

カズ・ハヤシ乱入!! ZERO-ONE勢にボコられる!!

第４試合後、予告通りにカズ・ハヤシが登場!!……だが、一緒に来るはずだったカシンがいない!! それでもカズは「ZERO-ONEのジュニア・ヘヴィ・ウェイトクラスの活性化、いや、……めざわりだから、つぶしにきた!!」と宣戦布告!! リングに登場した高岩は、いきなりラリアット!! ZERO-ONE勢がいっせいにカズひとりに飛びかかってボコボコに。カズは「カシンにだまされた。信じられない……」とつぶやいてタクシーへ乗り込み、会場を去った

佐藤大編集長デビュー

20日後楽園のGKに続き、この日は『週プロ』佐藤編集長が夢路&和牛太のフゴフゴ・ダンスに（楽しそうに）強制参加！ 『ゴング』『週プロ』の編集長が餌食となった今、「残るは『紙プロ』編集長、山口日昇の首ひとつ!!（by夢路）」

さよならスパンキー

この日を最後にZERO-ONEのリングを離れ、11月からWWEに参戦することが決定しているスパンキー。最後の闘いはコリノとのタッグ、タイガースのユニホームでの登場となった。「必ずいつか、日本へ帰ってくる！」

ロウ・キー王座守る!!

ZERO-ONE・NWA・UPW認定Nジュニアヘビー級王者、ロウ・キー。来日前からマニアからの評価が高かったロウ・キー（シウバ似）は、地方の客席からも高評価。客席まで飛びそうなトペ、側転からのジャンピング・ハイキック等、予想もできない動きで星川を翻弄し、最後はキースプラッシュで見事ベルトを防衛した

今日のコリノ

「六甲おろし」のテーマにのって、阪神タイガースのユニホーム、メガホンで登場。客席にユニホームを投げるふりをして沸かせながら……やっぱりストンピング。スパンキーが止めるのも聞かず、股間をふき、エルボー。当然大ブーイングに。試合ではサコダにコブラツイストを仕掛け、ストロングスタイル（？）も披露。「コリノ、イチバ～ン!!」

11・4 横浜文化体育館

ZERO-ONEとWEWの闘いは、終了どころか、始まったばかりだ!!

AV女優・爆乳Hカップの夢野まりあとくびれの女王・草凪純の対決は、気になる露出もなく終了。

冬木、両国大会へ殴り込みを宣言！

プロデューサー冬木は、AV女優参戦が今回で最後になるとコメント。ゼロワンとの交流が復活する可能性がでてきた!?

大谷晋二郎＆黒毛和牛太組激勝!! 金村キンタロー、田中将斗に炎の勝利!! セミファイナル、『火祭り』で大谷に敗戦し、リベンジに燃える黒田哲広＆TAKAみちのくと対戦した大谷＆和牛太組。和牛太が粘りをみせ、TAKAと黒田のスタミナを消耗させる。最後は力の差を見せつけるようにスパイラルボムを放ち、TAKAから3カウントを奪った。

「WEWなんて潰したる！」と宣言していた田中と、メインでWEWヘビー級のベルトをかけて激突した金村の闘いは、互いに大流血の死闘に。15分過ぎ、いきなりレフェリーをジャーマンで投げ飛ばした金村は、セコンドに有刺鉄線ファイヤーバットを要請。フルスイングの一撃をかわした田中だったが、マットに置かれたバットのうえにパワーボムで叩きつけられ、続けざまにくらったヒューマントーチで血みどろのマットに沈んだ。

金村は、田中に向かって「大谷に言っておけ。次はお前を燃やすって。このインディーの悪党どもを見てみぃ。大谷、田中、高岩、星川をぶっ潰したるわ！」と、宣戦布告。〝炎武連夢〟〝熱い男〟を志に掲げている大谷＆田中に対して、ファイヤーバットという炎そのものをぶつけることが、WEW金村の〝インディー魂〟からの返答だった。そして、理不尽大王・総合プロデューサー冬木もZERO-ONE両国大会乗り込みを宣言！ WEW軍団が、ZERO-ONEに対して本格的にキバをむけはじめた!!

文字通り、血まみれの激闘となったメインのノールールマッチ。金村の勝利への執念が、田中を己のペースに引っ張り込んだ。試合後、東郷・日高らを含むインディー軍団が徹底開戦を宣言！

〝炎武連夢〟入りを直訴した和牛太。黒田とTAKAに散々いたぶられながらも、フォールを許さなかった和牛太を大谷は評価した。第一段階はクリアといったところだろうか

ZERO-ONEの1カ月丸わかり（?）

紙のZERO・ONE

今シリーズから試合会場でも絶賛発売中！ の『紙プロ』発ZERO-ONEグッズ。売店ではこのMr.フレッド『TWOOO』Tシャツのグリーンが人気とか

今月『紙の新聞』はお休みです。しかし、日々面白いことが起き続ける団体・ZERO-ONEは、ページにおさまりきらないニュースが盛り沢山！ なので今月は本家「紙の新聞」に代わって“ZERO-ONE版”紙の新聞『紙のZERO-ONE』を臨時開設！ シリーズ以外でのZERO-ONEの事件を振り返ります。ん〜ッ、ゼロワンッ！

10・31 ZERO・ONE道場

修学旅行の新名所!? ZERO・ONEでチビッ子プロレス教室開催!!

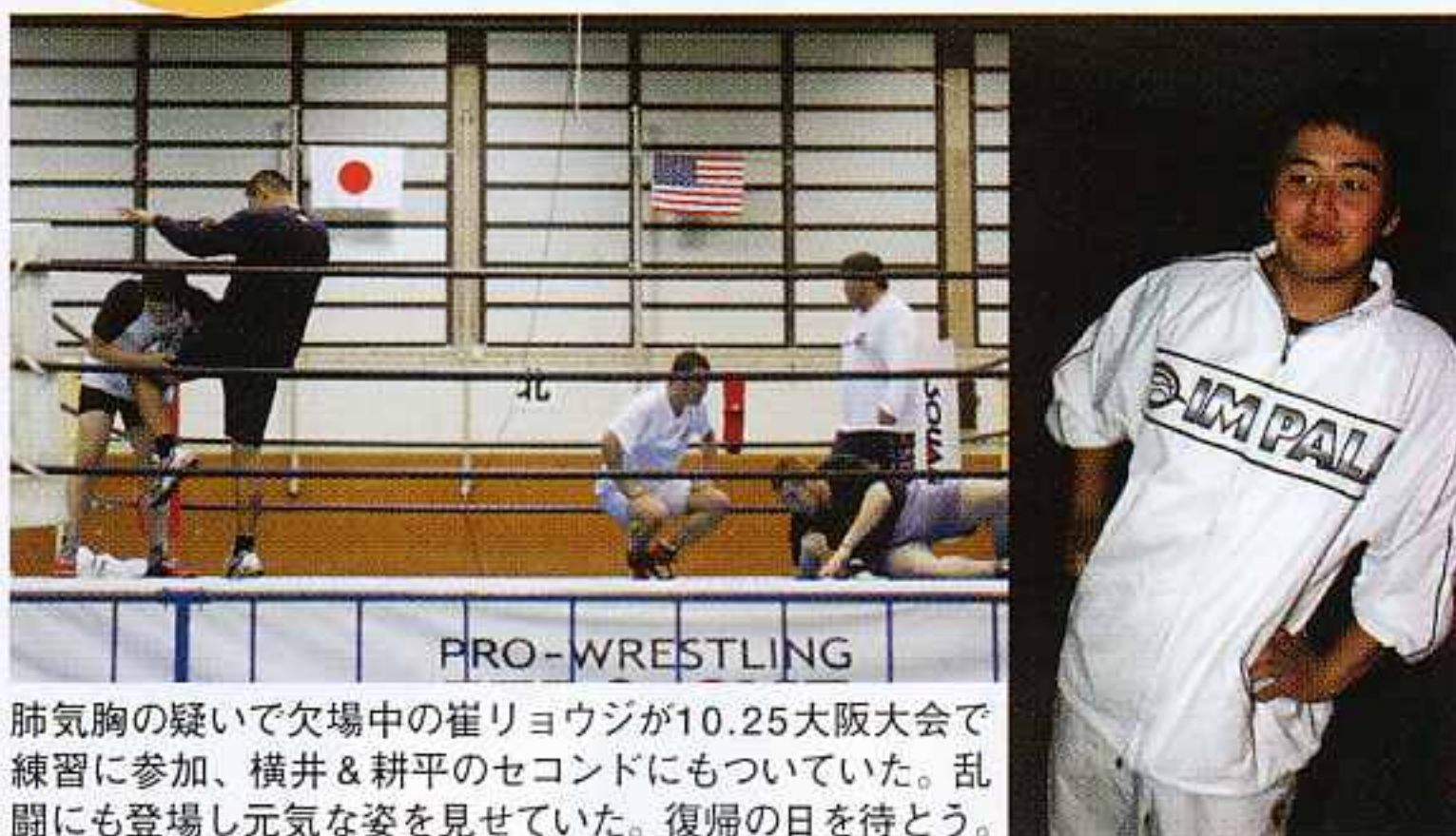
この日、修学旅行で東京へ訪れていた静岡の小学生がZERO-ONE道場を訪問。高岩、耕平らZERO-ONE所属選手によるプロレス教室が行われた。正午から始まった、このプロレス教室、当初は破壊王も参加するはずだったが、その日の朝の6時まで桃太郎侍に夢中になっていた破壊王は当然のように寝坊。最後はリング上で破壊王の「アイ〜ン」の合図で記念撮影。プロレス教室が修学旅行の新名所になる日も近いか!?

プロレス教室が終わるとZERO-ONE勢への質問コーナーに突入。いつもの破壊王トークで質問に受け答えする橋本だったが、小学生にはあまり通用せず

この日、訪れた修学旅行生のために破壊王から粋なプレゼントが。高橋冬樹vs黒毛和牛太、星川尚浩vs佐々木義人のシークレットマッチ2試合を披露

竹刀を片手にビッシビシと小学生を鍛えていた高岩竜一。ひとり10回ずつ声を掛けながらの連続スクワットは見事150回達成！ しかし、先生はダウン！

番外編

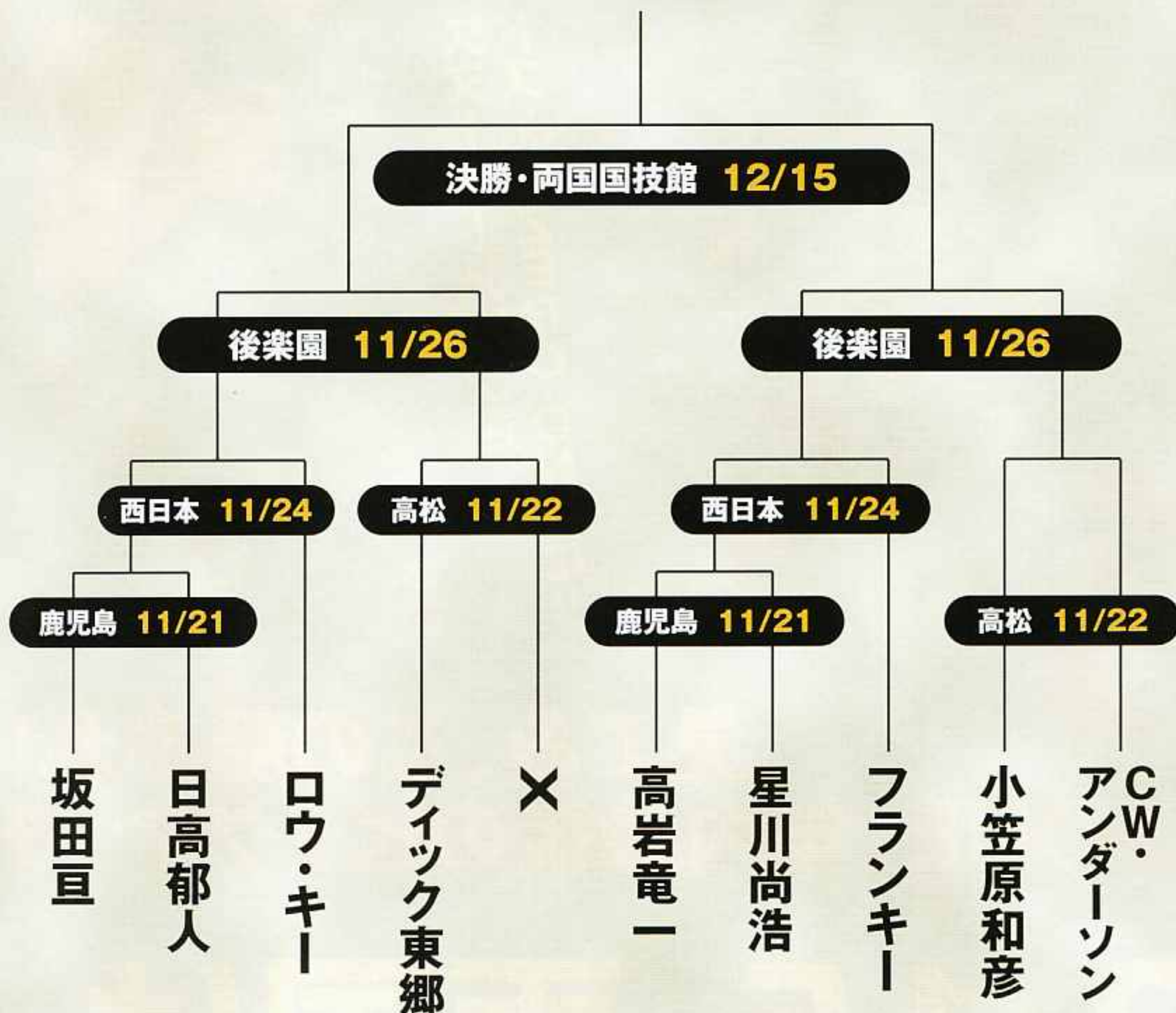
ZERO・ONE期待のトンパチ男 崔リョウジ復帰間近!?

肺気胸の疑いで欠場中の崔リョウジが10.25大阪大会で練習に参加、横井＆耕平のセコンドにもついていた。乱闘にも登場し元気な姿を見せていた。復帰の日を待とう。

ゼロ族全員集合!! ここに行けば崔ママに会えるぞ!!

『紙プロ』愛読者の崔リョウジの実家は焼肉屋。お店に行けば、現在療養中の崔に会えるかも!? ちなみに崔ママは喋りだしたら止まらない典型的な大阪のオカン。必見やでぇ〜

お店住所★『焼肉屋　味安』大阪府大阪市東淀川区淡路4-10-20（※阪急淡路駅より徒歩1分）
問い合わせ：TEL06-6326-2932

ZERO-ONEジュニア、天下一は誰だ!?
そして、年の瀬にはハシフ・カーン登場か!?

第1回天下一Jr.トーナメント表

ZERO-ONE 11月日程

超プロレス宣言
『天下一Jr.トーナメント』

11/21（木） 鹿児島・鹿児島アリーナ（開始18:30）

主要カード

橋本 真也 小川 直也 小笠原和彦	VS	ネイサン・ジョーンズ ジョン・ヘンデンリッチ ロウ・キー

11/22（金） 香川・高松市総合体育館（開始18:30）

主要カード

橋本 真也 藤原 喜明 佐藤 耕平	VS	ザ・プレデター ジミー・スヌーカJr. スティーブ・コリノ

11/24（日） 福岡・西日本総合展示場新館（開始15:00）

主要カード

〈NWAインターコンチネンタルタッグ選手権試合〉

橋本 真也 小川 直也	VS	ザ・プレデター ジミー・スヌーカJr.

〈黒毛 和牛太『炎武連夢』入団査定マッチ〉

大谷晋二郎 田中 将斗 黒毛和牛太	VS	ネイサン・ジョーンズ ジョン・ヘンデンリッチ スティーブ・コリノ

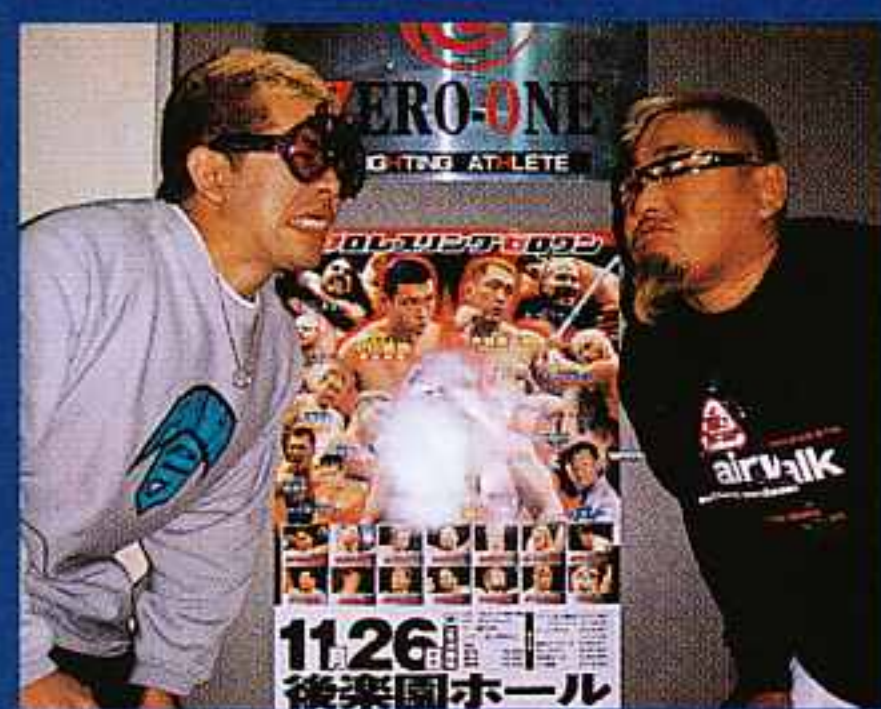
11/26（火） 東京・後楽園ホール（開始18:30）

主要カード

橋本 真也	VS	スティーブ・コリノ
大谷晋二郎 田中 将斗	VS	佐藤耕平 横井宏考

〈Jr.トーナメント準決勝2試合〉

問い合わせ:ZERO-ONE 03-5730-3401

驚愕！ 11・26後楽園で葛西純vs富豪² 夢路決定！

11・26後楽園で対戦が決定した葛西vs富豪。と言っても葛西が試合をするわけではない。チーフデザイナーの役職を賭けTシャツ対決をするのだ。限定100枚、早く売り切るのはどっち!?

そしてチラつくカズ、カシンの影が

11月16日から始まったZERO―ONEの11月シリーズの目玉は、シリーズタイトルの『超プロレス宣言～天下一Jr.～』が示すとおり、ZERO―ONEジュニアの天下一を決めるトーナメントである。

トーナメント参加選手で、なんと言っても注目なのは、ここ最近、『東スポ』一面から女性誌まで露出度が急激にアップした坂田亘と、空手ジジイ（by坂田）こと小笠原和彦の出場だろう。ズバリ言って、2人の関係はガチンコで良くない。対戦が予定されていた試合が危険すぎて突如変更となったりするほどなのだ。10月シリーズでは、試合前、観客もマスコミもいないところで小笠原を襲撃し大流血に追い込んだ坂田。2人の一騎打ちが実現すれば小笠原が言うところの〝死合〟になることは間違いない。

とは言っても2人は別ブロック。〝死合〟が実現するには、互いに決勝戦まで進まなくてはならないのだ。もちろん、2人の決勝戦を他の参加選手がやすやすと許すとは思えない。欠場明けの高岩もジュニア王者のロウ・キーも黙っていないはず。他にも大会当日まで発表されない可能性もあるというZERO―ONEテイスト溢れるXや、初来日のフランキーなど見所満載。さらには、10・25大阪大会に乱入した全日本のカズ・ハヤシ、そして、それを見事にスカしてくれたカシンの動向にも要チェック！

果たして両国での決勝戦へと駒を進めるのは誰か？ 今シリーズも見逃せない！ Jr.最強の男はZERO―ONEが決める！

見てみ、この顔ぶれ!
ZERO-ONE、年内最後のビッグマッチ

12・15、両国は行っちゃうしかないぞ バカヤローッ!!

久々にフレッドも登場!!

ZERO—ONE年内最後のビッグマッチが12月15日、両国国技館で開催される。しかし締切間際の11月15日現在、対戦カードは、ジュニア版天下一武闘会の決勝戦が行われること以外、何ひとつ正式発表されていない。ん~ッZERO—ONE!

今回の目玉は、すでに一部新聞紙上でも報道されているとおり、一夜で伝説となった男、マット・ガファリの参戦だ! 小川戦直後の『紙プロ』のインタビューでも小川へのリベンジを誓っていた、あのガファリが満を持して&ダイエットして登場!? インタビュー時にはプロレスルールも興味があると言っていたガファリの相手は誰だ? そして、あのお腹は健在なのか? 会場となる両国はガファリにはピッタリの場所なだけに、さすがのOH砲も侮れないだろう。

さらには、大谷&田中が全日本最強タッグへの出場を取り付けると、すぐさまZERO—ONE逆上陸を宣言した小島聡が登場。最強タッグでの激闘も冷めやらぬまま、炎武連夢との熱すぎる対決が実現か?

そして、ここ最近、スヌーカJr.、11月シリーズの天下一Jr.と何かとジュニアづいているZERO—ONEにメキシコからドスカラスJr.が飛来! ドスJr.は日本人格闘系レスラーとの対戦が予定されているという。他にも、プレ天下一武闘会とも言えるワンナイト・トーナメントの開催や、ゴルドー先生の久々の参戦も噂される両国大会。

ゼロ中もそうでない人も、12・15は両国へ行っちゃうしかないぞ、バカヤローッ!!

こんなのZERO-ONEじゃない!? なんと、来年の2月大会までスケジュールが決定!!

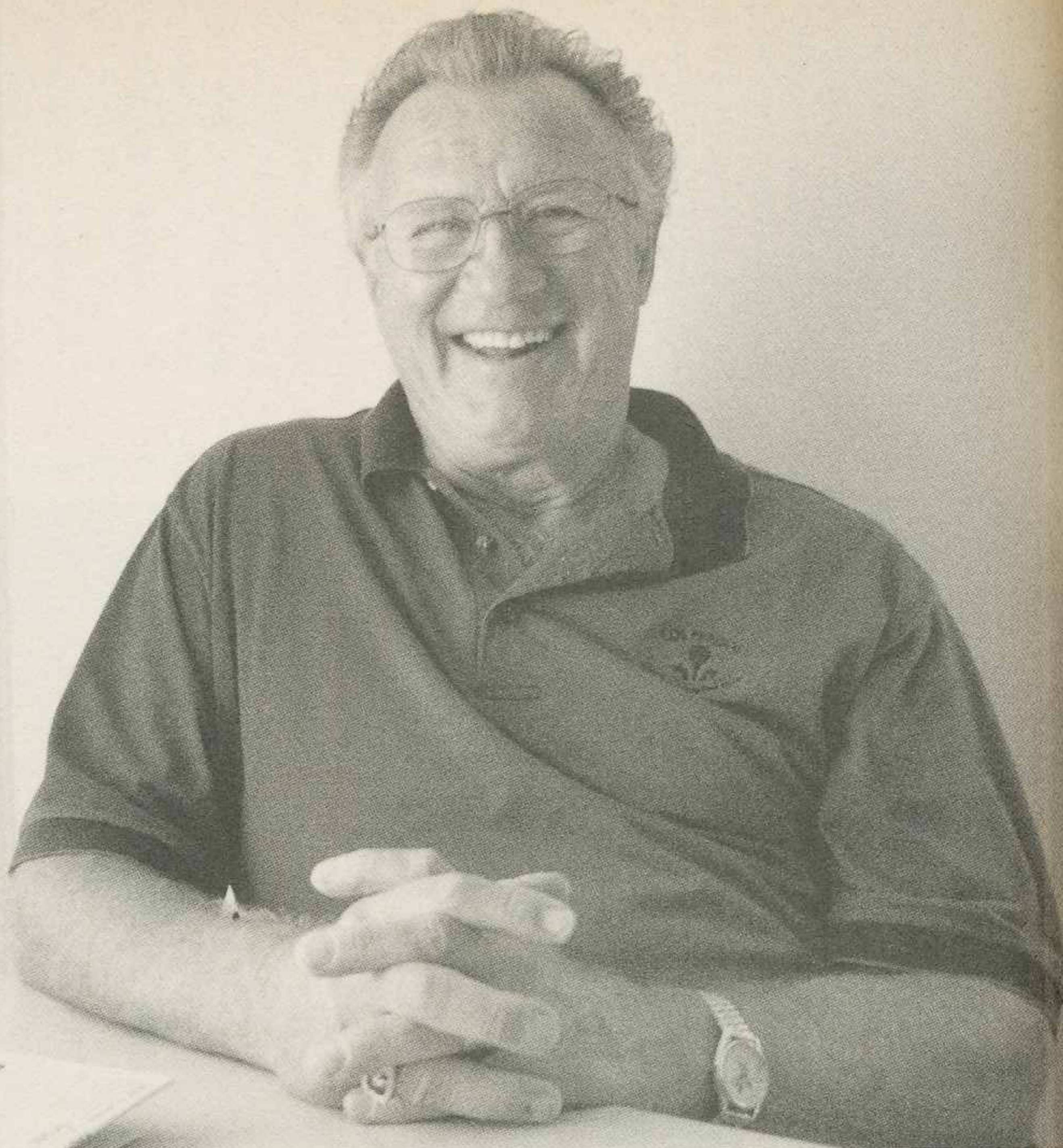
ZERO-ONE12月日程
『EPICENTER』
★12月8日(日)金沢・石川県産業展示場3号館(開始15:00)
★12月10日(火)茨城・つくばカピオ(開始18:30)
★12月13日(金)千葉・千葉公園体育館(開始18:30)

『真天地創造。』
★12月15日(日)東京・両国国技館(開始16:00)

ZERO-ONEスペシャル『ゼロ中祭 2』
★12月29日(日)東京・後楽園ホール(開始18:30)
★1月5日(日)『ZERO-ONE★USA 1st』(開始18:30)
★1月6日(月)『ZERO-ONE★USA 2st』(開始18:30)

ZERO-ONE1月日程
『ROAD OF PASSION』
★1月26日(日)福岡・博多スターレーン(開始17:00)
★1月27日(月)島根・島根くにびきメッセ(開始18:30)
★1月29日(水)岡山・岡山県卸センター展示場(開始18:30)
★1月30日(木)山口・徳山市総合スポーツセンター(開始18:30)
★1月31日(金)広島・広島グリーンアリーナ(開始18:30)
★2月1日(土)大阪・大阪府立体育会館第2競技場(開始18:00)
★2月2日(日)東京・ディファ有明(開始16:00)

問い合わせ:ZERO-ONE 03-5730-3401

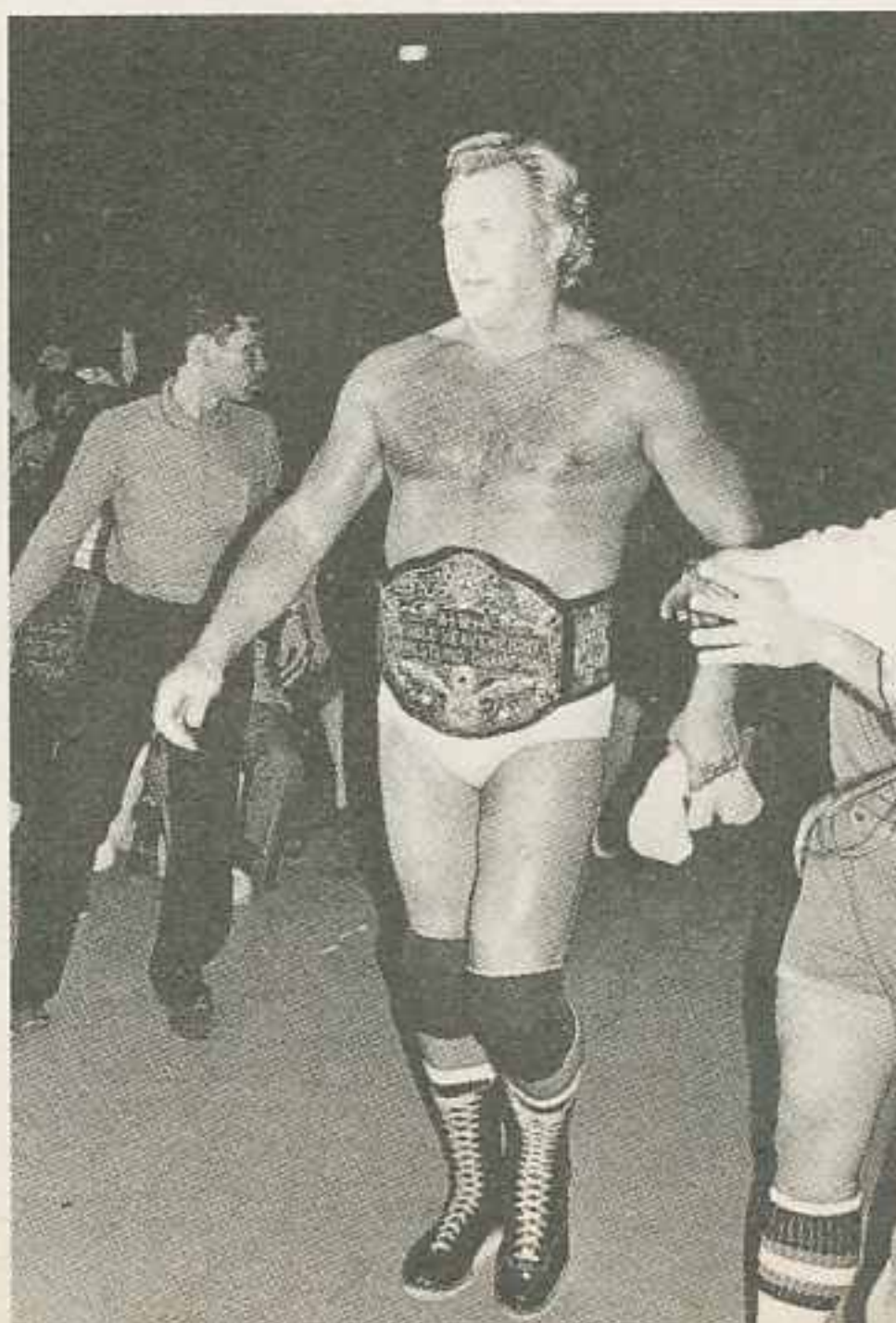
「あなたの職業は何ですか？」
と聞かれたら、私は
「**ホア**（売春婦）**です**」
と、答えているよ（笑）

AWA WORLD HEAVY WEIGHT CHAMPION

ニック・ボックウィンクル

Nick Bockwinkel

"AWAの帝王"ニックさんが語る

王者の哲学

古き良きアメリカン・プロレスにおける王者の中の王者、ニックさんが久々に全日マットにやってきた。キッチリと整えられたブロンドヘアーと、紳士然としたムードは67歳となったいまも王者時代とまったく変わらない。リック・フレアーよりもっと前の時代に15年間もの長い間、世界王者をつとめた男のプロレス哲学に耳を傾けよう。

聞き手&撮影／堀江ガンツ
designed by matsu（Two three）

――今日は伝説のチャンピオン、ニックさんにお会いできて実に光栄です！

ニック　ハハハ、そう言ってもらえるとこちらも嬉しいね（ニッコリ）。

――ニックさんは確か現役時代ハワイにお住まいでしたけど、現在もそうなんですか？

ニック　いや、4年前に引っ越してね、いまはラスベガスに住んでいるんだ。でも、今回ミセス馬場にせっかく東京に呼んでもらったので、ハワイに寄ってから帰るよ。なにしろハワイには、かわいい二人の娘が住んでるからね。ありがたいことさ。

――現在は保険のお仕事をされてるらしいですね？

ニック　ああ、そうだよ。お金を扱う仕事というのは誰にとっても興味があることだからね。この仕事のおかげでたくさんの人と会えるし、みんな私のことに（過去プロレスラーだった事実に関わらず）とても関心を払ってくれる。自分の宣伝にもなってるし非常にうまくいってるよ。

――ニックさんが保険の仕事をしているというのはイメージ通りですね。やはりニックさんと言えば、いつも〝紳士〟という感じですから。

ニック　へ～、そんなイメージを持たれているんだね。まぁ、お金を扱って、それで「ベターライフを送りませんか?」と説いて、相手に合わせたディレクション（道標）をつけて回る仕事だからね。人を助ける仕事っていうのはやりがいがあるもんだよ。

――では、今回久々の来日となったわけですけど、いかがでしたか？

ニック　いつもの話になってしまうけど、日本は大好きだよ。いつ来ても楽しいね。初めて来たのは確か1964年だったな。そのときから今日にいたるまで、いわゆる異文化体験って言うのかな。日本人はどう物事を考えるのか、何を食べるのか、アメリカ人とどこが同じでどこが違うのか。そういった異文化の探求っていうのは興味がつきないものだよ。もちろんアメリカという国はメルティング・ポット（人種の坩堝）でね。いろんな民族の血が交じり合ってる、変わった風土になってるところだろ？　そういうのを観ていくのが楽しくてしょうがないんだ。

――それじゃ、今回の訪日で何か違ったものを感じたことがありますか？

ニック　まぁ、とりあえず飛行機の長いフライト時間と、成田から市内までがまた遠いことは変わってないなぁ（笑）。

Nick Bockwinkel

10月27日、全日本プロレス・日本武道館。30周年記念セレモニーに全日マットを彩ったチャンピオンとして、ザ・デストロイヤー、ジン・キニスキーと共に登場したニックさん。その手にはしっかりと栄光のAWA世界チャンピオンベルトがあった。

テリーやブッチャーは応援しているよ。でも少し頭がツイストしているね（笑）

――そういうところは変わってない、と（笑）。フライトはともかく、昨晩の試合をご覧になられた感想はいかがでしょうか？

ニック　オールジャパンに上がるのは何年ぶりになるんだろうなぁ、やっぱり知らない顔も多かったよね。若いアメリカ人選手が挨拶してきたりしてね。でも、今回はツアーじゃないからね。昔みたいにジョー樋口さんに世話してもらいながら、巡業で他の選手とどんどん親しくなっていくというわけにはいかないよね。

――そういった寂しさはありますか？

ニック　寂しくなんかないさ。いいかい、私は二世レスラーとしてこのビジネスに関わってから、もう50年も経つんだ。その間にいろんな出たり入ったりを見てきたけど、それはどこのビジネスでも同じだし、新顔がいるのは当然だろ？　若いときはね、自分の目の前のことしか見えてないんだよね。でも年をとってくると、周囲も含めて全体が見えて来るんだよ。君は歳いくつ？

――29です。

ニック　あぁ、私が最初に日本に来たときには生まれてないじゃないか。だから昨晩のショーの感想を私に聞かれてもなぁ。レスリングは時代によって変わっていくものなんだよ。いまになって私なんかが、とやかく言うものではないさ。

――それじゃ少し話を変えて。ニックさんと同世代と言ってもいいテリー・ファンクやブッチャーが、まだ現役でやっているのを見てどう感じましたか？

ニック　おお、神のご加護を！（笑）。おいおい、私に何を言わせたいんだい。それ以上に答えようがないじゃないか。まぁ、彼らはちょっとね、ス・コ・シ（日本語）頭がツイストしてるんじゃないかとは思うけどね（笑）。

――アハハハ！　テリーとブッチャーは頭がねじれちゃってますか（笑）。

ニック　私はね、いったん自分のスタンダード（基準）というのを設定してしまったんだよ。それで、その基準を満たすことができなくなったから引退したんだ。自分のレパートリーを一通り見せられないのは私にとって耐えられないことだからね。以前と同じレスリングをやれなくなったからやめた。私の哲学がそうさせたんだよ。

――潔いですねぇ。

ニック　だからオールドタイマーは、一回ボディースラムで投げられてみたらいいんだよ。それでオエーってなってしまうかどうかね。それがすべてだよ。それがこの仕事を選んだ者の払わなきゃならない代償さ。そ

れで、オエーってなって胸がズキズキしだしたら、そのときが潮時なんだ。まぁ、ブッチャーはメキシカンのように動き回るわけでも、バンプを取るわけでもないから長くやれる面もあるのだろう。テリーはもっと体を痛める仕事を未だにやってるクレイジーな男だけどね（笑）。彼らがやりつづける限り、私は応援するよ。でも私自身は「もういいよ」ということさ。

——でも、ニックさんの場合は52歳の引退（全日本プロレス「87サマーアクション・シリーズ2」）のときも、まだAWA王者時代と変わらぬ体型を維持していたじゃないですか？　動けなくなったわけでもなんでもないのに、なぜやめてしまったか不思議なんですけど。

——ありがとう。ま、家族がね。ケガを心配して「そろそろ」というのはあったな。でも、あくまで自分の決断だよ。自分だけのね。実際、公式な引退試合は日本だよ。まぁそのあとも、ビル・ロビンソンとやったのと、それから91か92年にドリー・ファンクJr.とアトランタでTBS（WCW）のために短いのをやったかな。

もう一度言わせて貰う。私が決めたことだよ。いいじゃないか。何も悔いはないよ。昨晩だってねぇ、頭から落とす技で危ない場面があったんだ。思わず顔をそむけたよ。ああいうのは見たくないんだ。人間の体が受けていいものには限界があるんだよ。

——実はボク、87年夏にあったニックさん最後のツアーを見に行ってるんです。そのときも、若い選手とシングルで20分の試合をしていてビックリしましたよ。

ニック　試合にはプライドを持って挑むのが私のスタンスだからね。ああ、そういえば確かに私より25歳も若い連中とも目一杯やっていたなぁ。そうすると彼らはドレッシングルームで話題にするんだよ。私と試合が組まれたボーイズに「あのクソじじいはお前を死ぬまでバテバテにさせるぜ」ってね（笑）。

——ハハハハ、「20分以上やらされるぞ」と（笑）。

ニック　そういうのは、聞いてて悪い気はしないよね。これは自分に対するチャレンジでもあるんだ。52歳でも若いやつをヒイヒイ言わせるというね。そうして金を払って見に来てるお客さんをうならせないとね。それのために私は呼ばれてるんだろ？

——はぁ〜、プロならばそこまでやらないといけないという考えなんですね。

ニック　私が業界に入ったばかりの頃、40歳台の中堅選手の中には、のろのろとチンタラした試合をやって、さっさとチェック（小切手）を受け取ったら帰るような奴が何人かいたんだよ。私はそれをみて、これはジャンクじゃないかって。ああなるのだけはやめておこうって思ったんだ。それでニックさんが（自分のことをそう呼ぶ）その年齢になったときに、プロのプライドを維持することを最優先した。それが自分の流儀ってことさ。

——実に素晴らしいプロ意識です！

ニックさんが体験した UWFインターのリング

——ニックさんは、87年に全日本で現役最後のツアーを行った後、一度UWFインターのリングで、ビル・ロビンソンとエキシビション・マッチ（92年5月8日、横浜アリーナ）をやっていますよね。あれはどんなきっかけでUインターという格闘技色の強い団体に上がることになったんですか？

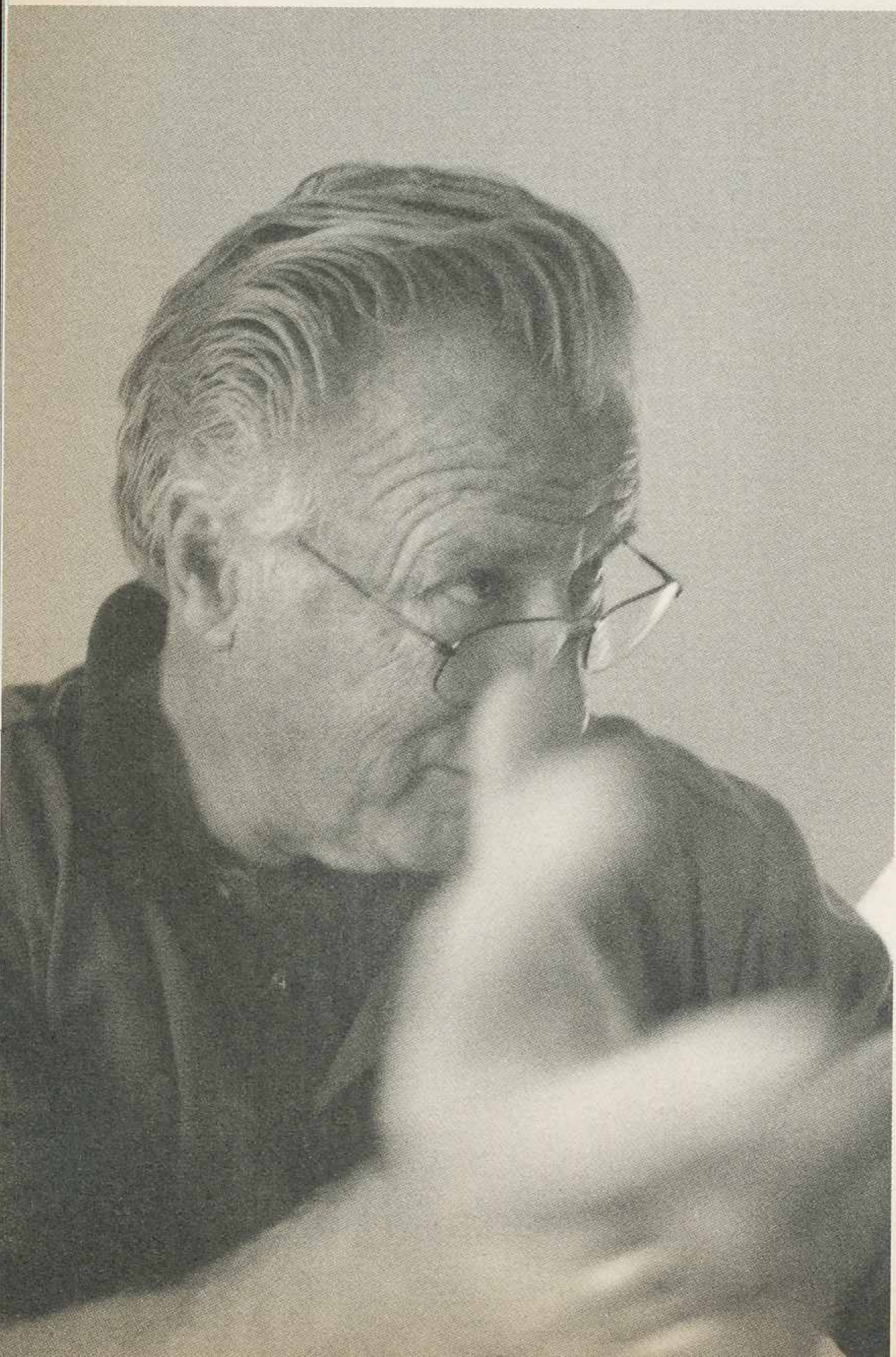
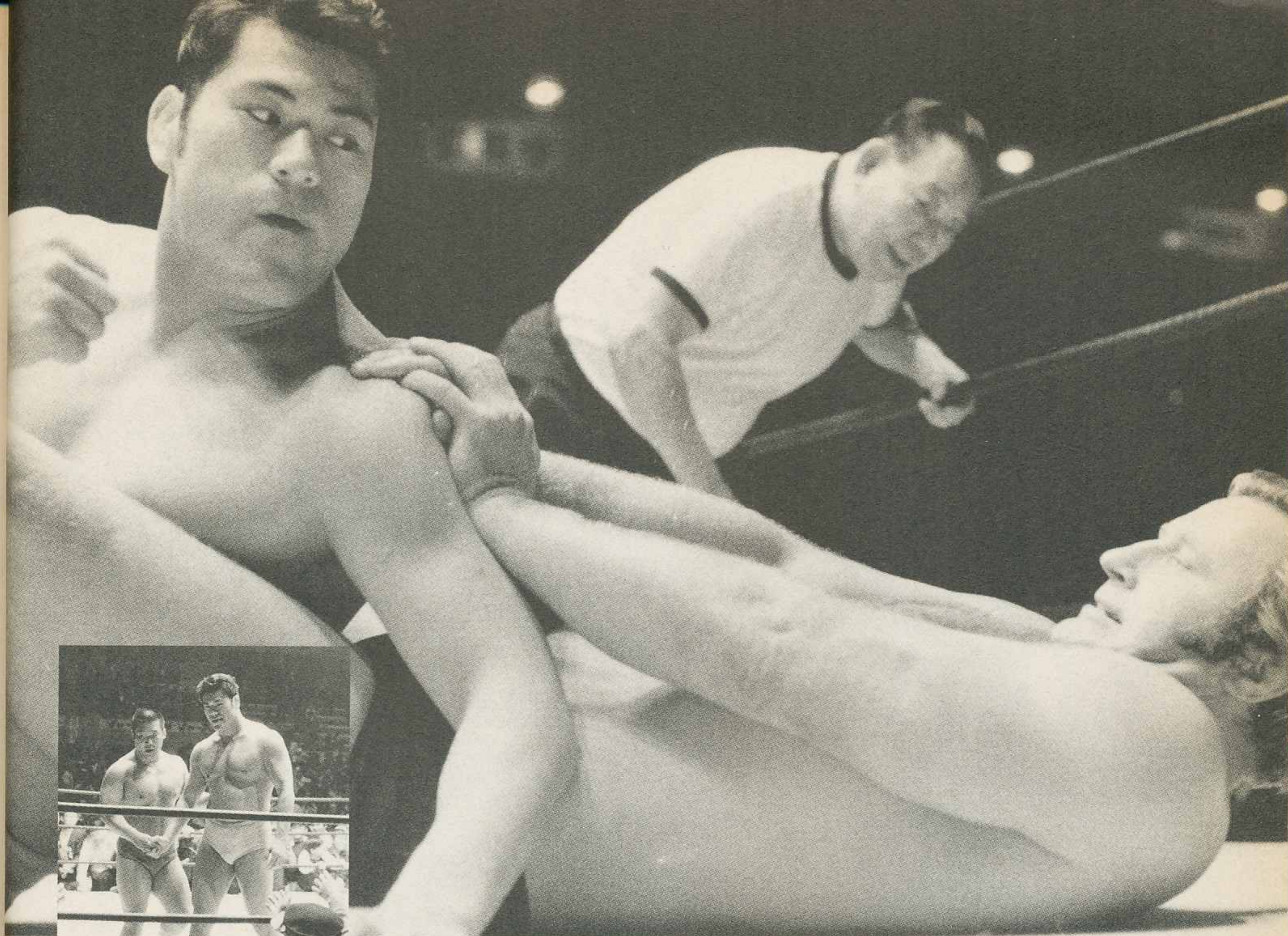
ニック　私がUWF・Iに上がるなんて意外だったかい？　まぁ、新しい団体は表面上は「我々のやってることは普通のプロレスじゃない」とかってラベルを貼るもんなんだよ（笑）。

——「表面上は」ですか（笑）。

ニック　だって根本は一緒じゃないか。それじゃUWF・Iは、それまでのプロレスとも凄くかけ離れたことをやっていたのかい？　そうじゃないだろ？　基本は一緒だろ？　それはどんなビジネスでも同じだよ。新しい会社をスタートさせるときは、とりあえずは「既存の会社のプロダクトとは違います」って宣伝するしかないじゃないか。

——はいはい、わかります。

ニック　いや、ある人がね、「あな

プロレスラーは生身の肉体を売るのが商売。売春婦と一緒だよ（笑）

70年9月の日本プロレス『第1回NWAタッグリーグ』の決勝では、猪木とも対戦。この猪木＆星野勘太郎vsニック＆J・クインの一戦は、現魔界倶楽部の星野総裁が生涯のベストバウトに挙げているほど、ビッシビシとした名勝負だった。(猪木＆星野が優勝)

Nick Bockwinkel

たの仕事は何ですか?」って聞いてきたことがあってね。私はなんて答えたと思う? 「ホア(売春婦)です」って言ったんだよ(笑)。

——ニックさんが売春婦ですか⁉

ニック だって私の仕事は生身の肉体を売ってる商売だろ? プロモーターが金を払ってくれるところにいくのが私の仕事だろ? だったらUWF・Iが自分を必要としてくれたんだから、それでいいじゃないか。別に深く考えなかったし、スタイルの違いがどうのとかは思わなかったなぁ。オファーが来たから行っただけだよ(笑)。

——へ〜、それは意外なコメントですね。それじゃ実際にUインターの試合を見て、違いはなかった、と。

ニック いやいや、そうは言ってないよ。もちろん、あのサブミッションを強調したスタイルとかは興味深いと思ったよ。ちょうど新しいやり方が望まれている時期だったし新しいスターも望まれていたからね。

ただ、要はプロレスリングの中に、アマチュア・レスリングの要素をもっと強調したりとか、そういう範囲の違いじゃないか。それだったら私に限らず、ほとんどの選手は彼らのやり方をちゃんと理解できたし、それでひとつの時代ができたんだから。まったくの別物とは思いようがないさ。

——ただ当時のUインターは、そういう新しいスタイルを布教したと同時に、「原点回帰」とか、「クラッシック・レスリングの復興」などもテーマにしてましたから、その面でニックさんの招聘と合致したんだと思います。

ニック そうそう。誰も飛んだりはねたりしないって部分だよね。あれは良かったなぁ。だから精神的には自分に合ってたし楽しかったよ。

——試合の方もニックさんがヒザの悪いロビンソンさんを終始リードしてましたよね。

ニック そう見えたかい? そういうのもプロとしてのチャレンジだよ。限られた制約のなかで何を見せることができるか、ということさ。それにロビンソンは、自分にとっては常に最高の対戦相手だからね。だから彼もさらに張り切っていたし、自分も最高の努力をしてお客さんに満足してもらおうとがんばったわけさ。

——なるほどなるほど。さて、そのUインターなんですが、そこにいた髙田延彦選手とか、桜庭和志選手、田村潔司選手なんかはいま、総合格闘技の選手として活躍していて、彼らがマット界のスターなんですよ。ニックさんは「Uインターもプロレスじゃないか」とおっしゃりましたが、そのUインターが(ある意味では)名前を変えた『PRIDE』では、これはもう本当にプロレスじゃなくて、シュートの領域に入ってしまってるんです。そういう状況をご存知ですか?

ニック う〜ん、聞いてはいるよ。でもね、『PRIDE』はどこに行こうとしているんだい? あるいは、『PRIDE』はどこからの客層を引っ張ってきたんだい?

——やっぱりプロレスファンを動員してきた部分は大きいですね。

ニック そうだろ？ もし彼らが、大きなファン層の基盤を目的としているなら、やっぱりプロレス側の要素は不可欠なんだよ。みんな成功するフォーミュラは何かって探してるんだ。それで、昨晩のオールジャパンはPPVだったんだろ？ どれくらいの数字が出るんだい？『PRIDE』のPPVは？

——やはり全日本はまだPPVを導入したばかりですから、『PRIDE』の方が数字はいいでしょうね。

ニック そうか、『PRIDE』がプロレス界に与えた影響は大きいわけだね。でもね、プロレスの客層を相手にしているなら、私には『PRIDE』はプロレスとは別」という区別には賛成しないなぁ。やっぱり同じ領域にあるものとしか思えないんだよね。

NWA、AWA、WWWF 3人の世界王者

——ニックさんがこれまでの長いキャリアの中で、最も印象に残った試合はどれになりますか？ 必ずしも有名な試合じゃなくてもいいんですけど。

ニック そうだなぁ、81年か82年にミネアポリスでやった、アンドレ・ザ・ジャイアントと一時間やった試合かなぁ。

——えぇ!? あのアンドレが一時間も試合やったんですか？ それは凄いですね！ それだけでも事件ですよ！

ニック だろ？（満足げな笑み）。あと、もちろんビル・ロビンソンとの一連の試合はどれも生涯のベストマッチだよ。これを抜かすわけにはいかないからね。

——ごもっともです！

ニック でも、「記憶に一番残る」ということなら、ポール・ボーシュ（＝プロモーター）のテキサス州ヒューストンでの試合だなぁ。あれにはちょっとした歴史があってね。「日曜日に興行をやってはいけない」という条例がやっと撤廃された記念大会で、なんとNWA、AWA、WWWF、AWAの世界三大王者揃い踏みってカードがあったんだよ。そこで私はホセ・ロザリオ（のちにショーン・マイケルズの師匠）と最高の20分間をやってね。自分としては「AWA王者こそが一番凄い」ということを玄人筋のファンには見せつけたな、と。そんな達成感もあってぐったりしてたんだ。それで私の次はブルーノ・サンマルチノの出番。そして最後がハーリー・レイスvsテリー・ファンクのNWAベルトを巡る因縁の再戦が用意されていたわけだ。

——それは、もの凄い大会ですね！

ニック ところがメインの時間になってもレイスが会場に来なかったんだよ（笑）。

——肝心のメインイベンターが来ませんでしたか（笑）。

ニック それでプロモーターが、さっき白熱の攻防を見せつけたばかりの私のところにきて、「テリーとやってくれないか」と言ってきたんだ。

——急遽、一日2試合ですか！

ニック それでどうなったと思う？ NWAのトップを相手にしたAWA世界タイトル戦は一時間のドロー防衛だよ（苦笑）。

——2試合目なのにフルタイムドロー！ それじゃ全部で一時間20分やったんですか？

ニック そういうことになるね（笑）。お互いAWAとNWAの看板を背負っていたから、どちらも負けるわけにいかなかった。そうなると、必然とフルタイムになってしまうんだよ（笑）。

——いやぁ、それにしても凄いですよ。

ニック 私もその晩興奮してたからね。ホテルの部屋で妻に電話して、いかに自分が皆から絶賛されたかをしゃべってたんだが、そこからの記憶がない。なんとスーツを着たまま電話をかけるイスでそのまま寝てしまったんだよ（笑）。それほど疲れきっていたってことだね。

——AWA世界戦を2試合もやったら、そうもなるでしょうね。でも、なぜレイスは来なかったんですか？

ニック いや～、それがね、その大会は昼間に開催されたんだけど、レイスは夜のショーだと思い込んでいたんだよ。誰も彼に「昼間だよ」って言わなかったらしいんだ。だから私が仕事を終えてシャワーを浴びたころにひょっこりやって来てね（笑）。

——ガハハハ！ フルタイム闘い終えたところにやってきましたか（笑）。

ニック でもまぁ、お陰で名前を残せて良かったよ（笑）。それにあの試合は、テリーにとってももの凄く重要な試合だったんだよ。ちょうど客席にシルベスター・スタローン

92年5月8日横浜アリーナ■なんとUインターのリングにもあがったことがあるニックさん。いくたの名勝負を展開したビル・ロビンソンと10分間のエキジビションを行い、UWF信者を前にご覧のような腕一本取るのに時間を費やすプロレスを披露した。

アンドレとの1時間フルタイムやロビンソン戦は生涯のベストマッチだね

が来ていて、そこで初めてテリーを観て、映画『パラダイス・アレイ』の出演が決まったからね。
――へ～、そんなエピソードもあったんですか。まさに歴史的一戦ですね。いまはそのAWAもNWAもなくなって、WWEだけになってしまったわけですけど、ニックさんはいまのWWEはご覧になっているんですか？
ニック　ああ、ちゃんと観てますよ。私が思うに、WWEは絶頂期と言われた数年前より、むしろ良くなっていると思うんだよね。
――え!? それはどうしてですか？
ニック　WCWと戦争してた頃は、競争のためだけに余計なことまでやりすぎていたが、ひとつだけになったことで、ちゃんとまともなレスリングをやってるように見えるんだよ。まぁ、もちろんその弊害もあるんだけどね。先日もカート・アングル、レイ・ミステリオ、クリス・ベノワの3WAYマッチを観たんだが、素晴らしいと思ったなぁ！
――いやぁ～、正直言ってニックさんの口から「3WAYマッチ」という言葉が出るとは驚きですよ。ちゃんと観てるんですねぇ。オールドタイマーの皆さんって、なにかWWFをけなすのがお約束かと思ってたんですが……。
ニック「ストーリーはリングの中でのみ語るべきものだ」とかって言うんだろ？（笑）。まぁ、それは理想論であってね。プロレスは移り変わっていくものだから、今のようなおしゃべりが中心のプロダクトになるのも時代の流れだよ。それで「レスリングができない奴ら」とか悪口を言うのかい？　カート・アングル（レスリング五輪金メダリスト）やブロック・レスナー（元NCAAアマレス王者）に対して？（笑）。それはおかしいじゃないか。
――確かにそりゃおかしいですね（笑）。
ニック　私は今の時代に合ったいい試合を見せてもらって満足してるんだよ。
――いや～、聞いてみるもんですね。ちょっと意外な答えでした。
ニック　サワー・グレイプ（腐ったぶどう）という英語表現わかるかい？　引退した選手はついつい現在のプロレスを悪く言ってしまう傾向がある。エゴなんだよ。でも私は業界が変わっていくのを冷静に見つめていたいんだ。そうやって見ていくプロレスは楽しいものだよ（ニッコリ）。

プロレスの王者はシューターでなければならない？

――少しキャリアを振り返りたいのですが。若干16歳にして、あの〝鉄人〟ルー・テーズ相手のデビューだったらしいですね？
ニック　あ～、テーズ自伝『フッカー』（洋書のみ）が出てから、よく聞かれるんだよなぁ（苦笑）。いや、確かにそうだよ、テーズの膝の上でおしっこ漏らして育ったのは私だよ。だけどねぇ、そのおかげで私の父（ウォーレン・ボックウィンクル）の口利きでテーズはセントルイスで仕事にありついたんだよ。まぁ、いつまでたっても言われるんだろうな。それにそのデビュー戦の話も、本当はオレゴン州ポートランドでのワークアウト（道場マッチ）を昼の11時から1時までやってたってだけでね。
――あ、そうなんですか（笑）。
ニック　まぁ、伝説ってのはそうやって語り継がれるから、好きなように書いてもらって構わないけどね。
――それでテーズさんが生前、よく語っていたチャンピオン像ってあるじゃないですか。「王者はシューターでなければならない」という考え方。それについてはどうお考えなんですか？
ニック　う～ん。キミのシャツは赤と青、そっちのキミはフラネルだね。そうやってみんなが違うから個性があっていいんだろ？　ルーは私にとっておじさんだからね。だから悪く言うつもりはないんだけどさ、彼の話を真に受けると、「みんな同じグレーのシャツを着なさい」ってことになってしまう。それじゃビジネスにならないんじゃないか。全体が面白くて売れるという構造にならないと、プロモーションは回っていかないんじゃないかな？
――ほう。またしても意外な回答ですね。てっきりニックさんも、「そうだ、王者はシューターでなければならない」って賛成するのかと思ってましたよ。
ニック　ハハハ、シューターじゃないよ。ホア（売春婦）だって！（笑）。

チャンピオンの条件とは？

――ニックさんと言えば、現役時代は〝ダーティー・チャンプ〟として、反則やリングアウト絡みの不透明決着で防衛記録を伸ばしていたことで有名でした。いまでこそ、ニックさんやフレアーのスタイルは「実力があったからこそ」と評価されてますが、ホーガンがいたころのAWA末期では、「何度も何度も当日客には王座移動があったようなフィニッシュをやって、結局それは認められないという発表を翌日にやられてしまう。それでお客もホーガンもAWAに愛想を尽かした」みたいな感じで、AWA崩壊の遠因

Nick Bockwinkel

ニックさんと言えば、なんといってもAWA世界王座をめぐるジャンボ鶴田との一連の闘いが有名。84年2月23日蔵前でジャンボが日本人として初めてAWA世界王者になった30分を超える名勝負は、テリー・ファンクの迷レフェリーぶりと共に未だに語り草になっている。

〝ダーティ・チャンプ〟？　私はプロモーターに言われた通りの仕事をしたまでだよ

みたいに言われてましたよね？ それについてニックさんの言い分はいかがですか？

ニック う～ん、確かにホーガンがベルトが回ってこないことを不満に思っていたことは事実だよ。でもねえ、それじゃ、あの時点でベルトを巻かせていたら彼はニューヨーク行きをやめたのかい？ そうじゃないだろ？

――それはそうですねぇ。

（ちなみに映画『ロッキー3』の公開は82年5月、ホーガンの二度目のWWF転出は83年12月から。この間はニック vs ホーガンのカードが中西部地区を仕切るAWAのメインだった）

ニック 私はその時点でプロモーターの言われたとおりの仕事をしただけだよ。

――なるほど。では、ニックさんご自身は"ダーティー・チャンプ"のレッテルを貼られていたことについてはどうお考えでしたか？

ニック どうも思わないさ。それが私の役目であり仕事なんだ。私は15年間の長期に渡って、必ずシングルかタッグの世界王者を務めてきたんだよ。これがどれだけ凄いことかわかるかい？ それだけプロモーターに信頼されてきたってことだよ。サバイバルしてきたんだよ！

――確かにその通りですよね。

ニック アニマル（動物）たちを手なづけて扱うんだからね。誰にでもできることじゃないさ。

――それでは、ニックさんの考えるチャンピオンの条件っていうのは何なんでしょうか？

ニック ふんふん、まぁまず①練習だね。ずっとコンディションを維持すること。次に②知識。それから③決心が必要だな。④はプロレスLOVEだな。好きになる（LIKE）ってことでもいいんだよ。⑤は自ら「やりたいんだ」という意思表示に関すること。あえて⑥を言えばエゴを満足させるためだけではダメってことだ。まぁこの点に関しては、私は日本の道場システムとかを見てきてるからね。どこかの格闘技経験者でも、生半可な気持ちで道場にやってきたらギトギトにされてるのを見てきてるからなぁ。だから日本のファンにはこれは心配ない項目だろう。アメリカでは「TVに出たいから」とか、未だにそういう連中も少なくないからね。

――なるほどなるほど。

ニック それで選ばれた者だけがチャンピオンになれる。ファンクスやハーリー・レイス、それに私やバーン・ガニアってとこかな？

1936年12月6日、米ミズーリ州セントルイス出身。名レスラー、ウォーレン・ボックウィンクルの実子で、16歳でルー・テーズを相手にデビュー。72年にはAWA世界タッグ、75年にはAWA世界王者となり、通算7年以上王座を守り続けた。188cm、120kg。

――いや～。非常に良くわかりました。哲学が聞けて良かったです。勉強になりました。

なぜ鶴田は王者として全米サーキットできたのか

――最後にジャンボ鶴田の話をして下さい。やはり日本のファンにとっては、ニックさんの対戦相手としては一番覚えられてますからね。

プロレスは移り変わるもの 全日本もムトーの新しいスタイルでいいじゃないか

ニック おお、ジャンボ。本物のチャンピオンだったよね。そのリング内での実力から、リング上以外の場面での態度にいたるまでチャンピオンに相応しい男だった。だからこそ、選ばれた者になったわけだからね。

――日本人の世界チャンピオンとして、本当にアメリカ本土をサーキットしたのは鶴田さんだけですよね？ どうして鶴田さんだけ、日本人なのにそれが実現できたんですか？

ニック うん、簡単に言えばその資格があったからだよ。さっきのチャンピオンの条件とも重なるんだけど、私はジャンボに負けるんだったら何の問題もないわけだ。わかるかい？ だって負けた試合でも、私の価値が下がらないからなんだよ。それどころか、「再戦はどうなるんだろう」ってお客さんは更に興味を持ってくれる。そういう選手がチャンピオンなんだよね。ああ、偉大なるチャンピオンだったなぁ。

――さて、いま全日本プロレスは、その鶴田さんと同郷（山梨県）出身で、同じようにアメリカでも成功した武藤敬司選手が率いています。

（ここで、「ファンタジー・ファイト」の用語解説や、今年の状況をひとしきり説明させられる）

ニック なるほど。状況はよくわかった。それで私に何を言わせたいんだい？

――全日の伝統というのを守るべきなのかどうかという将来像なんですが。

ニック 私に「全日の歴史と様式を消さないでくれ！」とか言わせたいのかも知れないけど、私はそうは思ってないよ。その武藤の新しいスタイルでいいじゃないか。私はプロレスは変わって行くものだと考えているから、必ずしも過去の伝統にこだわってないんだよ。そういうのは足かせになりかねないからね。いいんじゃないの？ 新しい全日を築けば。私は呼ばれれば、またそこに貢献するだけさ（ニッコリ）。

【02年10月28日／都内・某ホテルにて収録】

話好きでユーモアたっぷりなニックさんは、これまでも数多くのインタビューを残しているが、中でもニック語録として最も有名なのは、「相手がワルツで来たらワルツ、ジルバで来たらジルバを踊る」という台詞だろう。

その土地土地の気質に合わせて、さまざまなレスラー、観客を相手にプロモーターの期待に応えなければならない旅から旅へのプロレスラー稼業をよく表した名言だ。

そして今回も「プロレスラーはプロモーターの望み通りに、生身の肉体を売る売春婦だ」と定義してくれた。ニックさんが「スーツケースひとつで世界中を旅する」と言われた、プロレスの世界王者であり続けた理由は、卓越した技術、経験とともに、このような王者の哲学を持ち合わせていたからなのだ。

2002世界最強タッグ決定リーグ戦公式戦日程&主要カード

▼11/23(祝)
東京・後楽園ホール
試合開始 12:30
公式戦
武藤&Xvs嵐&荒谷
小島&ケアvsウィリアムス&ロトンド
……………
●天龍&テンタvs安生&奥村
●長井&保坂秀樹vs大谷&田中
●カズ・ハヤシ&本間朋晃&土方隆司
vsアッサム&フリードマン&ジミー・ヤン

▼11/25(月)
福岡・北九州市小倉北体育館
試合開始 18:30
公式戦
嵐&荒谷vs安生&長井
大谷&田中vsアッサム&フリードマン
……………
●武藤&X&ハヤシvs天龍&テンタ&平井伸和
●小島&ケア&相島勇人
vsウィリアムス&ロトンド&保坂

▼11/26(火)
熊本・益城町総合体育館
試合開始 18:30
公式戦
武藤&Xvs安生&長井
嵐&荒谷vsアッサム&フリードマン
……………
●天龍&テンタ&平井vs小島&ケア&相島
●奥村&本間vsウィリアムス&ロトンド
※この日のみ大谷&田中欠場

▼11/27(水)
岡山・岡山武道館
試合開始 18:30
公式戦
武藤&Xvsアッサム&フリードマン
天龍&テンタvs嵐&荒谷
大谷&田中vsウィリアムス&ロトンド
……………
●小島&ケア&本間vs安生&長井&保坂

▼11/28(木)
大阪・大阪府立体育会館第2競技場
試合開始 18:30
公式戦
天龍&テンタvs大谷&田中
小島&ケアvsアッサム&フリードマン
……………
●武藤&X&ハヤシvs安生&長井&ヤン
●嵐&荒谷&平井vsウィリアムス&ロトンド&本間

▼11/29(金)
愛知・豊田市体育館
試合開始 18:30
公式戦
天龍&テンタvsウィリアムス&ロトンド
小島&ケアvs嵐&荒谷
安生&長井vsアッサム&フリードマン
……………
●武藤&X&ハヤシvs大谷&田中&グラン浜田

▼12/1(日)
東京・後楽園ホール
試合開始 12:30
公式戦
武藤&Xvs大谷&田中
天龍&テンタvs小島&ケア
ウィリアムス&ロトンドvsアッサム&フリードマン
……………
●安生vs荒谷
●長井&奥村&土方vs嵐&平井&保坂

▼12/2(月)
新潟・長岡市厚生会館
試合開始 18:30
公式戦
武藤&Xvs小島&ケア
天龍&テンタvs安生&長井
嵐&荒谷vs大谷&田中
……………
●ウィリアムス&ロトンド&保坂
vsアッサム&フリードマン&ヤン

▼12/3(火)
秋田・秋田市立体育館
試合開始 18:30
公式戦
武藤&Xvsウィリアムス&ロトンド
天龍&テンタvsアッサム&フリードマン
安生&長井vs大谷&田中
……………
●ケアvs奥村
●小島&ハヤシvs荒谷&平井

▼12/4(水)
宮城・石巻市総合体育館
試合開始 18:30
公式戦
小島&ケアvs安生&長井
嵐&荒谷vsウィリアムス&ロトンド
武藤&X&本間vs天龍&テンタ&平井

▼12/6(金)
東京・日本武道館
試合開始 18:30
公式戦
武藤&Xvs天龍&テンタ
小島&ケアvs大谷&田中
安生&長井vsウィリアムス&ロトンド

※公式戦はPWFルールの30分1本勝負。勝ち2点、引き分け1点、負け0点で公式戦全日程終了時点で最高得点のチームが優勝。賞金1,000万円とともに第47代世界タッグ王者に認定される

炎武連夢、テンタ、アッサム……異色チーム多数参戦!! 最高得点チーム優勝システム復活!!

あの頃の『最強タッグ』が蘇る!!

全日本最強タッグ 見どころ&展望

『2002世界最強タッグ決定リーグ戦』の公式戦日程&主要カードが上記のように発表された。

ズバリ言って、今年の『最強タッグ』はひと味違う!

『紙プロ』読者の中には、『最強タッグ』と言うと、80年代のチームならハンセン&ブロディ、ザ・ファンクスといった名チームから、鶴見五郎&ザ・モンゴリアンやC・ブラックウェル&フィル・ヒッカーソン組といった迷チームまで、すらすら出てくるくせに、ここ10年ぐらいの『最強タッグ』にちっとも興味が沸かなかったプロレス者も少なくないだろう。ましてや前頁までのニック・ボックウィンクルインタビューを熱心に読んでいるようなファンはそうに違いない。

かつて『最強タッグ』と言えば、全日本が誇る豪華外人が一同に勢揃いする"非日常"な祭典であった。しかし、90年代に入ってからは、米マット事情の変化もあり、すっかり「いつものメンバーがいつものように激しい試合をする」という"日常"になってしまったのだから、昔を知っているファンが興味を持たないのも当然と言えば当然だったのだ。

しかし、今年は違う。

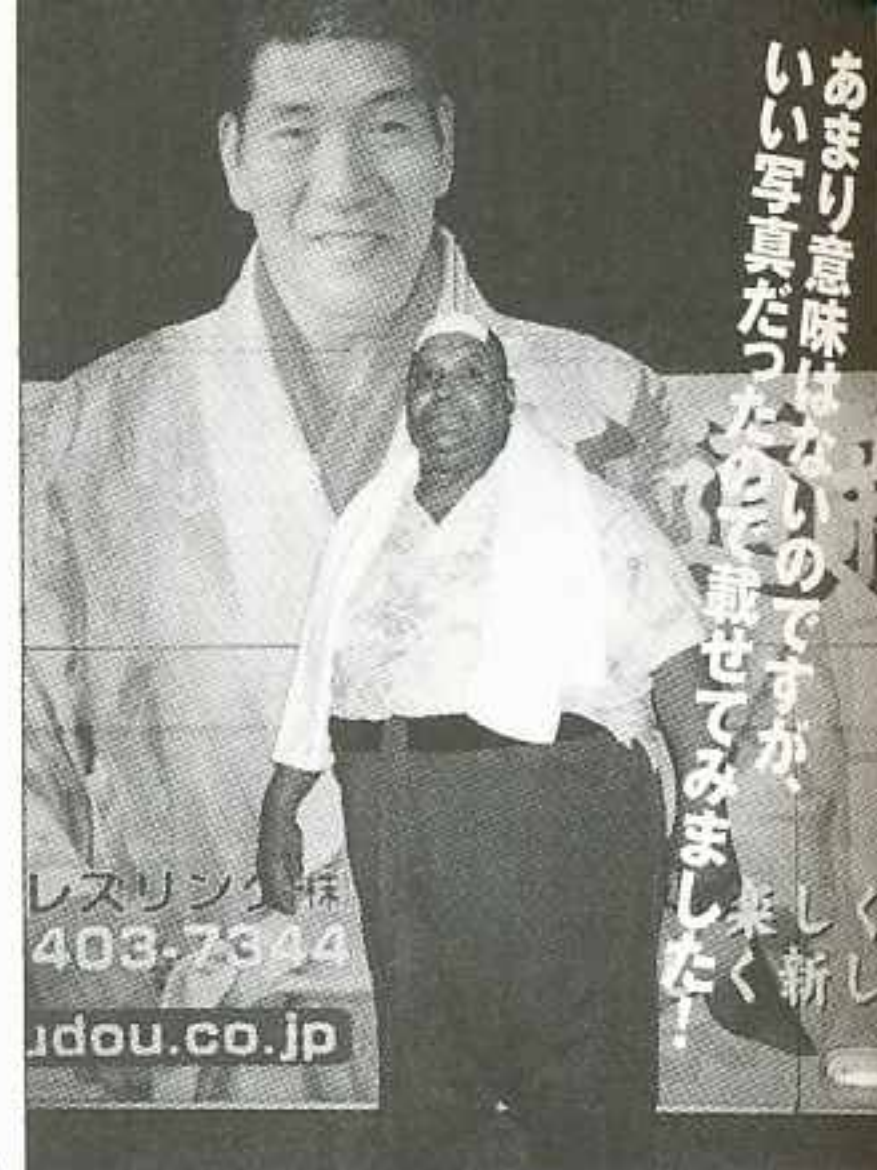
目玉である"炎武連夢"大谷&田中を始め、FMW、WCWで活躍したザ・グラジエーターことマイク・アッサム。さらにジョン・テンタまでもが天龍のパートナーとして登場。さらに"新社長"武藤のパートナーは、84年のジャイアント馬場ばりに"ミステリアス・パートナー"! これだけの"非日常"を集めてもらえれば、開幕戦までのワクワク感も違うというものだ。

しかも、今年は昨年までの得点上位2チームによる優勝決定戦を廃止し、最高得点チーム優勝システムが復活! やっぱり『最強タッグ』はこうでなくちゃならない!

さぁ、"あの頃"のワクワク感を抱き、プロレス者よ、会場に集え!

全日本最強タッグ決定リーグ 参加チーム

☆武藤敬司&"X"
☆天龍源一郎&ビッグ・ジョン・テンタ
☆小島聡&太陽ケア
☆嵐&荒谷信孝
☆安生洋二&長井満也
☆大谷晋二郎&田中将斗
☆スティーブ・ウィリアムス&マイク・ロトンド
☆マイク・アッサム&PJフリードマン

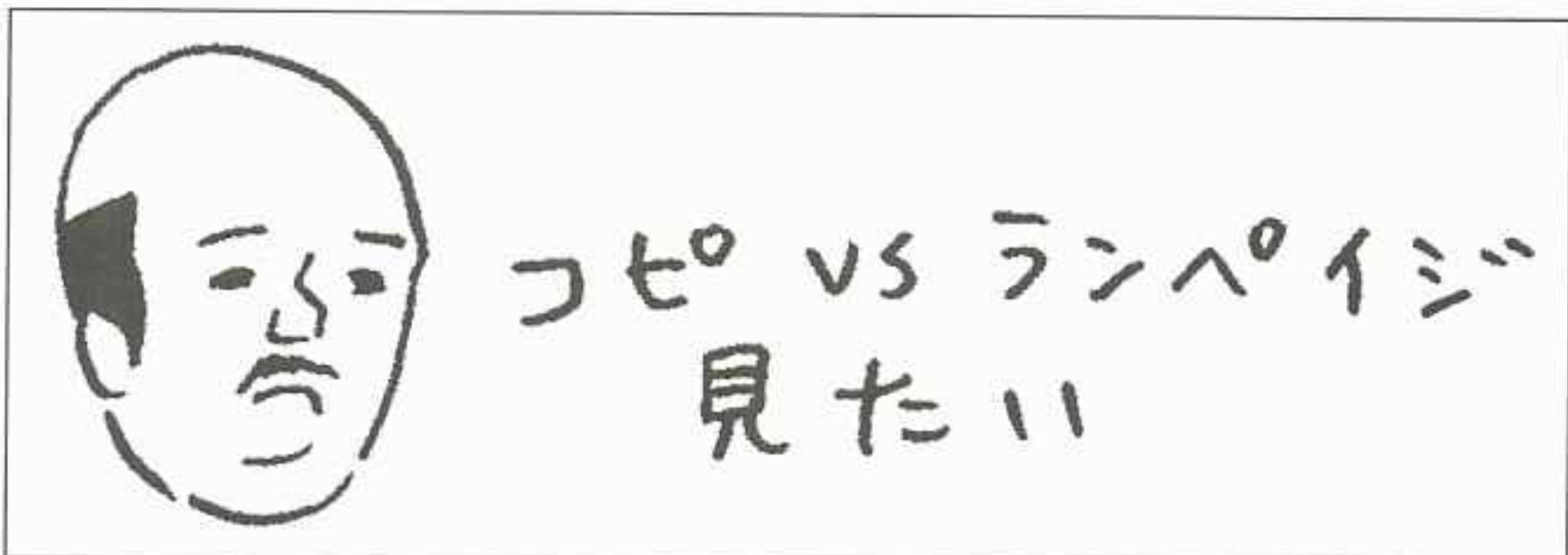
コラムの扉になぜか、島田レフェリー登場！
この扉の意味するところは!?　詳しくは次号で!!

※ヤマヨシ（現・山本憲尚）の「今月のお言葉だもの」は今回もお休みだもの。

デラヒーバ先生の柔術マッチ見たいなあ

ヤノタク&今成

いつだったか覚えてないがアルティメット大会が出てきた頃だから10年近く前なのかな、紀伊国屋ホールで総合格闘技を語るイベントがあり、そこではじめてイズマイウを見た。夢枕獏先生が秘蔵ビデオを公開、それがブラジルのバーリ・トゥードで、そこで野蛮なファイトをするイズマイウが映っていた。獏先生はイズマイウがお気に入りのようで「この選手が野蛮で狂ってていいんですよ！あしたのジョーのハリマオみたいで！」と、イズを大プッシュ。この日の観客の脳みそに〝狂乱ファイター・イズマイウ〟が擦り込まれた。

そして10年近くたった今、そのイズマイウがワールドプロレスリングに映っていようとは誰も想像できなかっただろう。それも変なポジションで。

ディナーを食らう元チャイナ、そこへテレ朝アナとカメラが行き、ディナーを同席していたイズマイウもほんの数秒カメラに入った。そのほんの数秒でもブラウン管へ、顔で表情作って演技し己のアピール電波を発光するイズマイウ。しかしテレ朝アナは、そんなイズをまったく無視し元チャイナへマイクを向ける。もうカメラは元チャイナとアナしか映さない。「おそらく、それでもまだフレームに収まっていると思ってるイズマイウは、けなげに演技しているに違いない」チャイナとアナしか映ってない画面を見て私はそう確信。「カメラ、ちょい左に寄れ！イズマイウを映せ！」と画面に念力を送る。だが私に念力はなくイズマイウは映らなかった。そしてつぎはチャイナの試合、「出た！イズマイウ！」全国で80人は心の中でつぶやく、元チャイナと一緒に堂々と入場してくるイズマイウだ。まるで会場みんなの視線が自分に向けられているように入場。しかし放送席は当然だがイズにはあまり触れない。一部の物好き以外だれも視線を送ってないのに、大きくつぶらな瞳の顔で細かい演技をたえずしているイズマイウ。いったいなにが、イズマイウにそのような事をさせているのか？

そんなにこのニュージャパンのグループに入って、それなりの収入と人気（新日のあのファンシーイラストでTシャツやグッズが出たり、会場で声援を浴びる、など）が欲しく、これはその為のステップであり、成り上がるためにはヨゴレでもなんでもやります状態なのか？　単に目立ちたい！テレビに映りたい！とただそれだけの本能で行動してるだけであり、深い意味はないのか？

それともこれはテレ朝が計算した深夜番組的高度なギャグなのか？　もしくは猪木にこいつも使ってやってくれとたのまれたけど、正直どう使っていいかテレ朝も困り、とりあえずあのように放置プレイみたくしてるだけなのか？

実は猪木も、いつのまにかロス道場に入り浸り居着いてしまい、さらにしょっちゅう自分を

コピ vs ランペイジ
見たい

男道コーチ屋稼業・
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

『年下の男の子』の巻

最近、テレビをつけるとやたらとボブ・サップが出てくる。スポーツ関連番組（『たけしのスポーツ大将』で50M走、子カールくんをおさえブッちぎりでサップ勝利）だけにとどまらず、バラエティ（『徹子の部屋』に出演してスーパー徹子イングリッシュで苦労話を聞かれて嫌な顔ひとつせずに丁寧に答えるも、『あらまぁ、そーなの』などの適当な徹子相づちを打たれてサップ撃沈）やドラマにまで進出し、下手をすれば四六時中ボブ・サップを見ているような気がする。いや、というかこれだけどの番組にもボブ・サップが出ていると、サブリミナル効果によりボブ・サップが出ていない番組でもよく見れば出演者の殆どがボブ・サップに見えてきたりするから不思議。

（以下あらすじ）〜松本浅間温泉を旅立ってから一年、各地でさまざまなアルバイトをしてきたはる（ボブ・サップ）だったが、そんな生活に区切りをつけようと、東京のアパレル会社で働くことを決心する。しかしどうしても心が踊らず、新生活のスタートを前に、北海道へリフレッシュ旅行に出かける。千歳空港に降り立ったはる（ボブ・サップ）は、ヒッチハイクをしたと勘違いされ、トラックを運転していた漁師の周作（ボブ・サップ：一人二役）と知り合い、登別温泉まで乗せていってもらう。折しも、登別では地獄祭りの真っ最中。温泉街は熱気に包まれ、はる（ボブ・サップ）も浮かれて祭を楽しむが、やはり観光に来ていた若者たちと一騒動起こしてしまう。そこへ一人の女性（酒井和歌子っぽいが多分ボブ・サップ）が現れ、その場を丸く修め去っていく。再び街を歩き始めたはる（やっぱりボブ・サップ）は、同じ年くらいの女性・千草（男好きするカンジのボブ・望月沙耶ップ）と軽く接触した際、足に怪我をさせてしまう。千草（グラビア仕事の時には豊満な胸元を強調する、サービス精神旺盛なボブ・さやップ）は旅館「湯之国屋」の仲居で、満室の客をかかえる支配人貴彦（了見が狭く見るからにチンポが細そうな温泉旅館の跡取り息子を好演するボブ・サップ）は頭を悩ませる。そのとき、女将のしのぶ（『anan』が選ぶ和服が似合うタレント第一位：ボブ・サップ）が現れ、彼女を見たはる（シリーズも既に六作目となり、【はるちゃん＝ボブ・サップ】という固定化したイメージが付いてしまって他の役が来なくて困惑しているボブ・サップ）は驚く。先ほどのケンカの場を和やかにしてくれた女性だったのだ。

「怪我をさせたというなら、あなたが仲居をやってくれないかしら？」と言われたはる（かなり無理のある理由で毎度毎度仲居に復帰させられてしまうが、実はそのデタラメな展開が結構気に入っている遊び心たっぷりのボブ・サップ）は……。

こんなカンジで、『はるちゃん6』の第一話にもボブ・サップが一人で大量に出演していたようである（錯覚）。格闘界に突如現れた超新星：ボブ・サップがテレビに出ると、その瞬間に視聴率がグングン上がるのだという。同時間帯で大ヒット作となった『新・愛の嵐』の後を受けて久々のはるちゃん登板だっただけに、なにかいつも以上にビッグな仕掛けの視聴率対策が必要だったということなのだろう。全役ボブ・サップを起用するといった思い切ったキャスティングを実践したスタッフには心から敬意を表したい（実際には全くしてない）（いい迷惑）。これだけ売れっ子になってくるとCDデビューなんかも当然するに

売り込んでくるこのイズマイウに少し困っているのではないか？　イズマイウをパラオに連れてってそのまま置いてきちゃおうかな（映画「鬼畜」のように）と、猪木は考えてんじゃないのかな？　ブラジルの人たちは、今のこんなイズマイウを見てどう思うのか？　昔はカーウソン軍団で仲間だったトップチームは笑って見るのか？　棺桶担ぎで似たような事したスペーヒーは笑えず苦笑い？　天敵のハイアンはゲラゲラバカにして笑うのかな？（まわりのニーノらにも笑うよう強要）。東京ドームの帰りのイズに出待ちファンが来てサインねだられたら、凄くうれしそうなんだろうなあ～……とイズマイウのことを思うと、次から次へと作り話が浮かんでくる。違う方向へだが幻想たっぷり。

あと、ふと思うことに、現在イズマイウはどうやって収入を得ているんだろう？　普段は新日ロス道場にいつもいるのだろうか？いたとして、そこで一体イズマイウは毎日なにをしているのか？

そしてもうひとつ気になるのは、近い将来めでたくニュージャパングループ入りできイズマイウがプロレスラー活動したとして、そしたらそのうち『週プロ』で内館牧子さんはあのフレーズを書いてくれるのだろうか？

「ヴァリッジ・イズマイウは美しい。」と……。

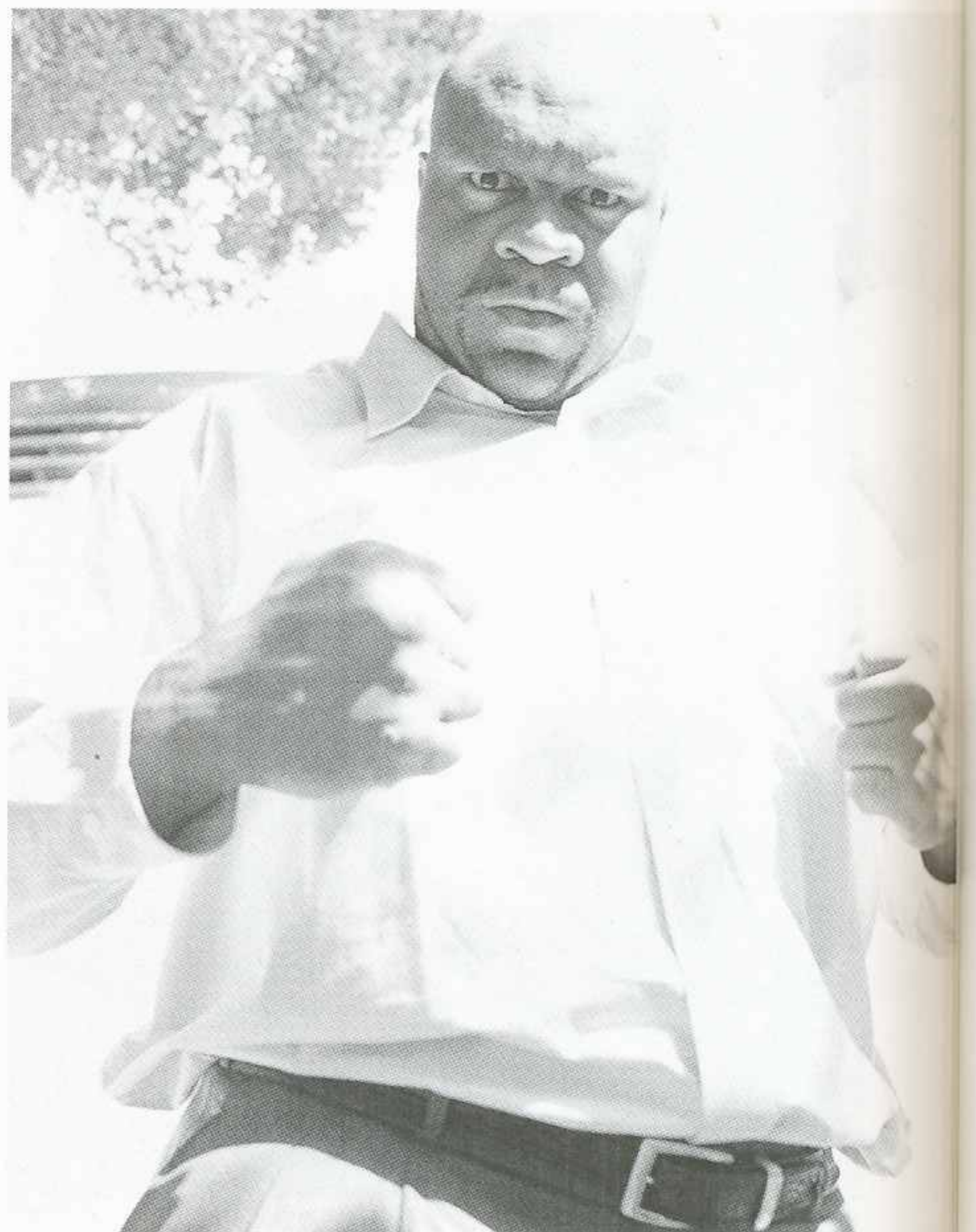
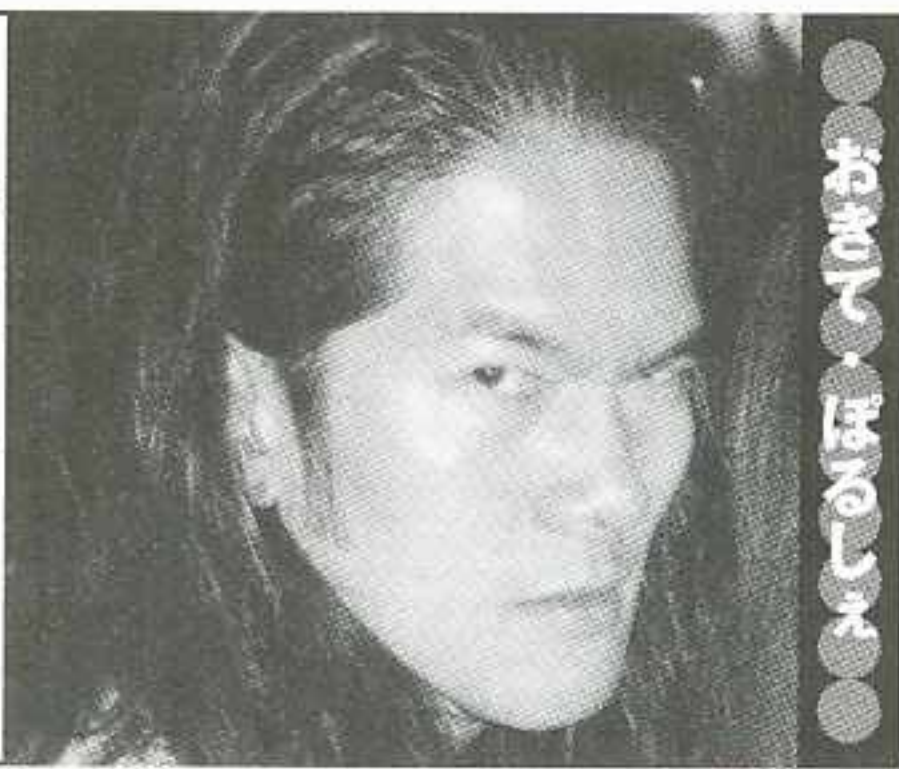
はなくま・ゆうさく

プライドで新Tシャツ（プライドインベーダー）出ました。「青いオトコの汁」は、おくれているようです。ごめんなさい。

こんな喫茶店トークも見たい

違いないが、そうなってくると、俺とてミュージシャンの端くれ、いずれ対バンしないとも限らない。だがここで問題なのは、ボブ・サップと俺が楽屋が一緒になった時、どんなカンジに名前を呼ぶべきかということだ。男と男の出会いはいつも真剣勝負。ファーストコンタクトの瞬間にナメられてしまったらおしまいだ。相手の呼称をどのように設定するかによって、その人との関係は一気に決定づけられてしまう。間違っても初っぱなからさん付けして『ボブさん』とか呼ばず、立場を明確にするように「ボブちゃん」扱いしてしまって全然構わないだろう。

大体、よく考えればボブ・サップの方が俺より5歳も年下。俺が高校生で死ぬ気でオナニーに励み摩擦し過ぎでチンポを血豆だらけにしている頃、サップはまだ陰茎をいじるのもまだまだおっかなびっくりな小学生。いや、もうこの際思いきりナメた感じで『ボブ平』とか呼び、セブンイレブンにドクターペッパー買いにパシらせてしまっても構わないだろう。当然そんなもん今時どこのコンビニにも置いているわけがないので、泣きそうな顔でオロオロしながら帰ってきたボブ・サップを「ジョシュ・バーネットは10秒で買ってソッコー帰ってきたぞテメェ！　お前マジ使えねぇよ～」と怒鳴りつけ、芸能界の恐ろしさを存分に味わわせてやることが出来るのである。ここぞとばかりに先輩風ビュービュー吹かせてやるから早くCDだせサップ!!

おきて・ぽるしぇ

『BUBKA』『TV Bros.』『Ollie』などの雑誌でも連載中。ロマンポルシェ。のCD『孫』も不気味なほどひっそりと発売中。みんなもういい加減買ったらどうなんだ。なあ。HPのアドレスは
http://www.musicmine.com/roman-p/

ザ・検証

「俺様も出せ！ 出る!! 出る!! 出る!! 出る!! 絶対出る!!!! 貴様ら皆殺しだ」。これは、来年の1月から新たに始まるプロレス出身地別東西決戦で東軍のキャプテンを務めるサスケ社長宛に暗黒街化計画・首領のミスター・ポーゴから送られてきたFAXの全文。こんな人たちばっかりのプロレス界だったら面白いのにね。でも、なぜそれほどまでに？

今月の検証 by 椎名基樹

怒髪天を衝く男たち

今月は検証テーマも思い浮かばないので、前から疑問に思っていることを、徒然なるままに書いていきたいと思います。

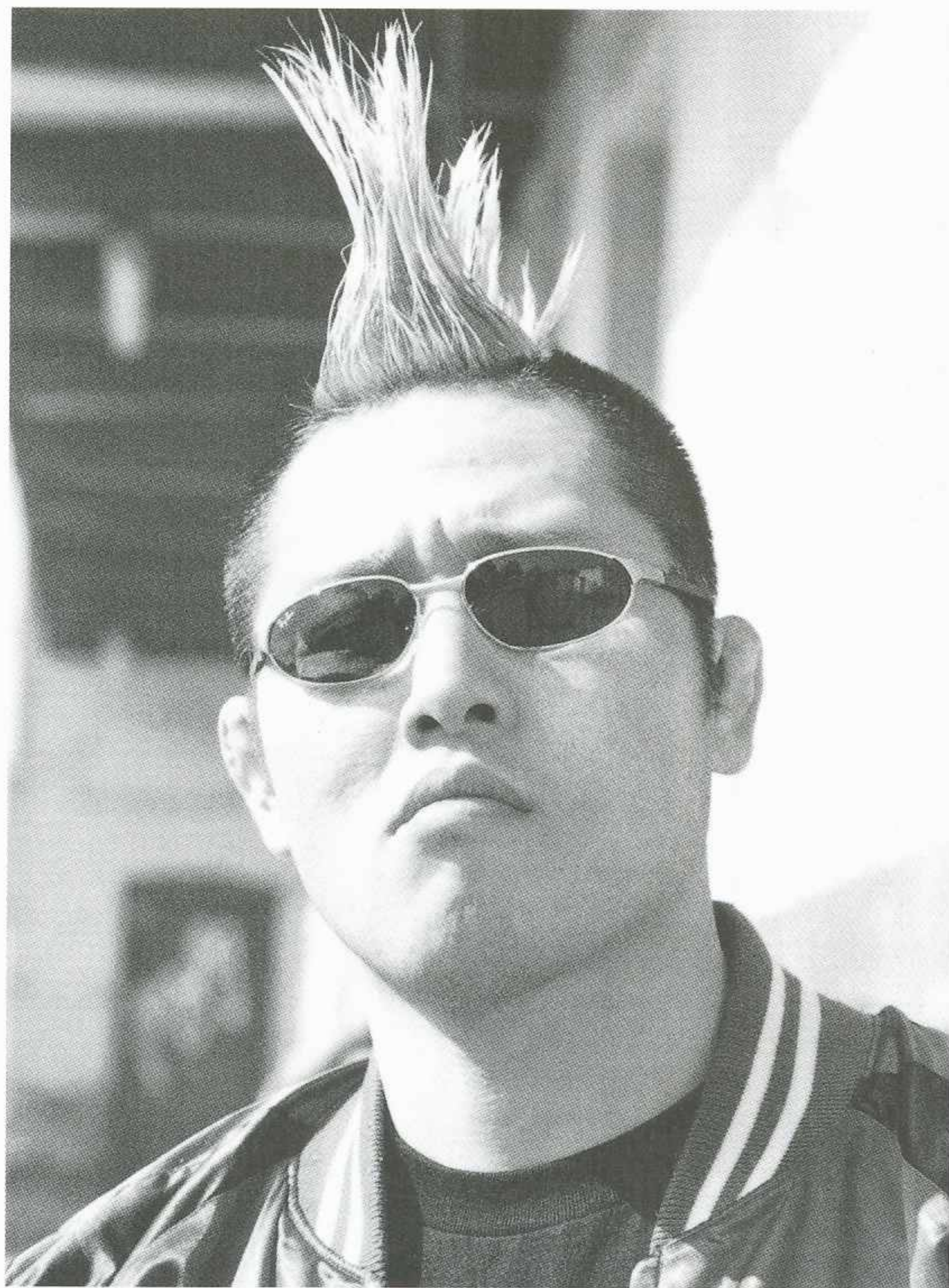
「怒髪天を衝く」という言葉があります。文字通り、怒りのあまり髪の毛が天に向かって逆立つ様のことであります。何が原因か知りませんが、人間怒ると髪の毛が逆立つのは本当です。わたくしも、時々立ちます。先日もタクシーの運ちゃんのあまりの横暴ぶりにキレて怒り、仕事先に到着して鏡をみると、頭のテッペンが、プチ・ベッカムヘアになっていて、その後一日直らず、情けない理由で不格好にキレた自分の印のようで、後でずっと恥ずかしかったことがありました。でも、本当、不思議です。

しかし、こんな情けないおっちゃんの「怒髪天」とは違い、もっとおそろしげに髪の毛を逆立てた男たちがいます。普段から常に髪の毛が逆立っている人って身の回りにいませんか？ 髪の毛が放射線状に伸びてる人です。頭のテッペンはもちろん、側面つまり耳の上の部分が真横に伸びるので、非常に目立ちます。

格闘界にも「日常が怒髪天」の人がいます。その代表は何といっても、元極真の黒崎健時先生であります。黒崎先生は怒っています。常に怒っています。髪の毛も常に磁石に向かって伸びる砂鉄のようです。前に読んだ本で、大道塾の東塾長が極真初期の道場で黒崎先生がいかに怖かったかという話をしていて、「怖いよ。だっていつも髪の毛逆立っているし」というようなことを言っていました。黒崎先生は現在まで何十年と怒り続けているようです。

怒髪天男はまだいます。前修斗ミドル級チャンピオン・桜井速人と、その師匠、桜田直樹会長の師弟コンビ、チェリー（桜）ボーイズの二人です。桜田会長も常に怒っている人です。髪の毛も逆立っています。桜井選手は基本的に、お口に「×」のマークが付いているタイプ（わたくしは、ミッフィータイプと呼んでいます）なので、怒っているのか判りにくいのですが、目が笑っているところを見た記憶がありません。桜井選手がフランスのゴールデン・トロフィーに出場した時、地元のちびっこにドラゴン・ボールの悟空だと大人気だったたいいます。あの袖無しの道衣を着た、金髪に染めた髪の毛が逆立った東洋人を見た時、フランスのちっびこには正にスーパーサイヤ人に映ったことでしょう。

あるボクサーが「ボクシングは基本的に怒りだ」と言ったという話を聞きました。では、闘う男（もち女も）は何に対して、そんなに怒ってるんでしょうか？ 世間に対してなのか、自分自身に対してなのか。それは、知る由もありませんが、その怒りや当然と思うと同時に、沸き上がる怒りそのままに闘うことができる人たちが、タクシーの運ちゃんごときにキレて溜飲を下げている情けない自分と比べると、ものすごく羨ましいのも事実であります。

PS 12月14日に、日本キック連盟の小野瀬邦英選手がラジャのチャンプ相手に引退試合をするそうです。数々の名勝負を見せてくれた、小野瀬選手、ありがとう＆ご苦労様。その試合で、ガルーダ選手をはじめ、小野瀬選手ゆかりの4選手がセコンドにつく予定だそうですが、大塚一也選手だけが、現在行方不明で探しているそうです。大塚選手は、勝手に漫画「殺し屋イチ」のモデルだと思っていました。怒りとは無縁そうな、正にイジメられっこのような、大塚選手。一体、どこにいったんだ〜！ あと、先月、読者欄のつまらなかった記事で、俺を選んでくれて「こんな原稿に原稿料を払っている、『紙プロ』にも腹が立つ」と書いてくれた方。原稿料はまだもらってないし、この先入金もまったく未定なので、あしからず！

プロレス界の怒髪天男といえば闘龍門の神田裕之。しかし先頃引退。

今月の検証█ █ █ by せき詩郎

高田引退

ピストルを構える高田。銃口から飛び出し見事に標的を捕らえる2発の銃弾。貫通した弾の跡がちょうど「ト」という文字の濁点となり、「プライド」という文字が出来上がる……。

高田がいよいよ引退するらしい。思えば高田はプライドに対してなんだかんだ言って貢献してきたと思う。それを考えれば、主催者側にこれくらいかっこいいオープニングを作ってもらいたいものだ。今度の興行は高田の大会なのだから。

オープニングはまだ続く。

次々と爆発の起こる荒野。遠く向こうから近づいてくる高田が運転するサイドカー。爆弾を間一髪で交わしながら猛スピードで走ってくる。やがてカメラの前で突然急ブレーキ。土煙をあげ、スピンして停まるサイドカー。カメラにアップで映し出される車体。そこには『PRIDE』の文字……。

なんとかっこいいオープニングであろうか! そしてなんと高田のかっこいいこと! こんな映像を流された日には、アンチ高田の観客も高田の虜になるはずだ。

ナナハンにまたがる全身を革できめた高田。手放しで拳銃をぶっ放したあと、おもむろにサングラスをはずし、投げ捨てる。太陽の光を反射するレイバンのサングラス。そのレンズに、出場選手とカードが次々と映し出されていく……。やがてビリヤードをする高田の姿に切り替わる。傍らにカクテルグラスを置き、真剣な表情で玉を突く高田。勢い良くはじけ飛ぶ玉には、田村の泣き顔が描かれている……。

どうだろう、女性ファンならずとも、そんなかっこいい高田の映像にうっとりとしてしまうはずではないだろうか!? 試合前から場内のボルテージは最高潮に達することだろう。あまりに最高潮過ぎて、高田の試合が始まる頃には下り坂もいいところになってるくらいに。

続いてオープニング映像では高田のいままでの闘う姿、高田の勇姿が次々と紹介される。

高田対ヒクソン。ルールはもちろん、ヒクソンの足の裏に書かれた文字を読めば勝ちだ! しかしヒクソンとの力の差は歴然。あっけなく負ける高田。しかし、大きなリアクション(タップ)で場内を湧かし、お馴染みのギャグ(完敗なのに「もう一丁!」)できっちり締める。

続いて高田対ワニ。自分より数倍大きいワニと一緒に透明のケースの中に入る高田。高田がクイズに不正解だと、ワニが少しずつ近づいてくるという、壮絶な闘いだ! この勝負も高田は負けるわけだが、本気で涙ぐむ姿は最高のリアクションとして観客の記憶に残り続けた。

忘れてはいけないのが高田対桜庭の師弟対決である。先輩である高田がホモのフリをして桜庭に迫るというドッキリであったのだが、実はこれ、なんと逆ドッキリ! ムチを持って叩く高田に桜庭がキレるのだ! 慌てる高田。「この世界、先輩のいうこと聞いておいた方がいいよ」などと言いながらなんとか桜庭をなだめようとする高田の姿に、別室にてモニターで見ていた他の選手たちは大爆笑であった。

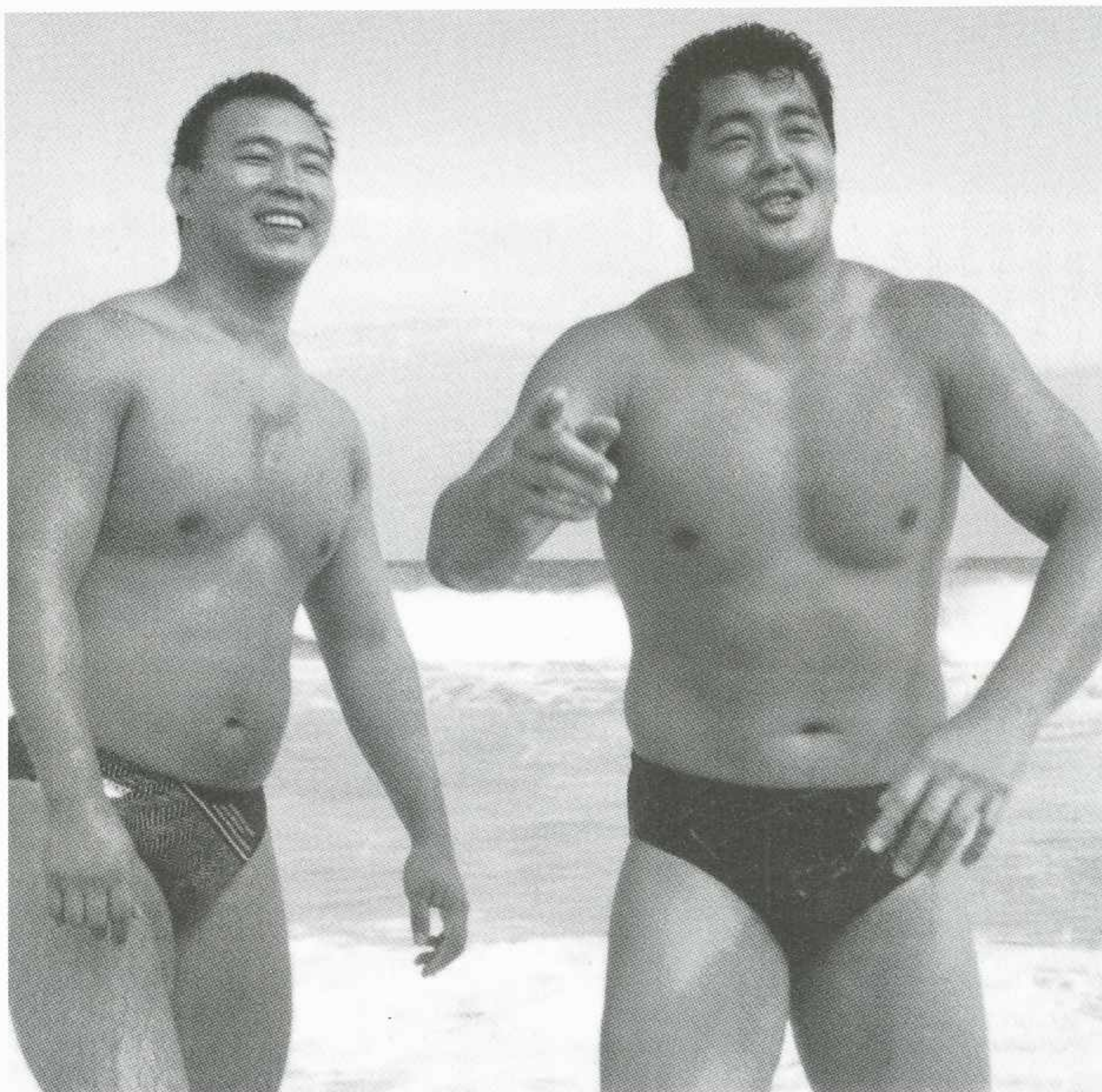
また高田が人間ロケットになった試合ももちろん流されるだろう。見るからにすぐに破けてしまいそうな衣装で登場した高田。案の定、空中へ飛び出した瞬間、服が脱げ全裸で落下する高田!

そして記憶に新しい『高田タップ100連発』も流れるはずだ。高田が100回のタップを何秒でできるかを当てるクイズである。こうやって嘘を書いてるうちに、普通に「クイズである」と書いてしまっているが気にはしないで読み続けて欲しい。

その他、高田が熱い鉄板の上に吊るされたり、高田道場の選手が全員乗ったバスが水中に沈められたり、高田がカースタント中にハンドルが取れたり……、などなどさまざまな『PRIDE』名場面が大型スクリーンで流されることだろう。

こう振り返ってみると、高田ほど体を張ってきた者はいないのではないだろうか?

まあ、ここまで書いてきたことはもちろんすべて嘘であるが、それらを無視して考えても、プライドのリングで高田は体を張ってきた。本人にその気があったかどうかはわからないし、観客がそう見てきたかはわからないが、プロレスラー代表として率先して闘ってきたのは高田であった。

そんな高田の引退試合。私は高田を応援する。そしていつものように、試合中ふがいない高田に怒り、試合後によく考えると「まてよ、高田、面白かったんじゃないか!?」と考え直すことだろう。頑張れ高田! 闘うリング(リング下に超粘着シートとかが敷いてあるリング)はすでに整っているぞ!(以上、すべて高田みづえに)

※上の写真と本文の内容は一切関係ありません。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

先日、新生『ゴング格闘技』を編集する新会社UPPERの発足パーティーに参加したときのこと。梶原一騎先生の未亡人・篤子さんと真樹日佐夫先生に挟まれた奇跡のスリーショットを撮ることに成功したり、新間寿氏から「『紙のプロレス』の豪ちゃんだよ！」と新日本の坂口征二CEOを紹介してもらったり、真樹先生から「今度、『すてごろ懺悔』が映画化されるから、豪ちゃんはおでん屋の店長を演ってくれ！」と依頼してもらったりで、とにかく大変なことになってきた男がお送りする書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『俺たちの週刊プロレス』（ベースボール・マガジン社／952円）

「俺たちも時代を駆け抜けた！」

そんな、あまりにも一方的かつ衝撃的すぎる活字〝俺たちの時代〟宣言を堂々とコピーにした自社広告で『週プロ』読者に良くも悪くも巨大なインパクトを与えた、このムック。

要は、宍倉清則、浜部良典、市瀬英俊、安西伸一、佐藤正行という歴代の『週プロ』名物編集者たちが代々執筆していたエッセイ『編集部発25時』の初期BEST集というわけなんだが、こうした内輪受けイズム溢れる企画が出版物として当たり前のように成立するプロレス村の特殊さは、おそらく外部の人にはまったく理解できないことと思う。

しかし、そもそもプロレス界は浜部元編集長の言葉を借りれば**「フツーでないことがフツー」**であり、そしてプロレス雑誌の編集者もまた他の雑誌と比べると驚くぐらいライター的な役割が多いので必要以上に自分をさらけ出さなければならない、普通の人には絶対に向かない特殊な職業なんだから問題なし！

結局、普通の感覚を持ったプロレスラーが何人かかってもアントニオ猪木という一人の狂人に太刀打ちできないのと同じように、プロレス雑誌にも常識的な編集者より偏執的な変質者、強靱な精神より狂人な精神の持ち主が必要とされているわけなのであった。

前田日明の長州蹴撃事件に対して**「前田の凶撃に弁護の余地なし」「私はあの日の彼を今もって認める気はない。問題のキックを別にしても、ストレートパンチを食った後にアゴを突き出して、なおも長州を挑発した時の表情などは極めて下品で不快だったし、思い返すたびに吐き気がする」**と言い切る浜部前編集長のような常識人よりも、ターザン山本という放送禁止スレスレの狂人の方がファンに支持されたのは、そういうことなのである。

それは、GRABAKAならぬGACHI BAKAの朝岡編集長と安西記者が姿を消したらすっかり読むべきところがなくなってしまった最近の『格闘技通信』を読んでいただければ、きっとわかってもらえることだろう。

当たり障りのない原稿を書くぐらいなら、狂気を撒き散らして読者の反発を喰らった方が面白いに決まってる。狂気をアピールすれば不愉快に思う人も増えるだろうが、それだけ愉快だと思う人も増えるものなのだから。

さて、それなら佐藤編集長が**「粘着質丸出しの取材姿勢には、見習う点が多かった」**と証言している安西記者の書いた『編集部発25時』が面白かったのかというと、実はそうでもないから世の中上手くいかないのであった。

『「プロレスって、どこまでが本気か、わからないんだよね…」』。きっとプロレスファンなら誰もが一度は友人や知人から、こんなことを言われたことがあるだろう。私も似たような意味あいのことも含めて、何度も言われたことがある。そのたびに私は『一度テレビで天龍の試合を見てみなよ』『UWFの会場に来てごらん』と言い続けてきた」**

当時、**「自分の人生にはプロレスしかありませんでした」**と男らしく言い切っただけあって、こんな調子のUWF賛美を何度も繰り返した安西記者だったが、彼の面白さが花開くのは『格通』移動後に突然アンチUWFの狂信的なグレイシー信者になってから。

ゆえに、このムックの中で唯一ターザンすら凌駕するほどの狂気を放っていたのは、「デラックスプロレス編集長時代は、読者からレスラー以上の数のバレンタインチョコが送られてきた」男・宍倉次長だけだったのだ。

まず、**「できれば自分が書いた103回分、全部、載せたかった」**という冒頭のリード部分だけでも怪しい毒電波がビンビン感じられるというのに、実際の原稿も全てが傑作！

何が凄いって、宍倉次長の場合はレスラーを褒めるにしても一味違うのであった。

「非の打ち所がない――とは『いまの小橋健太のためにある』言葉といっても過言ではないような気がします。とにかく、文句のつけようがない。文句をつけたら、それがアラさがしとしか思えないほど、いまの小橋選手は光っています」

原稿の掴みではここまで小橋を大絶賛しておきながら、**「この機会に前々から私が気になってたことを書いてみたいと思います。私だけが感じている取り越し苦労ならいいのですが…。ひとつ、物足りない点があるんです。それは試合を見るたびに、いつも感じること。ズバリいうと、瞬発力」**と、なぜかその直後に思いっ切りアラさがしをして、完全に取り越し苦労でしかない文句をつけ始めるから、とんでもない男なのだ。話が違うよ！

もちろん小橋は**「自分では瞬発力のある方だと思っているんですけど…」**と苦笑したそうだが、選手側にしてみたら宍倉次長みたいな迷惑なタイプでしかないのもよくわかる。

しかし、いま読み直しても近頃の『週プロ』からは失われた狂気が嫌と言うほど感じられる、**「こんな〝問題発言〟をしたらクビになりかねないが、嫌いなものは嫌い！」**との強固なモットーを持つ宍倉次長の原稿は、ボクにとって文句なしの素晴らしさなのであった。

たとえば、味方のはずのプロレスファンすらも容赦なく突き放す、**「私は一般視聴者ではないから、たとえば『1分でも多く試合を見たい』と主張するファンの気持ちにはなれない。なぜなら、イヤというほど試合を見ているし、放送する試合はすでに会場で見ているのだから…」**といった自分勝手な発言。

原稿を書く上でのプロ意識がまったく感じられない、**「なんでもいい。とにかく、この15字×126行を埋めなくては…。これが正直な気持ち」**といった隙だらけの発言。

その代わりに下心というかスケベ心はたっぷり感じられる、**「志村香も消えたのは個人的にチョッピリ残念…（彼女は出番も控え目で、カワイイから好感が持てた）」**だの、**「プロレスラーが歌うのも、映画に出演するのも、それこそセミヌードになるのも、私は決して反対しない。だって、好きな女子レスラーの水着姿を見たくない、という男性ファンはいないはずだから…」**だのといった発言。

ついでに飽くなき自己顕示欲も感じられる、**「ハッキリいって、週プロのピンナップに船木&野上や立野、風間を選んだのは私の仕業である」**といった俺イズム溢れる発言。

それに**「いきなり縁起でもないことを書いてしまいますが」「恥をしのんで書いてしまうと（いつも恥ばかりだけど）」**といった思わず「書くなよ！」と突っ込みたくなる余計な発言も連発したり、**「はっきりいってプロレスラーのほとんどは私にいわせれば、カンジが悪い」**なんて暴言までブチかましたりするから、とにかくもう尋常じゃないのである。

しかも、**「反面、その逆に『怖い』レスラーを好んだりする。たとえば、UWFの中野龍雄」**だの**「同じような意味で私が期待して**

いるレスラーが新日本と全日本にひとりずつと、好きなレスラーのセンスまでボクの期待を裏切らないんだからいちいち完璧すぎ。

「個人的な意見になりますが、どうも私が好きになれないのはロングタイツ。ショートとロングの大きな違いはズバリいって『太モモを出すか出さないか』。これ、けっこうイメージ作りには重要だと私は思っており、このテーマだけで『25時』が書けるぐらいなのです。で、ショートタイツにした方が絶対にいいと私が思うのは、橋本真也、川田利明、中野龍雄の3人。橋本は言っておりました。『いずれはショートにしますよ。それが新日本の伝統ですからね…』」

そんな宍倉次長にしか書けない、しかもほとんどの人が共感できない（破壊王の太モモがそんなに見たいか？）個人的趣味全開の文章こそが、いまのすっかり閉塞しきったプロレス界に必要とされているはずなのだ！

しかし、ターザンのアッパーな狂気とは違って、宍倉次長の狂気は明らかにダウナー系。恨み節が外に向けられているうちはいいが、それが内側に向くようになると一気にパワーダウンしてしまうのが問題なのであった。

つまり、長州のマスコミ批判を目にすれば「ショックだった。初めて読んだとき悔しくてホント涙が出た」と告白し、さんざん誌面でボヤいた後には「ここまで書いて…われながら赤面してきた。なぜ、こんなことを気にしているのだろう。もっと違うことで悩むべきか!?」と自分で自分に的確すぎる突っ込みを入れていく彼氏。悩むポイントが違うよ！

こうしてひたすら誌面で無防備に弱い部分をさらけ出しすぎたので、読者からは「宍倉さんは、いつも悩んでばかりいるのですか…」とのハガキも届き、他罰主義者のターザンからは「おまえのタイトルを変えた方がいいな。"プロレスうらみ節シリーズ"だ（笑）」と当時から言われていたのだそうである。

まあ、「ひとりぼっちは、あまりにも寂しいよ。なぜかって、ひとりだと、よけいなことをアレコレ考えちゃうんだよね」だの、「われながら神経質だと思う。いや、もうハンパじゃない。自分でもイヤになることがある。とにかく、耳が働きすぎるのか、周囲の雑音が気になって仕方がない」だのと、こんなことばっかり書いていたら読者が突っ込みたくなるのも当然の話だとは思うんだが。

そして、あまりにも雑音が気になりすぎたのか、やがて読者からのFAXページに届いた「（92年）3月17日号に掲載された私への非難（？）の内容について、ちょっと書いてみようと思います」と宍倉次長も反論開始。

……と思ったら、反論ではなく「FAXのページは通常、私ではない人間が担当しているので、上司に対する…あのような内容はカットしてしまうところ。それが当たり前なので、私の方から『今週は俺がやるから！』と買って出たのです」と、なぜかFAXを掲載した後輩に対する恨み節を聞かせていくのも、これまたさすがの一言なのであった。

ちょっと気になったからバックナンバーを確認してみたところ、その号では「のぼせあがるな宍倉！」なんて喧嘩腰のFAXが届いていたのみならず、別のFAXの見出しとしてページの担当者が「団体のチョウチン記事を書く宍倉記者に怒り！『週プロ』購読拒否を宣言！」なんて書いていたから、本当に失礼な話。それなら、宍倉次長の恨み節ぐらい爆発してもしょうがないって！

「いくら"有名税"とはいえ『てめー』呼ばわりされるのは不愉快このうえないこと。私は人一倍、気にする方ですから『なんで、はるか年下の人間に呼び捨てされなきゃならないのか。ほかのスポーツ雑誌だったら、こんな気分を味わわなくてもすむだろうに…』と悩んでしまいます。『気にしない、気にしない。よくも悪くも、反響があるのはいいこと』と開き直るのが一番なんですけどね」

ここで「私は人一倍、気にする方」なんて書いたら読者のサディステックな感情を無闇に煽るだけだと思うが、宍倉次長はそんな細かいことを気にするような男ではない。

だからこそ、いまも相変わらず不満の声が届いていることを、やっぱり宍倉次長はストレートに告白してしまうわけなのだ。

「（『週プロ』に届くメールの）三分の二は文句である。プロレス界に対する文句。そのなかには当然、私個人に対する文句も多い。かつて『北斗晶が嫌われる理由』という本が小社から出たが、それこそ『宍倉清則が嫌われる理由』という本が書けるほど（書くわけがないけど）。『おい宍倉！』という呼び捨てや『お前』はザラ。『やめろ』『死ね』『殺す』『また入院しろ』と、いろいろあります。『気にしなけりゃいいじゃん』と人はいいますが、気にしないですむのなら、人間、誰も神経系の病気にはかかりません」

どうですか、このあまりにも無防備すぎるカミングアウトっぷり！ ここまで酷いことを言われて、「なんでプロレスファン同士が、こんなにも、いがみ合わなければいけないんだろう」とボヤキつつも、「いつも文句を書いている当人が、いえた義理じゃないかもしれないけど…」と、やっぱりすぐに自己批判を始めてしまうのも完璧すぎなのであった。

「『お前の原稿は二度と見ない』といわれれば、私はわざわざ手紙を出します。『二度とみないのなら、本当にそうしてください。お願いします』」

ここまで過剰に反応することも、そして、自分で「わざわざ」なんて言葉を使うのも、全て裏目に出ているのは間違いないはず。

最後は、「もしかしたら、この時代にもっとも向いていない記者は私なのかもしれない」とまで言い出す始末なんだが、それでも原稿は面白いんだからまったく問題なしなのだ。

現在、『週プロ』顧問というよくわからない立場に棚上げされたかと思ったら、『週プロ』愛モードのコラム「次長主義・電脳版」もいきなり連載終了になってしまったりで、ボクみたいな『週プロ』宍倉次長派にはどんどん寂しい状況になってきた今日この頃。

その「次長主義」最終回によると「プロレスラー流にいえば"長期欠場"と思ってください。コラムどころか、はっきりいって、記者生命のピンチです。コラムを始めたころに『ある症状に悩まされている』と書きましたが、いっこうによくなりません」とのことなので、どうやら神経性の病気はどんどん悪化しつつあるようだ。

「『宍倉さんからはプロレスLOVEが感じられない』という声などを目にすると、よくない精神状態を見すかされているのかもしれない…と思ったりしました」

見すかされているって、よくない精神状態を殊更にアピールしてきたのは誰だよ！

思わずそう突っ込みたくなったが、とにかく宍倉次長が原稿で毒電波を出し続けなければプロレス界は今後もどんどんつまらなくなっていく一方なのだ。次長、カムバック！

「とにかく、がんばって生きます。死んだら、こういう試合が見れないと思ったら、まだ死にたくない。ましてや体が元気だったら、プロレスから離れることなんて考えられない。イヤなことがあっても、その先に感動があることを信じて――」

そう。かつて「見返す――この感情が実は私のエネルギーになっている」と書いていたように、うるさい外野を見返すべく死ぬ気で頑張るべきなのだ。いつの日か、名コラム『感動させてよ！』を復活させるまでは。

そこで宍倉次長に送るエールとして、最後に『仮面ライダー』を演じた俳優・藤岡弘氏の発言を引用させていただくとしよう。

「失敗を恐れることなく、そしてまた血だらけになって、のたうち回ることをよしとして、戦う男。これが感動を手に入れるんだよ。それ以外には、感動なんてずっと待ってて棚からボタ餅で手に入るもんじゃないからな。なに、『感動させてよ！』なんて言ってる奴がいるの？ そんな姿勢じゃ感動なんかできないよ。とんでもない奴だなぁ！」

『女子プロレス不滅のお宝読本』

（日本スポーツ出版社／952円）

プロレスLOVE以上に女子プロLOVEが感じられる名物編集者といえば、『週プロ』の場合は宍倉次長、そして『週ゴン』ではもちろん原正英記者に決まっているだろう。

そんな原記者のライフワーク『レディース・ゴング』は女子プロ人気低迷により残念ながら休刊となったが、代わりに不定期でムックをリリースすることが決定。その第一弾が、「女子プロレスを愛すればこそ」という原記者の思いが過剰に詰まったグッズ本なのであった。

内容的には、原記者がバイソン木村からプレゼントされた水着や、マグニフィセント・ミミ（伝説のエロレスラー）が送ってきた「私がヘッドロックをかけられている」ポートレートなんかを紹介する濃厚ぶり。

なお、「プロレスのコラムニストであり、レアなグッズの収集家でもある吉田豪氏もマッハのファンである。同氏のマッハ・インタビューが載った『悶絶！ プロレス秘宝館VOL3』はなかなか読み応えのある一冊だ。女子プロレスのファン必見である」なんてエールも送られているだけあって、なぜかこのボクも巻末インタビューに登場しているのだ。

「先日、コレクターの吉田豪さんにお会いした時、『収入の大半はネットオークションなどに費やす』と言っていたが、私も昔はそうだった。京王プラザホテルのウエイターをして貯めたお金の大半をプロレスに注ぎ込んだ」

それなら趣味はピッタリ合うはずなのに、原記者との会話が微妙に噛み合っていないことは記事を読むだけでもわかるはず。

「わたし自身、これまで多くの女子プロレスの出版物を見てきた。しかし、女子プロレスのチケットを特集したコーナーは一度も見た事がない。個人的に言わせてもらえばプロレスのチケットは好きである。何故かといえば絵柄がいいからだ」

つまり、同じコレクターでもブラックキャットのジャージやIWGPサンバイザーなんかに高値を注ぎ込むボクとはほとんど接点がなかったわけであり、噂によると『ゴング』周辺でも原記者と話の合う人はいない模様。

それでも宍倉次長のようにダウナーにはならず、元気に女子プロ（レスラー）LOVEを誌面を通してアピールし続ける原記者は、男として断じて正しいはずなのであった。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第17回

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡 **目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、またまたまたまた採用オメデトー!! 御希望の「猪木マスク&A・猪木」Tシャツ（M）、お楽しみに!! 目ガ覚メタロウさん、44枚もハガキ送って頂いてアリガトーッ!!
★どうしても上手く描けない絵があって、何枚も何枚も描き直して、のべ100枚位描いたら右手首や右肘や右脳などが痛くなってしまい、母親に「骨粗しょう症だ。」と言われ、ビビりました。3日位絵を描くのを休んだら治りました。骨粗しょう症って恐いねぇ…。カルシウムを採りましょう!!
★ハガキを送って頂いた方の中から抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」をプレゼント!! 採用された方にはTシャツをプレゼント!! 1枚で良いのでハガキ送ってよ!! お願いしま〜す。
★80種類以上の植物を自然発酵させて作りました。『ヤマダ元気』http://yamadagenki.com
★吉住絹代選手、格好良かったです。『東京元気大学』http://tgu2001.com/

➡前号のTシャツ 魔界倶楽部

応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。
〈例〉坂田亘のL

半額 紙のプロレス 本誌 Back Number

第8号 1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

¥700 ⇒ ¥350

第16号 1995年6月号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

¥780 ⇒ ¥390

2000年4月
情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

¥2100（税金・送料込み）

第13号 1995年3月号
特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄&上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

¥780 ⇒ ¥390

第17号 1995年7月号
特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／パトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

¥780 ⇒ ¥390

インタビューという名の鉄拳史
紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

¥2000（税金・送料込み）

第14号 1995年4月号
特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

¥780 ⇒ ¥390

第19号 1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

¥780 ⇒ ¥390

パンクラス公式読本[矛]

97年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！ 鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

¥1260 ⇒ ¥630

第15号 1995年5月号
特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

¥780 ⇒ ¥390

極真魂溢れる16人を直撃！
極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／盧山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

¥1530 ⇒ ¥800

パンクラス公式読本[盾]

97年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！ 船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

¥1260 ⇒ ¥630

No.48

02年3月 ¥880

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談実現！ 小川直也vsノゲイラ
●和田最強伝説が遂に現実に！ 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場！ ジョー・サン
小川直也／武藤敬司／ミスターポーゴ／ウォーリー山口／ジョシー・デンプシー

No.49

02年4月 ¥880

この夏に究極の格闘技大戦争勃発!? マット界灼熱の噂！
●和田さん快勝記念対談！ 高山&金原&和田
●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
●凄！ 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！ 破壊王も火のヤリ特訓だ！
レッスルマニア座談会／CIMAvsドス・カラスJr.／ウォーリー山口／小畑千代

No.50

02年5月 ¥880

早く試合がしたい!! サクが笑えば、世界が笑う!!
●「地方初世界」開始！ 小川直也&橋本真也
●充電完了！ 桜庭和志が久々の登場！
●パンクラス取材解禁！ “尾崎の野郎”も初登場！
●I編集長が新日本に三くだり半！
菊田早苗／大仁田厚／小島聡&NIGO／アレクサンダー大塚／リングスロシア軍団の軌跡

No.51

02年6月 ¥880

ZERO-ONEに願いを！ 7・7決戦迫る！
●両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
●天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
●“男の中の男“が本誌初登場！ 謙吾
小川直也／プレデター／田村潔司／鈴木健／小笠原和彦／ZERO-ONE中村部長／I編集長

No.52

02年7月 ¥880

見えない鎖を引きちぎれ！ 行けーッ、小川アァアッ！
●全身プロレスラー・高山善廣
●「トゥーッ！」の素顔を暴露！ Mr.フレッド
●USAの渡世人 ドン・フライ
●田村潔司「美濃輪戦を決めた3つの理由」
小川直也／橋本真也／武藤敬司／ロシアン・トップチーム／ブラジリアン・トップチーム

No.53

02年8月 ¥880

灼熱の格闘技ダイナマイト！ 世紀のビックイベント『Dynamite!』を直前大解剖!!
●夢の対談が実現！ 高山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ
●爆裂!! 川村龍夫UFO社長語録
桜庭和志／小川直也／武藤敬司／高阪剛／クレージーMAX／サムソン・クツワダ／一宮章一／トム・ハワード／スティーブ・コリノ

No.54

02年9月 ¥880

ノゲイラ表紙初奪取！ 不平等の時代を克服した者こそ英雄になれる!!
●“ミスジャッジ”に猛抗議！ ホイス&エリオグレイシー
●“青い目のケンシロウ” ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●OHビーム発射！ 橋本真也×小笠原和彦
ゴールドバーグ／ボブ・サップ／マリオ・スペーヒー／田村潔司／坂田亘／小原道由／猪木快守

No.55

02年10月 ¥880

高田が“最後”に選んだのは田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
●「真剣勝負」発言から7年……運命の男が独白!! 田村潔司
●最後の実力者が遂に『PRIDE』参戦！ 金原
●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
●初冬のドームにサクラは咲くか!? 桜庭和志
橋本真也／大谷晋二郎／ノゲイラ&スペーヒー／A・コピィロフ／サスケ&TAKA／佐山聡

紙のプロレス 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■ワールドスポーツプラザKINGS
・池袋 ・大阪
・渋谷WEST ・札幌
・新宿 ・福岡
・名古屋
■グレートアントニオ
■東京イサミ

通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
【現金書留】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●送 料

1冊＝310円
2冊＝380円
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円
6冊以上＝700円

※今号より代引きを開始しました。詳しくはP141、P145を参照してください。

★『紙のプロレス』 NO.1～NO.7／NO.9～NO.12／NO.18／NO.21～NO.22 『猪木とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』『大山倍達とは何か?』は完売!!

紙のプロレス RADICAL Back Number

RADICAL No.40〜42、48、49で不定期連載中!
金ちゃんの「蘇れ! Uインター伝説」!!

No.5

97年8月 ¥680

高田延彦、樹海へ……初めてのヒクソン戦直前大特集!
●ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
長与千種&ライオネス飛鳥/ビクター・クルーガー

No.7

97年12月 ¥680

反骨の剣ー田村潔司 赤いパンツの頑固者、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
●プロレススーパースター列伝・木村健悟
●全女分裂!それでもローリングドリーマー松永会長
●オクタゴンの喧嘩屋・タンク・アボット
前田日明/T・ファンク/アジャコング/ジャガー横田/冬木弘道

No.10

完売間近
98年6月 ¥680

大和魂は連鎖するー前田日明vsエンセン井上 各方面に波紋を投げかけたスクープ対談!
●松永高司vsザ・グレート・サスケ夢の経営者対談
●冬木弘道「プロレスを進化させるとWWFだ」
●元リングスレフェリー北沢幹之引退記念
谷津嘉章/桜庭和志/前田日明/ダイアナ/宮内美穂

No.15

99年2月 ¥780

目を覚ましてください!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!
●A級戦犯か、それとも真の革命児か!? 佐山聡
●前田日明inUSA カレリン戦前のシアトル特訓!浅草キッドの熱烈応援文
●S多重アリバイ・佐野なおき/Mr.K
A・カレリン/高阪剛/馬場さん追悼/語ろうマサ・サイトー/A・浜口親娘/北原光騎

No.16

99年3月 ¥780

格闘ノストラダムス'99 エンセン井上のプロレス雑誌表紙奪取記念号
●環境問題を『紙プロ』で語る!?ーアントニオ猪木
●語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ・石川孝志
前田日明/高阪剛/坂田亘/M・コールマン/石川雄規/村上一成

No.24

00年2月 ¥840

頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE.GP』特集
●田村潔司がグレイシー討伐を公約!
●船木vsヒクソン座談会
●WWF大検証!
猪木・鶴田・前田・高田らが黒船を語る!
●サスケ×矢追純一UFO超私極宇宙対談!
桜庭和志/堀辺正史/守山竜介/太刀光/嵐/中西百恵

No.25

完売間近
00年3月 ¥840

格闘ロマン続行ーッ!! 猪木イズムを携えた藤田和之『紙プロ』初登場
●グレイシー撃破後の田村潔司を直撃!
●アニマル浜口は15年前から"火の呼吸"を研究!
●暴露本の原点はここにある! ミスター高橋
前田日明/小川直也/村上一成/サスケ/ダン・ヘンダーソン/ザ・ロック座談会/石川雄規&小路晃

No.29

00年7月 ¥840

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア解禁! 方舟の舵を取るのは誰だ!? 秋山準初登場!
●今度はホイス戦! 桜庭和志
●プロレススーパースター列伝・仲野信市
●本誌独占ジャンボ鶴田夫人真実を語る!!
三沢光晴/ノア勢フルメンバー/村上一成/ボビー・ホフマン/TKおかん/里村明衣子

No.31

完売間近
00年9月 ¥840

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!! 歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
●桜庭和志×高阪剛のトークバトル中継!レフェリーは浅草キッドだ!!
●川田利明語録
●プロレスという物語について・ダン・スバーン
小川直也/高山善廣/谷津嘉章/堀辺正史/永源遥/ユセフ・トルコ/島田裕二/田村潔司

No.32

00年10月 ¥840

本誌は"新プロレス"を独占します!! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
●田村潔司に快勝!ーA・ホドリゴ・ノゲイラ
●打倒プロレス同盟結成!?青柳政司×小路晃
●藤波辰爾語録
●プロレススーパースター列伝
前田日明/桜庭和志/山本喧一/金原弘光×滑川康仁/本田多聞

No.34

01年1月 ¥840

プロレスは「闘い」を忘れた時に老いてゆく!! 「猪木祭り」「長州vs橋本戦」を斬りまくり!
●UFCミドル級王者ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝・ミスターヒト
●修斗から『猪木祭り』へ!宇野薫
小川直也/高田延彦/桜庭和志/薮下めぐみ/ボブチャンチン&オバチャンチン/田中正志/紙プロ大賞2000

No.35

01年2月 ¥840

ジャングルを守るだけじゃなくジャングルをつくれ!! 「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
●ZEROーONE始動!橋本真也×アレクサンダー大塚
●プロレス界統一コミッショナー(就任予定)馳浩が爆弾発言!!
●プロレススーパースター列伝・ジョー樋口
坂田亘/成瀬昌由/滑川康仁/大仁田厚/小路晃/杉浦貴/堀辺正史/田中正志

No.36

01年3月 ¥840

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!! 面白くなきを面白く! 純プロレス復興記念号
●ノアから独立『PRIDE』参戦!高山善廣を確認せよ!!
●桜庭和志初のシウバ戦ド直前!!
●KOKをしゃぶりつくせ! 5大企画で大総括!!
金原弘光/ノゲイラ/ヴォルク・ハン/レナート・ババル/TK/田村潔司
三沢光晴/橋本真也/前田日明/大山峻護/W☆ING/ザンディグ/ジニアス×ハリー・レイス/鍋野ゆき江

No.37

完売間近
01年4月 ¥840

長州!! 本性出せんのかオラッ!! 小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
●アブダビコンバット2001ー大探検記! 菊田早苗/田村潔司×ヘンゾ・グレイシー/シェイク・タルヌーン王子
小川直也/橋本真也/桜庭和志/成瀬昌由×山本憲尚/村上一成×小路晃/堀辺正史/石川雄規

No.38

01年5月 ¥840

高田の"忘れ物"は小川!!ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」 5・5小川と長州はどちらが孤独だったのか!?
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子エメリヤーエンコ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー
高田延彦/グンダレンコ・スベトラーナ/力皇猛/杉浦貴/丸藤正道/谷津嘉章/ジミー鈴木/高山善廣

No.39

01年6月 ¥840

どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!? すべての"騒動"に前田日明総帥が答えた!
●選手離脱後の前田道場新エース・金原弘光/滑川康仁
●怪物か!? それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
秋山準/山本憲尚/小川直也/成瀬昌由/田上明/石川×臼田×島田/DEEPとは何か

No.40

01年7月 ¥880

開戦間近! 猪木軍vsK—1に見たいものは"地上最強のプロレス"
●蘇れ! Uインター&キングダム伝説!高山善廣×金原弘光[前編]
●本当か? 本当なのか!? この叫びを聞け! 大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
小川直也/三沢光晴/橋本真也/サスケ/郷野聡寛/坂田亘/上山龍紀

No.41

01年8月 ¥880

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来! どうする「日本のプロレス」!!
●リングス10周年大会!ハンがリングスを振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現!
●W☆INGの真実・茨城清志
小川直也/高山善廣×金原弘光//WWF座談会/辻よしなり/秋山準語録

No.42

01年9月 ¥880

猪木なら何をやっても許されるのか!? アントン総帥の言葉はマット界にとって"福音書"か?"テロ行為"か!?
●失われた"新日本"がここにある!ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●大反響!"ヒャッホー"辻よしなり
●蘇れ! UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
高田延彦/谷津章嘉/カト・クンリー/マァ☆ティン/WWF上陸直前特集

No.43

01年10月 ¥880

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!! 10・8猪木と小川が「純プロレス」と「純K−1」にリンクを張った!!
●ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー
●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
小川直也/桜庭和志/谷津×グッドリッジ/中野巽耀/須藤元気

No.44

01年11月 ¥880

ノーモアBADアングル!! サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●プロレススーパースター列伝・グレート小鹿
●その修羅場の数々! シーザー武志
●怪物伝承! 高山善廣&杉浦貴
ハンス・ナイマン&ディック・フライ/田村潔司/闘龍門大特集/E・ヴァラビーチェス

No.45

01年12月 ¥880

K−1vs猪木軍」は命懸けのエンターテインメントだ!!『紙プロ』旗揚げ10周年&RADICAL創刊5周年記念号
●『ケーフェイ』以来の爆弾本投下!ミスター高橋本特集!
ミスター高橋独占インタビュー/前田日明、ミスター・ヒト、佐山聡が「悪魔の書」を語る!
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●葛西純/ウルティモ・ドラゴン/望月成晃/A大塚/金原弘光/矢野×須藤/グレート小鹿/語録で振り返るマット界2001

No.46

02年1月 ¥880

PRIDE.LOVEをぶち壊す男!! 時は来た! 田村潔司、『PRIDE』へいざ討ち入り!!
●さらばリングス! 金原弘光/浅草キッドの「おつかれさんでした!」
●"ならず者"がDEEPで快勝!ーエル・カネック
●プロレススーパースター列伝・キラー・カン
●金メダルを落とした男・小林孝至

No.47

02年2月 ¥880

WWF日本侵攻5秒前! 激動の新日本、怒りの急展開を読む!!
●"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛
大谷晋二郎/小笠原和彦/葛西純/K−1中量級/サスケ/ミスフィッツ

★『紙のプロレスRADICAL』NO.1〜NO.4/NO.6/NO.8 NO.9/NO.11〜NO.14/NO.17〜NO.23/NO.27/NO.28/NO.30/NO.33は完売!!

リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

>>>リングスの続きはここにある!! 『ZST』いよいよ旗揚げ!!

リングス「ＫＯＫルール」を採用した新たな総合格闘技団体『ＺＳＴ』の旗揚げ大会が、いよいよ23日に行われる！ 中量級・軽量級の選手の活躍の場を提供することおよび、格闘技の底辺拡大を目指す『ＺＳＴ』。「マニア層だけではなく、入門者からコアなファンまでも楽しめる大会にしたい」と代表の日置氏は意気込みを語っていた。旗揚げ後は３カ月おきに大会を行い、その中でトーナメントを行うことも予定されているとのこと。11月23日は、ディファ有明に集え!!

THE BATTLE FIELD『ZST』旗揚げ大会

【決定対戦カード】
★松本天心 VS 真霜拳號
★サム・ネスト VS 園田隆
★所英男 VS 坪井淳浩
★佐々木恭介 VS 小野瀬哲也
★小谷直之 VS X
☆KOKタッグマッチ　矢野卓見&今成正和 VS X&X

★11月23日（土・祝）　試合開始17:00
★会場：東京・ディファ有明
★入場料金：VIP（最前列&ドリンク付）¥12000
SRS（2列目）¥8000　S席¥6000
A席¥4000　自由席¥3000
★問：『ZST』事務局　03-5321-9595

★突然ですが、プレゼント!
11月９日、リングス・リトアニア大会を視察した元リングスの広報・上原氏からビックなプレゼント！現地でしか手に入らない貴重なリングス・リトアニア大会のパンフレット（２名）と、上の小谷直之&矢野卓見のカッコイイポスター（20名）を提供してくれた！ ポスターとパンフのどちらを希望するか明記して、宛先はP143、読者プレゼントと同じ住所で「情報ページが一番良かったです」係まで。

>>>バトラーツ・B－CLUBにて『グラップリングーB』開催!

アマチュア選手たちにとってはもはや恒例の大会、グラップリング－Ｂが開催される。普段ジムで身体を鍛えている人は、この機会に思い切って参加し、自分の実力をためしてみよう。女子の参加もＯＫ！　出場希望者は、電話で参加受付を。試合後は、交流会＆セミナーも予定されている。〆切は１月７日！

★日時：2003年1月13日（月・祝）　14:15試合開始（13:00受付開始）
★会場：埼玉県越谷市・B－CLUB（東武伊勢崎線「越谷」駅西口下車徒歩30秒）
★資格：18歳以上の健康なアマチュアの選手（男女問わず）
★参加費：B-CLUB会員　¥1000　一般　¥3000
★応募方法：電話にて申込みのうえ、下記住所まで100円切手を1枚送付すること。折り返し、参加申込書が発送される。
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
「B-CLUB」内「グラップリング-B」運営事務局
★問：バトラーツジム　B-CLUB　0489-63-7515

>>>BCGにダイナマイトニュース!! 正道会館・麻布空手教室が誕生!!

強さ、礼節、健康を正道会館で手に入れよう！　プロを目指す人も、会社帰りのビジネスマンも、強い心を育みたいチビっ子も、護身術を学びたい女性も集まれ！　指導員は、Ｋ－１ジャッジでおなじみの黒住辰哉指導員。Body Check Gim・ＢＣＧでは、このほかにもシェイプアップキックボクシング、道衣クラス、ちびっこクラスなど、多数のクラスがあり、気軽に格闘技が楽しめるようになっている。見学は随時受付中！

★正道会館のみの会員　管理料及び登録料　5000円
【月会費】一般　7000円　女性・学生（高校生以下）6000円　幼・少年　5000円
★BCG・正道W会員　管理料及び登録料　13000円
【月会費】VIP　20000円　一般　15000円　女性・学生（高校生以下）12000円
★BCG・正道W少年会員　管理料及び登録料　8000円
【月会費】　10000円

男女シャワー室もちろん完備!
★BCG
〒106-0044　東京都港区東麻布3-3-1　アイザック東麻布B1F
（南北線・都営大江戸線「麻布十番」駅6番出口）
★問：03-3560-7911
★HPアドレス
http://www.bcgizm.com

数ヶ月前まで暑い暑いとTシャツ１枚で出かけていたのがウソのようです。すごい寒いです。どもです、いつも満載の情報ページ担当のささきぃです。すみずみまでチェックして、出かけたり出場したりして今年の思い出をさらに増やしてください。ではよろしく。

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■パンクラスがスタッフ募集!
パンクラスが経理・総務のスタッフを募集中。要項は以下の通り。明日のパンクラスを支えるのは君だ!
勤務地:東京都港区南麻布4-2-25(営団地下鉄日比谷線「広尾」駅)
勤務時間:11:00～20:00
★休日:土・日曜日、祝祭日(興行・イベント等により出勤の場合あり)
★時給・給与:規定による
★待遇:社会保険等完備。交通費支給
★条件:18歳以上の即勤務可能で、エクセル・ワードを使える方。TKCシステム経験者優遇。
★応募方法:履歴書(顔写真貼付)と職務経歴書(書式自由)を下記宛先へ郵送。書類選考合格の方へは通知あり。
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25(株)ワールドパンクラスクリエイト「フロントスタッフ募集」係

■猪木寛至がブラジルへ旅だった地・横浜でアントン講演会&クリスマスパーティ!
★日時:12月21日(土)11:00～14:30
★場所:国際コンベンションセンター「パシフィコ横浜」(JR「桜木町」下車)
★第一部:猪木塾長特別講演(約1時間)
★第二部:猪木塾長と横浜港を眺めながらのクリスマスパーティ(クイズ又はゲーム、質問コーナー、ツーショット写真撮影会など約2時間)
★参加代金:¥25800(立食スタイルの食事代、ドリンク込み)
★参加特典:当日限定闘魂猪木塾Tシャツをプレゼント、猪木塾長と横浜港をバックにツーショット写真撮影
★申込〆切:11月29日(金)
※満員になりしだい〆切になる。
★問&申込:近畿日本ツーリスト新宿法人旅行支店内・闘魂猪木塾事務局
TEL:03-3341-2411
FAX:03-3341-3101

■六本木で超豪華トークイベント開催!
『PRIDE.23』の翌日、大山峻護・阿部裕幸・阿部マサトシ・緒形健一・横井宏考・しなしさとこ・八島有美が大集合するTa mate主催の豪華トークイベントが六本木で開催される。入場料は2000円だが、電話で「『紙プロ』を見た」と言えば1500円に! ダーッ!
★日時:11月25日(月) 21:30～
★場所:六本木クラブコア
★問:Ta mate 090-8948-0180

■高山フィギュア発売&サイン会!
高山善広本人のプロデュースによるフィギュアが発売される! 価格は3500円。サイン会当日、10時30分より販売を開始、先着限定80個だけ整理券が配布される。13時より高山がフィギュアにサインを入れて渡してくれるぞ! 有明ビッグサイトへレッツゴー!
★日時:12月8日(日)
販売開始 10:00
サイン会スタート13:00～
★場所:東京・有明ビッグサイト ワールドキャラクターコンベンション モグラハウスブース内
★問:モグラハウス 055-262-7799

■スマックガールがネット配信開始!
NTT-BB社の協力により「BROBA」上でスマックガールの試合映像がネットで見られる! サービスは10月21日より配信中。BROBAへの申込みは、スマック公式HPからアクセス! スマックガール公式HPアドレス ★http://smackgirl.com

■禅道会・横浜道場に女子部開設!

NPO法人日本武道空手道連盟・総合格闘技・空手道禅道会に、11月から女子部が開設された。責任者は、大畑綾子準指導員。フィットネス・ダイエットの指導から食品の取り方まで細かくアドバイス、だれでも安全で健康に強くなれるように教えてくれる。一般男性会員も募集中。一度見学を!!
★場所:東急東横線「綱島駅」徒歩4分
★月会費:女子5800円
★日時:女子部 毎週水曜日20:00～
★問:横浜事務局 045-591-1813

■ビッグ・プロジェクト主催のクリスマスパーティに、C-MAXがゲスト出演!
読売・光と愛の事業団の協力により開催される、ビッグ・プロジェクト主催のクリスマス・ディナーパーティに、闘龍門のCIMA、SUWA、ドン・フジイ、TARUがゲスト出演する。C-MAXとの撮影会や、C-MAXのオリジナル・ロゴ入り特製シャンパン・グラスのプレゼント特典あり! 電撃ネットワークの南部虎弾もゲスト出演する。
★日時:12月23日(祝) 18:00開始
★会場:東京・町田市「ホテル・ラポール千寿閣」(JR町田駅南口より徒歩2分 無料駐車場あり)
★料金:18000円(全額指定・100名限定)
※ディナー形式・飲み物はフリードリンク
★参加方法:ビッグ・プロジェクト事務所にて、11月18日からチケットを販売中。他にも、闘龍門JAPANの巻頭主要各会場にて参加チケットを販売。
★問:ビッグ・プロジェクト 048-961-7117

■ターザン&吉田豪が年内最後のトークライブ!
前回のゲストは猪木快守! "格闘技トーク最強タッグ"(格闘ごまもっとう)こと、ターザン山本&吉田豪のトークライブ、12月は2002総括忘年会スペシャル! 今回登場するのは誰だ!?「ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭vol.6!!～2002総括!忘年会スペシャル!!～」
★日時:12月4日(水)18:30開場 19:30開始
★チャージ:¥1500(飲食別)
★問:ロフトプラスワン 03-3205-6864

■ミスター・ヒトが同志社大学でトークライブ!
同志社大学の学園祭・トークライブのゲストに、あのミスター・ヒトが現れる! 力道山が創設した日本プロレスのOBで、猪木・馬場と同じ釜の飯を食べたミスター・ヒト。その言葉をナマで聞くチャンスだ!
『究極トラウマ プロレス怨念』
★日時:11月27日(水)15:00開演
★場所:同志社大学 今出川校地 至誠館33番教室
★問:090-9613-1351 中嶋浩貴

■高橋がなり「がなり説法」発売!

日本テレビ系列「¥マネーの虎」でおなじみの社長・高橋がなり氏の本「がなり説法」。がなり氏が社長を務めるAVメーカーソフト・オン・デマンドは、ZERO-ONEや女子プロレスをスポンサーとして応援してくれている。個人的にがなり氏のファンなさききいは非常に面白く読みました。(株)インフォバーンより、¥1200で絶賛発売中。

大会★GUIDE

>>>魔界倶楽部が至宝のベルトを奪取!? IWGP三大タイトルマッチ決定!!

前シリーズで、新日本隊との3番勝負に勝利し、IWGPタイトル挑戦権を奪った魔界倶楽部。新日本の象徴であるベルトが、魔界の手に渡ってしまうのか!? ジュニアヘビー級タイトルマッチも決定!金本、4度目の防衛なるか!?

★12月7日(木) 徳島市立体育館 試合開始18:30
【IWGP Jr.ヘビー級選手権試合】 金本浩二 VS 垣原賢人
問:(有)高原企画 088-626-5665

★12月10日(火)大阪府立体育会館
【IWGPタッグ選手権試合】 天山広吉&蝶野正洋 VS 柳澤龍志&安田忠夫
【IWGPヘビー級選手権試合】 永田裕志 VS 村上和成
問:新日本プロレス大阪事務所 06-6649-0999

>>>次期シリーズ"トライアスロン・サバイバー"参加ユニット発表!!

間違いなく優勝候補である蝶野&天山の2人と、社長であるドラゴンがチームを結成!このチームがどこまで健闘できるか、そしてドラゴンがどんな闘いを見せてくれるのか。優勝するのはどのチームになるか、新日本から目を離すな!!

「トライアスロンサバイバー」トーナメントルール

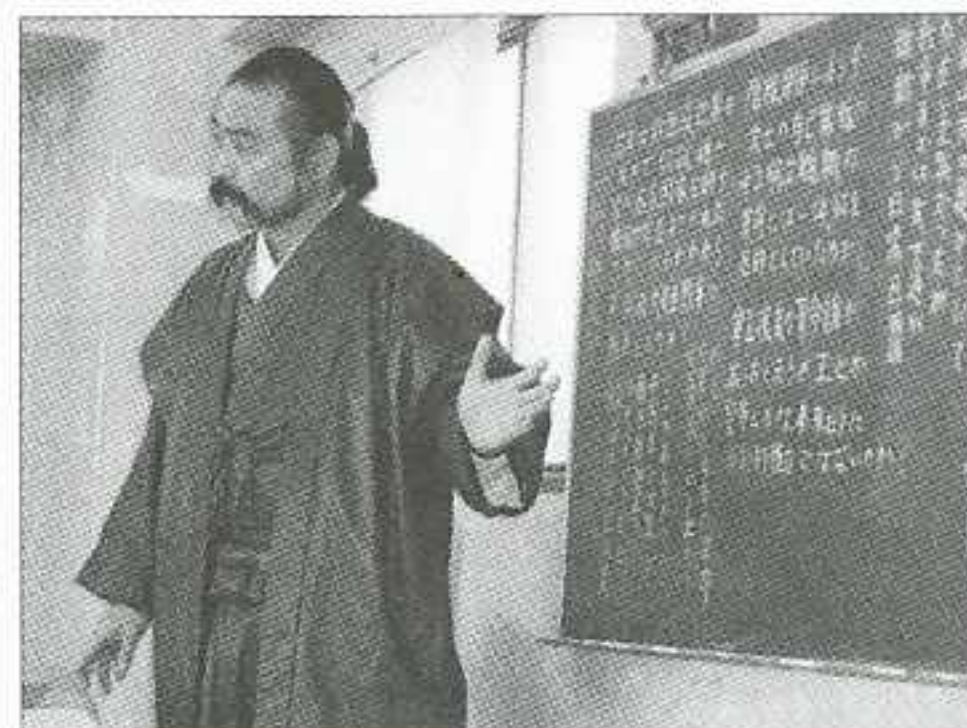
★予選リーグ 30分3本勝負
★優勝決定戦 60分3本勝負
1本目:6人タッグマッチ
2本目:タッグマッチ
3本目:シングルマッチ
★全6ユニットにより総当たりリーグ戦を行い、得点上位2ユニットが優勝決定戦に進出
★得点:勝ち=1点、負け=0点
タイスコアで時間切れの場合、6人タッグでサドンデスに突入
★優勝賞金 600万円

「トライアスロンサバイバー」参加ユニット

❶永田裕志、マイク・バートン、ジム・スティール
❷藤波辰爾、蝶野正洋、天山広吉
❸中西 学、西村 修、吉江 豊
❹鈴木健想、棚橋弘至、ブルー・ウルフ
❺スコット・ノートン、リック・スタイナー、真壁伸也
❻安田忠夫、柳澤龍志、魔界1号

※『トライアスロン・サバイバー』シリーズは、11月20日後楽園ホールからスタート、12月10日の大阪大会で最終戦を迎える。

スクール★GUIDE

>>>堀辺先生の「第2回・武士道セミナー」!!

武士道を抜きにして武道は語れない!! 戦前、武士道といえば、絶対服従や滅私奉公などの一面のみが強調された。それ故に奴隷道徳の一種と断罪されたが、真の武士たちは「我こそは」という独立自尊の強烈な個人意識を持って、主君や藩の繁栄を追求した。いま、BUSHIDOの本質を個人と組織との関係のなかに探り、その真実を堀辺師範が明らかにする。第1回に参加していない人でも、わかりやすく教えてくれるので大丈夫!! 参加無料!!

予約制
★開催日:毎月第4日曜日(次回は11月24日)
★時間:13:00～15:00
★場所:骨法武術館(JR東中野駅前)
★参加費:無料。参加希望の方は日本武道傳骨法會まで問い合わせること。
★問:日本武道傳骨法會事務局 03-3362-0010
★HPアドレス http://www9.big.or.jp/~koppo/

元気な読者に集まってほしい読者ページ

紙プロ元気大学

元気ですか～ッ。読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。ハガキ（特に文章もの）をたくさん載せたいので、担当通算6回目、11月という中途半端な時に大幅リニューアルしてみました。もうすぐ今年も終わり、早いですねぇ。ここに来て新日本からは事件名言続出。そんな新日本が……「大好きッ!!」。では、読者ページもビッシビシ行きます。よろしくです。

（愛知県・たっつぁん）
「ほんとにジョークに送ったつもりがいつも少し前のページに載ってしまってます。なぜだ……」。
➡あらら、不思議なこともあるものですねぇって、コレもです。「ほんとにジョーク」は前回も健介モノだったので、泣く泣くボツになったのを私が強奪しました（もしかしたら、リクエストの「チ○ポ丸出しビンスTシャツ」が何か差し障ったのかもしれません）。

校内巡回

佐山聡インタビューが先月のランキング第一位でした。以下、ランキング順とは関係ナシにご紹介します。

【『紙プロ』55号・面白かった記事】

◎掣圏道完成!! 佐山聡インタビュー◎
★佐山さんがさらにブッ飛んでいて、ビックリしました。
（香川県・佐々木輝・34歳・公務員）
➡「ビックリした」「最高！」という意見が大量に届いた、佐山聡インタビューが先月のランキング第一位でした。以下、ランキング順とは関係ナシにご紹介します。

◎桜庭和志インタビュー◎
★サクちゃんのインタビューが面白かったです。ケツ毛が濃くても全然OK♥でーす。サクちゃんのインタビューは、やっぱり『紙プロ』が一番!! ですねぇ～。
（大分県・えこ・34歳・会社員）
➡ありがとうございます。濃くてもOKですか。そうか。じゃ、やっぱり次の『PRIDE』はTバックでお願いしましょう。……ウソです。私は、ジョーニー・ローラーも完全Tバックで試合をするんじゃなくて、めくったらTバックとかのほうがいいんじゃないかなと思います。あからさまに見せられるとなんかお腹いっぱいな感じがするんですが、私だけでしょうか。あれ？ 何の話でしたっけ。

◎坂田亘のガチンコ恋愛相談◎
★同じ名前なので、親近感がわいた。
（鳥取県・青戸渉・28歳・会社員）
➡私は、佐々木健介さんと同じ名字でなんと誕生日も1日違いですが、ちっとも親近感がわきません。でも、応援はしています。

◎新日本が「大好きッ!!」座談会◎
★中西のことはもっと評価してあげてもよかった。片手を突き上げての「ハァーッ」の雄叫びはプロレスファンの間でもちょっとしたブームになっている。新日の退屈な試合の中で、貴重なカタルシスの瞬間。
（東京都・長瀬一樹・27歳・大学院生）
➡中西選手（知性派）は、いつ全面解禁したんだろう。でも、あの試合やK-1に乗り込んで大暴れしている中西選手（と、笑いをこらえている蝶野）はとてもステキでした。

【『紙プロ』読者の選ぶ「嫌いな選手」】

（和歌山県・山田雅巳）
➡ハガキのうらにあったイラスト。かわいかったので載せちゃいます。

◎橋本真也◎
★AVギャルがプロレスやったって別にいいじゃねぇか。
（千葉県・内野さとし・35歳・無職）
➡11・4の横浜文体・WEWに来ていた他社のカメラマンの人が「はい！ 今終わりました！ ポロリなしです！」と、えらく事務的に電話をしていました。大活躍中の某空手家の先生も、くびれの女王・草凪純をめあてに横浜まで来ていたらしいです。いいのかね。

【55号・つまらなかった記事】

◎サスケ&TAKAみちのくインタビュー◎
★ターザンの履き物がキショイ。
（東京都・片岡健太郎・27歳・ボンクラ学生）
➡どれどれ見てみましょう。ていうかこれは靴下？ 山本さん、なんで靴履いてないんだろう。そして、この靴下がつまらなかった理由？

★極端につまらないページは無いが、そういうページが逆に欲しいと思ってしまう。たのきんによっちゃんあり、ドリフに高木ブーあり、モー娘。に保田圭あり（中川画伯ゴメン！）で、やはり負け役があってこそ他の部分が光るって所がある。今の『紙プロ』はつまらないのが無いのがつまらない、って言うか。（でも先に挙げた3人って、ある意味今勝ち組だよな）
（青森県・青木雄大）
➡納得してしまいました。負け役というか役割分担というか、ひいては歯車になれるかどうかというか。この「負け役」をやれる人って、真の意味で自分に自信がある人じゃないと出来ないんじゃないかと思います。私の中では保田は勝ち組です。

➡ここからは先月号の〆切後に届いたおハガキです。

【『紙プロ』54号・面白かった記事】

◎座談会◎
★佐藤大編集長、プロレス以外に好きなものはセックスだって？ ヤバイ、俺と一緒じゃん。
（愛知県・たっつぁん・35歳・自営業）
➡会場でよくお姿を見かけるのですが、そのたびに「この人の好きな事はセックスかぁ」と考えてしまって、うまく話しかけることが出来ません。すいません、これからはちゃんと挨拶します。

◎ジョシュ・バーネットインタビュー◎
★MMA（※ささきぃ注 ミックスド・マーシャルアーツ。総合格闘技のこと）**に専念してリアルファイトをしてほしい。プロレスに絡むなら、試合をしない登場人物としての商品価値は高い。UWFの幻想は捨てて、埼玉プロレス参戦が現状ではベスト。**
（茨城県・大槻正美・37歳・自営業）
➡ジョシュだったら嬉しそうに「OH～、サバイバル・トビタ！」とか「サノ・ナオシ！」とか言いそうだからちょっと、逆に賛成できない。ていうか、何でそれがベストか。

わかものコーナー

➡ここ数ヶ月、10代の若い読者からのハガキが爆裂的に増えているので、まとめてみました。

【55号・面白かった記事】

◎金原弘光インタビュー◎
★2月から収入がないなんて、同情しました。
（滋賀県・林克也・14歳・中学生）
➡中学生に同情されてしまった金原選手。でも、この本が出る数日後には『PRIDE』ミドル級チャンピオンとなって、ウハウハしていると思います。そう願います。

◎ボブ・サップインタビュー◎
★今が一番いい選手だからインタビューがよかった。
（兵庫県・重内鉄兵・17歳・高校2年）
➡今が一番いい、って、それは割り切った発言なのだろうか。そうなら随分シビアだなと思うけど、それとも何か別の意味があるのか。

★中西選手が170キロのボブ・サップをアルゼンチン・バックブリーカーをしたのがすごかった。理由は、170キロもあるボブ・サップをもちあげたから。
（大阪市・江夏信一・16歳・職業なし）
➡そうか。……江夏君には、『紙プロ』はどんな雑誌に映っているんだろう。私はそれが一番聞きたいです。

★橋本インタビューで、橋本さんはお気に入りの小池さんを坂田選手に紹介したところがえらいと思いました。
（愛知県・五十君悠平・17歳・学生）
➡私は、破壊王に紹介してもらったと毎回ちゃんと言っている小池さんもえらいと思いました。

【『紙プロ』55号つまらなかった記事】

★アンドレィ・コピィロフ。ノゲイラの事を、ばかにする人のきじなんていやだ。
（東京都・進藤央司・10歳・小学5年）
➡いやだったか。でも、世の中にはいろんな考えの持ち主がいて、そういう中で生きていかなきゃいけないんだということだけは覚えておいてくれ。イラストも素敵だったので載せる。

（東京都・進藤央司）

★お久しぶりでございます。時の流れは早いもので、おかげ様で20歳になりました。「おんなのこのいちばん大切なもの（©山口百恵）」をどんどん失っていく感は否めません。これもみんな東京のせい。20歳の目標は、ハイアングレイシーを「ヒモ」にすることです。
（東京都・神子佳世・20歳・学生）
➡チョロさんの「ハガキ劇場」のころによく登場、21号では読者モデルも努めていただいた神子ちんこさんこと神子佳世さん。「おんなのこのいちばん大切なもの」ってどんどん失っていくようなものなの？ だとしたら失いつくしたあげくに最後には「おんなのこ」であることも失うのでノー問題だよ。大丈夫大丈夫。ささきぃ27歳の目標は一人称に「俺」とか言うのをやめることと、いい加減ダイエットの事を考えなくてもいい状態にすることです。

特別講座

【11・24を待ち望む人たち】
"夢幻大の真剣勝負"、高田延彦vs田村潔司の一戦を前に、テンション上がりきった人たちのご意見です。以下、インタビューへの感想等から抜粋しました。

★最近の田村選手はかなりはじけてるような気がします。田村選手と同年代という事とUWFを見続けたぼくとしては対高田戦、めっちゃ期待しています。
（大阪府・山内義久・34歳・自営業）
➡どうぞ、当日は田村選手に負けないくらい、見てるほうも思いっきりはじけてください。

★インタビュー、田村選手の複雑な心中がよく読みとれました。高田選手の最後の対戦相手として、全力を尽くして闘ってほしいです。
（岐阜県・木村笑美・21歳・サービス業）
➡ハガキの下のほうに「でも一番好きなのはK-1」と書いてありました。素直で良いです。一番じゃなくてもこの一戦は見ておきましょう!

★こんな日が来ると思ってなかった。今からドキドキしています。田村がホントに高田の顔を殴れるのか、その時田村はどんな顔をしているのか。自分は、その田村を見に会場へ行こうと思います。
（東京都・匿名希望・27歳）
➡がっつり見届けて下さい。私も、その田村選手と、会場がどんなふうにそれを受け止めるのかを見とどけたいと思います。

★やっぱりUWFはいろんな思い出があります。数年前にゴールデンカップスのトークショーへ行った時、高田延彦の関節技コーナーがありました（関係無い話でスミマセン）。高田ガンバレ!
（大阪府・三好万太郎・32歳・会社員）
➡この試合は、どっちを応援していいのか迷う試合だと思いますが、高田選手の側につくのですね。今月のインタビュー、がっつり読んで下さい!

今月のタレコミ部

（静岡県・森上路太郎）「串堅（※「串」に濁点がついています）」という店のカンバンはなぜか「闘魂」です……。➡プチ闘魂伝承。そしてこのカンバンは「ぐしけん」と読むのでしょうか。串カツ屋?

中川画伯の部屋

東京元気大学
吉住絹代選手にイラスト贈呈!!
スマックガール11月9日の会場で、中川画伯とは東京元気大学つながりの吉住絹代選手にイラストが贈呈されました。吉住選手はホワホワと大喜びしていたそうです。さて、中川画伯は、次は誰の前に現れるのでしょうか!?

ZERO-ONEのジュニア王者、ロウ・キー。プロレスファンを自称している人で、彼のプロレスを見にいかないのは重罪だと思います。いやマジメに。スゴイよ。そして「中川画伯のグレート・ムタの絵がぜったい欲しいです、お願いします」というリクエストが中川徹くんから来ています。そういえば武藤のリクエストは私も先月出したような。忙しいと思いますが、ぜひよろしくです。

青木雄大の部屋

「170キロもあるのに筋肉質。あんこ型でもそっぷ型でも無いこの体つき。21世紀の新しい型の時代である!」➡いきなり上沼恵美子の番組に出ていた時はビックリしました。サップを飼い慣らすラッシャーの物語は、映画にならないか。そうです。

左／「『ウルルン』スペシャルは衝撃的だった。まさか、藤波が来て3カ月後に亡くなられたなんて……。『所用欠場』の理由がニューギニア行きだったら、僕は許す」。➡ええっ。あのドラゴンの「うめぇ〜!」の『ウルルン』スペシャルやったんですか? 編集部一同、ビデオ激烈希望。誰か撮ってませんか? そして心からご冥福をお祈りします。
右／「サップ戦から逃げてる世界の格闘家達よ、ナナチャンチンの無謀さを見習いなさい!」。➡その通りですが、ナナチャンチンには逆に、負けちゃいけないってところを他の格闘家から見習って欲しい気もします。めざせ初勝利。

衣料部・今月のTシャツ自慢

（静岡県・目が覚メタロウ）「中川画伯特製、衝撃の『U.F.O川村龍夫Tシャツ』。小川直也選手に見ていただきました。「うわっ、TATHUO-KAWAMURA・Tシャツなの!? いいなぁ、欲しいなぁ!」と、このように申しておりました。全てガチンコですから」。➡Tシャツとツーショットと、ダブルでうらやましがられそうな写真。そしてステキなコメント。これを着ている小川さんは見てみたいです。それにしても目が覚メタロウさん、新日本10・14東京ドームの木村健悟さんにそっくりですね。つまんないことを書いてしまいました。この日付はZERO-ONE大阪大会ですよね。私もいました。今度はチョロさんだけじゃなくて私にも声かけて下さい。

驚異の新人登場か!?

（岩手県・こみきらほがな）➡突如、凄いイラストが7枚も届いたので何事かと思いました。さすがに鈴木みのるは少し違うような気がしますが、個人的に小原が一番です。お手紙の内容も見ての通り最高なのでそのまま載せちゃいます。えーとウチは『紙プロレス』ではなくて『紙のプロレス』で、一応月刊誌です。下手な絵だなんてご謙遜なさらず、ゼヒ愛読お願いします。機会があったら。ところで、イラストからは推測できなかったのですが、こみきさんは何がきっかけで急にプロレスに夢中になったんでしょうか。

（埼玉県・小川徹）➡三銃士そろいぶみ。毎月どうもありがとー。ZERO-ONEと全日本の対抗戦にドキドキしています。

（東京都・英加直純）➡みんなで打ち合わせてドッキリ。実際やったら、猪木さんはどんな反応をしてくれるんだろう。そして誰がこの指揮を執るか、それも問題。でもやりたいな。

（東京都・いしどやじゅん）➡カブキ様。ヌンチャクさばきはお見事でした。IWGPタッグは残念でした。いしどやさんのもうひとつの3枚つづりイラストも良かったんですが、今回こっちにしてみました。

紙プロ元気大学調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

順位	選手
1位	ボブ・サップ
2位	桜庭和志
3位	金原弘光
4位	小川直也
5位	田村潔司

『紙プロ』読者の選ぶ好きなレスラーランキング4回目。なんと、前回初登場のボブ・サップが1位! さぁ、みんなで"ボブ・ホップ"。注目はやはり金ちゃんこと金原弘光選手の登場。みんな待っていたんですね。6位は破壊王とノゲイラが同列、嫌いな選手は新日本のあの選手が首位を守り続けています。ホントは大好きッ。
（9/17〜10/17到着分調べ）

紙プロ55号・読者が選ぶ面白かった記事ベスト5

順位	記事
1位	掣圏道完成!! 佐山聡インタビュー
2位	ボブ・サップインタビュー
3位	田村潔司インタビュー
4位	新日本が「大好きッ!!」座談会
5位	桜庭和志インタビュー

1位はぶっちぎりで佐山聡インタビュー。2位・3位は超僅差でボブ・サップ、田村潔司インタビューと、話題の人が続き、「『紙プロ』の、新日本への愛が伝わった」と評判の（?）座談会、『PRIDE.23』で見事復活決定ーッ!! の桜庭インタビュー。文句ナシのベスト5に、ボヤキ節復活の金ちゃんインタビューが続きました。

闘志あふれるお便り大募集

（埼玉県・中川雅博）「この絵は別にヤマノリ選手をバカにしているわけではありません。自分はヤマノリ選手が好きなんです…。大好き…。次は期待しています」。➡ヤマノリ血尿イラスト。最近は、尿のほうはどうなんでしょう。そんなこと聞くのも何ですが、

でも、血便血尿を出したりノイローゼになったりするほど頑張る必要はないので、そのあたりは各自自己責任でお願いします。基本は元気で。今回はマジメに載せたいお便りが多くて参りました（多分もっと参っているのはこのページのデザイナー）。次回は、『PRIDE.23』の感想とか欲しいなぁ。携帯サイト『紙プロHand』のほうでも呼びかけますので、よろしくね。宛先は、メールは、radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス紙のプロレスRADICAL編集部
紙プロ元気大学「ライトバンにマグマ」係まで。

（本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに! プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと）

EZ-webユーザーに贈る

紙のプロレスHand

『紙のプロレスHand』は、どこよりも早く『紙プロ』の発売日をお伝えします!!

月額200円で絶賛配信中!!

『紙プロ Hand』メニュー　※『紙プロ Hand』会員じゃなくてもOK！　動画&待画をGet!「紙プロ特別メニュー」スタート!!

★動画対応の機種なら、動画も見れる!!
★日々のニュースをどこよりも早くドラマチックに送る「メガNEWS速攻」
★マット界の流れをもう一度見たいときに「メガNEWS保存版」
★コボレ話的な話題や情報もフォローする「マット界ブッコミTOPICS」
★団体別にニュースや情報を整理した「団体別TOPICS&試合速報」
★他のサイトでは、絶対見れない画像付き「ビジュアルNEWS」
★『紙プロ』表紙やとんでもない画像も、あなたの携帯にダウンロード！「画像ギャラリー」
★1カ月ごとに見れる「試合スケジュール」でアナタのスケジュールもバッチリ!
★「マット界・噂の万華鏡」などのお手軽に読めて濃い読み物も満載!!

トップメニュー ▶ EZインターネット ▶ スポーツ ▶ 『紙プロ』Hand

2月から始動した"IT事業部"は現在「電気部」として活動中です。仕事は主に携帯サイト「紙プロHand」の更新、「紙のプロレスRADICAL」公式HP発表！　さらにその先の極秘プロジェクトにむけての活動を主にしていますが、編集部のお手伝いとして読者ページやその他のページの作成もしたりしています。そんなひとり電気部・ささきぃの一週間を振り返ってみました。こんな感じで仕事してます。

10月22日（火）ZERO-ONE四日市大会

〆切を過ぎているはずの編集部を旅立ち、名古屋から特急で四日市へ。言っちゃぁ何だがボロイ体育館に、ZERO-ONEがやってきていた。最後まで試合を見て、破壊王のコメントを聞いていたら、最終の新幹線に間に合わず、名古屋から深夜バスで会社に帰った。早朝の新宿は、すごく寒かった。もう10月も終わりだ。

10月25日（金）ZERO-ONE名古屋大会

今回の会場は、ちょっと地方に多い、新しくて広くて大きい近代的な建物。デジカメの充電器を忘れ、またしても電気部なのに電気関係に弱いところを見せつける。というか、単なる大ボケ。試合前、会場外のロビーを見回っていて坂田・小笠原の乱闘を見逃して、会長に怒られる。というか単純に見そこねたのが異常に残念だ。くそう。写真を見せてもらったら、村上に襲われた破壊王なみのものすごい流血だった。

大谷＆田中vsＯＨ砲がいい試合だったのはもちろんだけど、七夕の両国から始まった富豪２夢路とドン荒川の闘いが、回を重ねるごとにどんどんスイングして面白くなっていくのに感心する。そしてＯＨ砲のセコンドにつく荒川さんを嬉しく思う。

地方によって観客の反応が違うというミュージシャンの言葉を聞いて、世代とか地方とかでまとめられるのが嫌いな私は、絶対にウソだと思っていた。どこにいたって、個々人で差があるだけで、地方色なんてねぇよ、と信じていたけど、それが全く違っていたことを、ZERO-ONEを追いかけている中で知らされた。ほんとうに違う。というか、東京が特殊だ。特殊なところにいることが私たちの普通になっていて、そこでほとんどのマスコミが仕事をしてて、そこで出来た本を全国の人が読んでいる。日本は、思っていたよりも広い。

名古屋に行く機会は増えたが、いまだに手羽先を食べていない。速報を終えるとほとんどの店が閉まっている。この根性なしどもが、と逆恨みをして、朝から朝食をしっかり取った上で「矢場とん」の味噌かつを食べた。

10月26日（土）ZERO-ONE大阪大会

読者ページでも大活躍の中川画伯に、似顔絵を描いて貰ったささきぃ（女）ありがとう中川画伯！

会場は新大阪から電車を乗り継いで１時間。ほぼ和歌山にある臨海スポーツセンターが、ZERO-ONE大阪大会の会場だった。開場前、選手がいるロビーを見ようと人だかりが出来、ガラス窓に人がはりついている。東京ではまず見られないその素直な行動。そうだよなぁ、好きなスターがいたらこうして見るよな。

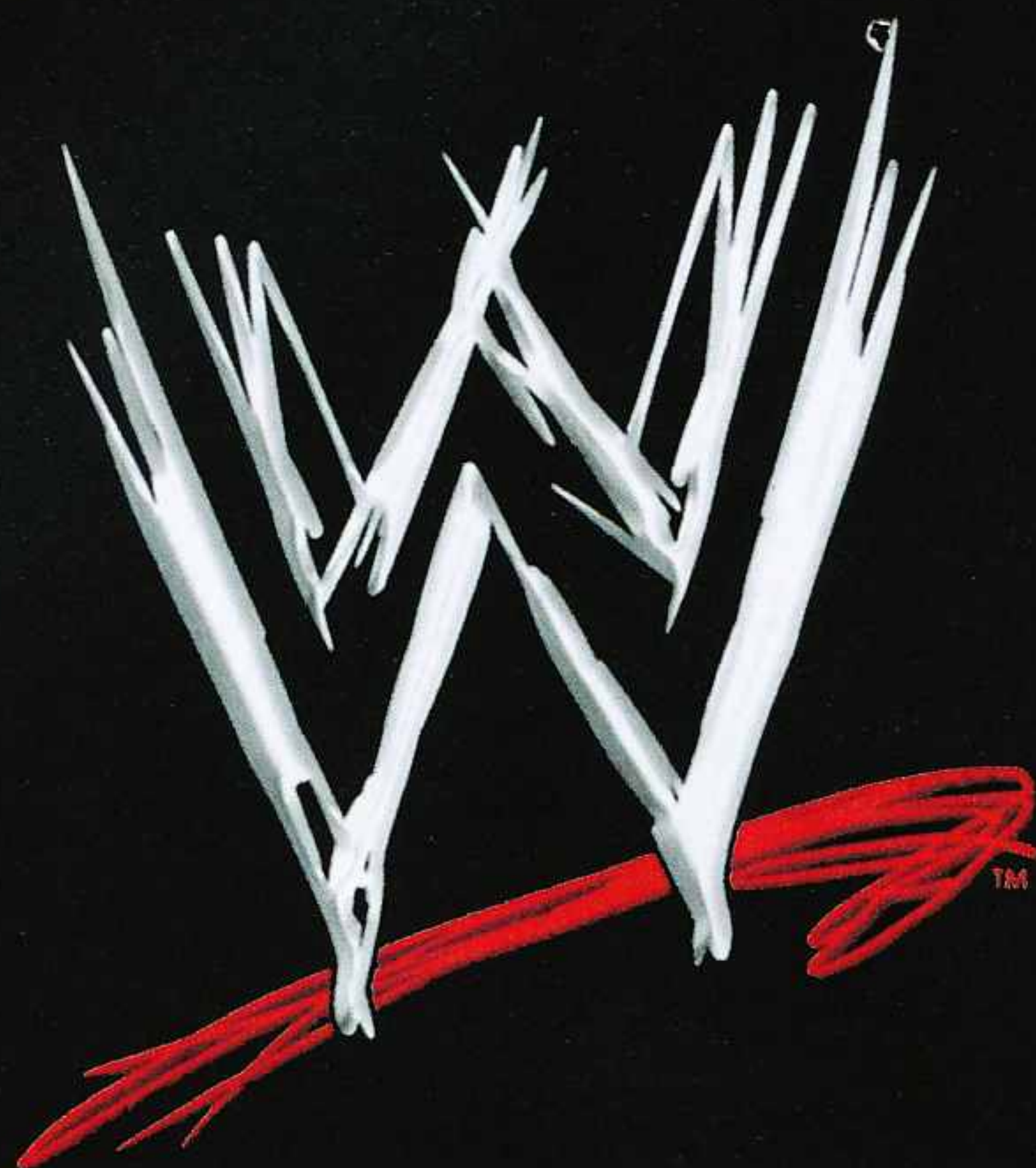
プレス控室は体育館の用具室だった。そこからリングで練習している選手たちを見る。なんか学園祭とか文化祭とかを思い出した。

10月27日（日）全日本武道館大会

大阪から戻り、そのまま武道館へ。大谷＆田中が会場に現れた。絶対に面白いプロレスをしてくれると信頼できる、大谷晋二郎と田中将斗が全日本で天龍や武藤や小島と闘うところを想像するとワクワクする。大谷＆田中に呼びかけた、小島の「よく来たな、バカ兄弟！」という言葉に、小島らしくていい表現だなぁと感心。

10月28日（月）闘龍門後楽園大会

ダフ屋を取り締まる警察が出るほど、ギチギチに入った闘龍門の後楽園大会。ひとつの大会に対して、考えが練り尽くされている。アイデアの量が他団体の比じゃない。お客さんにいいものを出すために、皆でアイデアを練りつくす。そういう当たり前のことを全うにやっている闘龍門に、いっぱいお客が入っているというのは、希望になる。それにしても、モッチーのＭ２Ｋはやっぱりかっこよかった。

情報ページでも紹介したけど、ソフト・オン・デマンド社長・高橋がなり氏の本「がなり説法」はとても面白かったです。『女柔道家VSレイプ魔』を撮影していた時の、がなり氏の葛藤と、その上での「僕らはプロのアダルトビデオ屋なんです、お客様の望むＡＶを制作してナンボなんです。そこに僕らの個人的感情はいっさい関係ないんです」という一文が、ずっと私の中に残っています。

黒船再来襲

1.24&1.25　国立代々木競技場にヤツらが来る!!

W YUKE'S Presents World Wrestling Entertainment FAR EAST TOUR JANUARY '03

今年3月、ファンに熱狂を、関係者に衝撃を、そして某大物評論家には居眠りをお見舞いしたWWEが来年1月に再びやってくる! 一部では人気凋落も囁かれるWWEではあるが、こないだ30周年大会をドームで開催した某メジャー団体よりは断然楽しませてくれることは間違いなさそう。ただ、「最近つまんないよ」とか「あんまり見なくなった」という人も多いようなので、そういう人のための企画も用意してみました。今回の来日を機に再びハマる人が増えることを祈りつつ、『紙プロ』では久しぶりのWWE特集、行ってみよう!

構成／スモーノブ

ビジネスと直結した世界最大のプロレス団体が来年いよいよ日本侵攻!! だけど、いまは

WWE再来日にカンパ～イ!!

WWEが再び日本にやってくる！

そんな噂が現実味を帯びてきたのは10月上旬あたりだっただろうか？今回は意外にも前回の横浜アリーナよりも小さな規模の国立代々木競技場を選んできた。強気一辺倒だったWWEも、ここ最近は本国アメリカでも人気にかげりが見えてきたらしく、会場選びは慎重に行われた模様だ。まあ、大きな会場で空席ばかりが目立つ日本の某メジャー団体のようなみっともない状態にだけはしたくなかったのだろう。それは大正解だと思う。

そして迎えた10月31日、東京・恵比寿のウェスティンホテルで記者会見が行われた。会見場に入る前に渡された資料一式の中には「RAW」のTシャツまで入っており、記者に対してもサービス精神が旺盛なWWEの本領がさっそく発揮されていた。驚いたのは、資料一式が入っていた袋がフジテレビのものだった、ということだ。

いままではWWEの放送といえば地上波局のテレビ東京とCS局のJスカイスポーツだったが……。主催の部分を見るとWWEの名前と共にフジテレビの名前が入っており、逆に現在『AFTERBURN』を放送しているテレビ東京の名前が協賛から消えている。これは一体何を意味するのだろうか？ 普通に考えれば今大会をフジが中継する、もしくは今後『AFTERBURN』（あるいは他の番組）をフジが放送する、といったところが妥当な線だろう。ただ、前回の日本大会の放送に関しては、テレ東やJスカイスポーツは放送直前まで揉め続けたという経緯がある。結局、TAJIRIの試合のみ完全放送が許可されて、それ以外の試合はダイジェストのみ放送という苦しい選択を迫られただけに、今回大会も試合を完全に中継するまでは交渉難航が予想されるが、これは期待しながら待ちたい。

APA時代から葉巻、ギャンブル、ビール、ケンカと男の必須科目をすべてクリアしたアウトローなキャラで大人気のブラッドショー（真ん中）がご機嫌な表情で乾杯。ちなみに、この時はまだ午前11時だ。これでいて素に戻ると、投資家だったりするから怖ろしい。

そうこうしているうちに会見が始まった。その内容は、来年1月24日&25日に行われるWWEの日本大会についてのアナウンス。それにともなうチケット発売や年末から一斉に始まるWWE関連商品のリリースに関する発表である。

会見に出席したのはロジャー・マーメントWWE副社長、トータル・スポーツ・アジアのマーカス・ルア社長、ユークスの谷内行規社長、ここまでは前回大会の記者会見と同じ顔ぶれだ。そして今回の会見の目玉は、ブラッドショー、マーク・ヘンリー、アイボリーの3人のスーパースターズである！

前回大会の記者会見ではTAJIRIとトーリーちゃんがわざわざアメリカからやってきたわけだが、あの時に比べると欠場中でスケジュールの空いていた「RAW」3選手がやってきた、といった印象は否定できない。実際、この日集まった記者の数は前回大会よりも明らかに少なかったし、会見のテンションも若干低かったように思う。やはり二度目ともなると、双方ともに安心感が出てくるので緊張感は薄くなるものなのかもしれない。まあ、そんな事情などまったく意に介することなく、会見中（しかも午前中だった！）からビールを飲みまくるブラッドショーは、マジでかっこよかった。会見時に出されたミネラル・ウォーターを無理矢理ビールに変えさせて「カンパ～イ！」と一人で飲み始める。会見が進むと他の出席者にもお酌をしてまわり、最後は全員でカンパ～イ！「drink or fight」と書かれている彼の新作Tシャツそのまんまのキャラだった。

〝セクシャル・チョコレート〟マーク・ヘンリーは「相撲取りに来ました」と一発ギャグをかましてみたり、会場隅でかわいらしく

左からマーカス・ルア、マーク・ヘンリー、アイボリー、ブラッドショー、ロジャー・マーメント、谷口行規（敬称略）。プロレスとビジネスが直結した世界最大のプロレス団体が来年の1月に業界のど真ん中を突っ走る！

来年中に2～3回、来日予定！
日本のマット界に及ぼす
はかり知れない影響を見極めよ！

WWEの新作ゲームに興じていたりと素朴な素顔を惜しげもなく披露。

アイボリーは40歳過ぎという年齢を感じさせない笑顔とセクシーなムードで華を添える。エジプト、韓国とプロモーションをしてきた彼らだったが、ここ日本でも発散するエネルギーはじつにパワフル&ポジティブ。さすが「スーパースターズ」の肩書きは伊達じゃない！ いるだけでその場を明るくしてしまうのだから。

これがHHHの必殺技ペディグリーだ！ 相手の手を固めて高くジャンプ、受身をとれない状態にして頭から叩きつけるのだ。HHHの長髪がなびく様が美しい。ペットボトルを片手に、もの凄い表情で花道を歩き、リングイン直前に気合を入れる入場シーンも世界屈指のかっこよさ！ いまから楽しみだ。

さて、今回やってくるのはWWEが誇る2リーグのうちのひとつ「RAW」である。今年の『レッスルマニア18』以降、WWEは「RAW」と「SmacK Down」の2リーグ制を敷いている。この「RAW」の主役は、クラシカルなレスリングセンスと抜群のルックス、そして凶悪な悪知恵を身に付けた世界ヘビー級王者・トリプルH！ アメリカではロック様、アンダーテイカーらともタメを張るスーパースターズの中のスーパースターであり、WWEの中でも常に重要なポジションにいる選手である。得意技ペディグリー（写真参照）が炸裂する瞬間は、今大会最大の見せ場となるだろう。主な来日予定選手と、今後来日する可能性のある「RAW」所属選手達はP118を参照していただきたい。

そして来日にともない、関連商品がドカン！とリリースされる。P119でまとめて紹介をしているが、そこに書ききれなかった情報としては来年1月からWWEのi-MODEサイトがオープンするという話。こちらは、なぜか協賛からは外れたテレ東系の会社が手掛けていく模様。そして、WWEのアジア地区のマーケティング総代理店で今回はツアー・プロモーターでもあるトータル・スポーツ・アジアが2003年に東京オフィスを構えるという。会見中でマーメントWWE副社長は時期と場所の明言を避けたが「来年中にあと2、3回は日本大会を行う」という方針のもと、日本進出を本格化させていくに違いない。東京近郊だけでなく、地方での大会も検討中だという。

冒頭でも書いたが、アメリカでの人気にかげりが見え始めたWWEは2003年に海外進出をどんどん増やしていく方針だという。別にアメリカ国内がどういう雰囲気なのかもわからないし、そのぶん日本に多く来てくれるのなら嬉しいけれど、注文があるとすればもっとアメリカの会場の雰囲気を出してほしいな……、ということだ。前回のツアーでは観客の自主的な盛り上がりが会場の雰囲気を作っていたのだから、今度はセットを組んでお返ししてくれたりしたら最高だ。

「あいつらはほっといても盛り上がるから、今回もセットなしでいいか」などという、こないだ30周年を迎えた某メジャー団体のような方針だけは勘弁願いたい。『Dynamite！』や『W-1』などの超ビッグ・イベントを手掛ける石井館長は「ライバルはWWE」と公言してはばからないほどの影響を受けている。ここ数年間でWWEがもたらした直接的な影響もたしかに大きかったが、日本のマット界に間接的にもたらしたものまで含めるとその影響力ははかり知れないのだ。それはWWEが完成度の高いエンターテインメントを常に発信しつづけているからだ。そうした部分を本誌は1月の日本大会で見ていきたいと思っている。ま、そんなことは言いつつも会場に入ってしまったらバカ騒ぎしてるとは思いますけどね。

とにかく、2度目の来日決定ということで、どんな内容になるのかが飲み屋での話題の中心となるのは間違いない。ブラッドショーよろしく、いまは「カンパ～イ！」といきましょうか。

YUKE'S Presents World Wrestling Entertainment
WWE FAR EAST TOUR
JANUARY '03

【日時】2003年1月24日（金） 17：30開場 19：00開始
2003年1月25日（土） 16：30開場（予定） 18：00開始（予定）
【会場】国立代々木競技場第一体育館
【主催】WWE／フジテレビジョン 【特別協賛】株式会社ユークス
【協力】ジェイ・スカイ・スポーツ／サムライTV／日刊スポーツ新聞社／TOKYO FM／文化放送
【ツアー・プロモーター】トータル・スポーツ・アジア
【制作】WWE
【お問い合わせ】キョードー東京 03-3498-9999
【チケット発売日】2002年11月30日（土）
【チケット発売所】
キョードー東京 03-3498-9999
チケットぴあ 03-5237-9666
ローソンチケット 0570-00-0069
CNプレイガイド 03-5802-9955
イープラス http://eee.eplus.co.jp
【入場料】SS 30000円
S 20000円
A 10000円
B 5000円

「最近はつまんない」と思ってる人は多いんでしょうか？　なら読んで!!

いまのWWEは本気だ!!

気がついたら本誌49号で『レッスルマニア18』を取り上げて以来、すっかり『紙プロ』からWWEの企画が消えていた。正直、スマン。ここにきて日本大会も決まり、2リーグ制もようやく定着してきたようなので、もう一度WWEの企画に力を入れていきたいと思うわけです！　というわけで、今回は各誌でWWEの原稿を書きまくっているフリーライターの阿部タケシさんを迎えて、この約半年の空白期間に何が起こったのかを解説しつつ、新たなるWWEの見方を提示してみたい。「だって、最近はビンスがいないじゃん」とか嘆く前に、まずはこの原稿を読んでほしい。（スモーノブ）

とにかく今のWWEは面白い！

だが、巷では「最近見てない」だの「つまらなくなった」だのといった意見が多いらしい。なぜだ？ストーンコールドの離脱？”アクター“に一時転職したロックの不在？　それともスポーツ・エンターテインメントの創始者ミスター・マックダディ（＝ビンス）の勇姿が拝見できないからだろうか？

しかし、このようないわゆる”粘りの時代“こそWWEの真骨頂。浮上のためなら手段を選ばず、慎重に物事を考えない”容赦なき攻撃性“が発揮されるのは、まさにこういった沈滞ムードの時なのだ。以前にもWCWに選手を大量に引き抜かれ、迷走極まりない演出で、誰もが「大丈夫なの？この団体」と心配したあの頃のWWE。そんな逆境も度重なる破廉恥な方向性と、間違いなく長続きしそうも無いキャラの数々、多方面に渡り仕掛けを放つ団体としてのアティテュードでWCWを追撃して、最終的には一方的な吸収合併にまでこぎつけた実績がある。僕自身、今のWWEはあの頃とダブって仕方ない。何らかの形（あいまいな表現だな）で間違いなく爆発する余熱状態なのだと思うのだが。実際、ここ最近の番組のムチャクチャぶりは以前にも増して相当面白いことになっている！

だからこそ、今年3月の横浜アリーナ大会の熱狂ぶりなどを含め、僕は「みんなWWEを忘れたのか？」と問い掛けてみたい。正直言ってこのままでは日本興行がピンチだ！　ネットにおけるファンサイトの書き込みなども横浜の時と比べ、明らかにトーンダウンしている。定期的な開催が決まったアジアツアーも出足からつまずくと、第二のマニアツアーになりかねない。とにかく、この原稿で今年3月の「レッスルマニア18」以降の大筋の流れを押さえて、是非代々木に足を運んで頂きたいと思うわけで。

●

まず「レッスルマニア18」以降、WWEの株を50％ずつ分け合ったフレアーとビンスのオーナー抗争が加熱して、ついにWWEは「RAW」と「SmacK　Down」を完全に分離することを決定する。二つに分かれた番組が月イチの特番（いわゆるPPV）を共有する体制となった。お互いの番組に選手を振り分けるドラフトの模様は、フレアーとビンスの選手を選手として扱わないハチャメチャな指名ぶりが最高だった。とにかくロックやアンダーテイカー、カート・アングルがそれぞれ番組に振り分けられたのだが、当然バックステージでは選手とオーナーの黒い密約もあれば、裏切りもある。それにショーの活気自体がビンスとフレアー両者の今後の存在価値に直結されることから、両者エゴ爆発の指名が次々繰り広げられた。その両者のエゴはタッグチーム（APA、ダッドリーズ、ハーディー・ボーイズ）までも「各選手の個性をもっと生かすべき」とチーム解体して別の番組に振りわけるという大胆な構造改革も行った。

しかし、この両オーナーによる番組抗争もストーンコールドの「RAW」出演ボイコットによりリセットされてしまう。その晩の「RAW」で、なぜかいきなり両オーナーは一騎打ちを行い、勝者は統一オーナーになるという唐突な路線変更を余儀なくされる。この対決にビンスは勝利して、再び両番組がビンス政権のもとスタートを切ることとなった。

●

すると実権を握ったビンスは、なんとあの”怨敵“エリック・ビショフを「RAW」の現場監督に指名した。1990年代、WWEはビショフ率いるWCWに潰されかけたのに、ビンスは過去の遺恨を清算して、あっさりと

ロック様に完勝してWWEヘビー級王者となったブロック・レスナーは、「WWEがつまらなくなった」という話題で引き合いに出されることが多い。怪物級の身体に淡白な表情（しゃべりも下手）という味のないキャラ。こんなサイボーグが王者になること自体がWWEの実験なのだろう。

エリック・ビショフが提唱する「セックスとバイオレンスの同居」で「RAW」が急浮上中!!

呼び寄せ、WWEの顔である「RAW」に登場させたのである！　辻褄があわなくなると、それ以上に辻褄のあわない状況を作り出して強引に事態を収拾してしまうのはビンスの十八番だが、それにしてもこれには驚かされた。ビショフを登場させた背景には〝容赦なき攻撃性〟、つまり内外に対し恐れることなく改革が出来る男としての期待があったのだ。こうして、ビショフはゼネラルマネージャーに就任する。

一方、スマックダウンには「レッスルマニア18」以降、トリプルHに永久追放されたステファニー・マクマホンが就任。再び両番組の間で抗争が行なわれることになった。

まずビショフは「RAW」を最高のエンターテイメント集団に育て上げる、という目標を掲げて「セックス」と「バイオレンス」の同居をアナウンス。その改革を行なうにあたり、いきなり仕掛けた〝容赦なき攻撃性〟は「SmacK Down」に対する引き抜きだったから、WCW時代のビショフそのまんま。引抜を仕掛けられたステファニーは女オーナーとして手腕を発揮して、以前のアバズレとは異なり、観衆が支持する「デキる女（notヤレる女）」へとギミックをチェンジ。ビショフの無差別攻撃に毅然と立ち向かう女オーナーとして登場した。両者は選手を引き抜かれたら引き抜き返す「猪木・馬場状態」を繰り広げ、かつて全米で繰り広げていたアーリー月曜プロレス戦争をWWE内にて再燃させたのだった。

この容赦ない引き抜き合戦は、さらなるカオスを生むことに。まず「RAW」はトリプルHを引き抜き、返す刀で「SmacK Down」はテイカーを引き抜き、さらにクリス・ベノワ（ベンワでもいいや）、エディゲレロまでも引き抜いてしまった。すると今度は嫌米軍団（テスト、クリスチャン、ランス・ストーム）を「RAW」が引き抜いて…

すっかり表舞台に顔を出さなくなってしまったビンス。離脱したオースチン、映画撮影で長期欠場のロック…。WWEは一時代を築いた主役たちを失い、いま群像劇の時代へと突入しつつある。

…もうとにかく3月のドラフトの意味合いはゼロに等しいほどのグチャグチャ状態。選手の個性をもっと引き出し、番組をよりハイセンスに仕上げるには、このような度重なる引き抜き、というかテコ入れはむしろ必要だったのだろう。

そんな両番組の抗争も10月の特番「NO MERCY」で一旦リセット。選手も定着し、やっと番組独自のストーリーの打ち出しを始められるようになったようだ。

昔から〝エンターテインメント〟を信条とし、WCWに潰されかけた忌々しい過去、何度もWWEは危ないと言われ続けたあの頃から、浮上するきっかけとなったエンターテインメント路線の「RAW」。かたや高度なレスリングセンスを持つ者たちの攻防を全面に、そしてWWEのファーム団体OVW（オハイオ・バレー・レスリング）からの様々な参入者が次々登場する「SmacK Down」このようにきっちり住み分けされた感がある。

というわけで来年1月、日本にやってくる「RAW」は最近とてつもないハチャメチャぶりでエンターテインメント業界のど真ん中を突っ走っている。ビショフが提唱した「セックスとバイオレンスは視聴率がイケる」をリング上で具現化させるべく、エロ方面では濃厚なレズビアンショーを仕掛けたり、かたやバイオレンス方面では10年前に起こっていたケインの死姦ストーリーがクローズアップされたり、さらにゲイ方面ではビリー&チャックが男同士の結婚式をやったり、ラスベガスで試合がある日などはルーレットで対戦カードを決めてギャンブル方面にもアピールしまくり！　放送コードスレスレ（というかカットもあったが）の抗争劇が多方面に渡って繰り広げられている。もちろんレスリングセンスも十分に持ち、かつアメプロでは必要不可欠の「しゃべれる」選手が多く集まっているのが注目すべき点なのだ。

●

様々な仕掛けを今なお水面下で続けていると思われるWWE。来年の『レッスルマニア19』ではトリプルHvsレスナーやら、カートvsレスナーといった様々な諸説が入り乱れている。だが、そんな普段着のカードでは到底満足できないであろうファンの欲求を満たすサプライズを用意しているのがWWE。最近ではあのスーパースターとの契約、ビンスと因縁深いあの選手への接触なども噂されており、再びカンフル剤が投入されることだろう。その直前に行われる今回の日本興行にも少なからずそのサプライズの余波の影響はあるはず。今からでも遅くない、その流れをむんずと掴み、みんな国立代々木競技場に集合！

●

ちなみに日本の一部スポーツ紙に掲載されたブロック・レスナー対レノックス・ルイスの「異種格闘技戦」だが、この話どうやらご破算になった様子。なんでもルイス側がWWE側のオファーを蹴っ飛ばしたとのこと。なんでも「ボクシングは人類最強で一番ハードなスポーツ」と常に言い続けているルイスは、そのボクシングで築いた名声を「プロレスとかいうエンターテイメントサーカスで汚すようなことはできねぇ！」と発言。決まりかけていたにもかかわらず、ここに来てお釈迦に。タイソンをリングに引っ張り上げた実績もあるWWEは、ルイスをトコトン追い詰めてもらいたいものだが。（文・阿部タケシ）

阿部タケシ■TX系「WWEアフターバーン」公式サイトにてコラム担当。最近ではWWE日本興行記者会見で配られたWWE年表、12月上旬『分裂プロレス読本』(洋泉社)、12／25発売『レッスルマニア オフィシャルインサイダーストーリー』(角川書店)のあとがきを執筆。なんとか生きてます。ta_abe@yahoo.co.jp

『RAW』の主役はコイツらだ!!

エロ！ グロ！ バイオレンス！
衝動が魂を突き上げる月曜日の主役達（一部）を紹介！

来日予定の『RAW』所属選手

HHH、ケイン、クリス・ジェリコ、ロブ・ヴァン・ダム、ブッカーT、テスト、ジェフ・ハーディー、クリスチャン、ゴールダスト、ブラッドショー、マーク・ヘンリー、ステーシー・キーブラ、トリッシュ・ストラータス、アイボリー、TAJIRI（「SmackDown」所属だが検討中とのこと）

その他の『RAW』所属選手（来日予定選手は除く）

アル・スノー、バティスタ、ババ・レイ・ダッドリー、クリス・ノウィンスキー、ディーロウ・ブラウン、エリック・ビショフ、ジャッキー・ゲイダ、ジャクリーン、ジャズ、ジャマール、ジョニー・スタンボリ、ジャスティン・クレディブル、ケヴィン・ナッシュ、ランス・ストーム、リリアン・ガルシア、リンダ・マイルス、リタ、モリー・ホーリー、ランディ・オートン、レイヴェン、リック・フレアー、リコ、ロジー、ショーン・マイケルズ、スパイク・ダッドリー、スティーブン・リチャーズ、テリー、ザ・ハリケーン、トミー・ドリーマー、ヴィクトリア、ウィリアム・リーガル

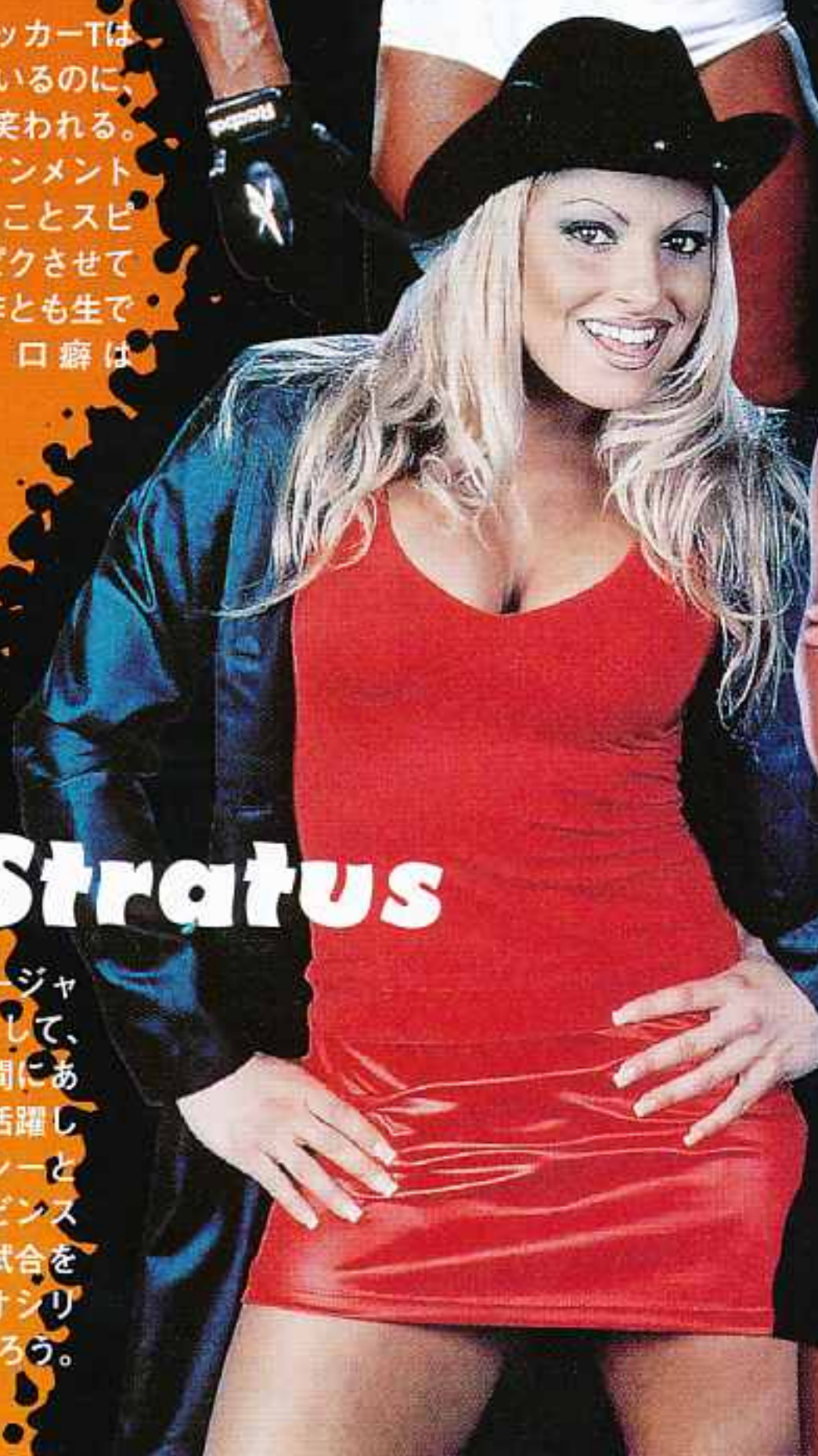
Kane

今年3・1にもやってきた“赤い処刑マシーン”は現在「10年前にケーティ・ヴィックという女性を殺して犯したんだ」とHHHに告発されて、変態という新たなレッテルを貼られている。ご丁寧にHHHは再現映像まで作成する力の入れよう（主演・HHH）。まだまだ真相は闇の中。この先も転がっていきそうな本格悪趣味路線に期待！

HHH

ここ数年、ヒールのトップに君臨している現・RAW世界王者のトリプルHが、ハンマー片手に（？）日本初上陸！ 決めゼリフの「I' m the Game and I am that damn good!」（俺がゲームの王様だ！ そして俺は最高の男だ！）は、ロック様のセリフほどキャッチーではないけれども、その入場シーンは間違いなく痺れる! 水を片手にグワァ〜って感じの…言葉で説明しづらいんだが、とにかく必見！ 現在はフレアーと共闘中。

BookerT

Five times championことブッカーTはWCWで5回も王者になっているのに、それを力説すればするほど笑われる。自称「スポーツエンターテインメント界で最もシビレるムーブ」ことスピン・ルーニー（右手をピクピクさせてからブレイクダンス）は是非とも生で見てシビレてみたい。口癖は「Sucka！」（このタコッ！）。

Trish Stratus

ビンスの愛人として、マネージャーとして、そして女子王者として、divaとして、たった2年の間にあらゆるシチュエーションで活躍してきたトリッシュ。ステイシーとは対照的な豊満なバストでビンス以下、男どもを悩殺する。試合を見るのもいいが、divaビデオシリーズでの予習は欠かせないだろう。

Stacy Keibler

WWE.comによれば、ステイシーは「地球上で最も美しい女性の一人」なのだという。異論はない。その美脚＆美尻は3月の横浜大会で目に焼きついて離れないという人も多いだろう。来年の日本大会ではマネージャーとしてではなく、ブラ＆パンティ・マッチでの出場を強く希望したい。

♪歯磨いたか？ TV見たか？ 本読んだか？
ゲームやったか？ FC入ったか？

秋の夜長はババ～ンとWWE三昧!!

TV

WWEといえば、Jスカイスポーツ！ というわけで、WWE中継の総本山が年末年始スペシャルとして放送する「WWEコンフィデンシャル」は大注目だ！ 『紅白歌合戦』を見てる場合じゃないぞ！ なぜなら、この番組は普段なら絶対に拝めないWWEの舞台裏を紹介する貴重な番組なのだから。それも単なる舞台裏潜入のような甘っちょろいものではない。なんと本国アメリカでは、この番組の第一回目の放送は「ストーンコールドの電撃離脱の真相」だったのだ！ シュートな傷跡にもズバズバとメスを入れて切り売りしていく相変わらずのタフさには、驚かされるばかりだ。ある意味ではWWEの本質が最もよく見える番組かもしれない。しかし、ここにきてロゴマークの「F問題」で交渉が難航中らしい。11月中旬の段階で、「どのエピソードを放送するかは検討中」（Jスカイ関係者）とのことだが、オースチン離脱の回は見た過ぎる！ 期待しながら待て！

シュートな問題に鋭いメス！ WWEが舞台裏をご開帳！

「WWE コンフィデンシャル」
Jスカイスポーツ 3にて放送予定

12月28日（土）18:00～19:00　12月31日（火）18:00～22:00
12月29日（日）18:00～19:00　1月1日（水）18:00～22:00
12月30日（月）18:00～22:00
※ 放送日程は諸事情により変更になる場合があります。

この他にもWWEの番組を絶賛放送中!
詳しくはHPをご覧ください。 http://www.jskysports.com

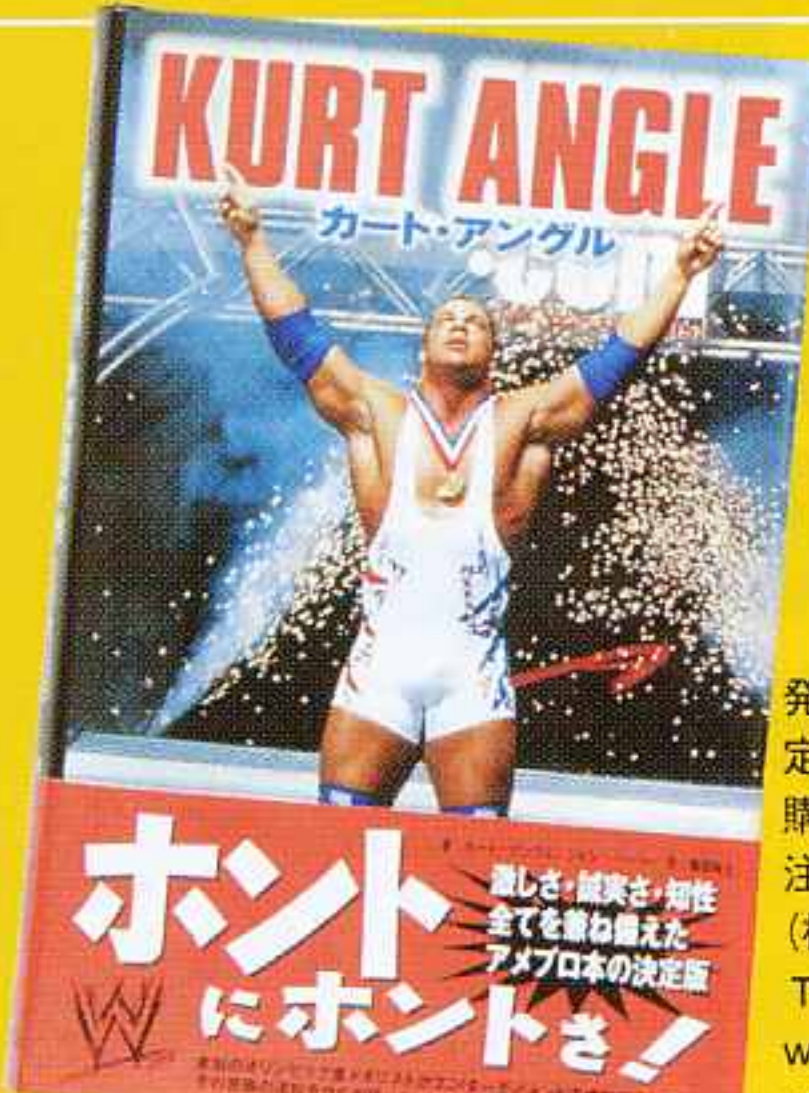
GAME

実際に使用しているタイタントロンの映像を使った入場シーン、まるで本物のような選手、そしてバックステージでのゴタゴタまでゲームに取り込んだ完成度の高さはおなじみだが、なんと今回は「RAW」「SmacK Down」のドラフトも体験できる！ さらに今年登場したホーガン（写真）らも早速登場！ そんな世界最強のプロレスゲーム、それが『エキサイティングプロレス4』なのだ。発売はまだ先だが、詳しい情報はhttp://www.yukes.co.jpで！

SMACK DOWN! SHUT YOUR MOUTH
エキサイティングプロレス4

発売日：2003年2月6日
標準小売価格：6800円（税別）
対応機種：プレイステーション2
メディア：DVD 1枚
プレイ人数：1～6人
デュアルショック：振動対応

BOOK

ロック様の自伝『The Rock says』日本語版をリリースした白夜書房から、今度はカート・アングルの自伝『It's true! It's true!』（邦題『カート・アングル』）がリリースされる！ 幼少時代～アトランタ五輪での金メダル獲得～あっという間にWWEの頂点へ辿りついた真のヒーロー・アングルの栄光の歴史が詰まった初の自伝だ！ 本文352ページ（カラー16ページ含む）というボリュームに秘蔵写真も多数掲載。しかも、出版にあたり「"F"がついたロゴが映っている場合はそのロゴを除去してくれ」というムチャな難題も乗り越えた奇跡の書なので、少しばかり値は張るが、これを「高い」と言ってはバチが当たる。It's true! It's true! さあ、この本を読んで「3つの"I"」（激しさ、誠実さ、知性）を学べ！ 読まないヤツは「You Suck!」。

発売日：2002年11月28日
定価：3800円（税別）
購入に関するお問い合わせ、注文先：
（株）白夜書房営業部
TEL. 03-5292-7751
wab通販もやってます！
www.byakuya-shobo.co.jp

TOUR

毎度おなじみ、レッスルマニア観戦ツアーは来年もやります！ ここ数年は100名を超える参加者を集める大好評企画。早めに資料を取り寄せて申し込もう！

『レッスルマニア19』観戦ツアー
【期間】
2003年3月29日(土)～4月2日(水) [5日間]
【旅行代金】
未定
【オプション】
●スマックダウン観戦延泊プラン（4月3日帰国）
●ファンフェスティバル&WWE AXXESS参加（スーパースターズのサイン会...etc）
只今、資料請求受付中!!
【旅行主催・お問い合わせ】
近畿日本ツーリスト新宿法人旅行支店
WWE観戦ツアーデスク
担当：永崎・鎌田・松井
営業時間 月～金 9：30～18：00
TEL 03-3341-2411

FC

WWE公認ファンクラブが日本上陸！ チケットの最優先予約等の特典は嬉しいぞ！ しかし、応募が多すぎる場合は抽選とのことなので要注意

【費用】
入会金1000円 年会費8000円
（決済方法はクレジットカードか銀行振込）

【会員特典】
●メンバーズカードの発行
●会報誌の発行（年4回及び不定期で号外を発行）
●WWE来日興行時のチケット最優先受付
●会員限定のWWEグッズ販売
●スーパースターズ来日時にファンクラブ会員を対象とするイベントの開催

【入会方法】
下記のいずれかの方法で申し込みを済ませよう！ この号の発売日である21日（木）の18:00までは1月のWWE日本大会のチケット最優先予約の申し込みが可能だ！ 急げ！ なお、ファンクラブの申し込み受付は21日以降も継続中なのでご安心を。

●インターネットで入会
http://www.wwefanclub.ne.jp
●携帯で入会
http://eee.eplus.co.jp/mb/wwefc
●電話で入会
TEL. 03－5749－9980

テープインフォメーション
TEL. 0180－993－220
ファンクラブ事務局
TEL. 03－5738－5722

ウルティモ★ドラゴン

左腕の手術ミスから4年半……
「カムバック・ワールド・ツアー」で奇跡の復活！
来年はいよいよＷＷＥに参戦か!?
でも、そうなったら闘龍門はどうなるの？

闘龍門は若い人が見に来るプロレス。だから舞台裏も若い奴らに任せます。

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
試合写真／乾晋也
designed by ZERO graphics

10・28後楽園は初めて選手がプロデュースした興行だったんです

「ウルティモ・ドラゴンWWE入り」が噂される中開催された10・28後楽園大会。今後の闘龍門を占う試金石として注目されたこの大会は、9・8有明コロシアム後、初めての後楽園ということで、新たなストーリーとその後の伏線はそこら中に張り巡らされた超濃密興行となった。イベントとしての完成度は、いまや日本マットナンバー1と断言してもいい闘龍門は、今後どこに向かって走っていくのか。新生・闘龍門の胎動が聞こえてくる中、U・ドラゴン校長を直撃した！

――いや～、昨日の後楽園は凄かったですねぇ！

ドラゴン　そうですね（ニッコリ）。

――あの完成度はもう他の追随を許さないというか、校長自身、凄く自信があるんじゃないですか？

ドラゴン　そうなんですけど、実を言うと昨日の興行に関しては、選手のアイデアがかなり入ってるんですよ。

――それは舞台裏の部分でということですか？

ドラゴン　はい。闘龍門ができて以来、ずっと自分のプロデュースでやってきたんですけど、昨日は選手にいろんな意見を出してもらって、初めてそれらを大きく尊重したプロデュースだったんです。それが良かったんじゃないですかね。

――ほぉ～、そうだったんですか！　でも、それがいきなり成功するというのも凄いですね。

ドラゴン　っていうか、奴らも俺のやり方を見てきて、だいたいどうすればいいのか分かってきたと思うんですよ。それで今回から選手が裏の面でも動いてくれるようになって、嬉しかったですね。ホントに舞台裏の方でも、徐々に世代交代みたいなものが起こってるかなぁ、と。だからまぁ、9・8有明コロシアムで「闘龍門は今日から新たな始まり」と言ったんですけど、俺は昨日がホントの意味で闘龍門第2章のスタートだと思うんですよ。神田（裕之）も教頭に就任したし、非常にいい形でスタートが切れたんじゃないかな。

――でも、そういう"ブッカー"とか"マッチメーカー"と言われる部分って、引退した選手とか、ベテラン選手が担当するものだと思ってたんですけど、闘龍門はそうじゃないんですね。

ドラゴン　結局、闘龍門って若い人が見に来てるビジネスなんで、年寄りが考えちゃダメなんですよ。だから、やっぱり俺の中でもいろいろ理想とかはもちろんありますけど、いまの若い人の感覚はまた違うでしょ？　それだったらもう素直にね、若い奴らに譲る、と。それは非常に必要だと思うんですよ。でも、総合的に"プロレス"というものを考えたときに、いいか悪いかを判断する人間は必要ですよ。それがこれからの俺の仕事になってくるかな、と思いますね。

9・8有明コロシアム■闘龍門史上最大のイベントとなったこの大会のエンディングで、ウルティモ・ドラゴンはフルコスチューム姿で登場。闘龍門全選手をリング上に上げ、自らの復帰と闘龍門第2章スタートを宣言。これが今回の伏線となった。

――なるほどなるほど。校長は最終決定権だけを持って、あとは若い選手の感性に中身もある程度まかせようということですね。

ドラゴン　俺もやっぱり、ここ何ヶ月かかなりいろんな意味でストレスも溜まってきてるし、どうしても日本とメキシコの行き来がこれだけ頻繁になってくると、身体の方も疲れてくるんですよ。それからまぁ、最近アイデア不足かな、と自分自身思っていたんで、それを下の人間が上手くサポートしてくれたということですね。

――いや、素晴らしいサポートですよ。だから、昨日はボリュームありすぎというぐらい、いろんなアイデア、ストーリーが詰まっていたわけですね。

10・28後楽園ホール■首の怪我で闘龍門引退選手第1号となった神田裕之に感動的な引退式のあと待っていたのは、なんとドラゴン校長からの闘龍門"教頭"就任要請。校長が日本を留守にしている間の現場責任者となった。なんたる急展開。なんたるどんでん返し！

ドラゴン　あれはひとりじゃ考えられないですよ。考えられたとしても、かなりしんどいですよね。逆にこの間の有明コロシアムなんかは俺のフルプロデュースだったんですけど、ひとりであれだけのことをやるのは大変なんで、そこで疲れていた部分もありますよね。

――そんな時期に選手がプロデュースまでできるようになってきて、しかも校長自身も現役復帰が時期的にリンクしたというのは大きいですね。

ドラゴン　いやぁ、だからホントにこれは偶然が偶然を呼んでいるというか、俺のプロレス人生がすべてそうだと思うんだけど。闘龍門の日本逆上陸直前にケガしたことで、俺が選手として関わらないいまの闘龍門ができたわけだし。それから闘龍門JAPANが始まって3年経って、選手も独り立ちできる時期になって、ちょうど俺の身体も徐々に戻ってきた。これはもう筋書きとかシナリオとかなくて、ホントに偶然なんですよね。だから逆に選手がまだどうしようもなくて、自分らでは何もできない状態だったら、たぶん俺も試合ができるような身体になってても試合してないと思いますよ。

――闘龍門が心配で、アメリカ進出どころじゃないですよね。

ドラゴン　そうです。自分より闘龍門が心配になりますよね。だからこれは俺が育てたとかそういうことじゃなくて、たまたまそういう優秀な子たちが集まったというか、ラッキーだなって思いますよ。だっていくらプロデュースが良くても、選手自身が良くなければ、それはどうにもならないわけですから。

――確かにそうですよね。しかも、そのタレントの充実度も、ここ1年ぐらいでまた大きくレベルアップしたんじゃないですか？

ドラゴン　しましたね。非常にいいことですよ。昨日、イタリアン・コネクション（ミラノコレクションAT率いるT2Pのユニット）が堂々とメイン取ってくれましたけど、彼らは2年ぐらい前まで、一介の練習生ですからね。それがあれだけお客さんのヒートを取れたということは、「素晴らしい」の一言ですよね。

――では、ちょうどT2Pが日本逆上陸して約1年になりますけど、校長としての評価はいかがですか？

ドラゴン　それぞれいろんな見方があるんでしょうけど、俺の個人的な素直な意見としては、もう120点あげてもいいんじゃないかな、と思いますよ。

――120点ですか！

ドラゴン　やっぱりJAPANの選手たちからね、T2P全体を見て「まだまだ」という声も聞くん

闘龍門にとって、堀口や横須賀みたいなバイプレイヤーがある意味財産ですね

ですけど、俺なんか1期生、2期生を最初から見てるじゃないですか。T2Pのいまのキャリア、ジャパンのその当時のキャリアを考えたら、そんなに遜色ないですよ。

——それは同時に闘龍門JAPANの選手の成長度合いが凄いとも言えますよね。

ドラゴン　だから俺のデビューした5年目を考えたら、いまの闘龍門JAPANの選手の方が全然上ですよね。それはいま俺は試合をしていないから、ある意味伝説みたいに語られてる部分もあると思うんですけど、俺なんかが見ていてね、素直にCIMAやマグナムに関しては、その当時の俺をもう遙かに超えてますよ。

——あのウルティモ・ドラゴンをも超えちゃってますか。

ドラゴン　プロレスって生き物だから、常に進化してるから、単純にその当時の俺と比較になるかと言ったらならないと思いますけど。ただ、素直に見ていて、「こいつらの才能は凄いな」と。デビューして5年のときの俺のレベルじゃないな、と。それはホントに思いますよ。

——しかも、闘龍門はトップ選手だけじゃなくて、バイプレイヤーが最近とみにいい味を出してきたんじゃないですか？

ドラゴン　ホントにこれだけは俺の方針が正しかったからだと思いますね（笑）。本人に「お前の生きる道はこっちだよ」と、すぐに教えてあげることですよね。

——堀口（元気）選手なんか、ここ1年ぐらいで凄くよくなりましたよね？

ドラゴン　あいつはいいですね。あいつのことは、私生活ではいじめてるんですけど（笑）、もの凄くいい選手ですね。どうしても自分なんかベビーフェイスとしてメインとか張ってきたじゃないですか。そうすると、いわゆるバイプレイヤーとか、そういう奴らに対する評価がやっぱり高いんですよ。その中でも特に堀口、それから横須賀（享）とか。あの辺のクラスはもう何も言うことはないんじゃないですか。どこに出しても恥ずかしくないですよ（キッパリ）。

——だからこそ、全日本の武道館（8・29）にもあのメンバーが出たわけですね。

ドラゴン　あいつらは絶対必要ですよ。もちろん、例えばCIMAみたいな選手が毎年出てくるかと言ったら、出てこないと思いますよ。でも、俺の中では、ああいう堀口や横須賀みたいな選手がある意味財産だと思ってますよ。

96年10月にサスケを破りジュニア8冠王者となったU・ドラゴンは、日本とアメリカWCWを股に掛けたワールド・ワイドな防衛活動を展開。今回の「カムバック・ワールドツアー」も世界を相手にしたウルティモならではである。

——プロレスってキャリアを積んでいって、ある日化けるものですか？

ドラゴン　いや、ホントに横須賀に関しては、ほとんど野放しで、何も教えてないと思うんですよ。なんで急にあんなに巧くなったんでしょうね？　あいつは不思議なレスラーですよ。だって俺、練習してるところ見たことないですから。

——アハハハハ！

ドラゴン　いつも言うんですよ。「お前、練習してないのに、なんで身体がでかいんだ？」って。「いや、してます」って言うんですけど、見たことないんですよ。練習嫌いだと思いますよ。

——じゃあ、実戦で覚えていったんですかね？

ドラゴン　どうなんですかね？　あいつは不思議な選手ですよ。私生活はかなり優柔不断ですけど（笑）。

——校長自身のお話で言うと、11月からメキシコ、アメリカ、日本を周る『カムバック・ワールド・ツアー』がスタートしますけど、これは闘龍門がいったん自分の手から少し離れていい時期にきたので、自分自身のプロレスラー人生をもう一度考えてみようという感じでもあるわけですか？

ドラゴン　いや、そういうわけじゃないですよ。「またプロレスラー一本に戻ろう」とか、そういう風にも全然思ってないし、ちょっと「いろいろとまた勉強したいな」、というのが正直なところですね。

——それはプロレスラーとしてですか？

ドラゴン　いや、プロレスラーとしてはこれ以上上がらないでしょう。それは体力的にもそうだし、もちろん精神的にも現役として以前の自分をキープするのは難しいだろうし。それは全然考えてないですね。

——では、プロデューサーとしての新しい刺激を求めるみたいな部分が大きいわけですか？

ドラゴン　もちろんプロデューサーという部分もありますけど、すべての面で人間として、もっともっと厚みをつけたいということですね。いまの闘龍門って、お客さんもホントにたくさん入ってくれてますし、凄くいい時期ですよね？　でも、やっぱり人間って、そういうのに甘えるというか。所属選手がたくさんいて、それの頭でやってると、お山の大将みたいな感覚になってくるじゃないですか。それはちょっとオレ的にはまだ早いだろう、と。俺はまだ30半ばなんで、まだやっちゃダメだろうっていうのはありますね。

——では、先日校長がWWEの会場に表敬訪問されましたけど、あれは今後WWEに参戦したい、WWEを体験してみたいという考えで行かれたわけですか？

ドラゴン　もちろんそうですよ。それプラス、試合を見に行きたかったというのがあって、まぁ勉強ですよね。それもあるし、もちろん選手としてもね、WWEというのは自分にとって、レスラーとしての最終目的地かな、と思いますよね。

——じゃあ、いまはその最終目的地到達間近みたいな感じじゃないですか？

ドラゴン　いや、一部報道でいろいろ「もう出るんじゃないか」みたいに言われてますけど、そんなの全然決まってないですから。

——『週プロ』のフミ・サイトーさんのコラムなんかでも、そんな感じで書かれてましたよね？

ドラゴン　あれは半分当たってますけど、半分ちょっと違うかなという感じですね。

——よろしければ、その半分はどの部分なのか教えていただきたいんですけど（笑）。

ドラゴン　いや、詳しい話はもうちょっと待ってください（笑）。でも、まだ契約は全然交わしてないし、ホント具体的な話は全然決まってないんですよ。それに、まだ自分自身ホントにできるのかどうかわからないですからね。だからこれから「ワールド・ツアー」をする中で、徐々に身体を馴らしていって、自分が「できるかな」と思った時に改めて「目指します」って言おうと思ってますよ。

——いまWWEには、校長がWCWで一緒に仕事していた人間が、ちょうどみんな上がってますよね。

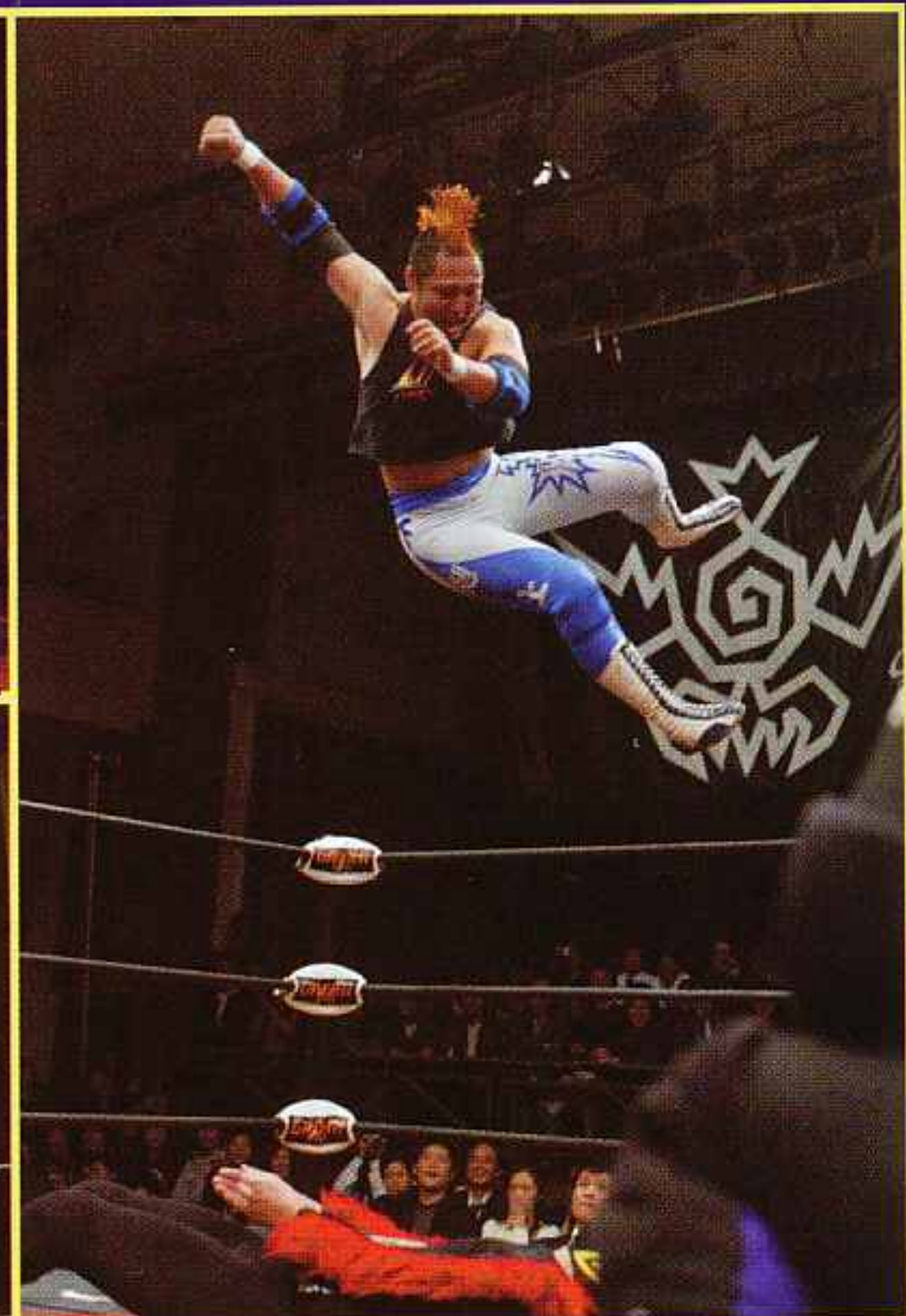
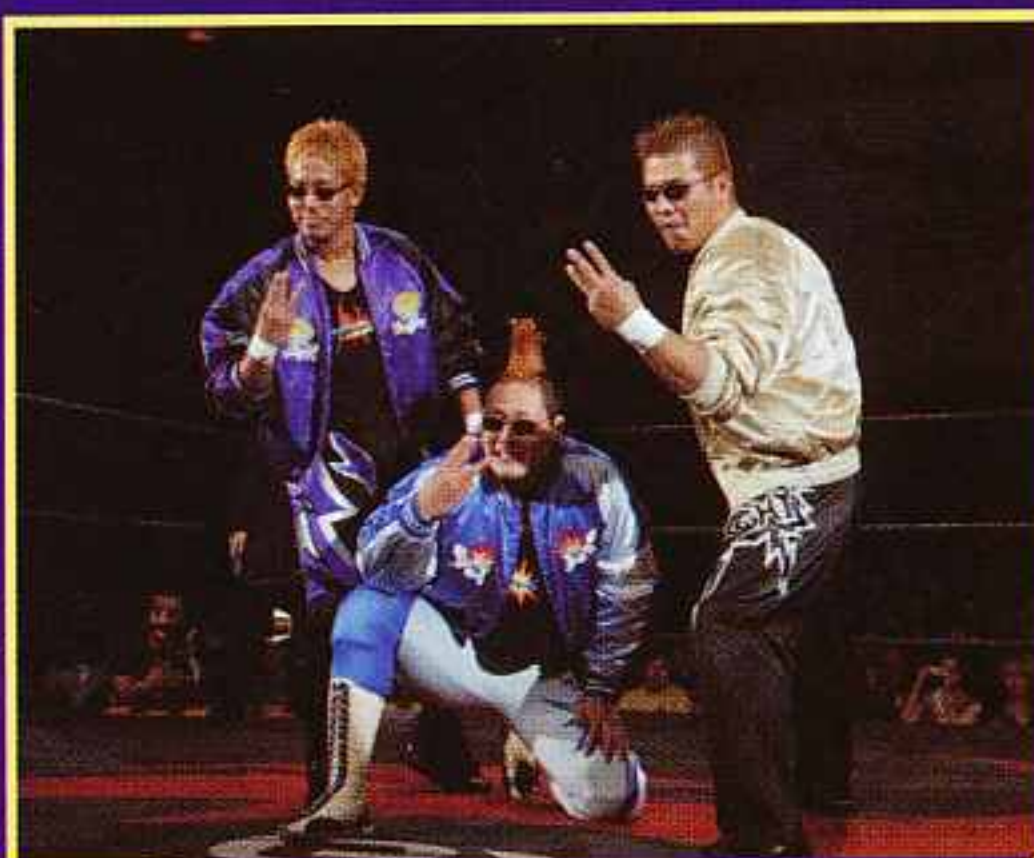
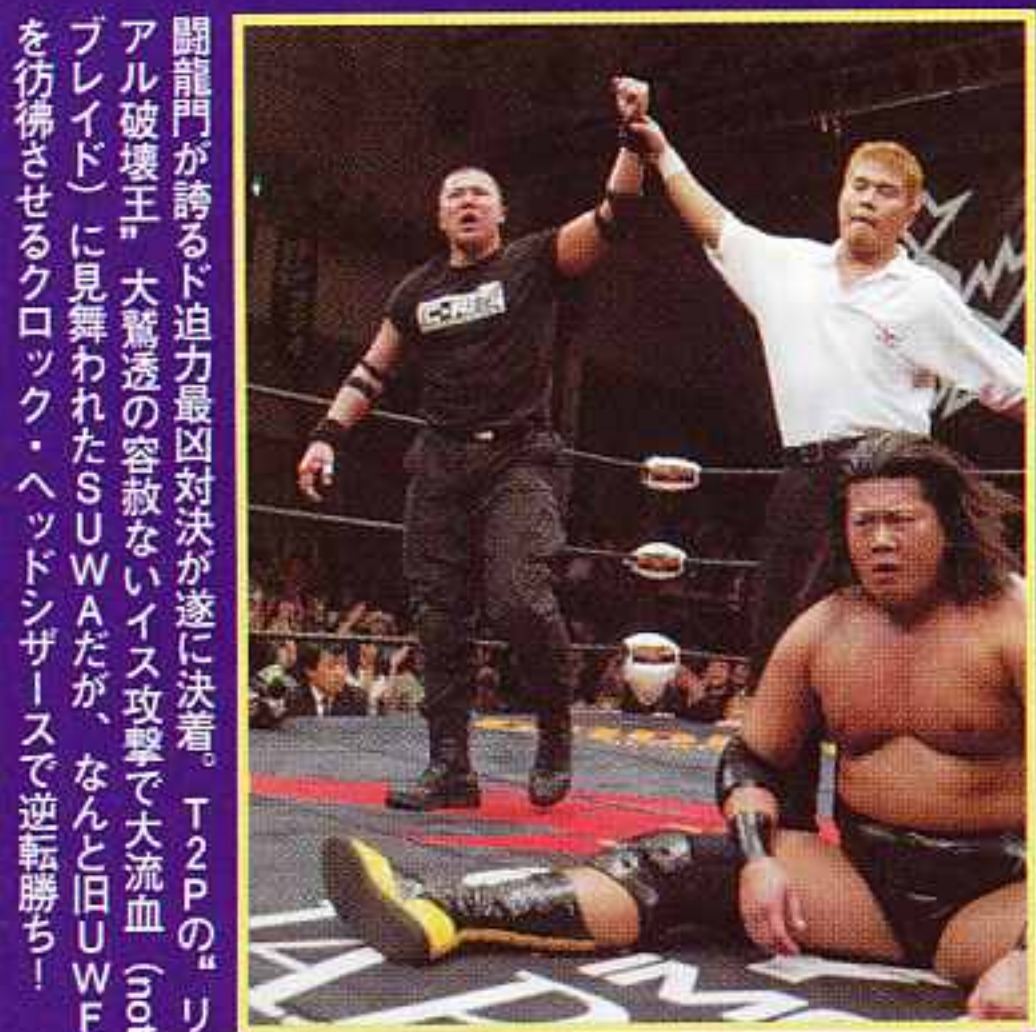
ドラゴン　ええ、クリス・ジェリコ、エディ・ゲレロ、クリス・ベノワ、それからレイ・ミステリオJr.みんなそうですね。

——ホント当時のWCWクルーザー級がそのまま移ってきた感じですよね。しかもフロント陣も知らない仲じゃない人が多い。これは校長としても働きやすいんじゃないですか？

ドラゴン　まぁ、そうなんですけど、あそこの会社も若い選手をもっと上げたいと思うんですよね。で、これはホントに自分の個人的な希望なんです

超満員! 大興奮!!
闘龍門JAPAN 10.28 後楽園ホール

見てみ、この客入り！　後楽園は毎回フルハウスにしている闘龍門だが、今回は神田引退試合があっただけに特にプラチナチケット化。選手ですらチケットが手に入らなかったという。

遂に最後に復活した"オリジナルM2K"。神田が後楽園の南側客席から入場したとき、キックボードに乗ったモッチーと横須賀享が合流すると、ホールは悲鳴のような大歓声に包まれた。

首の負傷でリタイアする神田裕之の最後の相手はストーカー市川。最後は首に巻いていたコルセットを投げ捨て、自身の代名詞である「下克上エルボー」で急降下。万感の3カウントを奪った。

闘龍門が誇るド迫力最凶対決が遂に決着。T2Pの"リアル破壊王"大鷲透の容赦ないイス攻撃で大流血（not ブレイド）に見舞われたSUWAだが、なんと旧UWFを彷彿させるクロック・ヘッドシザースで逆転勝ち！

メイン終了後、スーツに着替えた神田の教頭としての初仕事は、次回11・27後楽園のマッチメーク。イタコネを破ったC-MAの要請を受け入れ、イタコネvsC-MAXのUWA世界6人タッグ戦を発表した。

6人タッグでスタートした本戦は無効試合となったものの、それぞれSUWA、ペスカトーレ八木を加えた8人タッグの延長戦で、遂にミラノ率いるイタコネに初黒星をつけたC-MAX。フジイさんの勝ち名乗りも勇ましい。

左ヒザ半月板損傷の重傷を負いながらも得意のジャベ、さらに空中殺法も駆使したミラノだったが、C-MAX怒濤の勢いに遂に日本初黒星。T2Pはこの男にかかっているだけに、11・27後楽園でのタイトル戦は正念場だろう。

"オリジナルM2K"の神田裕之引退を機に、M2Kの名を封印したマグナムは、ダークネス・ドラゴン改めK-ness（クネス）を最加入させた新ユニット『DoFIXER』を結成。改めて斉藤了を勧誘した。

けど、ウチからスターが出てほしいな、と。

―え⁉　それは例えばマグナムやCIMAにもWWEに上がってほしいということですか？

ドラゴン　う〜ん、普通に考えるとマグナム、CIMAですよね。でも、俺の考えは違うんですよ（笑）。

―違うんですか！

ドラゴン　闘龍門からWWEのスーパースターが生まれてほしいとは思ってますけど、それはCIMAやマグナムじゃないんです。アメリカで受けるレスラーというのはちょっと違うんですよ。

―例えばどんなレスラーなんですか？

ドラゴン　（即座に）企業秘密です（笑）。

―それは失礼しました（笑）。

ドラゴン　でも、いろいろ構想ありますよ（ニッコリ）。

―は〜、では先々のことも考えてのWWEなんですね。

ドラゴン　そりゃそうですよ。じゃあ、俺がWWEで10年できるかと言ったらできないだろうし、やろうとも思わないですからね。闘龍門というものがあって初めて俺が成り立っていることもよくわかってますから。だから例えば俺が100％日本を留守にして闘龍門がダメになるんだったら、アメリカには行かないですよ。

―始めに闘龍門ありきなわけですね。

ドラゴン　それにやっぱり自分が外に出ても、ほったらかしにするのは心配ですよね。だから、絶えず俺の目が光る距離にありつつ、自分も外に出て、プロデューサーとしてレスラーとして刺激を受けたい。そしていつかは誰かにバトンタッチができたらと思いますし、もうひとつは選手が一番動けるときにアメリカに行かせてあげたいなと思いますね。

―では、この「ワールド・ツアー」というのは、いろんなものへのモラトリアムというか、準備期間みたいなものですか？

ドラゴン　そうですよ。いろんな新しい流れへのリハビリですよね、簡単に言えば。なんでもそうなんですけど、やっぱり俺が団体のトップです。団体仕切ってます。何から何までやってます。そうしたら「浅井商店」じゃないですか。そういう

状態じゃ、もっとデカくはなんないと思うんですよ。やっぱり一人で考えるよりは、何人かで考える方がアイデアは出ますから。でも、判断を下す人間はひとりがいいと思うんですね。その判断を下す人間として俺がいれば一番いいかなと思いますね。

――映画で言ったら監督の周りに優秀な助監がいるような感じですね？

ドラゴン　そうそう。映画だって監督ひとりじゃできないですからね。周りに優秀な人がいてこそですから。

――いままでの闘龍門っていうのは、校長が監督・総指揮・脚本さらに俳優もこなしていたのが、これからは他にいろんな名前が入ってくるということですね。

ドラゴン　そうですね。今回、神田が教頭に就任しましたけど、これでリングは俺がいて岡村（隆志＝社長）がいて、神田がいて、3人がいわゆるエグゼクティブですよね。WWEで言うコーポレートなんとかっていうあれですよ（笑）。

――ガハハハ！　やっぱりそうなりますよね（笑）。

ドラゴン　またなんか3人組んで悪いこともできるし、またストーリー作りにおいて、いろんな展開ができて面白いなと思うんですけどね。

――いや～、これからの展開が楽しみですね（笑）。逆に自分が離れる上で不安みたいなものはありますか？

ドラゴン　全然不安じゃないですよ。不安というよりも、さっきも言ったように、闘龍門がもっと大きくなるのに必要なことだと思いますし、「かわいい子には旅させろ」じゃないですけど、俺が外に出て活躍することで奴らも刺激受けてくれるんじゃないですか？

――個人的には「闘龍門はこのままいくと、選手が増えすぎちゃうんじゃないか」という危惧があるんですけど。

10年も同じメンバーで興行打ってる会社はダメ。WWEに10年前の選手がいますか？

PROFILE

ウルティモ・ドラゴン

本名・浅井嘉浩。S41年12月12日、名古屋市出身。新日本道場に入門後、単身メキシコに渡り、日本では90年にユニバーサルでデビュー。その後、U・ドラゴンに変身。日本、アメリカ、メキシコのメジャー団体を渡り歩く大スターとなる。現在は闘龍門の総帥。来年WWE参戦が噂される。

カムバック・ワールド・ツアー

第1戦：浅井嘉浩デビュー思い出の地、メキシコ・イダルゴ州パチューカ
第2戦：ウルティモ・ドラゴン誕生の地、アレナ・メヒコ
第3戦：アメリカ・ロサンゼルス　　以上3試合はすでに終了。

■ 第4戦：闘龍門メキシコ自主興行(ヤング・ドラゴン杯)
12月7日　メキシコ・メキシコ州ナウカルパン
ウルティモ・ドラゴン&望月成晃&ドラゴン・キッド
vs　エミリオ・チャベスJr&ベスティア・サルバッヘ&スコルピオJr

■ 第5戦：ウルティモ・ドラゴン日本復帰戦
12月20日(金)　闘龍門JAPAN
12月25日(水)　闘龍門JAPAN
12月26日(木)　T2P　すべて後楽園ホール大会(試合開始18:30)
上記の闘龍門・後楽園ホール3DAYSのいづれかの1日で
日本復帰戦を開催予定

ドラゴン　それはありますね、確かに。

――いま、後楽園には出れない選手って結構出てきてますよね？

ドラゴン　でも、それは仕方ないと思いますよ。例えば所属選手が30人で、随時出てるのが20人とか、それはしょうがないと思いますよ。プロである以上。それで最近、若い奴らの中から「将来が不安」だとか、なんかいろいろそういうこと言う人がいるらしいんですけど、俺に言わせれば、そんなのハッキリ言って当たり前なんですよ。

――プロの世界なら当然、と。

ドラゴン　だからサラリーマンみたいな雇用を望んでいたりとか、保証をしろとか、俺から言わせれば「糞喰らえ」ですよ。そんな人は早く辞めてほしいですね。普通に就職して、ある程度ちゃんとした収入をそこで得た方がいいですよ。その代わりウチには夢がありますよね。上に行って稼ごうと思えば稼げるわけですから。

――しかも、WWEで世界を相手に闘うという夢も現実味を帯びてきているわけですからね。

ドラゴン　そうですね。まぁ、そういうところは、いまの若い人の考えは、ハッキリ言って「馬鹿野郎」じゃないですかね。

――逆にいままで、ちゃんと選手が上に行っていた分だけ、それが当たり前だと思ってるかもしれないですよね。

ドラゴン　ただ、変な話。いまメインでやってる選手でも、下からいいのが育ってきたら、そのときはよけてもらうしかないですよね。だいたい10年も同じメンバーで興行打ってる会社はダメですよ。WWEに10年前の選手なんてひとりもいないでしょ？　5年前だってほとんどいないでしょ？　それが興行会社としてはベストなんじゃないですか。

――芸能界だってそうですもんね。

ドラゴン　そりゃそうですよ。だからプロレス界だけですよ。20年ぐらい選手が平気で居座ってるのは。ま、演歌に似たところがプロレスにはあるんじゃないですか（笑）。

――それでなくても闘龍門は、T2Pに続いて「闘龍門Xプロジェクト」っていう次の選手も控えてますからね。

ドラゴン　そう。まだまだやることはたくさんあるんですよ。まぁ、幸いなことにって言ったらおかしいけど、1期生2期生に比べて、やっぱり最近入ってくる子の質が落ちてるんですよ。

――はぁ～、やっぱりそうですか。

ドラゴン　だからこのまま残して使えるっていう選手があんまりいないんで、逆にいいかなって思いますけどね（笑）。

――淘汰しやすい、と（笑）。

ドラゴン　だって全員凄かったら、ちょっと困るじゃないですか。レスラー増えすぎちゃって。これからどんどん狭き門になっていくんでしょうね。

――ちょっと話は違うんですけど、『WRESTLE-1』という大きなイベントが今度立ち上がりますけど、それには興味あったりしますか？

ドラゴン　いや、ウチにはオファーもないし、どういう趣旨の大会なのかわからないので、興味あるない以前の話ですよね。それによってプロレス界が活性化されればいいんでしょうけど、『WRESTLE-1』というくらいだから、『K-1』のプロレス版みたいなもんですよね？　ただ、プロレスとK-1はまったく違うジャンルですから。どういうことをやるのか見てみたいですけどね。

――"静観"ということですね。

ドラゴン　ただ、ボクのいちプロレスファンの意見として、団体交流に関しては、もう限界かなと思いますね。これ以上やるとプロレス界はもっとダメになるんじゃないかな、というのが正直なところですね。だっていまやってる交流戦ってメリットないじゃないですか。

――ぶっちゃけて、そうですよね（笑）。

ドラゴン　だから昔の全日本と新日本の冷戦時代みたいに、ああいう感じで対立するのが一番いいと思うんですよ。特に闘龍門はパッケージでやってるじゃないですか。だから外にも出ていけないし、向こうから入ってくるのも難しい。だから闘龍門の試合って、闘龍門出身の選手しかできないと思うんですよ。まったく違うもんだと思いますけどね。

――あの試合の練り上げられ方っていうのは、これまでの歴史があるのと、地方を回って積み上げてきた結果ですよね。

ドラゴン　そうそう。試合数こなしてますもん。あと、みんな若いってことですよ。頭やわらかいですから。

――鋤もいいし、回転もいいし。

ドラゴン　あとウチに入ってくる生徒はみんなプロレスが好きで入ってくるんですよ。いわゆる身体がデカイから職業を選んでる人はひとりもいないんですよ。

――ファン上がりだからこそ、ひとりひとりがレスラーとしての頭とファンとしての頭もあるわけですね。

ドラゴン　そうです。もちろん理想のプロレス興行だってあるだろうしね。だからみんなそれはわかってるんですよ。

――それプラス、レスラーとして経験を積んで来たから、今回みたいにいろんなアイデアが出せる、と。

ドラゴン　そうそうそうそう。そういう感じですね。だからいろんな人のアイデアの結晶として、これから新たな闘龍門が生まれてくると思いますよ。

――それは実にたのしみこの上ないです！　これからの闘龍門と、校長自身の復帰、ゼヒ期待したいと思います。今日はありがとうございました。

【02年10月29日／六本木『BYBLOS CAFE』にて収録】

闘龍門大会スケジュール

■ 11月
23日(土)　埼玉・越谷桂スタジオ　開始18:00
24日(日)　埼玉・ベペホール・アトラス　開始17:00
27日(水)　東京・後楽園ホール　開始18:30

■ 12月
1日(日)　兵庫・明石市立産業交流センター　開始17:00
7日(土)　広島・ふくやま産業交流館ビッグローズ　開始18:00
8日(日)　山口・海峡メッセ下関　開始17:00
15日(日)　金沢・金沢流通会館　開始14:00
20日(金)　東京・後楽園ホール　開始18:30
21日(土)　静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール　開始18:30
22日(日)　静岡・焼津市民体育館　開始13:30
23日(月)　神奈川・相模原市立総合体育館　開始13:30
25日(水)　東京・後楽園ホール　開始18:30
26日(木)　東京・後楽園ホール(T2P)　開始18:30
28日(土)　愛知・名古屋国際会議場イベントホール　開始18:00
30日(月)　神戸・チキンジョージ　開始16:00

お問合せ：闘龍門JAPAN　TEL:078-333-9797

10.29　六本木『BYBLOS CAFE』

潜入リポート

ファンクラブ限定!!
闘龍門JAPAN シークレットLIVE

会場は、麻布十番のど真ん中にある『ビブロスカフェ』。神戸のライブハウス『チキンジョージ』大会で使用される小型リングを持ち込み、オールスタンディングで行われた。

10・28後楽園大会の興奮冷めやらぬ翌29日。六本木で闘龍門がシークレットゲリラＬＩＶＥを敢行！　ＦＣ会員限定で行われたこのイベントの潜入取材に成功したのでご報告しよう。

寒風吹きすさむ中、オールスタンディングで行われたこのイベントのテーマはズバリ「闘龍門ＪＡＰＡＮvsＴ２Ｐ"裏"対抗戦」。"裏"というだけあり、ＣＩＭＡ、モッチー、マグナムのＪＡＰＡＮ３強の相手を努めるのは、イタコネでも大鷲でもなく、しゃちほこマシーン、川畑憲昭、岩佐卓典という異色のラインナップとなった。

カードがカードだけに対抗戦特有のピリピリとした緊張感がみじんも感じられない中、Ｃ－ＭＡＸは鯱魔神ばりに、いっさい声を発しないプロレスに挑戦したり、モッチーが武輝道場時代のコスチュームで登場したりと、普段は見られない"珍味"をたっぷり披露してくれた。こんなイベントはファンとしては嬉しい限り。ＦＣ入会希望者は闘龍門ＪＡＰＡＮに問い合わせてみよう。

3試合終了後は、モッチー＆新井健一郎に菊池リングアナを加えた闘龍門非公認ユニット『三十路ーズ』のトークライブ。８０年代歌謡への熱き想いを語り、若いファンを見事に置き去りにした。

メインに登場したマグナムの相手は、闘龍門の選手間内部で絶賛大ブレイク中のＴ２Ｐ岩佐卓典。自慢のハードロックで颯爽と入場するも、まもなく敗れＤｏＦＩＸＥＲのダンスタイムに早変わり。

「武輝伝承マッチ」と銘打たれたモッチーvs川畑は、「北尾出せ～！」というＯ社長の野次が響き渡る中、モッチーが完勝。あの北尾光司から受け継いだ"武輝の魂"もどきの刀を川畑に押しつけた。

第１試合にいきなりＣ－ＭＡＸ登場。しゃちほこマシーンズ相手に実験的な試合（？）にて下した後、鯱魔神ズのテーマ『燃えよドラゴンズ』をなぜか熱唱！

みちのくプロレス
10周年企画
第2弾

カズ・ハヤシ［全日本プロレス］

TAKAみちのく［K-DOJO］

みちのくプロレス海援隊☆DX同窓会対談

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾 晋也　試合写真／平工幸雄
designed by matsu（Two Three）

ユニバーサルの頃はギャラは出なかったけど、プロレスができればそれだけで嬉しかった（TAKA）

――そもそもカズさんとTAKAさんはユニバーサル・プロレス（以下、ユニバ）時代の同期だったと聞いてるんですが。

カズ そう。同じ日に入団テストを受けたんだよな？

TAKA そうですね。僕の方が入門は遅いので、微妙に後輩になるんですけど。

――あの時期のユニバに入門しようと思った動機は何だったんですか？

カズ え〜っ？（考え込む）。忘れましたよ、昔のことだし（笑）。

TAKA 自分は、高校3年の10月頃に雑誌読んでたら入門テストの告知が載ってたんで「受けてみよっかなぁ」という感じで。ちょうど当時はCATVでユニバの試合を見てて、「こういうプロレスも面白いなぁ」と思ってましたから。学校を休んで入門テストを受けに行ったんですよ、わざわざ盛岡から東京まで（笑）。

カズ TAKAは社長に憧れてたんじゃなかったっけ？

TAKA それは絶対ない！（キッパリ）。

――社長というのは、ユニバの社長だった新間寿恒さん（新間寿氏のご子息）のことではないですよね（笑）。

カズ いや、みちプロのサスケ社長のことです（笑）。

TAKA いや、ハッキリ覚えてるけどサスケは一番嫌い！　一番嫌な人でしたよ！　みんなは邪道を恐れてましたけど、自分は全然平気で。それよりサスケが嫌でした。

――へぇ、サスケさんの何が嫌だったんですか？

TAKA 入りたての新人に凄く厳しいんです、あの人は。よくボコボコにしてたじゃないですか。

カズ ああ、してたねぇ。俺はやられなかったけど。

TAKA 自分も口でしか言われてないですけど、凄いんですよ（しみじみ）。

カズ TAKAはいろいろあるみたいなんですけど、僕はそんなに。

TAKA じゃあ、いまはどうなんですか？

カズ いま？　嫌いかもしれない（笑）。

――むしろいまの方が（笑）。でも、ユニバはあまり試合数が多くなかったですよね。あの頃、サスケさんは深夜にマクドナルドで清掃のバイトをしながら練習してたそうなんですが、それより下の世代の人たちはどんな生活をしてたんですか？

11・8みちのくプロレス大田区のメインで実現した、TAKAみちのく、カズ・ハヤシ、愚乱・浪速のユニバーサル（ほぼ）同期トリオ。

TAKA 週1回だけ全日本女子の道場を借りて練習をやらせてもらってたんですけど、それ以外の日は……金がなかったんで公園行って鉄棒にぶら下がったりしてました（笑）。で、金がなくなったら日雇いのバイトをして「何とか生きてた」って感じです。

カズ 僕は実家が東京なんで、金がなくなるってことはまずなかったですね。だから飄々と暮らしてましたよ。アルバイトして稼いだお金でジムに通って……。

TAKA 贅沢だ！　贅沢すぎる!!（笑）。

カズ 公園で鉄棒なんてやったことないから（笑）。

TAKA 自分の場合は日雇い1日やると1万円になるんですけど、その1万円で2週間くらい暮らしてましたよ（笑）。

カズ へぇ〜（驚いて）。僕はメキシコ料理屋で普通に働いて、週1回の練習に参加する以外の日はジム通いでしたね。

――優雅ですねぇ（笑）。そういえば、あの頃のユニバは入門後、すぐにデビューさせられる状態だったらしいですね。

TAKA 自分は新間ジュニアさんに気に入られてたんですね、なぜか知らないけど。まあ、自分がアマレスやってたってこともあって……ジュニアさんはアマレスやってればプロレスが出来るもんだと思ってたみたいで（笑）。入門3ヶ月でデビューさせられたんですよ。そしたら周囲の反発が凄くて、特にサスケが凄かったんですよ（笑）。しかも、サスケの（前身だった）MASAみちのくのキャラを受け継いだもんだから、また堅くなっちゃって。「お前、なんでデビューするんだよ!?」とか凄くイビってくるんですよ。そんなこと言われても、俺はデビューしろ！って会社に言われただけだしなぁと思って（笑）。あの人との因縁は、その頃から始まってるんですよ。でも、別にいまはサスケのことも嫌いじゃないですよ。嫌いだったらみちのくプロレスには出ないですから。

――そして、当時のユニバといえばギャラが出ないことで有名でしたね（笑）。

TAKA でも、自分はそんなもんを最初からアテにはしてなかったですから。あの頃はプロレスが出来ればそれでよかったんですよ！

カズ 嬉しかったよね、プロレス出来るだけで。……でもね、TAKAは知らないかもしれないけど、僕には結構ギャラが出てたんだよ。

TAKA （メチャクチャ驚いて）ええっ!?　ウソォ？　聞いてないよぉぉぉ！

カズ ギャラの未払いは最後のシリーズだけで、あとは全部出てたから。今までずっと黙ってたんだ（笑）。みんな「金がない、金がない」って言ってるから、言い出しづらくなっちゃってさ。

TAKA ……（絶句）。

――なぜカズさんだけが優遇されてたんですか？

カズ う〜ん、わかんないですけど、裏で仲良かったんですかね（笑）。TAKAたちは試合もやって、事務所で雑用もやってたんですよね。それを大変だなぁと思って見てました。

TAKA でも、あの頃の自分はそれで良かったんですよ！　たしかに俺は恵まれてなかったかもしれないけど、どんな雑用でも「これをやってればプロレスラーになれるんだ！」と思ってたから、むしろ楽しかったですね。夢に向かってる時だから。だって、いま楽しくないですもん！（笑）。

カズ その点でも僕は恵まれてるよ。いまでも楽しいから（笑）。

TAKA （ホントにうらやましそうに）いいなぁ〜。

――サスケさんは自伝の中で「ユニバの頃は暗黒時代だった」みたいな恨み節を書いてましたけど（笑）。

TAKA あの人の場合は苦労話で同情を引こうってことしか考えてないから（笑）。生き方までプロレスなんですよね。

――でも、そんなサスケさんが大嫌いだったTAKAさんが、なぜみちのくプロレスに入ったんですか？

TAKA　う～ん……ユニバ末期の頃に北海道巡業があったんですよね。その帰りのフェリーの中で、自分は一人で風呂に入ってたんですよ。「やっと終わったぁ」とホッとしてたら、そこにいきなりサスケが入ってきたんですよね（笑）。「うわっ、何しに来たんだ？」って思ってたら、そこで「東北でやらないか？」って。サスケとまともに会話をしたのはその時が初めてだったんですけど、「面白そうだなぁ」と思って即決しました。

カズ　僕はその巡業には参加してなかったんで、ずっと知らなかったけどね。僕が知らされたのは最後の方だったよ。

TAKA　まあ、自分の場合は地元が東北だったこともあってスンナリ決めましたけど、東京組の人たちはいろいろ葛藤があったんじゃないですか。

カズ　でも結局、東京の人は「通いでいいよ」ってことだったからね。問題があったとすれば、ユニバからみちプロに移るときに最後まで引き止められてたことかな。だから、みちプロの最初の頃は名前を変えて試合をしたりしてましたね。

――えっ？　そうだったんですか？

カズ　結局、「獅龍」って名前の権利がユニバにあるからってことで、しょうがないからマスクを変えたり、素顔で試合したり、いろいろやってたことがあったんです。

TAKA　自分もマスクを被って試合したことありますよ。たしか、「G・ユニバ」って名前で（笑）。

――大神源太じゃないんですから（笑）。

カズ　あれはカッコ悪かったから一回で却下されちゃったんだよな（笑）。僕は素顔で「アーバン若林」っていう名前で、それはユニバの事務所があったマンションの名前なんだけど（笑）。

TAKA　新間ジュニアさんへのささやかな抵抗ですね（笑）。

――ガハハハハ！　ちなみに、カズさんはマスク作りが趣味だとうかがってるんですが？

カズ　それは趣味というよりも仕事でしたね。みちのく初期に選手が被ってた変なマスクは全部僕が作ってましたね。あの当時、ご当地レスラーがよく出てたでしょ、「すだち君」とか「モンキーマジック」とか（笑）。「すだち君」は会社のアイデアだったけど、それ以外はほとんど自分で考えて作ってましたよ。

TAKA　自分たちが寒い中で一生懸命チケットを売ったりしてるときに、温かい部屋でのほほんとお金のためにマスク作りをやってたんですよね（笑）。

カズ・ハヤシ×TAKAみちのく

――マスクを作ったお金は、カズさんの個人収入になるんですか？

カズ　そうです。

TAKA　明らかに苦労してないですね、話を聞いてると（笑）。俺は寒い中でも宣伝カーを走らせてたり、吹雪の中でも電柱にポスターを貼ったりしてましたけど、そういうことを全然やってないでしょ？。

カズ　そういう苦労をしてるから、TAKAはどんな苦労にもめげずにK・DOJOをやっていけるんだよね。凄いよなぁ、俺には出来ないもん。

TAKA　将来のことを考えたら、自分がいつ動けなくなるか分からないですからね。（カズに向かって）もし動けなくなって試合が出来なくなったらどうするんですか？

カズ　最近全然作ってないけど、またマスクでも作ろうかなぁ？

TAKA　ああ、そういう道があるからいいですよねぇ（うらやましそうに）。自分はずっとプロレスしかやってないから、何が出来るかを考えたらプロレスしかないなと。だから、K・DOJOを作ったんです。（ふてくされたように）俺にはマスク作れないしね！

カズ　ハハハハハ！　でも、僕は他の仕事も一回やってみたいなと思ってるんですよ、プロレスの仕事が終わった後には。

TAKA　もう30歳でしたっけ？

カズ　まだ29歳。何言ってんだよ、歳は一緒だろ？

TAKA　ああ、そうだった（笑）。じつはプロレスに入ったのも同期で、歳も一緒なんですよ。ホントだったら気も合うし、話も合うはずなのに、そうでもないんですよね。

カズ　そもそも、あまり話さないよね。

――あ、そうなんですか？　とても、そんな感じには見えないですけど。

TAKA　対談って話をもらった時に、「何をしゃべろうかな？」って考えちゃいましたから（笑）。みちプロで巡業をしてた頃も挨拶しかしてませんでしたから。仲が悪いかというとそうでもないんですけど。

――へぇ～、当時のみちプロはファミリーみたいな感じなのかと思ってましたから意外ですね。

カズ　ハハハハハ、ファミリーみたいな感じじゃないよね？

TAKA　全然！（笑）。そういうふうに見えるところに限って、中に入ればみんなバラバラで仲が悪いものなんですよ。みんな仕事だけの付き合いだったりしてね。

――なるほど。そういう意味では、みちプロのユニット編成って、単なるビジネス上の都合というよりは、もっとうがった見方ができるようなものだったと思うんですよ。たとえば海援隊が出来た時は、そのメンバーが実生活でも固まっていたから出来たのかな、というような印象なんですよね。

カズ　結成した時は違いますよ。でも、そこに私情が絡んでチームが変わっていくということはあるけど。たとえばデルフィンさんが離脱するとかね。

TAKA　海援隊にしても全員が仲良かったかというと、そんなこともなかったから。異分子が1、2人いたりして。

カズ　その異分子って、俺のことも含まれてるんだけど（笑）。

TAKA　アメリカに行って4人で海援隊をやってたときも異分子はいたし。そういうもんですよ。

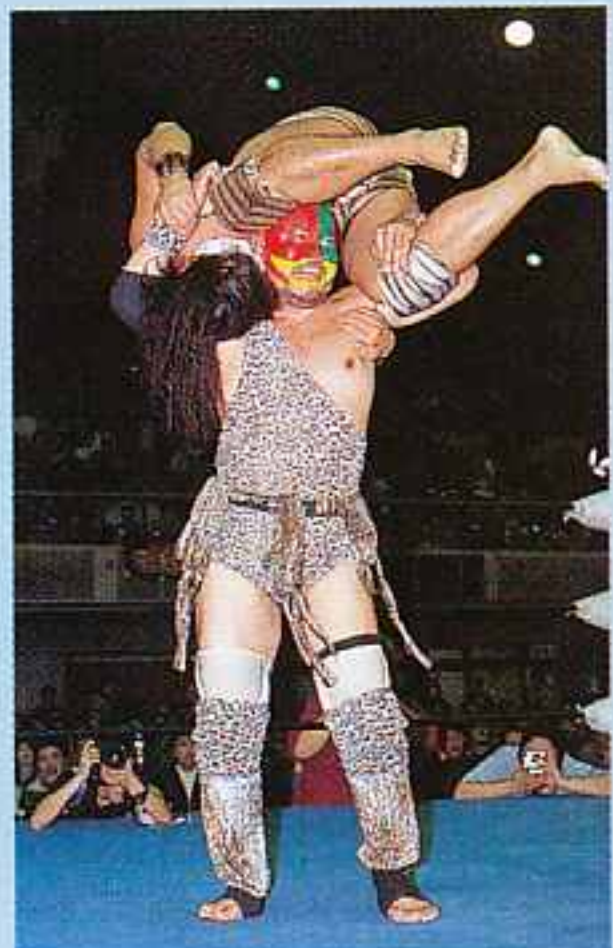
カズ　そういえば海援隊は4人で行ったのに、なぜかバラバラに帰ってきたよね？

TAKA　気付いたら、なぜか（船木）勝

みちプロ初期は「アーバン若林」っていうユニバの事務所マンションの名前で試合してました（笑）（カズ）

10.8 みちのくプロレス 大田区体育館

みちプロオールスター集結！大田区3600人超満員!! 10周年記念大会大成功!!!

平日の午後6時開始という悪条件ながら、第2試合の段階でこの入り。最終的には超満員となった。

負けた方が山へ帰るという過酷なルールとなった、ヨネ原人vsツボ原人。一度は両リンの裁定が下ったが、延長戦のジャンケンでツボが歓喜の勝利。

日本逆上陸当初、みちプロで修行を積んだC-MAXも登場。当時のコスチュームで登場し、CIMAがかつての必殺技マッドスプラッシュを出したことで、彼らのみちプロへの思いの深さが伺えた。

かつての定位置、「みちプロ」の第1試合に星川尚浩（ZERO-ONE）が登場。湯浅に前座魂を叩き込むが如く激しい攻めを見せた。

みちのくプロレスの裏方として支え続けてきた篠塚リングアナウンサーも、1年半ぶりに復活。この人なしで10周年はなかっただろう。

この日一番動きがよかったカレーマンと、飛行機の遅れで試合に出場できなかったハヤシライスマンはメインでセコンドについた。

WWEのスーパースター、ショー・フナキもこの日のためだけに来日。「ディス・イズ・フナキ。スマックダウン・ナンバー1アナウンサー！」が生で聞けた！

我らがヒーロー、ヒートがみちプロ初登場！　越谷の風になった男・田中みのるがかつて大活躍したみちプロのリングで、悩めるヒートもちょっぴり活き活き。

かつての海援隊☆ＤＸメンバーであり、現在は大日本の頭脳となったメンズ・テイオーや中島半蔵もみちのく10周年に駆けつけた。

新日Jr.のトップ、金本＆外道も参戦。金本はかつてサスケから「蹴り殺すぞぉ～！」の名言を引き出したこともある。

サスケにフォールを奪われたTAKAは「今日は花を持たせただけ」と、改めてサスケにシングルを要求。

10周年記念大会の最後を締めたのは、もちろんサスケのサンダーファイアー・パワーボム。もちろんマイクでの「応援してくれる皆さんがひとりでもいる限り、みちのくプロレスは永遠に不滅だ！」も出た。

メイン終了後、公の場では決して言葉を発しない人生がマイクを握り、選手、スタッフ、関係者、そしてファンに感謝の言葉を述べた。

全試合終了後、ファンがリングに押し掛け選手を取り囲む。かつての熱気が戻ってきた！

11.8 みちのくプロレス
『みちプロ大好きⅢ～謝謝～』

東京・大田区体育館　観衆3600人（超満員）

1
○星川尚浩［9:35 逆エビ固め］湯浅和也●

2
○グラン浜田＆中島半蔵＆西田ヒデキ
［9:18 浜ちゃんカッター→体固め］
折原昌夫＆石井智宏＆マッチョ・パンプ●

3
［原人コントラ原人～敗者山帰りマッチ～］
○ツボ原人［4:11 両者リングアウト→ジャンケン決着］ヨネ原人●
※ジャンケンに負けたヨネ原人が山に帰ることに

4
○タイガーマスク＆ヒート
［9:16 タイガースープレックス］
金本浩二＆外道●

5
○CUMA＆SUWA＆ドン・フジイ
［11:34 マッドスプラッシュ→片エビ固め］
カレーマン●＆タイガーマスク＆ドラゴン・キッド

6
○ショー・フナキ［6:59 グラップラー・フェースロック］日高郁人●

7
○ザ・グレート・サスケ＆新崎人生＆ディック東郷
［21:45 サンダーファイアー・パワーボム→エビ固め］
TAKAみちのく●＆カズ・ハヤシ＆愚乱・浪速

一だけが残ってるし（笑）。一番残らなそうな人だったのに。

――そもそも海援隊はどういう経緯で結成されたんですか？

TAKA　サスケとデルフィンの抗争がつまんないからって最初に3人が集まったんですよね。「目を覚まさせる！」とか言って、えらいボコボコやってましたよね。それまでは「欽ちゃんジャンプ」とか楽しいルチャばっかりやってたのに、イスで殴られて血まみれにされて（笑）。

カズ　でも、あの当時の佐藤さん（ディック東郷の本名）は、ホントに「つまんねえ」と思ってたから、そういう試合をやってたんだよ。感情が全部試合に入ってたよね。

TAKA　結局、自分も当時はデルフィン軍団にいたけどおちゃらけばっかりでつまらなかったから海援隊に入ったんですよね。自分的には海援隊が5人で試合してた時が、みちプロの黄金時代だと思ってるんですよ。（カズ的には）一番嫌な時代かもしれないですけど（笑）。

――何が嫌だったんですか？

カズ　人間関係です。嫌なヤツがいたんですよ。

TAKA　俺も同じ軍団にいて、見てて思いました。「ああ、かわいそうだなぁ」って。

――ああ、なんとなく想像は出来ます（笑）。で、カズさんが人間関係が原因で、TAKAさんはWWF（当時）に行くんで同時期にみちプロから離脱してるんですよね。

カズ　それはたまたまですよ。TAKAの離脱は以前から決まってたんだけど、僕の場合はそもそも欠場するキッカケは怪我でしたから。

TAKA　じつは、その後もほぼ同時期にメキシコに入って、アレナ・メヒコでバッタリ会ったんですよ！　メキシコにいるっていう噂は聞いてたんですけど、「まさかバッタリ会うわけねえよなぁ」と思ってたらバッタリ会っちゃって。

カズ　ちょうど、その頃に僕はみちプロを辞めて傷心旅行をしてたんです（笑）。誰にも会いたくなかったのに、そこで「ヤベッ！　見つかった！」って（笑）。

TAKA　アメリカに渡った後、自分はWWF（当時）に入って、（カズは）そのライバル会社に入りましたからね。アメリカに入っても、ほとんど接点はなかったんですよ。で、WWFを辞めたのも同時期なんですよね。自分が帰国したのは今年の2月ですから。

カズ　僕も日本に帰ってきたのは2月の後半だった。

TAKA　旅立ったのも帰ってきたのも同時期なのに、全然違う道を歩いてるんですよ。別に打ち合わせもしてなければ、話もほとんどしてないのに（笑）。

――へぇ～、アメリカでも連絡は全然取り合ってなかったんですか？

TAKA　2年に1回くらい電話してましたけど（笑）。

――てっきり世界を股にかける海援隊ネットワークが出来上がってるのかと思いましたよ（笑）。

TAKA　そんなものないです！　だって、ぶっちゃけた話、海援隊のこと嫌いですよね？

カズ　ハハハハハ！　最終的にそれが嫌でみちプロを辞めたからねぇ。

TAKA　でも、いまが一番自分のやりたいことをやれてるんじゃないですか？

カズ　うん。メキシコに行った頃から、やりたいように出来るようになってきてるよ。

カズ・ハヤシ

みちプロ10年の歴史の中で、もっとも猛威を振るったユニットと言えば、間違いなくこの海援隊☆DX。しかし、東郷、獅龍（カズ）、テイオー、TAKA、フナキ、半蔵が組むことは恐らく2度とないとのこと。残念。

自分的には海援隊が5人で試合してた時がみちプロの黄金時代だと思っている（TAKA）

あれ？　そういえば、さっき海援隊は5人だったたって言ってたけど、6人じゃなかったっけ？

TAKA　そういえば、誰か忘れてますね。

カズ　……あっ、（中島）半蔵！（笑）。

TAKA　そうだ！　俺も何だかおかしいなぁと思ってたんですけどね（笑）。そう考えるとホントにバラバラですよ。勝一はアメリカ、大将はみちプロ系フリー、半蔵は広島でジムを経営して、カズ・ハヤシは全日本……。

カズ　TAKAはK-DOJOでしょ、テリー・ボーイは大日本だもんね。

――テリー・ボーイって（笑）。

TAKA　まあ、ひとつ言えるのは、この6人がまたひとつに集結することは……。

2人　ないでしょう!!（キッパリ）。

TAKA　これは言い切れる。だって、この大田区大会で全員揃ってもよさそうなもんですよね？　半蔵だって広島から来るんですよ。でも、集結しない。それはなぜか？っていうのは、ひとつの謎かけですよね。でも、それでいいんじゃないですか。それぞれ大きくなって、自分がやりたいところにおさまってるわけですから。

カズ　みんな、よく生き残ってるよ。みちプロ系の選手は根強いね。

TAKA　それをサスケがうまく全員をまとめてれば、いま頃メジャー団体になってますよ！　……無理かな？（笑）。でも、もったいないですよね。自分はそれを反面教師にK-DOJOをやってるわけですけど。

――結局、何が原因でバラバラになっちゃったんですか？

TAKA　サスケのやり方が悪い（キッパリ）。それに尽きます！　これだけみんな出てっちゃうんですから、サスケの人間性の問題ですよ。でもね、サスケをかばうわけじゃないけど、自分も社長という同じ立場になって初めてあの人の苦労もわかりました。（カズに向かって）大変なんですよ。

カズ　そんな苦労、わからなくてもいいじゃん（笑）。

TAKA　わからなくてもいいことだけど、同じ立場になったら分かっちゃって、「うわぁ、これは大変だなぁ」と。だから、雇われて試合やってギャラもらってるヤツらはいいなぁと思いますよ。人が集まれば、いっぱい不満や文句が出てくるし、それをまとめるのは大変な作業ですね。

――10周年記念の大田区体育館大会も、まとめるの大変そうですよね。

TAKA　大田区大会のマッチメイクもよくわかんないよなぁ。

カズ　俺はTAKAと試合したかったけどね。なぜか浪花を加えた3人でチームを組まされてしまったけど。

TAKA　自分も滅多にやる機会がないんで、（カズと）闘いたかったんですけどね。浪花とも闘いたかったなぁ。

カズ　全日本に来ればいいじゃん。

TAKA　ウッ！（絶句）。声をかけて頂ければ、いつでも六本木の事務所までうかがいますけど。なかなか接点がなくてね。

TAKAみちのく
S48年10月26日、岩手県盛岡市出身。本名・非公開。H4年にユニバーサルでデビュー。みちのくプロレスで活躍し、その後WWEでショー・フナキとのコンビKAIENTAIで活躍。今年2月に帰国、K-DOJOを旗揚げ。選手兼プロデューサーとなった。

カズ・ハヤシ
S48年5月18日、東京都世田谷区出身。本名・林和広。H4年にユニバーサルでデビュー。その後、みちのくで海援隊DXとして活躍するも、H9年にメキシコへ。その後WCW、WWFを渡り歩くも、武藤に誘われ3月から全日本入団。Jr.の武藤として、全日Jr.の確立を目指す。

TAKAみちのく

カズ　接点はあるじゃん！　Hi69とかヤス・ウラノとか、K-DOJOの選手が全日本に出てたんだから。

TAKA（つぶやくように）……そうきたか。いまはちょっと全日本さんとの接点が切れてしまっているので、これを機にまた接点が出来て、いずれはリングに上がれたらいいなぁと思いますよ。やってみたい選手はいっぱいいますからね。

――Hi69選手とヤス・ウラノ選手は、TAKA選手がアメリカから帰国してK-DOJOを旗揚げするのを機にキャラクターを変えるから、全日本参戦は白紙に戻ったということでしたよね？

TAKA　まあ、よく言えばそういうことなんですけどね。じつは、業界のルールを私が破ってしまったようで……。

――えっ、そうなんですか？

TAKA　何て言ったらいいんだろうなぁ？（と考え込む）。とにかく、そういうことですっ！

――いや、全然わからないです（笑）。

TAKA（急にかしこまって）言い訳になりますけど、4月のK-DOJO旗揚げ前後でテンパってて、いろんなことが吹っ飛んでしまって……。ぶっちゃけた話をすると、最初にお話を頂いた時に「ホントは自分も試合に出たいところなんですけど、まだWWEと契約があるんでHi69とウラノをお願いします」という形になったんですね。「契約が終わったら、自分もよろしくお願いします！」という話もしてまして。それで旗揚げ戦のシリーズが終わる頃までは参戦するという話だったんです。そこで、自分としては旗揚げ前で全日本参戦は終わりだと思ってまして。

――そこでボタンの掛け違えがあったと。

TAKA　それ以降、自分は全日本さんと全然話をしてなかったんです。そして、旗揚げ戦が終わった後に、彼ら2人をみちプロのシリーズに出しちゃったんですよ。ところが、次の全日本のシリーズに彼らの名前が入ってたんですよ！　それで「どうなってんだぁ～!?」ということで。ようするにダブルブッキングですね。自分が全日本さんに連絡をちゃんとしなかったのが原因です。

――10月からは全日本も新体制になってますから、TAKAさん本人が恩を返しに行く準備はあるという感じですか？

TAKA　そうですね！　新社長によろしくお伝え下さい（と頭を下げる）。

――まあ、そういう事情を抜きに考えてみると、TAKAさんとカズさんの試合は面白くなると思いますよ。

TAKA　どうだろうなぁ？　5～6年前にベルト賭けて青森で試合したのが最後なんですよね、たしか。いま試合したら、自分はついていけないと思いますよ。体重はそんなに変わってないんですけど、動きが重いですから。飛べなくなったし、ひどいもんですよ。

カズ　飛び技を温存してるんじゃないの？　いざとなったら飛ぶでしょ？

TAKA　それがもう、最近怖くなっちゃってダメなんですよね。でも、もし試合やる機会があったら覚悟を決めて飛びますよ！

カズ　まだヘビー級になるつもりなの？

TAKA　この身長でヘビー級は無理でしょう（笑）。ただのデブになっちゃいますよ！

カズ　「ヘビー級になる」って言って、アメリカでバカみたいにステーキ食ってたのに（笑）。

TAKA　そしたら腹が出てきて、すごいみっともない体になったから一回体重を落としました（笑）。だから、いまはこの体でヘビー級の選手と試合をやりたいです。

カズ　こっちの会社はヘビーもジュニアも関係ないよ。「やりたい」「やりたくない」以前の問題で、有無を言わさずヘビー級とのマッチメイクが組まれてるから（笑）。

TAKA　いいなぁ～。マッチメイクを見てうらましいなぁと思うんですよね。俺も一回、武藤（敬司）さんのシャイニング・ウィザードを食らってみたいんですよ！

――是非、TAKAさんの全日本参戦は実現してほしいですね。カズさん、いかがですか？　今日初めてK-DOJOをご覧になってみて。

カズ　どんな雰囲気なのか完全に掴めたわけじゃないですけど、施設に関してはいいですね。あと、気になるのは人間関係（笑）。

TAKA　一番大変なのはそこなんですよ！

カズ　まあ、僕にとっては、知ったことじゃないですけどね。

TAKA　ハハハハハ！　出たよ（笑）。

カズ　でも、ホントにTAKAには頑張って欲しいですね（笑）。

――全日本とK-DOJOの国交が回復したら、ここにカズ・ハヤシが登場！なんてこともあり得るんですか？

TAKA　それはないですよ！　ウチに出てもらってもメリットはないですから。もし試合をするなら全日本のリングで、世界ジュニア王座とか賭けて（笑）。ユニバ出身の2人が日本最高のジュニア・タイトルを賭けて武道館で試合が出来たら最高じゃないですか？　まあ、それは理想ですけど別にタイトルマッチじゃなくても、タッグでも何でもいいんで闘ってみたいと思います。

カズ　いいねぇ。でも、僕もK-DOJOに出てみたいなぁ。

TAKA　ぶっちゃけた話、ギャラ払えないから（笑）。

カズ　じゃあ、いいや（笑）。

【11月5日/千葉市『Blue Field』にて収録】

ターザン山本

“宿敵”長州力の新団体をブッた斬る!!

と思ったらいきなり終戦宣言!?

拝啓　長州力様
あなたの新日本退団ですべてが終わりました

ターザン&I編集長
最狂師弟が共演!

カチ食らわすぞコラァ!
〝マグマ級〟新団体
ワールドジャパン
プロレス発進!!

長州さん（長州力）とは私は、腐れ縁の闘いを、やり続けていくしかないと思っている。あれはもう、6年前のことだ。覚えている人はまだいるだろうか？

例の『週刊プロレス』の取材拒否事件だ。新日本プロレスが、当時、週プロの編集長だった私をマット界から〝追放〟するためにやった事件。

その陰の張本人が長州さん（あえて〝さん〟付けで書く）だったのだ。6年も経てば新しいファンがいっぱい出てくるので、その事件さえ知らない人が多くなってくる。

時が経てば、結局そんなことは、社会的レベルではどうでもよくなってくる。要するに個人の怨念だけしか残らない。あとは風化していくだけだ。

ただ、今でも「長州vs山本戦争」に興味を持っているファンがいることも確かなのだ。たとえそれがどんどん少数派になったとしても、その人たちがいる限り、私は長州さんと闘っていく。

しつこく、かつ執念深くその怨念を持続させていくことが、私のアイデンティティの一つでもある。私からすると「よくもあんなことしてくれたな…」という思いがあるからだ。私は全然間違っていない。間違っているはずがないのだ。

まぁ、世の中は正しいものが必ず勝つとは限らない。でも、正しいものがずっと負け続けることも有り得ないのだ。それがわかっていれば、こっちのものである。「最後は俺が勝つ」に決まっているからだ。

それを確認できるのは、たぶん私が死んだあとだろう。生きている間は無理だ。所詮、生きている間は〝小競り合い〟に終始して、最終的な結果なんか出ないからだ。

そうなると〝小競り合い〟を楽しむしかない。前置きはこれぐらいでいいだろう。

長州さんと永島さんの発想は80年代のもの私には理解不能である

「我々は一蓮托生。今度もめごとがあったら足を洗う」そんな総大将・長州力の言葉とともに、人気絶頂の〝維新軍〟が84年に丸ごと新日本から独立した形の新団体ジャパン・プロレス。長州はこの2年後にアッサリ団体を捨て新日にUターンしたが、さて今回はどうなるか？

結論を言ってしまおう。

長州さんは私（ターザン山本）を〝敵〟として生きていた時が、最も輝いていた。これに尽きる。これ以外の真実はないと、私は断言する。

その昔、維新革命をぶちあげた時の長州さんは、身近なライバル（敵）だった藤波さん（藤波辰爾）を倒しにかかった。その時の長州さんはまばゆいばかりに輝いていた。そのあと、〝雲の上の人〟アントニオ猪木の牙城を崩しにいった時も、その輝きは失っていなかった。

つまり自分にとって〝上位概念〟にあったものを、敵として倒しにいく。それが長州さんの持ち味なのだ。その後、新たな敵として長州さんの前に立ちはだかっていたのが、UWFと私だった。長州さんはUWFと私はセットだと思っていた。

1995年10月9日、Uインターを東京ドームのリングに上げて、Uを壊滅状態に追い込み、それが完成するとその翌年、週プロを取材拒否する手に出た。

週プロにも勝利し、私にも勝った長州さんには、もう敵がいなくなった。新日本プロレスを自らの手で牛耳って権力者の地位に昇りつめる。

いうなればプロレス界で天下を取ったのだ。だがそこからの詰めが甘いよな。長州さんは絶対に新日本の社長になるべきだった。その時、本当の意味で天下を取ったと言えるのだ。

どういう形にしろなぜ新日本の社長になれなかったのか、あるいはなぜならなかったのか知らないが、それが失敗の原因。ミステイクだ。あれはどうみても中途半端。

私が一番がっかりしたのは、長州さんが自分から辞表を出して、新日本を辞めていっ

ターザン山本新団体をブッた斬る!!

たことだ。

私はそれを聞いたとき、今まで言わなかったが心の中で「なんだよ、それ?」と思った。長州さんが週プロを取材拒否したのは、新日本を守るためというのが、最大の理由となっていた。

このことは永島勝司さんが私に対して直接、云ったことなので、たしかな話なのだ。永島さんは新日本の元企画宣伝部長。彼もまた今年、新日本を辞めた。

そして今、長州さんと永島さんが新団体を旗揚げした。私をマット界から追放した2人の人物が、こんな形で新日本を離れて、団体を立ちあげることになるとは、誰が予想できただろうか?

もはや長州さんと私の間には、敵としての関係はどこにもない。「すべては終わった」と終結宣言をしてもいいだろう。新団体「WJプロレス」には私はなんの興味もない。長州さんがこの新団体で何をやらかすつもりなのか、さっぱり理解できないのだ。私の考えをいうと今は、現存するプロレス団体をいったん解体して、別の新しい何かを模索していかなければいけない時代。

新日本も全日本プロレスもノアも、この際解散した方がいいと、私は無責任な考えをしているのだ。そこから新たな出直しをはかる。

ただしその出直しがどんなものなのか、私にも誰にもまだ何ひとつわかっていないのだ。そんな時、新団体を作る長州さんと永島さんの神経が、まったく理解不可能。

まだ2人の中に〝団体〟というものが、幻想として生きていたこと自体が、私からすると、不思議でならないのだ。長州さんと永島さんの発想が、まるで1980年代を思い出させてくれる。

1984年、長州さんが新日本を離れてジャパン・プロレスを作った時のことである。思わず私はあれを連想してしまった。悲しいことだが長州さんの視線は、もはや私には向いていない。

なぜなんだよ、最後まで私と闘って欲しい。私がやろうとすることを、何かにつけて邪魔して欲しい。私はそれを生きがいにして生きてきたからだ。

長州さんにとって私は危険人物だったはずである。ずっと私に危険を感じていたから、ああいうことになってしまった。そのことはお互いがわかりすぎるほどわかっていた。

実をいうと私は今も危険なことをやっている。しかしそれに長州さんが新日本にいるという前提がないと、なんの意味もないことなのだ。

そう、すべて意味がなくなってしまった。ショックである。長州さんを敵として思い続けることで、私は自分のテンションを上げてきた。私の心のどこかに「見たか長州!」というのが、言いたくて言いたくて仕方がないのだ。

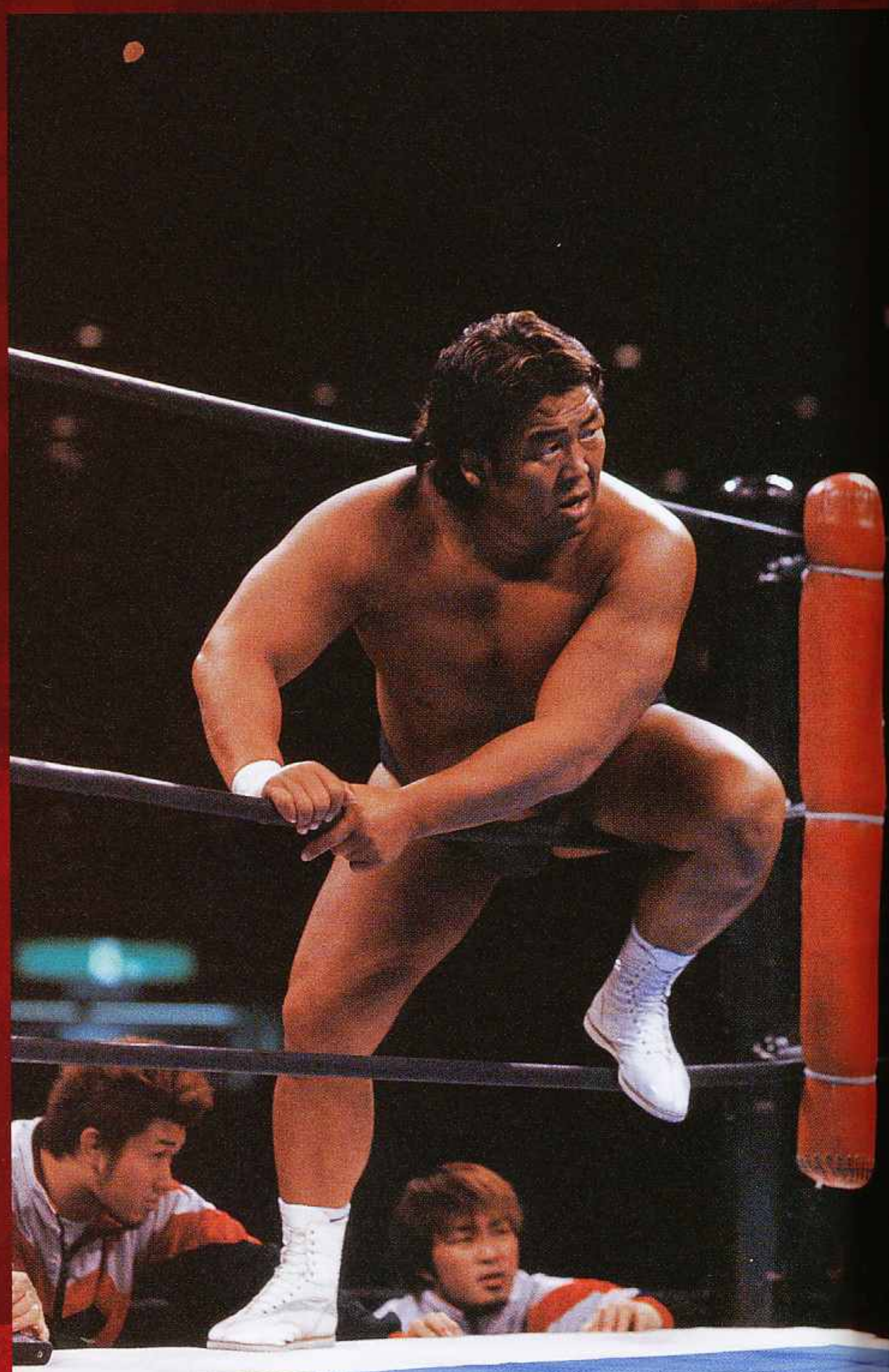
そのことを私は私なりに自分の励みにしながら生きてきた。そういった点では、いつ、どんな時でも長州さんのことは、私の頭から離れることはなかった。

もうマット界には『K-1』と『PRIDE』が、プロレスにとってかわるものとして幅をきかせている時代である。さらに『Dynamite!』という怪物まで出現してしまったのだ。

私はその波に乗るべくいま『SRS・DX』という雑誌を手伝っている。それも元をただせば長州さんにリベンジしたいからだ。

その私の生きる喜びが今や風前の灯(ともしび)となっている。長州さんの新団体旗揚げが、私を敵として意識することなく誕生したことは、さびしくて仕方がない。

さびしい、さびしい、さびしい、さびしい。こんなはずじゃなかったんだけどなあ。

さびしいよおおおおお。

Ｉ編集長 激筆

『真昼間の長州歪曲線』

ターザン＆Ｉ編集長
最狂師弟が共演！

井上義啓

〝マグマ級〟新団体 ワールドジャパン プロレス発進!!

マグマのように灼熱した
凄まじいものであればいいが……

プロレスやらせてどうする。健介こそバーリ・トゥードでしょうが！

今日もまた、冷たい小雨がガラス窓を叩く。倦んでしまって、どうしようもない晩秋の夕暮れ。仕方がないので、見たくもないNHKの大相撲チャンネルを合わせる。テレビカメラが会場をなめて通る度に目立つ白々とした空席。

（寂しいなァ）

待てよ。この情感は何かに似ている。

（そうだ。長州の旗揚げだ……）

分からないではない。人間、何としてでも食って行かねばならぬ。今の長州にできること。それはプロレスの興行。これ以外に何がやれると言うのか。

だから、藤波辰爾社長の「生きて行くためには何かをしなきゃならないわけですから……」が限りない真実として、胸にゴツンと突き刺さる。

記者会見に出た記者に聞いた。

「別に変わったところは……。強いて言うなら、あのブスッとした長州が作り笑いというか、ヤケに愛想が良かったことくらいですかね」

これも分かる。分かりすぎる位に……。

私は目黒区を知らない。だから、必然的にWJプロレス事務所も知らない。『紙プロ』の山口編集長の喜びそうな倒錯した世界。いや、待て。山口理論の盗作かも知れない。

長州が来年3月、首都の大会場で行う『MAGMA01』。

（マグマのように、灼熱した、凄まじいものであればいいが……）

プロレス記者は他人の不幸を喜ぶようにはできていない。それは力道山が死の恐怖で作り上げた遺伝子。

（うまく行ってくれれば……。長州だけでなく、永島のダンナとも大入りの大会場で笑い合えるような……）

それは夢。そう思える。前田日明、藤原喜明、高田伸彦（現延彦）らがUWFを立ち上げた時は（やって行ける！）、そう直感したのに……。

あの時の確固たる見通しですら予言的中とは行かなかった。プロレス者のBさんは言う。

「編集長（私の呼び名）のI予言で間違ったのはU系くらいなものですか」

そのBさんとの長電話。

「長州がエンタメに走るわけはおまへん。見とりなはれ。絶対にストロング・スタイルでっせ。新日プロのええ加減なストロングスタイルとは一味も二味も違うんや、というわけでっしゃろけど、どっこい、今の世の中、そううまくは問屋が卸しまへんで……」

〝今の世の中〟――この言葉に勝る真実と説得力はない。そう、プロレスは時ならずして終焉を迎える。この〝時ならずして〟も、プロレス者でなければ操れぬ言葉だ。それが分かっているのに、なぜ……。

「短期決戦を考えているんでしょう」と私。「…………」「長州の性格を考えないと駄目ですよ。思い切りがズバ抜けていいというね。サッと出てサッと引く。〝今の世の中〟でプロレスが長続きすると考えている人なんかいない。武藤にしても全日プロの名跡を継ごうなんて考えは小指の先程もない。あの辰爾先生にしたって『無我』に還れ、ですからね」

この下手なシャレが相手に通じたかどうか。

「新日から健介を引き抜いたところで、それだけの話ですしね。〝今の世の中〟、サップでないと駄目なんですよ」「…………」

「この事は、長州に成功の道がある事を教えてます。そう。バーリ・トゥードをやる事ですよ。健介をストレートに使ってプロレスをやらせてどうするんですか。客の出入りなんて知れたものだ。健介こそバーリ・トゥードでしょうが……」

遠い日の追想。

「〝プロ格〟をやるのに打ってつけのレスラーは健介、（川田）利明、飯塚、藤田、高山」

読者大兄も、いつの話だったか、と指折り数えることだろう。しかし、それが今、あなた方の目の前で、右か左かを模索している。

（そんな事もあった。しかし、間に合うのか）

知恵袋の永島氏がいる、番組制作会社・ウッドオフィスの森沢広明社長もいる。

（問題は、長州の哲人政治が功を

奏するかどうか。永島、森沢の2人がどこまで長州のワンマン体制を崩せるかどうかだ)

哲人政治は織田信長、ワンマンと見えて諸将の意見も取り入れたのは武田信玄。

(信長の猪木は終わった。信玄になったとして、長州が生き残れるかどうか)

天下統一を夢見て西上した信玄は、天正元年、壮図半ばにして病死する。「昌景、明日は瀬田に旗を立てよ」が最期の言葉だったと言うが、それが窓を打つ冷たい秋雨とのダブルトーンとなって、成功してくれ、と願う野人の筆を遅らす。

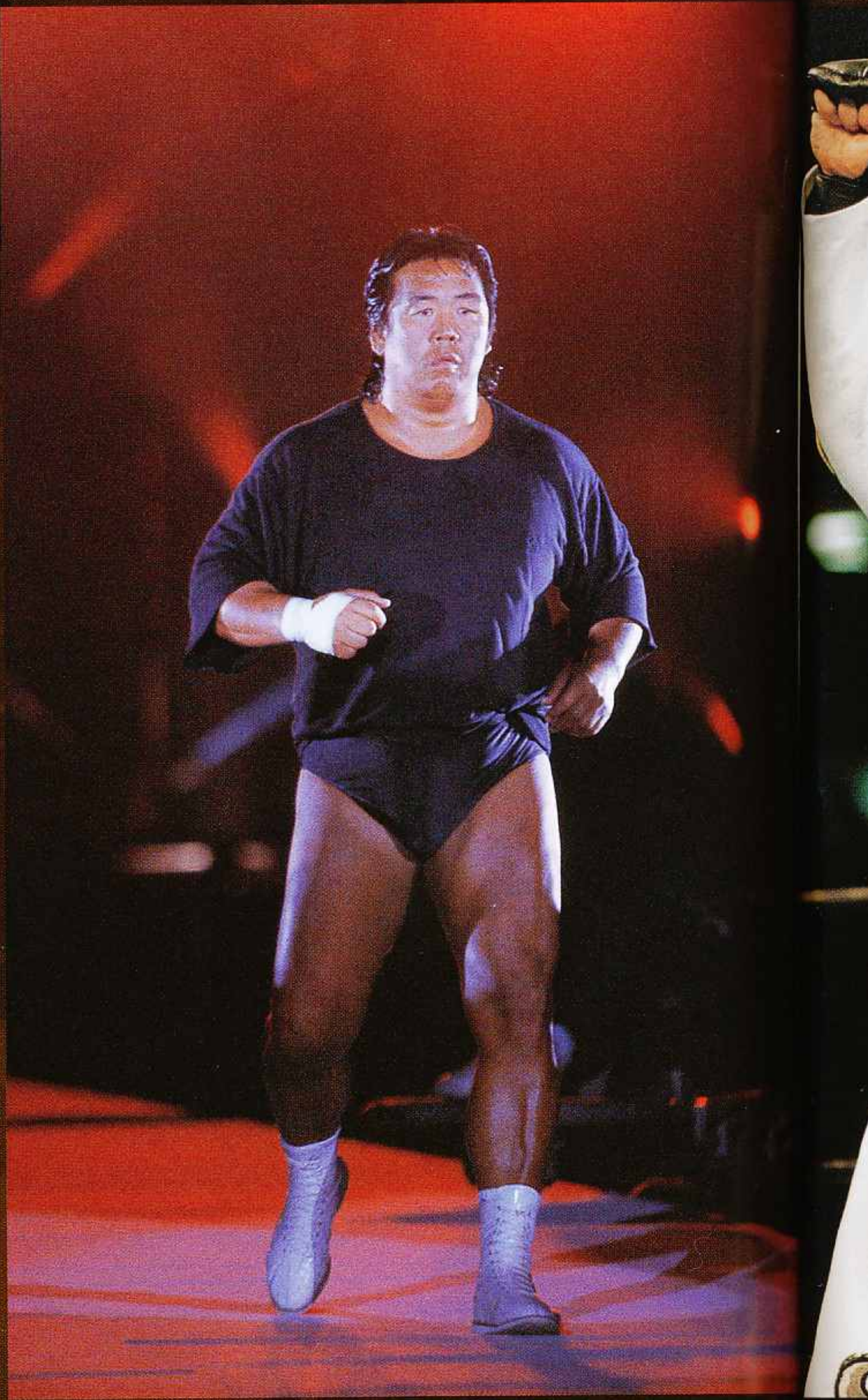
日本人は移り気。新しいものにはワーッと飛びつくが、次の日には、もうソッポを向いている。テレビドラマ『水戸黄門』は、この性癖の比較的少ない高齢者によって支えられてきた。しかし大相撲同様、お年寄りがいなくなってしまうと、ハイ、それまでよ。怖いのはケータイで遊んでいる若者たち。この移り気な世代は、ケータイの液晶画面の中に古いものは絶対に入れない。

(サップしか通用しない世の中に、死語となりつつあるストロング・スタイルでもあるまいよ)

またしても、思いは元の場所に戻って堂々巡りする。

「短期決戦と言うのなら、何もかも捨てて、武藤と手を結ぶことだ。なぜなら、そこには盟友の天龍がいる……」

自分に言い聞かせるような独り言。

(何せ、天龍は引退マッチを要求してるんだからな)

サップしか通用しない世の中に、ストロングスタイルでもあるまいよ

井上義啓
真昼間の長州歪曲線

本当の意味での長州と天龍の友情が見たい。大仁田も悪くはないが、やはり長州のいる風景に似つかわしいのは天龍でありアニマル浜口だ。

「数々のプロレスロマンをあっちこっちに置き忘れてきた。その中の一つがこれだ。長州と天龍。当時は新日と全日で、この2人が京都でこそっと会っているなんて大特ダネだった。それを棒に振って取材に行かなかったのは何のためだと思う。2人の団体を超えた間柄をぶち壊してはならないとのプロレス記者としての、編集長としての辛い決断からだった。お二人さんに、このでっかい貸しを返してもらわないとね。こっちにだって、勝手なロマンは掃いて捨てる程あるんだよ」

天龍の引退試合。タッグの相手など、どうでもいい。そこに、長州がパートナーとして立っていれば事足りる。

「純プロレスとは、エンタメ・プロレスとはそんなものだと思うんだよね。見方によっては小川と橋本のOH砲もそれに学べるのかもしれない。総合格闘技を向こうに回しての大立ち回りをやると言うのなら、こうしたロマンの積み重ねしかない。それをつないで行って短期決戦を終える。長州の姿が見えるね。満面の笑みを携えている。見てはいないが、今、キミが言った、今日の長州と同じだと思うよ」

◇

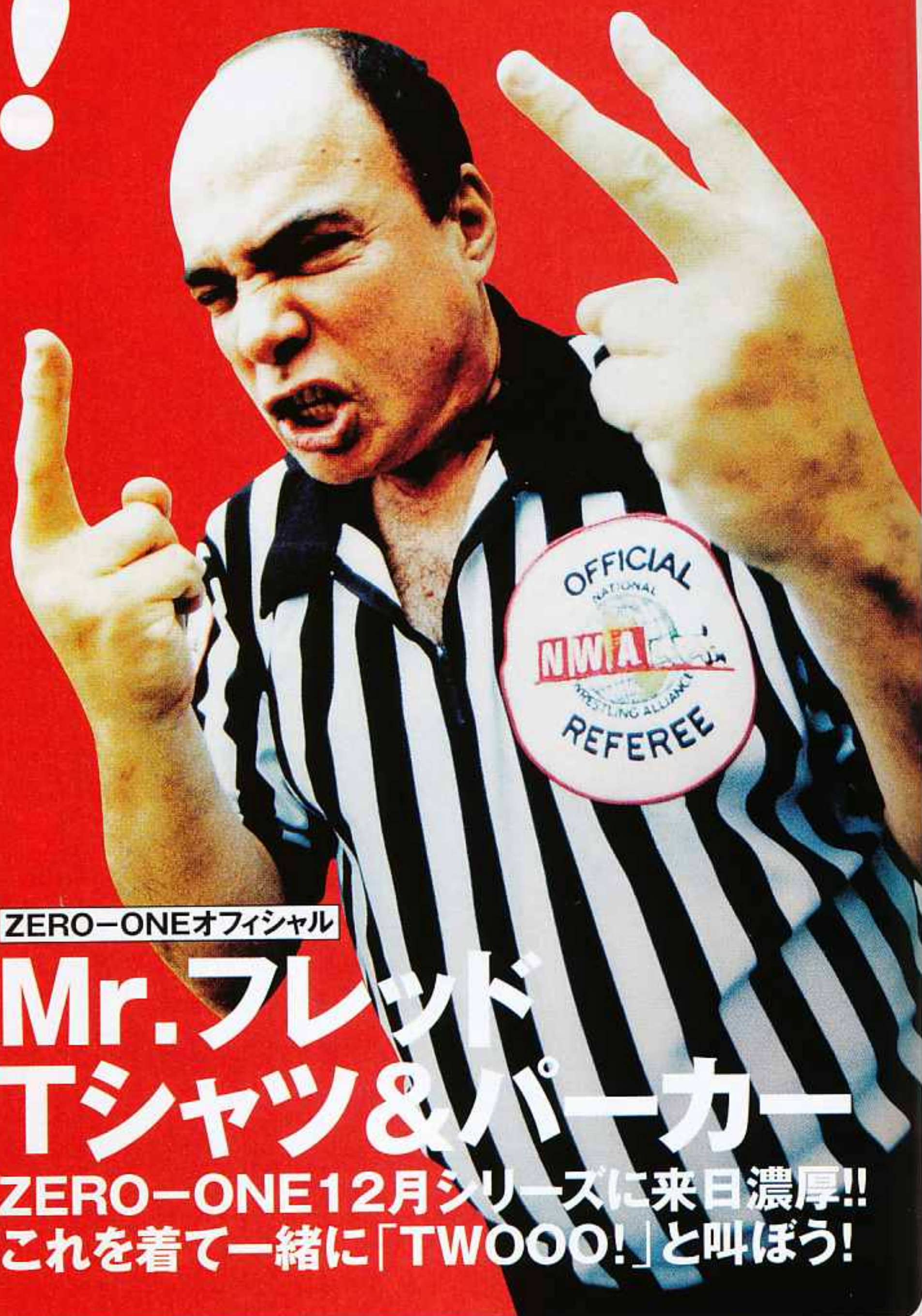
長州には長州の意地がある。良きにつけ悪しきにつけ、肩怒らせて、長州がこれまで叩きつけてきた意地を、猪木にだけでなく、マスコミにだけでなく、ファンに知ってもらうという視線でドンと見せてほしい。それも、私が積み残した船荷の一つ。

いつだったか、猪木が言った言葉が思い出された。

「五木ひろしのニューヨーク公演は必ず失敗すると、どうしてマスコミはそんな分かりもしない事を言うんだ！ やってみない事には客が入るのか入らないのか分からないじゃないか」

この過ぎし日の言葉と「長州が何を言おうと、オレはもう腹が立たないから……。せっかく苦労して歩んで来たんだから、みんなの末路がまずくならないでほしいね」とがどうクロスするか、"みんなの末路"は猪木にしか口にできない今日的な長州に対する名言。私はそれを、真昼日の中での歪んだ曲線として見る。

（了）

これがハシフ・カーンや!!
海外修行中のカナダでの姿です。

★ハシフ・カーングッズ&Mr.フレッドグッズ、どちらもZERO－ONE会場でも発売してます!

「代引き」を開始!! 『紙プロ』通販方法

TPOにあわせて選べる通販方法
消費税サービス
全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引き

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留

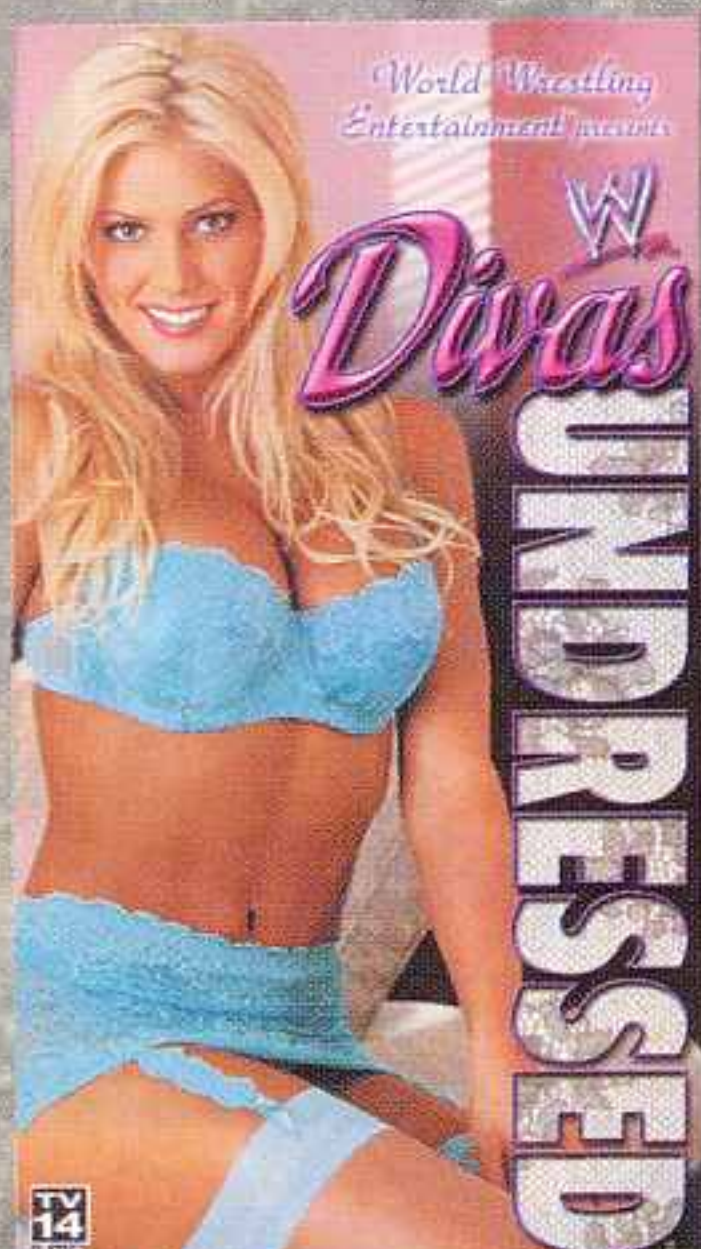
希望商品の代金+送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）を現金書留で
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロスまで送り下さい。
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替

希望商品の代金+送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

サク、読プレのメインも
頼んだゾーッ!
『読プレ』、
元気ですよーッ!!
「応募ハガキが少ない!!」と本
誌鬼畜編集長よりお叱りを受けた当コーナー。
マット界のトラブルは「すべて猪木のせい」と結論付ける『週ゴン』名物・三者三様のようにアントン総帥に責任を押しつけてもよかったが、
そんなの無理ですね。とにかく、ハガキがたくさんほしいです。ほしいよう。
FIGURE!
【レッズ提供】
レッズダイレクト【TEL】03-3522-6044
(平日AM11:00〜PM5:00)
各1名様
SAKU
Where there's a Wi
©高田道場
©猪木事務所
アントニオ猪木フィギュア
世の中が乱れてなくてもオレの出番ッ! ンムフフフ!
髙田延彦フィギュア
以前も掲載した総裁フィギア。引退記念に涙のもう一丁ッ!
©高田道場
橋本真也フィギュア
愛のキューピット代わりにどうやー すぐデキるぞー!
©ZERO-ONE
©N.I.P.W
長州力フィギュア
ド真ん中を征く(らしい)フィギュア! ん〜ッ、カチ喰らわすぞ!!
蝶野正洋フィギュア
ホント、大変そうですね(心から)。
藤田和之フィギュア
格闘技専念を宣言! ちょ、ちょっと、NWFトーナメントを見届けてからにしたほうが。
桜庭和志フィギュア
ドームで快勝、しましたかーッ!?
©N.I.P.W
©猪木事務所
『PRIDE』
【DSE提供】
お問い合わせ 『PRIDE』ナビダイヤル03-5775-5852
【URL】http://www.so-net.ne.jp/pride/
スッポリ被れば、いつ何時マスクマンに変身できる優れモノのパーカー! 夢あるグッズをありがとう、ドリームさん(高田総裁調)。
各1名様
BACK
ICS Sakuraba
●『PRIDE』マスクパーカー
●サクマスクパーカー
ドン・フライフィギュア
吉田戦ですか……。フライに望むことはただ一つ! テーマ曲をもとに戻して!
©ドリームステージエンターテインメント
ヴァンダレイ・シウバフィギュア
シウバがフィギュアになるとは……。初来日時に誰が思ったことだろう。
©ドリームステージエンターテインメント
©N.I.P.W
グレート・ムタフィギュア
いわゆる旧ムタです。旧ザクみたいな響きですけど
142
RADICAL No.56 応募券 WJ

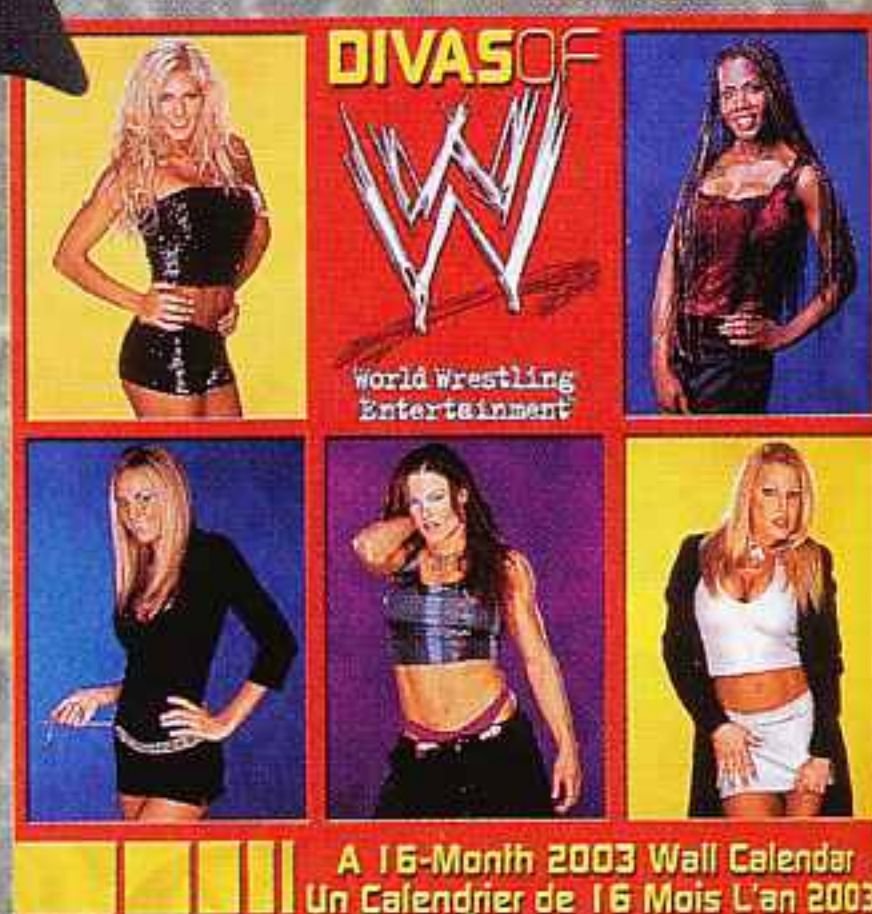
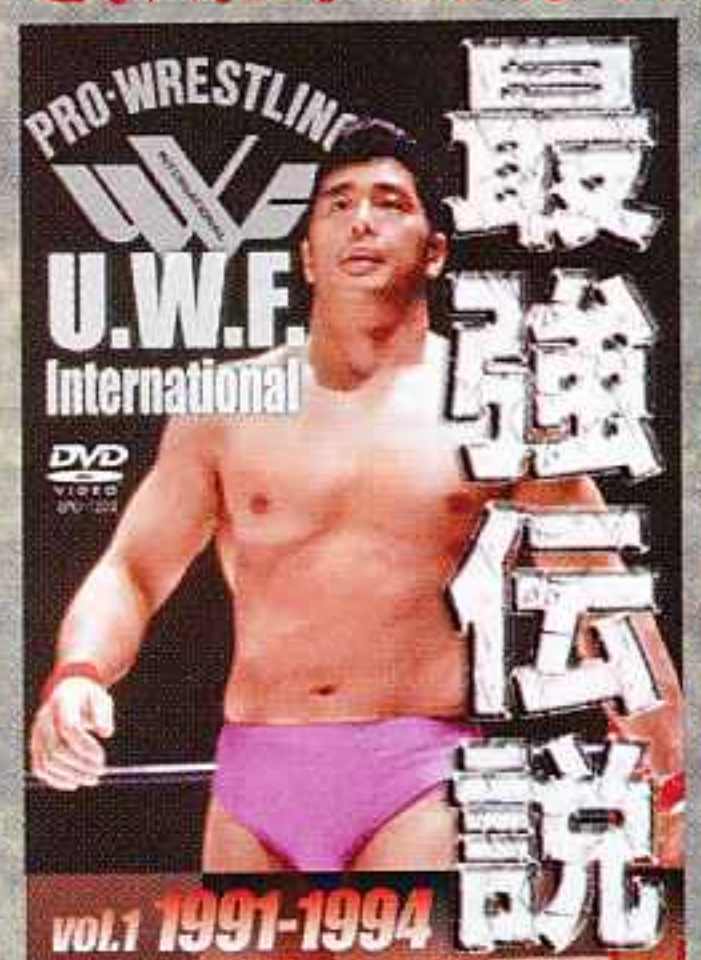
WWE

【Big biue提供】
【場所】東京都港区浜松町2-5-1石渡ビル2F
【アクセス】浜松町駅（JR） 大門駅（地下鉄浅草線・大江戸線） 芝公園駅（地下鉄三田線）
【TEL】03-3435-2883 【URL】http://sovation.com/bigblue.html

DIVAS Undressedビデオ

ロブ・ヴァン・ダム
"THE WHOLE DAM SHOW"
ロングスリーブ

ハルク・ホーガン
"WHAT'CHA GONNA DO ?!"
Tシャツ

トリプルHキャップ

各 1 名様

DIVASカレンダー

U.W.F. International

各 1 名様

U.W.F.International 最強伝説

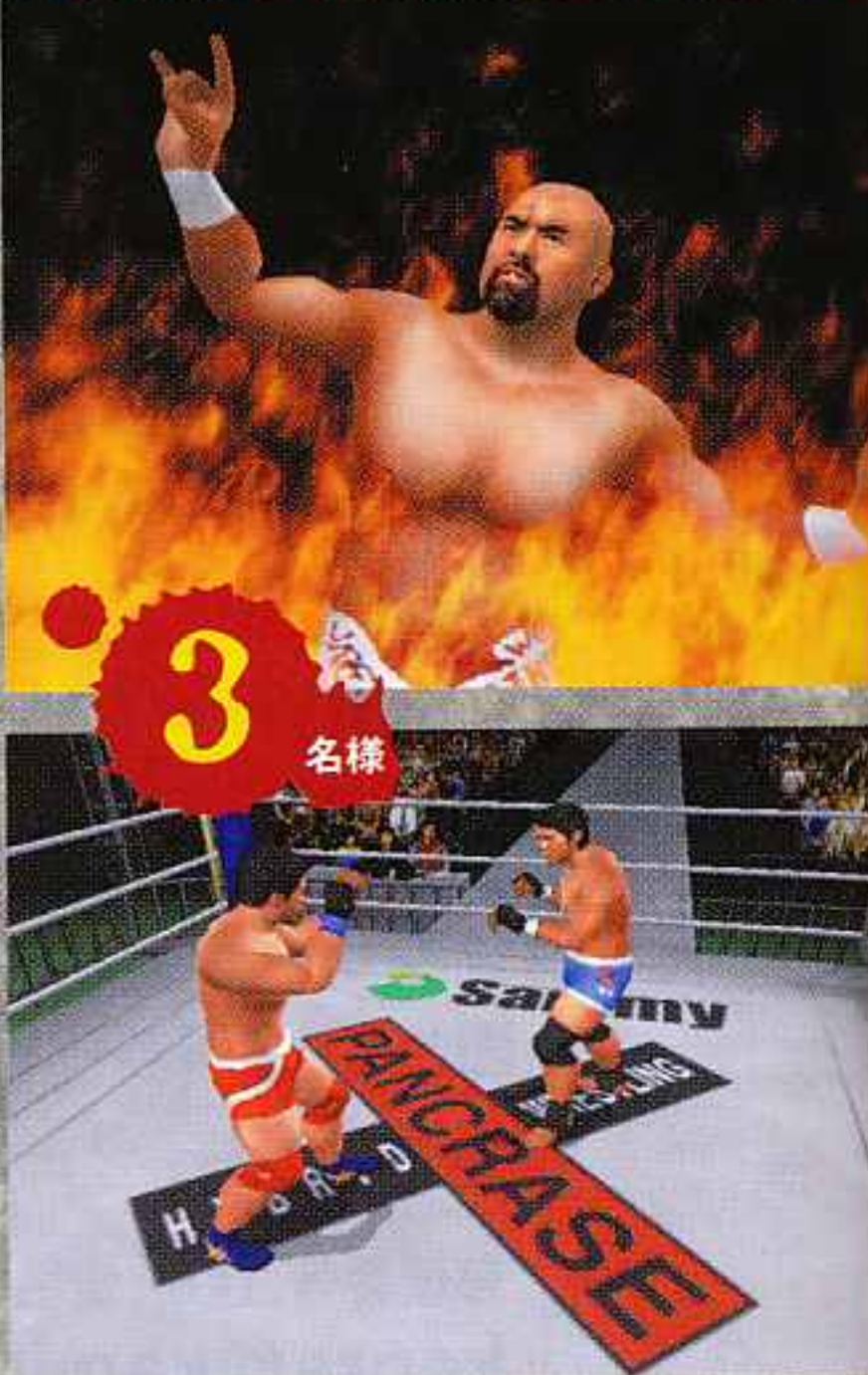
vol.1 1991-1994／2枚組カラー400分・税込￥10,500
vol.2 1995-1996／2枚組カラー400分予定・税込￥10,500

最強戦士たちの、最強のDVDが2枚組で登場！ 100試合にも及ぶUWFインター戦士の激闘が映像で再現される！ 髙田、田村、桜庭、高山、金ちゃん……。『PRIDE』の源流をいまこそ確認せよ！ 【クエスト提供】

PS2 GAME SOFT

3 名様

『キングオブコロシアム』

12月発売予定のPS2用ソフト『キングオブコロシアム（赤～新日本×全日本×パンクラスディスク）』。実存する様々なプロレスラー・格闘家を自由自在に操り、夢のカードが画面上で実現させよう。エディットモードで最強レスラーを作成だ！【スパイク提供】

EGASHIRA 2:50

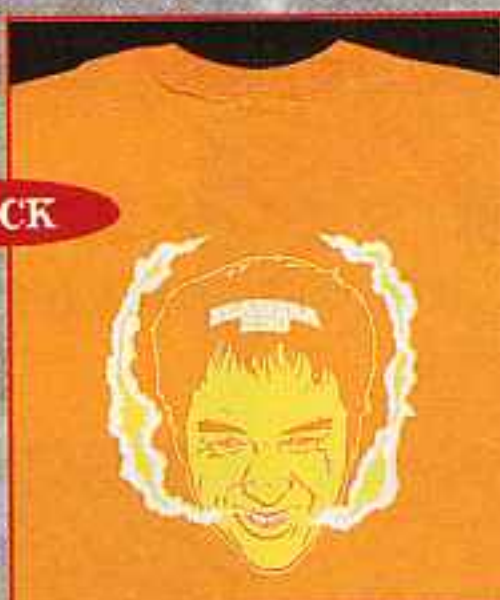
【大川興行提供】
大川興業【TEL】03-3457-7625

フィギュア業界関係者が驚くほどの売れ行きをしめす江頭2:50総裁フィギアを含め、ストンコ真っ青のTシャツもプレゼント！ ライブも行けや！

江頭2:50Tシャツ①

各 1 名様

江頭2:50Tシャツ②

江頭2:50フィギュア

江頭2:50ライブ情報

江頭2:50ソロライブ「頭」

【日時】12月21日&23日（13:30開演）
20日&22日（18:30開演）
【場所】下北沢 ザ・スズナリ
【チケット】前売り￥2,800 当日￥3,000
【お問い合わせ】大川興業TEL.03-3457-7625

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名
③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦今年度の名言・珍言
⑧好きな選手&嫌いな選手
⑨あなたはパソコンを持っていますか？

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「ド真ん中」係まで

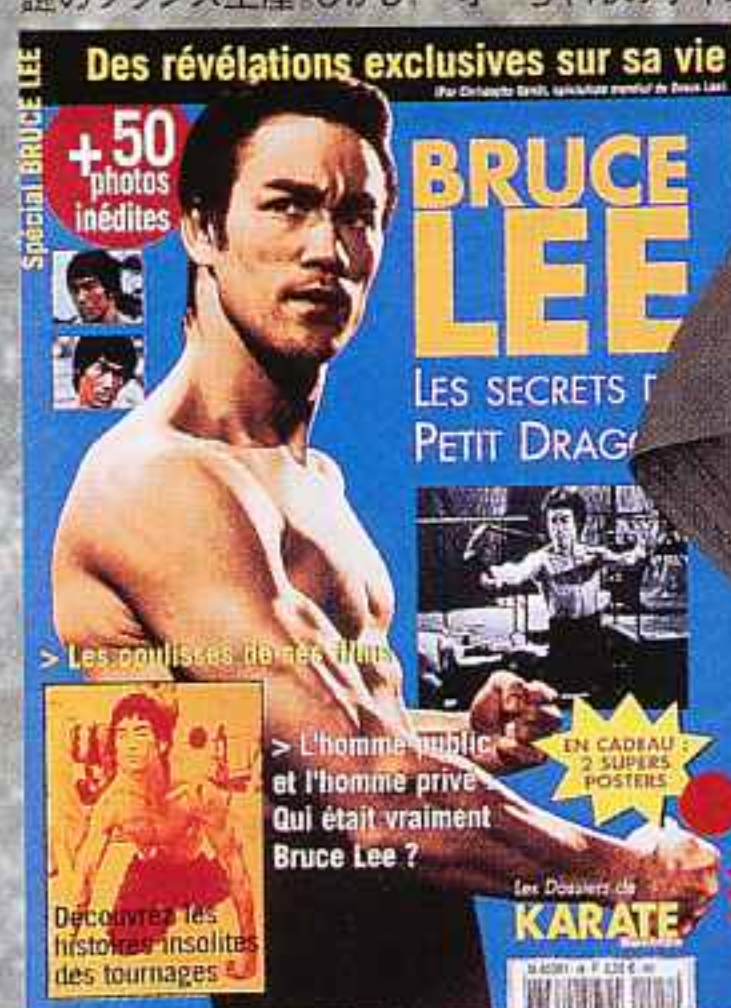
※締切は2002年12月20日（金）当日消印有効

NAOYA OGAWA

小川直也フランス土産「ブルース・リー本」&「謎の帽子」（サイン入り）

フランス料理を食べさせてやると言われて、フランスパンを食わされた感じの謎のフランス土産。しかし！ オーちゃんのサイン入りだ！ オー、エイチ、ホーッ！

セットで 1 名様

T-SHIRT

5 名様

●島田裕二Tシャツ

イメチェンを謀った島田レフェリーの10周年記念Tシャツ。中川画伯イラストです。【島田裕二提供】

1 名様

井上さんTシャツ

今号ではいつも以上に誌面に顔を出している編集長。『SRS』がターザン色を強めるなら、ウチは言うちゃ悪いけど井上カラーに染めますよ！【水道橋博士提供】

RADICAL GIFT

ビッシビシと寒さのキビシイ冬は『紙プロ』新商品で乗り切れ!

限定100セット Kapraギフトセット

●Kapraパーカー[カーキー／前ジッパー・後ホワイトプリント・裏起毛]
●ニット帽[ブラック／ホワイト刺繍入り]
●トートバック[ブラック／ホワイトプリント]

●Kapraパーカー[ネイビー／前ジッパー・後ホワイトプリント・裏起毛]
●ニット帽[ネイビー／ホワイト刺繍入り]
●トートバック[ネイビー／ホワイトプリント]

「代引き」を開始!!『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円(離島、山間部は除く)
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引き
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)代引手数料約¥315がかかります。(代引金額によって異なります)。)御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留
希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く)を現金書留で
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替
希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く)を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は00130-3-769154(株)ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

「Kapraとは何なの?」と言う方に、簡単にKapraの説明です。

ズバリ、『紙のプロレスRADICAL』の略なのです。
もちろんみんなも知っているKappaのパロディです。パクリ(薄利)多売続行ッ! へ〜ックション!!
デザインはもちろん、はなくま先生作。
『紙プロ』シンボルマークのリングおじさんとリングアフロ(リングお兄さん)が一年前新旧世代交代の試合の際、背中を向けあっちゃって、困ったヘックションにリングおじさんが、『最初は背中を向けていても、闘うときは、地球を一周してでも相手と向き合って、正々堂々闘うんだ』と最後にくれたメッセージ。意味の深〜い(?)ものなのです。
今回は、『不景気をぶっとばせ〜!』『もうすぐクリスマス!』と言うことで、Kapraギフトセットを作ってみました。プレゼントにも最適。『トートbagなんか使わね〜よ!』と言う頭のカチカチお兄さん。妹、彼女、お母さんにプレゼントしてもいいよね! お値段もグ〜ンとお得なセット価格です。Kapraパーカーbackプリントをトートbagに入れてお届けです(もちろんニット帽付き)。
『紙プロ』読者のみなさんも人と闘うときは、背中(back)を向けずに正々堂々とね!
と言うことで、今年も『クルシミマス』の、ひとり衣料部・林"ヘックション"一枝でした。

紙のプロレス RADICAL
No.56
2002年11月25日発行
No.57は
12月下旬発売予定!
※多分にです。地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎(高田vs田村の行方が気になって仕方ないため非番)

スーパーバイザー
吉田豪
スーパー助っ人
スモーノブ
助っ人
片山ボン
ジャイ子
ひとり電気部
さささぃ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
海老沢勇
古賀ゆきえ(以上Zero graphics)

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝
出前
出前持ち入江(TwoThree)
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元 株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元 株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

田村潔司、ロシアン・トップチームTシャツは『PRIDE.23』東京ドームでも販売します!!

ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or ~~XL~~ (SOLD OUT)

ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L

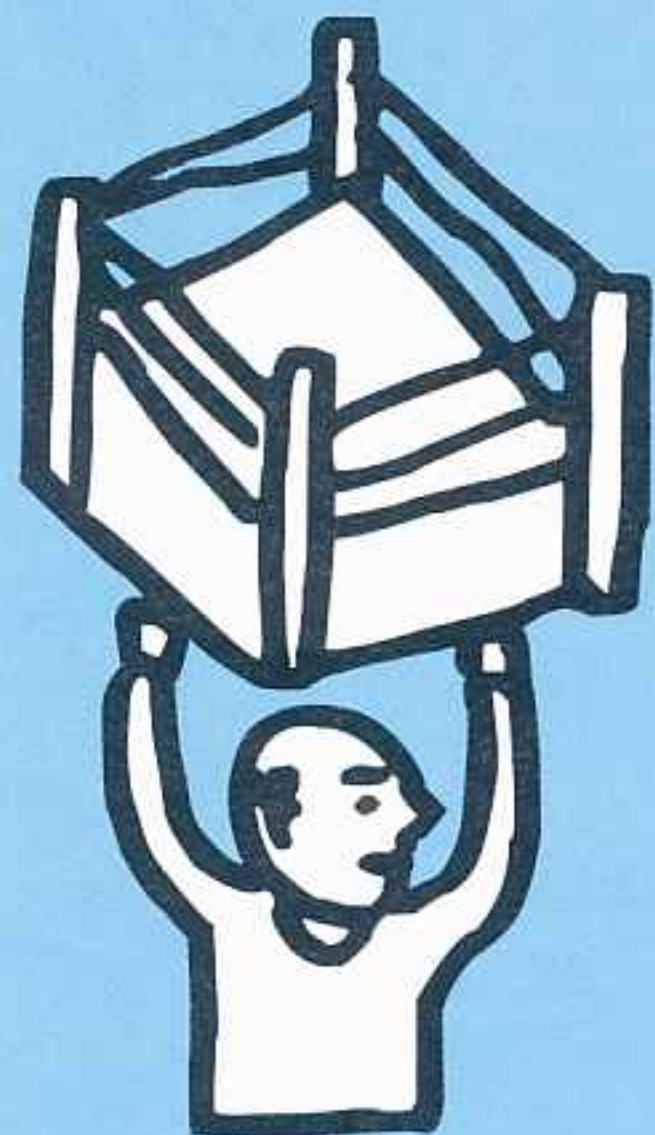
田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL

『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,000 S or M or L or XL

『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 S or M or L or XL

U.M.F. トリムシャツ〈白×黒〉
¥3,000 ~~S~~ (SOLD OUT) or ~~M~~ (SOLD OUT) or L

残りわずか!

U.M.F. トリムシャツ〈白×青〉
¥3,000 ~~S~~ (SOLD OUT) or ~~M~~ (SOLD OUT) or L

Kapra半袖Tシャツ〈デニム〉
¥3,500 S or ~~M~~ (SOLD OUT) or L

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉
¥3,500 ~~S~~ (SOLD OUT) or M [残りわずか] or L

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉
¥3,500 ~~S~~ (SOLD OUT) or M or ~~L~~ (SOLD OUT)

残りわずか!

紙プロネックピース
¥ ~~1,200~~ → 大特価 ¥600

ヴォルク・ハンTシャツ
¥3,800 S or M or L

残りわずか!

リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉
¥3,800 S or M or ~~L~~ (SOLD OUT)

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥4,500 S or M or L

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK216
2002 NO.56
高田引退、『PRIDE』ドーム まるごと大特集！

平成14年12月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898296967

ISBN4-89829-696-3

C9476 ¥838E

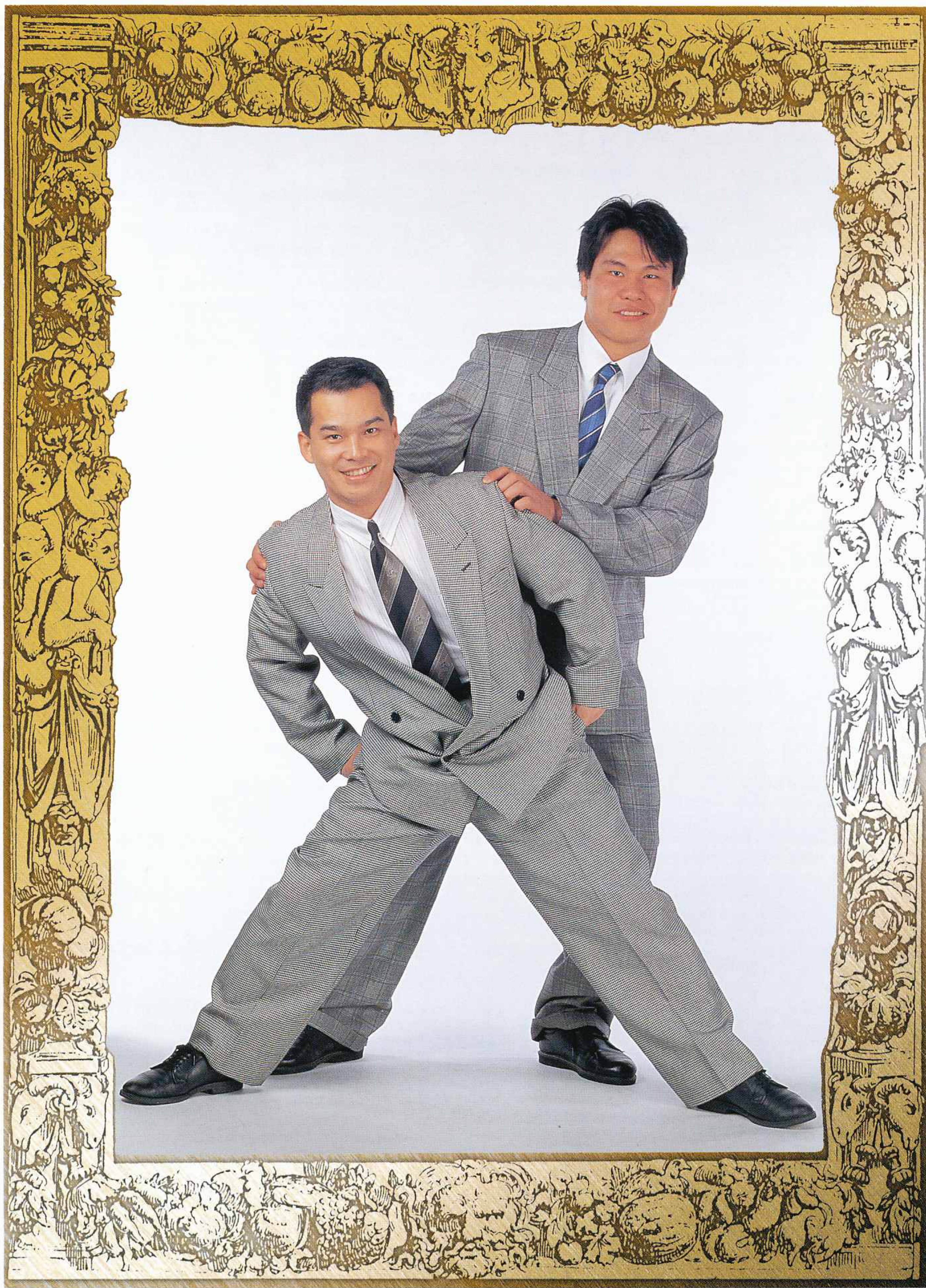
雑誌　69860—16

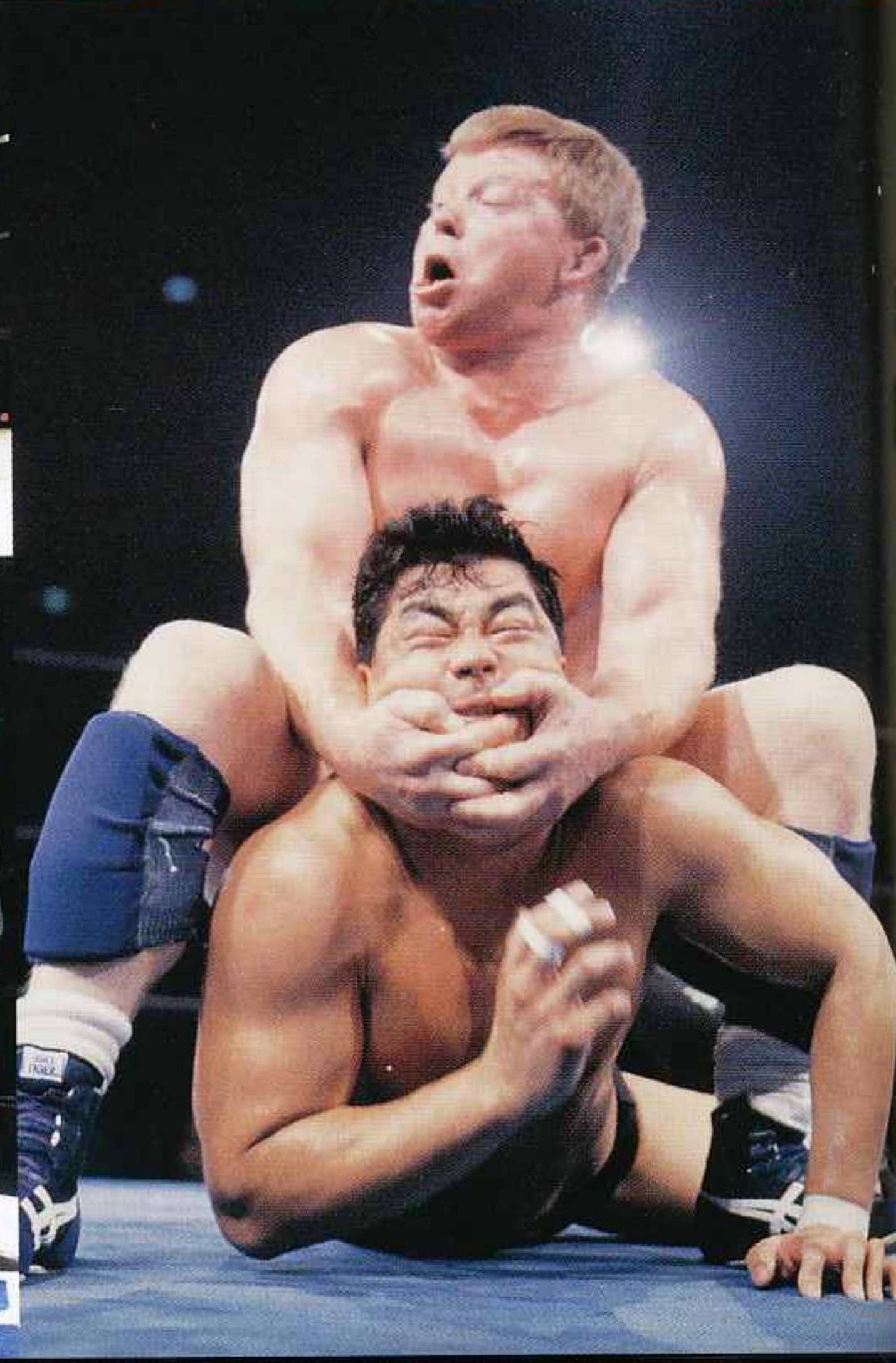
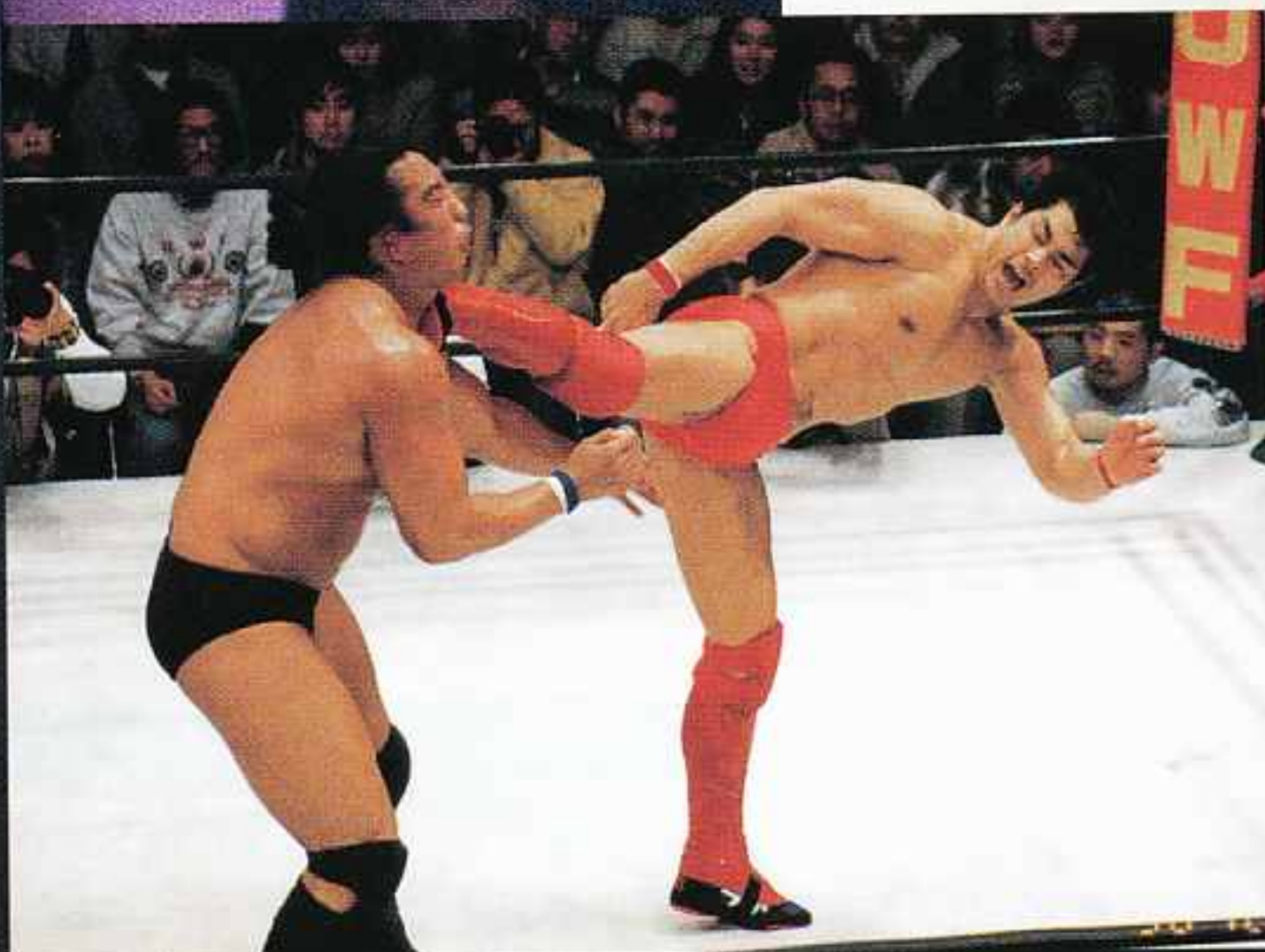
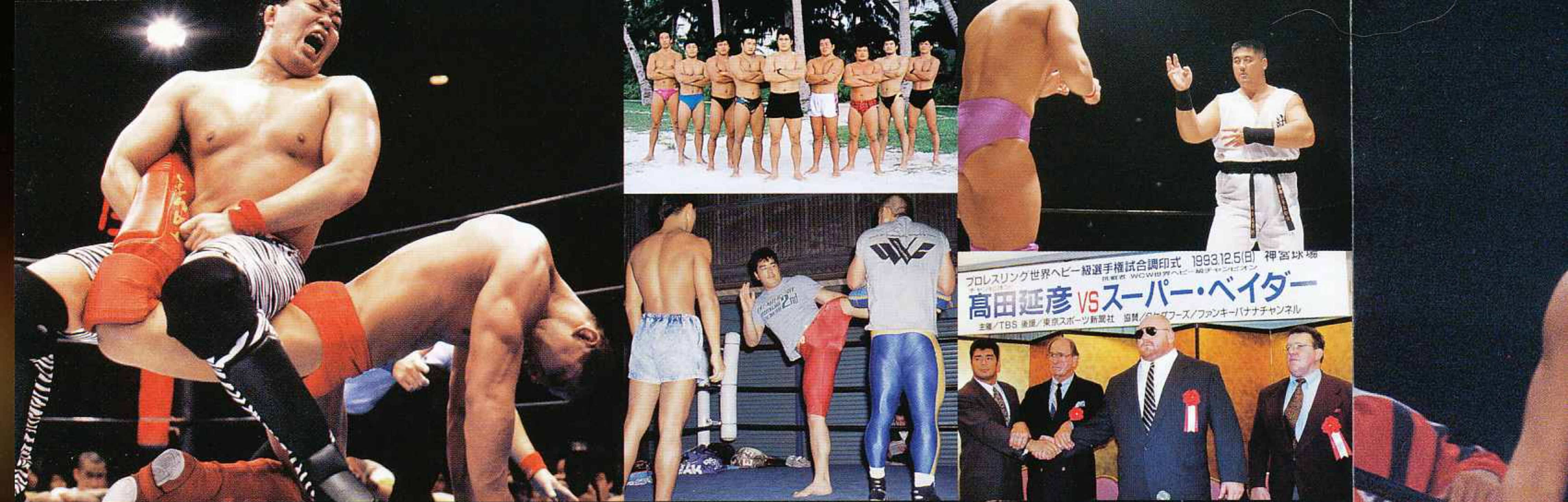
1929476008381

印刷：図書印刷株式会社

☎INDEX

*50音及びアルファベット順

名称	電話	住所
アルシオン	➡03-5745-6101	〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24　サンハイツ1004
大阪プロレス	➡06-6636-6672	〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36　フェスティバルゲート2F
怪獣王国	➡03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
キャプチャー	➡044-959-3333	〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1　横山ビルB1
キングダム・エルガイツ	➡0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
栗栖ジム	➡06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
喧嘩プロレス二瓶組	➡044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2　二瓶ビル
国際プロレス	➡0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
修斗コミッション	➡03-5824-1324	〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8　若山ビル201
新日本プロレス	➡03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
掣圏道	➡03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607
全日本女子プロレス	➡03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
全日本プロレス	➡03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
大日本プロレス	➡045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
ダイプロデュース（大仁田興行）	➡03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3　大北ビル3F
髙田道場	➡03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワールドパレス武蔵小山1F-B1
高山堂	➡03-5464-2806	〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803ジェイパーク渋谷イーストスクエア
闘龍門JAPAN	➡078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8　TOWA元町ビル901
トータルワークアウト	➡03-3280-5557	〒108-0073 東京都芝区三田4-7-24　明るいビル
ドリームステージエンターテインメント	➡03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103
バトラーツ	➡0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
パンクラス	➡03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
プロレスリング・ノア	➡03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
みちのくプロレス	➡019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
DDT	➡03-3868-9181	〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7　MORIMOTO FLATS 4F
DEEP 2001事務局	➡052-339-0303	〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
GAEA JAPAN	➡03-5459-3101	〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1 F
GCM COMUNICATION（和術慧舟會、A'GYM、RJW）	➡03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F
IWAジャパン	➡03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401
Jd’	➡03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F
JWP	➡03-5849-2341	〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
K－1 事務局	➡03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
KAIENTAI DOJO	➡043-214-6960	〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
LLPW	➡03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ビクセル文京105
NEO	➡044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
SMACK GIRL実行委員会	➡03-5545-4766	〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5　ノアビル12階
SPWF	➡03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル
T.A.M.A	➡042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
U-FILE CAMP	➡044-932-0282	〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
UFO	➡03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F
WEW	➡03-5958-5651	〒176-0005 東京都豊島区南大塚3-34-4ニューヴァリー2F
WMF	➡03-5362-7364	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-26　テクノ四谷ビル2F
WWS	➡0495-24-6900	〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23　レインボー本庄106
ZERO-ONE	➡03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
ZIPANG	➡03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21　ハイネス梅里201
ZST	➡03-5321-9595	〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2　廣川ビル4F

元Uインター取締役
鈴木健ちゃん秘蔵写真館
―健ちゃん&タムタム―

993.12.5(日) 神宮球場
・ベイダー
ファンキーバナナチャンネル
UWF
VS
UWF
プロレス王"高田"のスーパーファイト
5月6日木 日本武道館
PM5:00開場
PM6:30開始
U.W.F International
UWF

FOREVER
U.W.F. INTERNATIONAL
1991.5.6-1996.12.29
プロレスリング世界ヘビー級選手権試合調印式 1993.12.5(日) 神宮球場
高田延彦 VS スーパー・ベイダー
UWF

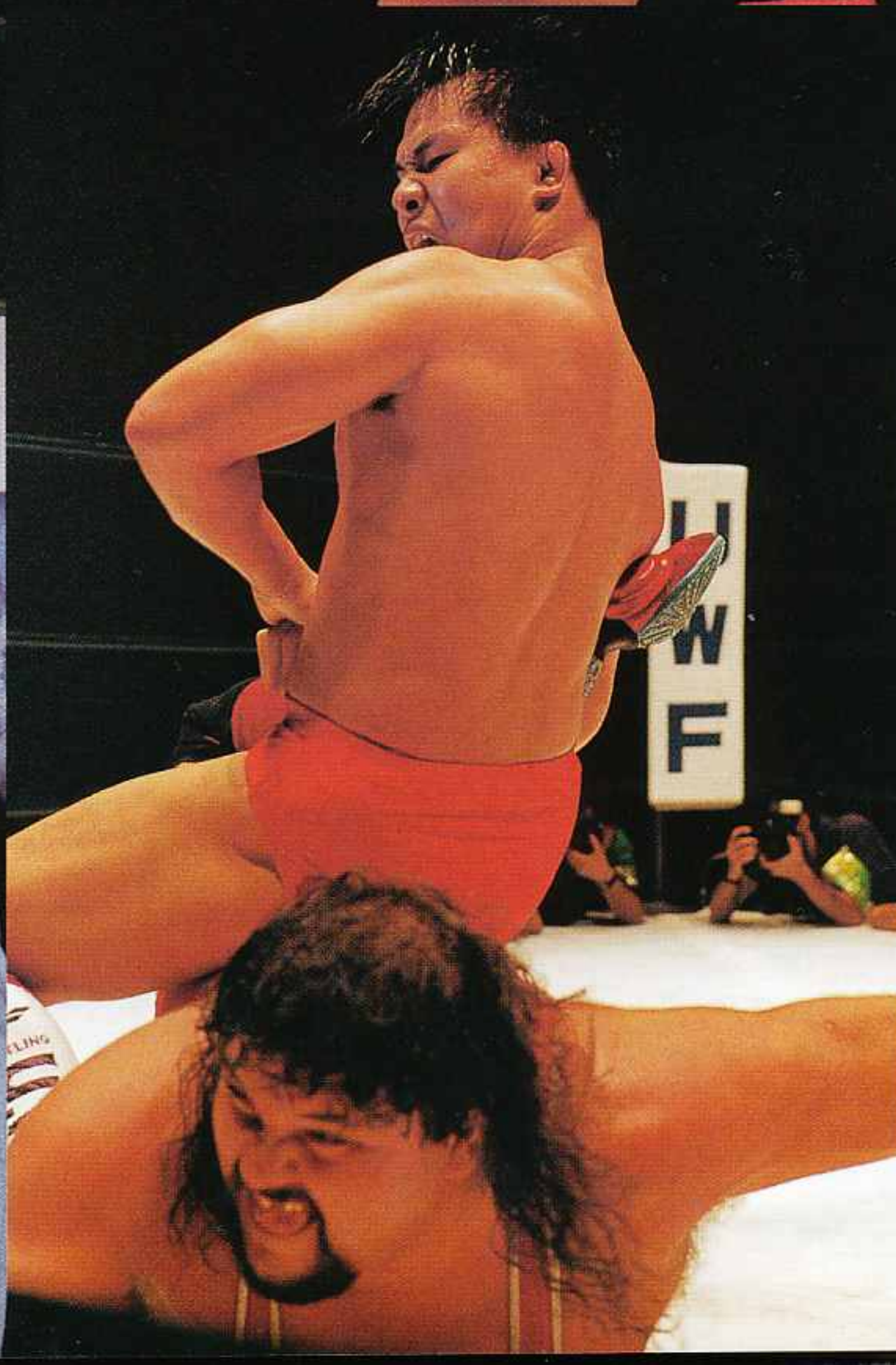
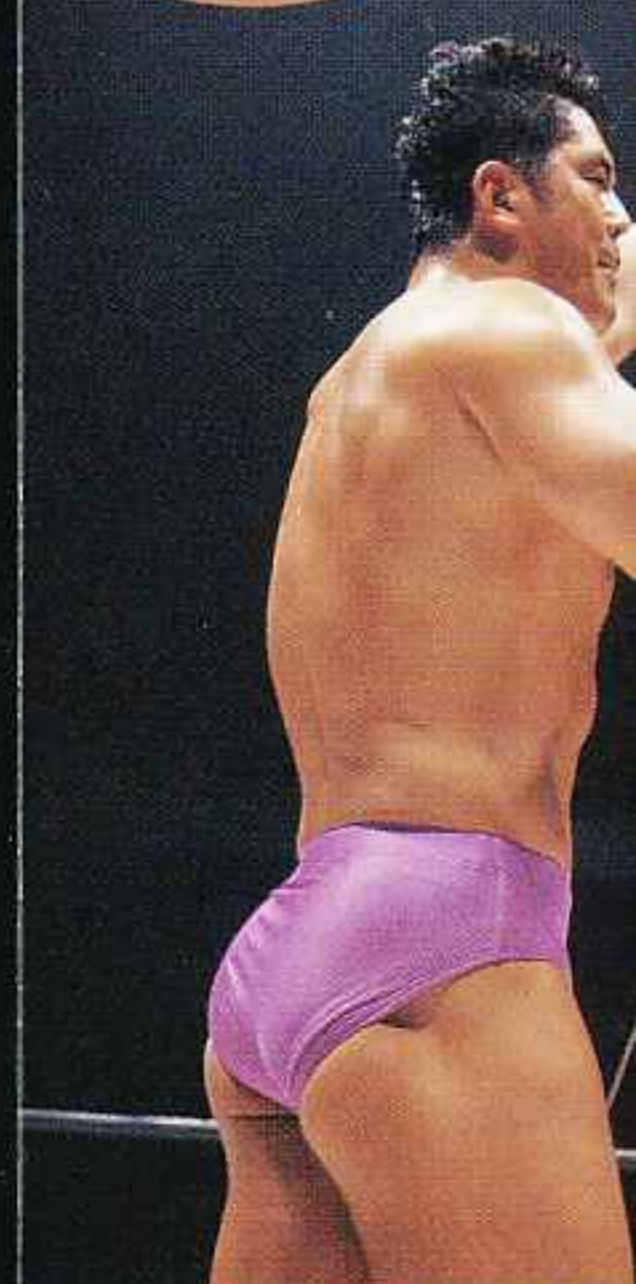
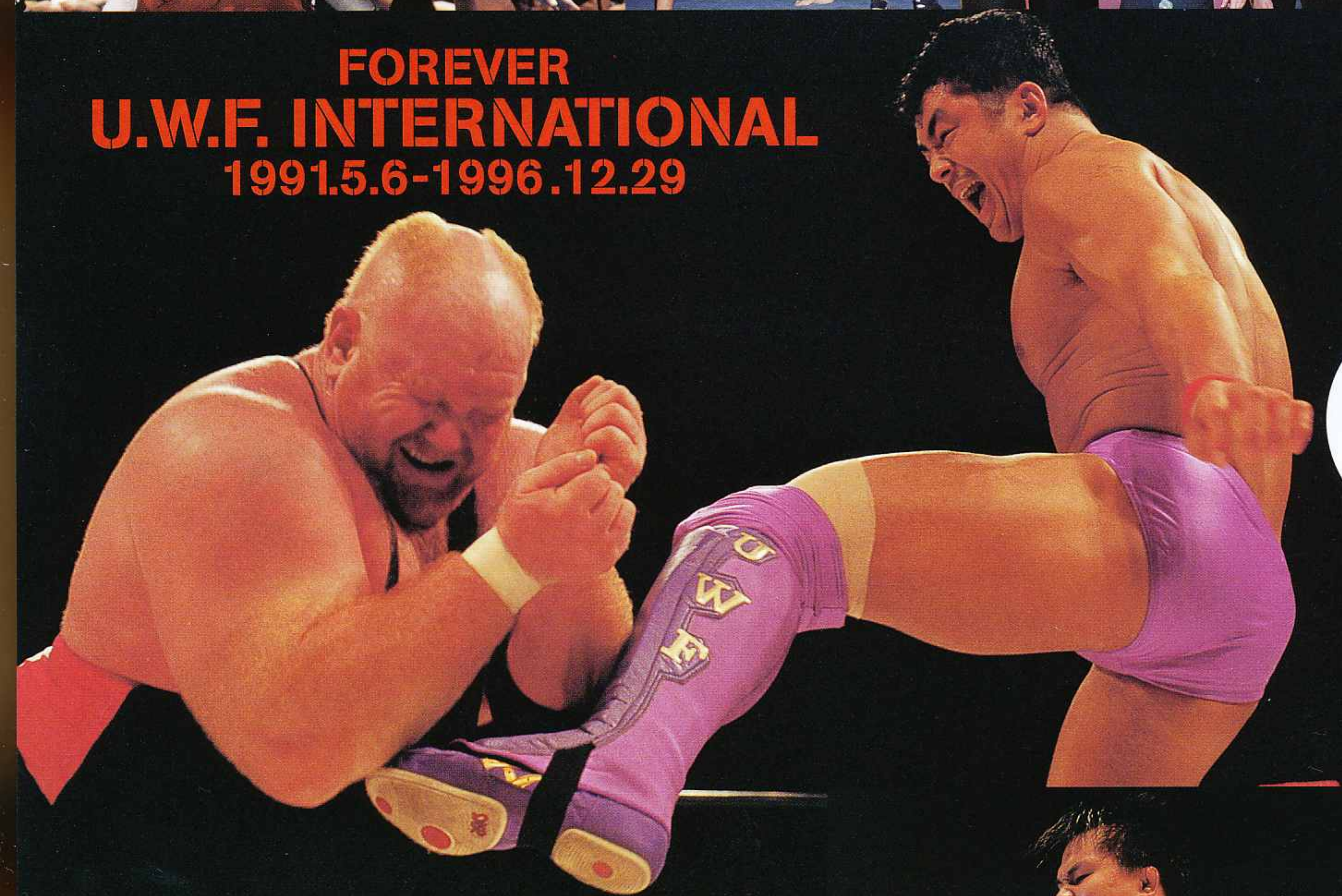
)
アリーナ(18:30)

0)

00)

mber

クローズ(16:00)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
♠ 松澤チョロ
◆ 堀江ガンツ
◎ ジャン斉藤
♥ さささぃ

ノア■静岡・キラメッセ沼津(18:30)
みちのく■石川・金沢流通会館(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)

5 THU.

新日本■高知・高知県民体育館(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
みちのく■三重・四日市オーストラリア記念館(19:00)

6 FRI.

全日本■東京・日本武道館(18:30)♥
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)
みちのく■兵庫・三木市勤労者体育センター(19:15)

7 SAT.

K−1■東京・東京ドーム(17:00)
闘龍門■広島・ふくやま産業交流センター(18:00)
新日本■徳島・徳島市立体育館(18:30)
ノア■神奈川・横浜文化体育館(18:00)♥
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
みちのく■岡山・岡山武道館(19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
Jd' ■千葉・Jd' 柏道場(18:00)

8 SUN.

ZERO−ONE■石川・石川県産業展示館(15:00)
闘龍門■山口・海峡メッセ下関(17:00)
『DEEP』■東京・ディファ有明(17:00)♠◎♥
みちのく■京都・KBSホール(16:00)
WWS■埼玉・本庄市民体育館(13:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)

9 MON.

LLPW■東京・板橋区立産文ホール(19:00)

10 TUE.

ZERO−ONE■茨城・つくばカピオ(18:30)★
新日本■大阪・大阪府立体育館(18:00)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

12 THU.

K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

13 FRI.

ZERO−ONE■千葉・千葉公園体育館(18:30)★

14 SAT.

修斗■東京・東京ベイNKホール(開始時間未定)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

15 SUN.

ZERO−ONE■東京・両国国技館(16:00)★♠♥
新日本■愛知・名古屋レインボーホール(16:00)
闘龍門■石川・金沢流通センター(14:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
DDT■大阪・デルフィンアリーナ(17:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
みちのく■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)

Jd' ■東京・ディファ有明(18:00)
全女■東京・全女事務所(12:00)

17 TUE.

アルシオン■東京・駒沢オリンピック公園総合運動場・屋内競技場(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

19 THU.

大日本■神奈川・横浜文化体育館(19:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
WMF■北海道・登別市総合体育館(18:30)

20 FRI.

闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)◆

21 SAT.

パンクラス■東京・ディファ有明(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
WMF■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

22 SUN.

闘龍門■静岡・焼津市民体育館(13:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)♠
全女■神奈川・川崎市体育館(15:00)

23 MON.

『PRIDE.24』■福岡・マリンメッセ福岡(17:30)★
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
WMF■埼玉・本川越ペペホールアトラス(14:00)
K−DOJO ■東京・ディファ有明 (19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

24 TUE.

ノア■東京・ディファ有明(19:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

25 WED.

闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)◆

26 THU.

T2P■東京・後楽園ホール(18:30)◆
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

27 FRI.

WEW■東京・後楽園ホール(19:00)

28 SAT.

闘龍門■愛知・名古屋国際会議場イベントホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

29 SUN.

ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(18:30)★♠♥
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
Jd' ■東京・後楽園ホール(12:00)

30 MON.

闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(16:00)

有言即実行 それが“炎武連夢”!

全日最強タッグ出陣、そしてNOAHへ殴り込み

さらにアメリカマットでも大炎上!!

大谷晋二郎

本音ぶっちゃけトーク 後編

前号での本音ぶっちゃけトーク（＆ゲップ）も好評だった“炎武連夢”大谷晋二郎。タッグベルトも失い、戦績も芳しくないものの、その勢いは増すばかり。ついには予告どおり、全日武道館に田中と共に乗り込み、実力行使で最強タッグの出場権を手に入れた。そして、NOAHへの殴り込み宣言、さらにはアメリカでタッグベルトを奪取するなど、マット界を掻き回し続ける大谷の本音が炸裂！　さあ用意はいいか？……ゲッ！

聞き手／松澤チョロ＆ささきい
撮影／福島勝儀
designed by さおとめの事務所